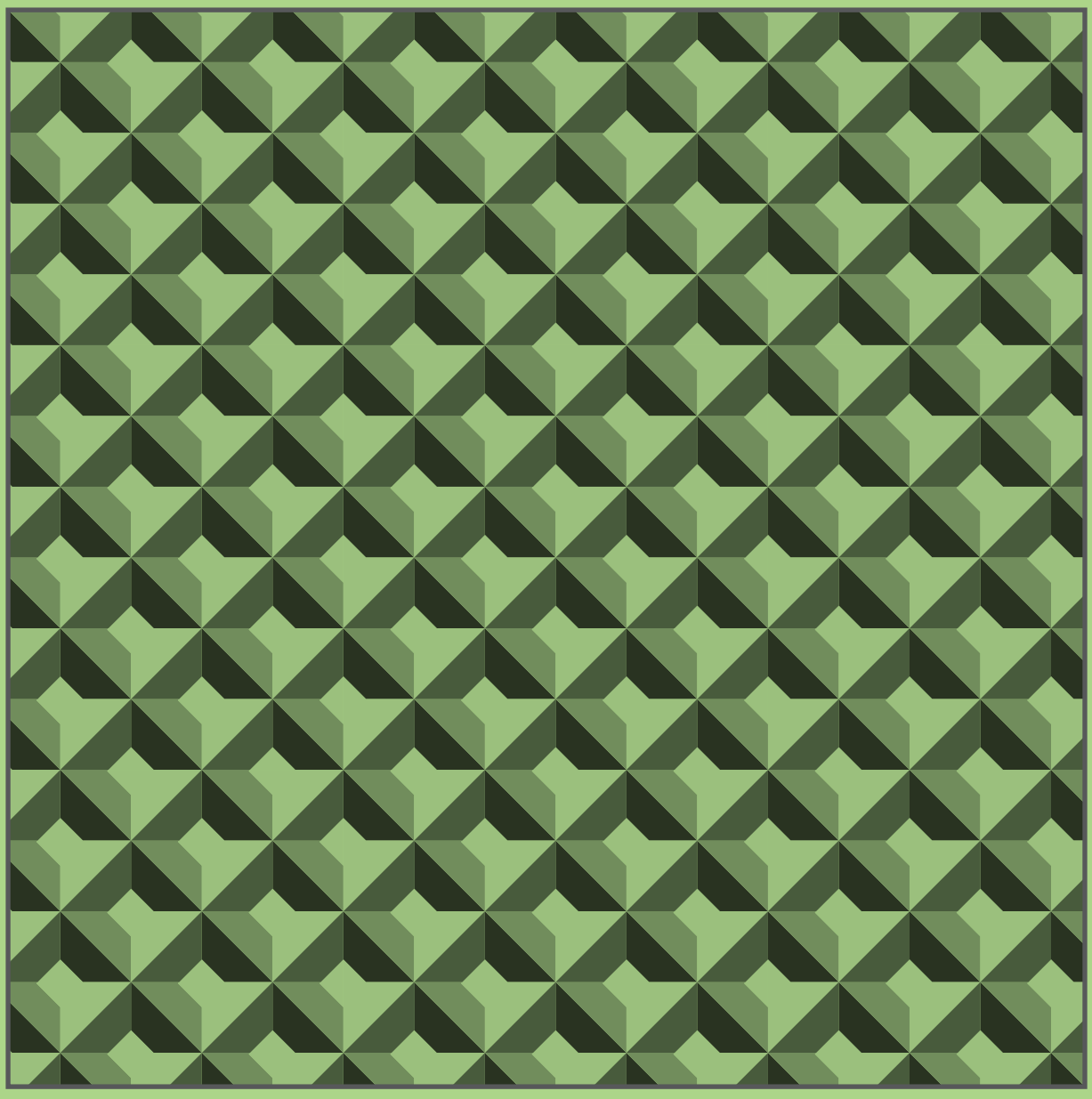
2014年度

シラバス

英語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスの見方

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください◆

Ⅰ　英語学科授業科目について

【シラバスページの検索方法】

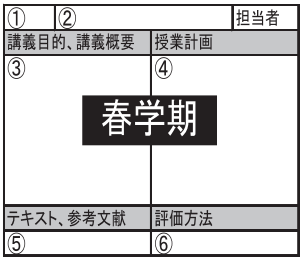
ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。
　科目名とページ番号をよく確認してください。

【履修不可について】

①　目次には「履修不可」学科が記載されています。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

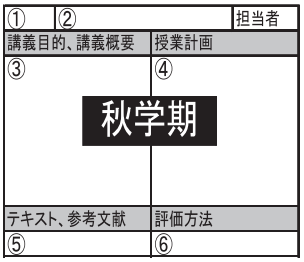
②　表記方法

外：　外国語学部	養：　国際教養学部	経：　経済学部	法：　法学部
独：　ドイツ語学科		済：　経済学科	律：　法律学科
英：　英語学科		営：　経営学科	国：　国際関係法学科
仏：　フランス語学科		環：　国際環境経済学科	総：　総合政策学科
交：　交流文化学科			
言：　言語文化学科	全：英語学科以外の全学部学科		



Ⅱ　シラバス本文の見方（右図参照）

①　入学年度
②　入学年度に対応した科目名
③　授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
④　学期の授業計画
　各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
　授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。
⑤　授業で使用するテキスト、参考文献
⑥　評価方法



【注意事項】

①　**履修条件**
担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

②　**定員**
科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

③　**履修登録**
オンライン登録、事前抽選、学期ごとに1回目の授業で選考または抽選を行なう科目もあるので
必ずシラバス本文および「授業時間割表」で確認してください。

――― 目　次 ―――

2006～2014 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修科目を含む)---------- 2
学科共通科目---------- 7
学科専門科目---------- 13

交流文化論開設科目一覧表---------- 15
外国語学部共通科目開設一覧表---------- 16
担当者別シラバス---------- 17

【参考資料】（英語レベル表）

2006 年度以降入学者					
レベル	TOEIC®	TOEFL®			実用英語技能検定
		PBT	CBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	190 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	157 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した TOEIC®テストのスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。
学外で実施した TOEIC®テスト以外のスコアを利用する場合は、既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

英語学科　授業科目(2006～2014年度入学者用)

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語学入門	鈴木　英一	春	火3	2	1	全	17
英語学入門	安井　美代子	春	金1	2	1	全	18
英語学入門	安井　美代子	秋	金1	2	1	全	18
13年度以降 英語圏の文学文化入門	上野　直子	春	木4	2	1	全	19
13年度以降 英語圏の文学文化入門	片山　亜紀	春	木4	2	1	全	20
13年度以降 英語圏の文学文化入門	児嶋　一男	春	火2	2	1	全	21
13年度以降 英語圏の文学文化入門	児嶋　一男	秋	火2	2	1	全	21
12年度以前 英語圏の文学・文化入門	上野　直子	春	木4	2	1	全	19
12年度以前 英語圏の文学・文化入門	片山　亜紀	春	木4	2	1	全	20
12年度以前 英語圏の文学・文化入門	児嶋　一男	春	火2	2	1	全	21
12年度以前 英語圏の文学・文化入門	児嶋　一男	秋	火2	2	1	全	21
文化コミュニケーション入門	板場　良久	春	水2	2	1	全	22
文化コミュニケーション入門	板場　良久	秋	水2	2	1	全	22
文化コミュニケーション入門	板場　良久	春	金1	2	1	全	22
文化コミュニケーション入門	板場　良久	秋	金1	2	1	全	22
13年度以降 国際関係入門	水本　義彦	春	火5	2	1	全	23
13年度以降 国際関係入門	金子　芳樹	春	水2	2	1	全	24
13年度以降 国際関係入門	金子　芳樹	秋	水2	2	1	全	24
12年度以前 国際コミュニケーション入門	水本　義彦	春	火5	2	1	全	23
12年度以前 国際コミュニケーション入門	金子　芳樹	春	水2	2	1	全	24
12年度以前 国際コミュニケーション入門	金子　芳樹	秋	水2	2	1	全	24
Lecture Workshop Ⅰ	各担当教員	春		2	1	全	25
Lecture Workshop Ⅱ	各担当教員	秋		2	1	全	25
Comprehensive English Ⅰ	L. K. ハーキンス	春	月2／金3	2	1	全	26
Comprehensive English Ⅱ	L. K. ハーキンス	秋	月2／金3	2	1	全	26
Comprehensive English Ⅰ	D. ベーカー	春	火2／木5	2	1	全	27
Comprehensive English Ⅱ	D. ベーカー	秋	火2／木5	2	1	全	27
Comprehensive English Ⅰ	D. マッキャン	春	木1／金1	2	1	全	28
Comprehensive English Ⅱ	D. マッキャン	秋	木1／金1	2	1	全	28
Comprehensive English Ⅰ	J. スネール	春	火2／木1	2	1	全	29
Comprehensive English Ⅱ	J. スネール	秋	火2／木1	2	1	全	29
Comprehensive English Ⅰ	P. マッケビリー	春	月2／金2	2	1	全	30
Comprehensive English Ⅱ	P. マッケビリー	秋	月2／金2	2	1	全	30
Comprehensive English Ⅰ	D. M. ヴァンヴィーレン	春	月2／水2	2	1	全	31
Comprehensive English Ⅱ	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	月2／水2	2	1	全	31
Comprehensive English Ⅰ	D. M. ヴァンヴィーレン	春	月3／水3	2	1	全	32
Comprehensive English Ⅱ	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	月3／水3	2	1	全	32
Comprehensive English Ⅰ	M. ダーリン	春	月3／木4	2	1	全	33
Comprehensive English Ⅱ	M. ダーリン	秋	月3／木4	2	1	全	33
Comprehensive English Ⅰ	A. ジョーンズ	春	月4／木5	2	1	全	34
Comprehensive English Ⅱ	A. ジョーンズ	秋	月4／木5	2	1	全	34
Comprehensive English Ⅰ	D. ベーカー	春	火1／木4	2	1	全	35
Comprehensive English Ⅱ	D. ベーカー	秋	火1／木4	2	1	全	35
Comprehensive English Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月3／金2	2	1	全	36
Comprehensive English Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月3／金2	2	1	全	36
Comprehensive English Ⅰ	T. ミニオン	春	水4／木4	2	1	全	37
Comprehensive English Ⅱ	T. ミニオン	秋	水4／木4	2	1	全	37
Comprehensive English Ⅰ 再履修	バーナード クリストファ／T. ミニオン	秋	月5／水5	2	1	全	38
Comprehensive English Ⅱ 再履修	バーナード クリストファ／T. ミニオン	春	月5／水5	2	1	全	39

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Comprehensive English Ⅲ(HONORS)	E. 本橋	春	水1	1	2	全	40
Comprehensive English Ⅳ(HONORS)	E. 本橋	秋	水1	1	2	全	40
Comprehensive English Ⅲ(HONORS)	A. ゾーリンジャー	春	月3	1	2	全	41
Comprehensive English Ⅳ(HONORS)	未定	秋		1	2	全	41
Comprehensive English Ⅲ	R. ジョーンズ	春	水2	1	2	全	42
Comprehensive English Ⅳ	R. ジョーンズ	秋	水2	1	2	全	42
Comprehensive English Ⅲ	E. フランコ	春	水1	1	2	全	43
Comprehensive English Ⅳ	E. フランコ	秋	水1	1	2	全	43
Comprehensive English Ⅲ	J. N. ウェンデル	春	月3	1	2	全	44
Comprehensive English Ⅳ	J. N. ウェンデル	秋	月3	1	2	全	44
Comprehensive English Ⅲ	D. グライムズ	春	月5	1	2	全	45
Comprehensive English Ⅳ	D. グライムズ	秋	月5	1	2	全	45
Comprehensive English Ⅲ	R. ジョーンズ	春	水1	1	2	全	46
Comprehensive English Ⅳ	R. ジョーンズ	秋	水1	1	2	全	46
Comprehensive English Ⅲ	B. S. ハウエル	春	水3	1	2	全	47
Comprehensive English Ⅳ	B. S. ハウエル	秋	水3	1	2	全	47
Comprehensive English Ⅲ	A. マグズ	春	金1	1	2	全	48
Comprehensive English Ⅳ	A. マグズ	秋	金1	1	2	全	48
Comprehensive English Ⅲ	R. ダラム	春	木1	1	2	全	49
Comprehensive English Ⅳ	R. ダラム	秋	木1	1	2	全	49
Comprehensive English Ⅲ	B. D. タッチャー	春	火4	1	2	全	50
Comprehensive English Ⅳ	B. D. タッチャー	秋	火4	1	2	全	50
Comprehensive English Ⅲ	D. M. ヴァンヴィーレン	春	月4	1	2	全	51
Comprehensive English Ⅳ	未定	秋		1	2	全	51
Reading Strategies Ⅰ	A. ゾーリンジャー	春	水1	1	1	全	52
Reading Strategies Ⅱ	A. ゾーリンジャー	秋	水1	1	1	全	52
Reading Strategies Ⅰ	J. N. ウェンデル	春	水1	1	1	全	53
Reading Strategies Ⅱ	J. N. ウェンデル	秋	水1	1	1	全	53
Reading Strategies Ⅰ	水本　義彦	春	水1	1	1	全	54
Reading Strategies Ⅱ	水本　義彦	秋	水1	1	1	全	54
Reading Strategies Ⅰ	工藤　和宏	春	水1	1	1	全	55
Reading Strategies Ⅱ	工藤　和宏	秋	水1	1	1	全	55
Reading Strategies Ⅰ	浅岡　千利世	春	水1	1	1	全	56
Reading Strategies Ⅱ	浅岡　千利世	秋	水1	1	1	全	56
Reading Strategies Ⅰ	佐野　康子	春	水1	1	1	全	57
Reading Strategies Ⅱ	佐野　康子	秋	水1	1	1	全	57
Reading Strategies Ⅰ	阿部　真	春	水1	1	1	全	58
Reading Strategies Ⅱ	阿部　真	秋	水1	1	1	全	58
Reading Strategies Ⅰ	上野　直子	春	水1	1	1	全	59
Reading Strategies Ⅱ	上野　直子	秋	水1	1	1	全	59
Reading Strategies Ⅰ	小早川　暁	春	水1	1	1	全	60
Reading Strategies Ⅱ	小早川　暁	秋	水1	1	1	全	60
Reading Strategies Ⅰ	羽山　恵	春	水1	1	1	全	61
Reading Strategies Ⅱ	羽山　恵	秋	水1	1	1	全	61
Reading Strategies Ⅰ	児嶋　一男	春	水1	1	1	全	62
Reading Strategies Ⅱ	児嶋　一男	秋	水1	1	1	全	62
Reading Strategies Ⅰ	片山　亜紀	春	水1	1	1	全	63
Reading Strategies Ⅱ	片山　亜紀	秋	水1	1	1	全	63
Reading Strategies Ⅰ 再履修	河原　宏之	春	月4	1	1	全	64
Reading Strategies Ⅰ 再履修	河原　宏之	秋	月4	1	1	全	64
Reading Strategies Ⅱ 再履修	田川　憲二郎	春	木5	1	1	全	65
Reading Strategies Ⅱ 再履修	田川　憲二郎	秋	木5	1	1	全	65

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	Reading Strategies Ⅲ(HONORS)	J. J. ダゲン	春	水2	1	2	全	66
	Reading Strategies Ⅳ(HONORS)	J. J. ダゲン	秋	水2	1	2	全	66
	Reading Strategies Ⅲ(HONORS)	E. 本橋	春	水2	1	2	全	67
	Reading Strategies Ⅳ(HONORS)	E. 本橋	秋	水2	1	2	全	67
	Reading Strategies Ⅲ	青柳　真紀子	春	水1	1	2	全	68
	Reading Strategies Ⅳ	青柳　真紀子	秋	水1	1	2	全	68
	Reading Strategies Ⅲ	佐野　康子	春	水2	1	2	全	69
	Reading Strategies Ⅳ	佐野　康子	秋	水2	1	2	全	69
	Reading Strategies Ⅲ	原　成吉	春	水2	1	2	全	70
	Reading Strategies Ⅳ	原　成吉	秋	水2	1	2	全	70
	Reading Strategies Ⅲ	佐藤　唯行	春	水1	1	2	全	71
	Reading Strategies Ⅳ	佐藤　唯行	秋	水1	1	2	全	71
	Reading Strategies Ⅲ	小早川　暁	春	水2	1	2	全	72
	Reading Strategies Ⅳ	小早川　暁	秋	水2	1	2	全	72
	Reading Strategies Ⅲ	工藤　和宏	春	水2	1	2	全	73
	Reading Strategies Ⅳ	工藤　和宏	秋	水2	1	2	全	73
	Reading Strategies Ⅲ	阿部　真	春	火4	1	2	全	74
	Reading Strategies Ⅳ	阿部　真	秋	火4	1	2	全	74
	Reading Strategies Ⅲ	阿部　真	春	水2	1	2	全	75
	Reading Strategies Ⅳ	阿部　真	秋	水2	1	2	全	75
	Reading Strategies Ⅲ	阿部　真	春	月4	1	2	全	76
	Reading Strategies Ⅳ	阿部　真	秋	月4	1	2	全	76
	Reading Strategies Ⅲ	阿部　真	春	月3	1	2	全	77
	Reading Strategies Ⅳ	阿部　真	秋	月3	1	2	全	77
2013年度以降入学者	Writing Skills Ⅰ	A. マグズ	春	金2	1	1	全	78
	Writing Skills Ⅱ	A. マグズ	秋	金2	1	1	全	78
	Writing Skills Ⅰ	L. K. ハーキンス	春	金1	1	1	全	79
	Writing Skills Ⅱ	L. K. ハーキンス	秋	金1	1	1	全	79
	Writing Skills Ⅰ	J. スネール	春	火1	1	1	全	80
	Writing Skills Ⅱ	J. スネール	秋	火1	1	1	全	80
	Writing Skills Ⅰ	D. H. ケネディ	春	火2	1	1	全	81
	Writing Skills Ⅱ	D. H. ケネディ	秋	火2	1	1	全	81
	Writing Skills Ⅰ	阿部　真	春	金2	1	1	全	82
	Writing Skills Ⅱ	阿部　真	秋	金2	1	1	全	82
	Writing Skills Ⅰ	J. スネール	春	火3	1	1	全	83
	Writing Skills Ⅱ	J. スネール	秋	火3	1	1	全	83
	Writing Skills Ⅰ	D. グライムズ	春	月3	1	1	全	84
	Writing Skills Ⅱ	D. グライムズ	秋	月3	1	1	全	84
	Writing Skills Ⅰ	D. マッキー	春	水3	1	1	全	85
	Writing Skills Ⅱ	D. マッキー	秋	水3	1	1	全	85
	Writing Skills Ⅰ	K. ミーハン	春	金3	1	1	全	86
	Writing Skills Ⅱ	K. ミーハン	秋	金3	1	1	全	86
	Writing Skills Ⅰ	D. ヴェラスコ	春	木5	1	1	全	87
	Writing Skills Ⅱ	D. ヴェラスコ	秋	木5	1	1	全	87
	Writing Skills Ⅰ	B. S. ハウエル	春	水4	1	1	全	88
	Writing Skills Ⅱ	B. S. ハウエル	秋	水4	1	1	全	88
	Writing Skills Ⅰ	D. マッキー	春	水2	1	1	全	89
	Writing Skills Ⅱ	D. マッキー	秋	水2	1	1	全	89
	Writing Skills Ⅰ	山中　章子	春	水3	1	1	全	90
	Writing Skills Ⅱ	山中　章子	秋	水3	1	1	全	90
	Writing Skills Ⅰ	靭江　静	春	月3	1	1	全	91
	Writing Skills Ⅱ	靭江　静	秋	月3	1	1	全	91
	Writing Skills Ⅰ	阿部　真	春	水3	1	1	全	92
	Writing Skills Ⅱ	阿部　真	秋	水3	1	1	全	92

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2013年度以降入学者	Writing Skills Ⅰ	金谷　優子	春	水4	1	1	全	93
	Writing Skills Ⅱ	金谷　優子	秋	水4	1	1	全	93
	Writing Skills Ⅰ	阿部　真	春	金3	1	1	全	94
	Writing Skills Ⅱ	阿部　真	秋	金3	1	1	全	94
	Writing Skills Ⅰ	金谷　優子	春	水3	1	1	全	95
	Writing Skills Ⅱ	金谷　優子	秋	水3	1	1	全	95
	Writing Skills Ⅲ	D. ヴェラスコ	春	月4	1	2	全	96
	Writing Skills Ⅳ	D. ヴェラスコ	秋	月4	1	2	全	96
	Writing Skills Ⅲ	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水4	1	2	全	97
	Writing Skills Ⅳ	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水4	1	2	全	97
	Writing Skills Ⅲ	J. J. ダゲン	春	火4	1	2	全	98
	Writing Skills Ⅳ	J. J. ダゲン	秋	火4	1	2	全	98
	Writing Skills Ⅲ	T. ミニオン	春	水3	1	2	全	99
	Writing Skills Ⅳ	T. ミニオン	秋	水3	1	2	全	99
	Writing Skills Ⅲ	A. ジェネス	春	月4	1	2	全	100
	Writing Skills Ⅳ	A. ジェネス	秋	月4	1	2	全	100
	Writing Skills Ⅲ	S. ペイン	春	月4	1	2	全	101
	Writing Skills Ⅳ	S. ペイン	秋	月4	1	2	全	101
	Writing Skills Ⅲ	B. D. タッチャー	春	木4	1	2	全	102
	Writing Skills Ⅳ	B. D. タッチャー	秋	木4	1	2	全	102
	Writing Skills Ⅲ	K. ミーハン	春	月4	1	2	全	103
	Writing Skills Ⅳ	K. ミーハン	秋	月4	1	2	全	103
	Writing Skills Ⅲ	E. フランコ	春	水2	1	2	全	104
	Writing Skills Ⅳ	E. フランコ	秋	水2	1	2	全	104
	Writing Skills Ⅲ	バーナード　クリストファ	春	月3	1	2	全	105
	Writing Skills Ⅳ	バーナード　クリストファ	秋	月3	1	2	全	105
	Writing Skills Ⅲ	D. ブラドリー	春	火4	1	2	全	106
	Writing Skills Ⅳ	D. ブラドリー	秋	火4	1	2	全	106
	Writing Skills Ⅲ	D. H. ケネディ	春	火1	1	2	全	107
	Writing Skills Ⅳ	D. H. ケネディ	秋	火1	1	2	全	107
	Writing Skills Ⅲ	R. ジョーンズ	春	水3	1	2	全	108
	Writing Skills Ⅳ	R. ジョーンズ	秋	水3	1	2	全	108
	Writing Skills Ⅲ	L. K. ハーキンス	春	月3	1	2	全	109
	Writing Skills Ⅳ	L. K. ハーキンス	秋	月3	1	2	全	109
	Writing Skills Ⅲ	A. ジョーンズ	春	月3	1	2	全	110
	Writing Skills Ⅳ	A. ジョーンズ	秋	月3	1	2	全	110
	Writing Skills Ⅲ	山中　章子	春	水4	1	2	全	111
	Writing Skills Ⅳ	山中　章子	秋	水4	1	2	全	111
	Writing Skills Ⅲ	A. ジョーンズ	春	木4	1	2	全	112
	Writing Skills Ⅳ	A. ジョーンズ	秋	木4	1	2	全	112
	Writing Skills Ⅲ	D. ヴェラスコ	春	木4	1	2	全	113
	Writing Skills Ⅳ	D. ヴェラスコ	秋	木4	1	2	全	113
E-learning Ⅰ（1年1組～2組）		阿部　真	春	金5	1	1	全	114
E-learning Ⅱ（1年1組～2組）		阿部　真	秋	金5	1	1	全	114
E-learning Ⅰ（1年3組～12組）		安井　美代子	春	金5	1	1	全	115
E-learning Ⅱ（1年3組～12組）		安井　美代子	秋	金5	1	1	全	115

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2012年度以前入学者	英語音声学	青柳　真紀子	春	火2	2	1	全	214
	英語音声学	青柳　真紀子	秋	火2	2	1	全	214
	Basic Essay Writing	D. H. ケネディ	春	火2	1	1	全	81
	Basic Essay Writing	D. H. ケネディ	秋	火2	1	1	全	81
	Basic Essay Writing	阿部　真	春	金2	1	1	全	82
	Basic Essay Writing	阿部　真	秋	金2	1	1	全	82
	Basic Essay Writing	J. スネール	春	火3	1	1	全	83
	Basic Essay Writing	J. スネール	秋	火3	1	1	全	83
	Basic Essay Writing	D. グライムズ	春	月3	1	1	全	84
	Basic Essay Writing	D. グライムズ	秋	月3	1	1	全	84
	Paragraph Writing	D. マッキー	春	水3	1	1	全	85
	Paragraph Writing	D. マッキー	秋	水3	1	1	全	85
	Paragraph Writing	K. ミーハン	春	金3	1	1	全	86
	Paragraph Writing	K. ミーハン	秋	金3	1	1	全	86
	Paragraph Writing	D. ヴェラスコ	春	木5	1	1	全	87
	Paragraph Writing	D. ヴェラスコ	秋	木5	1	1	全	87
	Paragraph Writing	B. S. ハウエル	春	水4	1	1	全	88
	Paragraph Writing	B. S. ハウエル	秋	水4	1	1	全	88
	Paragraph Writing	D. マッキー	春	水2	1	1	全	89
	Paragraph Writing	D. マッキー	秋	水2	1	1	全	89
	Writing Strategies	山中　章子	春	水3	1	1	全	90
	Writing Strategies	山中　章子	秋	水3	1	1	全	90
	Writing Strategies	靱江　静	春	月3	1	1	全	91
	Writing Strategies	靱江　静	秋	月3	1	1	全	91
	Writing Strategies	阿部　真	春	水3	1	1	全	92
	Writing Strategies	阿部　真	秋	水3	1	1	全	92
	Writing Strategies	金谷　優子	春	水4	1	1	全	93
	Writing Strategies	金谷　優子	秋	水4	1	1	全	93
	Writing Strategies	阿部　真	春	金3	1	1	全	94
	Writing Strategies	阿部　真	秋	金3	1	1	全	94
	Writing Strategies	金谷　優子	春	水3	1	1	全	95
	Writing Strategies	金谷　優子	秋	水3	1	1	全	95
	Pronunciation Practice	中田　ひとみ	春	水3	1	1	全	213
	Pronunciation Practice	中田　ひとみ	秋	水3	1	1	全	213
	Introductory Grammar	靱江　静	春	月2	1	1	全	175
	Introductory Grammar	靱江　静	秋	月2	1	1	全	175
	Introductory Grammar	河原　宏之	春	月5	1	1	全	176
	Introductory Grammar	河原　宏之	秋	月5	1	1	全	176
	Introductory Grammar	小早川　暁	春	火3	1	1	全	177
	Introductory Grammar	佐藤　芳明	春	火3	1	1	全	178
	Introductory Grammar	佐藤　芳明	秋	火3	1	1	全	178
	Introductory Grammar	鈴木　英一	春	水1	1	1	全	179
	Introductory Grammar	河原　宏之	春	水2	1	1	全	180
	Introductory Grammar	河原　宏之	秋	水2	1	1	全	180
	Introductory Grammar	靱江　静	秋	金2	1	1	全	181
	Introductory Grammar	田川　憲二郎	春	金2	1	1	全	182
	Introductory Grammar	田川　憲二郎	秋	金2	1	1	全	182
	Introductory Grammar	府川　謹也	春	金2	1	1	全	183
	Introductory Grammar	府川　謹也	秋	金2	1	1	全	183
	Introductory Grammar	靱江　静	春	金3	1	1	全	184
	Introductory Grammar	靱江　静	秋	金3	1	1	全	184

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture)	N. H. ジョスト	春秋	月2	2	2	交	116
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Social Inequality & Education)	E. 本橋	春秋	月3	2	2	交	117
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成文法入門)	河原　宏之	春秋	月3	2	2	交	118
英語専門講読Ⅰ (生成英語統語論への誘い)	鈴木　英一	春のみ	月3	2	2	交	119
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国のアフリカ系アメリカ人の文化 / 米国のラティーノ文化)	三吉　美加	春秋	月3	2	2	交	120
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディズニー文化を読む)	大木　理恵子	春秋	月4	2	2	交	121
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代イギリス小説)	東郷　公徳	春秋	月5	2	2	交	122
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language, Thought, and Culture)	J. N. ウェンデル	春秋	火1	2	2	交	123
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (戦後国際政治史)	永野　隆行	春秋	火1	2	2	交	124
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ビデオゲーム研究 / ロラン・バルトの記号論)	松本　健太郎	春秋	火1	2	2	交	125
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (異文化コミュニケーションの理論)	工藤　和宏	春秋	火2	2	2	交	126
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディスコース分析)	佐藤　芳明	春秋	火2	2	2	交	127
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ツーリズム研究の現代的課題 / ツーリズム研究の方法と理論)	鈴木　涼太郎	春秋	火2	2	2	交	128
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語教育・SLA最前線)	羽山　恵	春秋	火2	2	2	交	129
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language & Teaching)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	交	130
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (子どもの言葉獲得／ 外国語習得　音の中心に)	青柳　真紀子	春秋	火3	2	2	交	131
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代国際関係論)	佐野　康子	春秋	火3	2	2	交	132
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (異文化理解の基礎と応用)	瀬戸　千尋	春秋	火3	2	2	交	133
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代東南アジア諸国の経済・政治)	金子　芳樹	春秋	火4	2	2	交	134
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英国ユダヤ人史／米国ユダヤ人史)	佐藤　唯行	春秋	火4	2	2	交	135
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (グローバルな眼でアジアを読む)	竹田　いさみ	春秋	火4	2	2	交	136
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (映画批評)	柿田　秀樹	春秋	火5	2	2	交	137
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子　芳樹	春秋	水1	2	2	交	138
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷　優子	春秋	水2	2	2	交	139
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語圏の現代演劇)	児嶋　一男	春秋	水2	2	2	交	140

学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山　晴信	春秋	水2	2	2	交	141
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語でグローバル社会を語る)	竹田　いさみ	春秋	水2	2	2	交	142
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Culture and Communication)	C. B. 池口	春秋	水3	2	2	交	143
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (音声が「言語音」となるしくみ)	中田　ひとみ	春秋	水4	2	2	交	144
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Exploring Language Teaching)	浅岡　千利世	春秋	木1	2	2	交	145
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (History of International Relations)	伊藤　兵馬	春秋	木2	2	2	交	146
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ツーリズムの現状と課題 / The Leaders of Airline Business)	井上　泰日子	春秋	木3	2	2	交	147
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (小さき人々の歴史――変化する英国社会を読む)	上野　直子	春秋	木3	2	2	交	148
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ビートに関する散文を読む)	遠藤　朋之	春秋	木3	2	2	交	149
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (オーストラリアの詩)	国見　晃子	春秋	木3	2	2	交	150
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (通訳訓練のための原書講読)	柴原　早苗	春秋	木3	2	2	交	151
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ小説)	島田　啓一	春秋	木3	2	2	交	152
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (観光研究入門 / ツーリズム人類学入門)	鈴木　涼太郎	春秋	木3	2	2	交	153
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ現代詩――Gary Snyder詩集*Regarding Wave*を読む)	原　成吉	春秋	木3	2	2	交	154
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (グローバル・イシューズを考える)	水本　義彦	春秋	木3	2	2	交	155
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (動詞の意味と文法)	小早川　暁	春秋	木4	2	2	交	156
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代イギリスの移民の物語)	片山　亜紀	春秋	金2	2	2	交	157
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Deconstructing “Japaneseness”)	須永　和博	春秋	金2	2	2	交	158
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国のポピュラー・ナショナリズム ① / 米国のポピュラー・ナショナリズム ②)	板場　良久	春秋	金3	2	2	交	159
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国の対外政策)	髙木　綾	春秋	金3	2	2	交	160
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (地球市民のためのフェアトレード入門)	北野　収	春秋	金4	2	2	交	161
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国及び中国の対外政策決定過程)	髙木　綾	春秋	金5	2	2	交	162

学科共通科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2012年度以前入学者	Academic Writing	K. ミーハン	春	月2	2	2	交	164
	Academic Writing	M. ダーリン	春	月5	2	2	交	165
	Academic Writing	M. ダーリン	秋	月5	2	2	交	165
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	交	166
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	交	166
	Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	交	167
	Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	交	167
	Academic Writing	D. ベーカー	春	火4	2	2	交	168
	Academic Writing	B. D. タッチャー	春	火5	2	2	交	169
	Academic Writing	C. B. 池口	春	水2	2	2	交	170
	Academic Writing	C. B. 池口	秋	水2	2	2	交	170
	Academic Writing	T. ミニオン	春	木2	2	2	交	171
	Academic Writing	T. ミニオン	秋	木2	2	2	交	171
	Academic Writing	D. ヴェラスコ	春	木3	2	2	交	172
	Academic Writing	D. ヴェラスコ	秋	木3	2	2	交	172
	Academic Writing	E. フランコ	春	木3	2	2	交	173
	Academic Writing	E. フランコ	秋	木3	2	2	交	173
	Academic Writing	K. フォード	春	金4	2	2	交	174
	Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	交	174
	College Grammar	靱江　静	春	月2	2	2	交	175
	College Grammar	靱江　静	秋	月2	2	2	交	175
	College Grammar	河原　宏之	春	月5	2	2	交	176
	College Grammar	河原　宏之	秋	月5	2	2	交	176
	College Grammar	小早川　暁	春	火3	2	2	交	177
	College Grammar	佐藤　芳明	春	火3	2	2	交	178
	College Grammar	佐藤　芳明	秋	火3	2	2	交	178
	College Grammar	鈴木　英一	春	水1	2	2	交	179
	College Grammar	河原　宏之	春	水2	2	2	交	180
	College Grammar	河原　宏之	秋	水2	2	2	交	180
	College Grammar	靱江　静	秋	金2	2	2	交	181
	College Grammar	田川　憲二郎	春	金2	2	2	交	182
	College Grammar	田川　憲二郎	秋	金2	2	2	交	182
	College Grammar	府川　謹也	春	金2	2	2	交	183
	College Grammar	府川　謹也	秋	金2	2	2	交	183
	College Grammar	靱江　静	春	金3	2	2	交	184
	College Grammar	靱江　静	秋	金3	2	2	交	184

学科共通科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2013年度以降入学者	Communication Skills	P. M. ホーネス	春	月1	2	2	交	185
	Communication Skills	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	交	185
	Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	186
	Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	186
	Communication Skills	D. グライムズ	秋	月4	2	2	交	187
	Communication Skills	A. ジョーンズ	春	月2	2	2	交	188
	Communication Skills	A. ジョーンズ	秋	月2	2	2	交	188
	Communication Skills	R. ダラム	春	火2	2	2	交	189
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火2	2	2	交	189
	Communication Skills	D. ベーカー	秋	火4	2	2	交	190
	Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	191
	Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	191
	Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	192
	Communication Skills	D. マッキャン	春	木2	2	2	交	193
	Communication Skills	D. マッキャン	秋	木2	2	2	交	193
	Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	交	194
	Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	交	194
	Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	交	195
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	195
	Communication Skills	M. ダーリン	春	木5	2	2	交	196
	Communication Skills	M. ダーリン	秋	木5	2	2	交	196
	Communication Skills	K. ミーハン	春	金1	2	2	交	197
	Communication Skills	K. ミーハン	秋	金1	2	2	交	197
	Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	198
	Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	198
	Communication Skills	K. フォード	春	金3	2	2	交	199
	Communication Skills	K. フォード	秋	金3	2	2	交	199
	Communication Skills	未定	秋		2	2	交	200
2012年度以前入学者	Communicative English	P. M. ホーネス	春	月1	2	2	交	185
	Communicative English	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	交	185
	Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	186
	Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	186
	Communicative English	D. グライムズ	秋	月4	2	2	交	187
	Communicative English	A. ジョーンズ	春	月2	2	2	交	188
	Communicative English	A. ジョーンズ	秋	月2	2	2	交	188
	Communicative English	R. ダラム	春	火2	2	2	交	189
	Communicative English	R. ダラム	秋	火2	2	2	交	189
	Communicative English	D. ベーカー	秋	火4	2	2	交	190
	Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	191
	Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	191
	Communicative English	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	192
	Communicative English	D. マッキャン	春	木2	2	2	交	193
	Communicative English	D. マッキャン	秋	木2	2	2	交	193
	Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	交	194
	Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	交	194
	Communicative English	R. ダラム	春	木2	2	2	交	195
	Communicative English	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	195
	Communicative English	M. ダーリン	春	木5	2	2	交	196
	Communicative English	M. ダーリン	秋	木5	2	2	交	196
	Communicative English	K. ミーハン	春	金1	2	2	交	197
	Communicative English	K. ミーハン	秋	金1	2	2	交	197
	Communicative English	P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	198
	Communicative English	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	198
	Communicative English	K. フォード	春	金3	2	2	交	199
	Communicative English	K. フォード	秋	金3	2	2	交	199
	Communicative English	未定	秋		2	2	交	200

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Discussion	P. マッケビリー	春	月1	2	2	交	201
Discussion	P. マッケビリー	秋	月1	2	2	交	201
Discussion	K. ミーハン	秋	月2	2	2	交	202
Discussion	L. K. ハーキンス	春	月4	2	2	交	203
Discussion	N. H. ジョスト	春	水1	2	2	交	204
Discussion	N. H. ジョスト	秋	水1	2	2	交	204
Discussion	C. B. 池口	春	水4	2	2	交	205
Discussion	C. B. 池口	秋	水4	2	2	交	205
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	交	206
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	交	206
Discussion	B. D. タッチャー	春	木5	2	2	交	207
Discussion	B. D. タッチャー	秋	木5	2	2	交	207
Public Speaking　Ⅰ	D. マッキー	春	水4	2	2	交	208
Public Speaking　Ⅰ	D. マッキー	秋	水4	2	2	交	208
Public Speaking　Ⅰ	J. N. ウェンデル	春	月4	2	2	交	209
Public Speaking　Ⅱ	J. N. ウェンデル	秋	月4	2	2	交	209
Debate　Ⅰ	D. グライムズ	春	月4	2	2	交	210
Debate　Ⅰ	N. H. ジョスト	春	火1	2	2	交	211
Debate　Ⅱ	N. H. ジョスト	秋	火1	2	2	交	211
13年度以降 Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	春	火4	2	2	交	212
13年度以降 Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	秋	火4	2	2	交	212
13年度以降 Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水3	2	2	交	213
13年度以降 Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	秋	水3	2	2	交	213
13年度以降 英語の音声	青柳　真紀子	春	火2	2	2	交	214
13年度以降 英語の音声	青柳　真紀子	秋	火2	2	2	交	214
通訳　Ⅰ	柴原　早苗	春	木1	2	2	交	215
通訳　Ⅰ	柴原　早苗	秋	木1	2	2	交	215
通訳　Ⅰ	中島　直美	春	金1	2	2	交	216
通訳　Ⅰ	中島　直美	秋	金1	2	2	交	216
通訳　Ⅰ	中島　直美	春	金2	2	2	交	217
通訳　Ⅰ	中島　直美	秋	金2	2	2	交	217
通訳　Ⅱ	柴原　早苗	春	木2	2	2	交	218
通訳　Ⅱ	柴原　早苗	秋	木2	2	2	交	218
翻訳	高田　宣子	春	火5	2	2	交	219
翻訳	高田　宣子	秋	火5	2	2	交	219
翻訳	上野　直子	秋	水2	2	2	交	220
翻訳	山中　章子	春	水5	2	2	交	221
翻訳	山中　章子	秋	水5	2	2	交	221
翻訳	柴田　耕太郎	春	木3	2	2	交	222
翻訳	柴田　耕太郎	秋	木3	2	2	交	222
翻訳	柴田　耕太郎	春	木4	2	2	交	223
翻訳	柴田　耕太郎	秋	木4	2	2	交	223
翻訳	田村　斉敏	春	金4	2	2	交	224
翻訳	P. ネルム	春	水4	2	2	交	225
翻訳	P. ネルム	秋	水3	2	2	交	225
翻訳	白川　貴子	春	水3	2	2	交	226
翻訳	白川　貴子	秋	水3	2	2	交	226

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	月1	2	2	交・経	227
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	月1	2	2	交・経	227
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	月2	2	2	交・経	228
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	月2	2	2	交・経	228
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	春	火3	2	2	交・経	229
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	秋	火3	2	2	交・経	229
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	春	水3	2	2	交・経	230
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	秋	水3	2	2	交・経	230
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木3	2	2	交・経	231
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木3	2	2	交・経	231
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木4	2	2	交・経	232
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木4	2	2	交・経	232
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	春	金1	2	3	交	233
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	秋	金1	2	3	交	233
メディア英語　Ⅰ	海老沢　達郎	春	火2	2	2	交	234
メディア英語　Ⅰ	海老沢　達郎	秋	火2	2	2	交	234
メディア英語　Ⅰ	中田　ひとみ	春	水5	2	2	交	235
メディア英語　Ⅰ	中田　ひとみ	秋	水5	2	2	交	235
メディア英語　Ⅰ	国見　晃子	春	木2	2	2	交	236
メディア英語　Ⅰ	国見　晃子	秋	木2	2	2	交	236
メディア英語　Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	金1	2	2	交	237
メディア英語　Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	金1	2	2	交	237
メディア英語　Ⅰ	P. ネルム	春	金1	2	2	交	238
メディア英語　Ⅰ	P. ネルム	秋	金1	2	2	交	238
メディア英語　Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	金3	2	2	交	239
メディア英語　Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	金3	2	2	交	239
メディア英語　Ⅱ	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	交	240
メディア英語　Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	交	240
メディア英語　Ⅱ	東郷　公徳	春	月4	2	2	交	241
メディア英語　Ⅱ	東郷　公徳	秋	月4	2	2	交	241
メディア英語　Ⅱ	P. ネルム	春	金2	2	2	交	242
メディア英語　Ⅱ	P. ネルム	秋	金2	2	2	交	242
シネマ英語	高田　宣子	春	火4	2	2	交	243
シネマ英語	高田　宣子	秋	火4	2	2	交	243
シネマ英語	国見　晃子	春	木4	2	2	交	244
シネマ英語	国見　晃子	秋	木4	2	2	交	244
シネマ英語	靭江　静	春	金2	2	2	交	245
シネマ英語	田村　斉敏	秋	金4	2	2	交	246

学科専門科目

言語コミュニケーション（12年度以前）／言語（13年度以降）

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語学の世界	府川　謹也	春	金1	2	2	交	247
英語学の世界	府川　謹也	秋	火5	2	2	交	247
言語情報処理Ⅰa	羽山　恵	春	木2	2	2	独・仏・交	248
言語情報処理Ⅰb	羽山　恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	248
言語情報処理Ⅱa	内田　富男	春	水1	2	2		249
言語情報処理Ⅱb	内田　富男	秋	水1	2	2		249
英語発音教授法　（2006年度以降入学者）	2014年度不開講			2	2		
英語発音教授法　（2006年度以降入学者）	2014年度不開講			2	2		
実践英語音声学　（2009年度以降入学者）	2014年度不開講			2	2		
実践英語音声学　（2009年度以降入学者）	2014年度不開講			2	2		
音声・音韻論a	青柳　真紀子	春	木3	2	2		250
音声・音韻論b	青柳　真紀子	秋	木3	2	2		250
シンタクスa	安井　美代子	春	金3	2	2		251
シンタクスb	安井　美代子	秋	金3	2	2		251
意味論a	小早川　暁	春	木3	2	2		252
意味論b	小早川　暁	秋	木3	2	2		252
英語学特殊講義a	府川　謹也	春	火1	2	2		253
英語学特殊講義b	府川　謹也	秋	火1	2	2		253
英語学特殊講義a	安井　美代子	春	火3	2	2		254
英語学特殊講義b	安井　美代子	秋	火3	2	2		254
英語学文献研究a	鈴木　英一	春	月4	2	3		255
英語学文献研究b	小早川　暁	秋	火3	2	3		255

文学コミュニケーション（12年度以前）／文学文化（13年度以降）

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2013年度以降入学者	英語圏の文学・文化a	原　成吉	春	火1	2	2		256
	英語圏の文学・文化b	片山　亜紀	秋	木5	2	2		256
	英語圏の文学・文化・批評a	上野　直子	春	水2	2	2	全	257
	英語圏の文学・文化・批評b	原　成吉	秋	火1	2	2	全	258
	英語圏の文学・文化・批評b	児嶋　一男	秋	月3	2	2	全	259
	英語圏の社会・思想・歴史a	田村　斉敏	春	金3	2	2	全	260
	英語圏の社会・思想・歴史b	片山　亜紀	秋	木4	2	2	全	260
	英語圏の社会・思想・歴史b	佐藤　唯行	秋	火2	2	2		261
2012年度以前入学者	英語圏の文学・文化	原　成吉	春	火1	2	2		256
	英語圏の文学・文化	片山　亜紀	秋	木5	2	2		256
	英語圏の小説a	上野　直子	春	水2	2	2	全	257
	英語圏の詩b	原　成吉	秋	火1	2	2	全	258
	英語圏の演劇b	児嶋　一男	秋	月3	2	2	全	259
	英語圏の社会と思想a	田村　斉敏	春	金3	2	2	全	260
	英語圏の社会と思想b	片山　亜紀	秋	木4	2	2	全	260
	英語圏の歴史b	佐藤　唯行	秋	火2	2	2		261
英語圏のエリア・スタディーズ a		佐藤　唯行	春	火2	2	2	交	262
英語圏のエリア・スタディーズ b		P. ネルム	秋	水4	2	2	交	262
英語圏の文学・文化特殊講義 a		児嶋　一男	春	月3	2	2		263
英語圏の文学・文化特殊講義 b		島田　啓一	秋	木2	2	2		263
英語圏の文学・文化文献研究 a		島田　啓一	春	木2	2	3		264
英語圏の文学・文化文献研究 b		田村　斉敏	秋	金3	2	3		264

学科専門科目

異文化コミュニケーション（12年度以前）／文化コミュニケーション（13年度以降）

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
異文化間コミュニケーション論a,b	工藤　和宏	春	火5	2	2	言・養	265
異文化間コミュニケーション論a,b	工藤　和宏	秋	火5	2	2	言・養	265
異文化間コミュニケーション論a,b	町田　喜義	春	火5	2	2	言・養	266
異文化間コミュニケーション論a,b	町田　喜義	秋	火5	2	2	言・養	266
メディア・コミュニケーション論a	松本　健太郎	春	火2	2	2		267
メディア・コミュニケーション論b	松本　健太郎	秋	火2	2	2		267
スピーチ・コミュニケーション論a	小西　卓三	春	月5	2	2		268
スピーチ・コミュニケーション論b	小西　卓三	秋	月5	2	2		268
スピーチ・コミュニケーション論a	柿田　秀樹	春	火4	2	2		269
スピーチ・コミュニケーション論b	柿田　秀樹	秋	火4	2	2		269
コミュニケーション論特殊講義a	町田　喜義	春	火3	2	3		270
コミュニケーション論特殊講義b	町田　喜義	秋	火3	2	3		270
コミュニケーション論特殊講義a	柿田　秀樹	春	木3	2	3		271
コミュニケーション論特殊講義b	柿田　秀樹	秋	木3	2	3		271
コミュニケーション論文献研究a	小西　卓三	春	月4	2	3		272
コミュニケーション論文献研究b	小西　卓三	秋	月4	2	3		272
コミュニケーション論文献研究a	柿田　秀樹	春	水2	2	3		273
コミュニケーション論文献研究b	柿田　秀樹	秋	水2	2	3		273

国際コミュニケーション（12年度以前）／国際関係（13年度以降）

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
グローバル社会論a,b	竹田　いさみ	春	火3	2	2	交	274
グローバル社会論a,b	竹田　いさみ	秋	火3	2	2	交	274
グローバル社会論a,b	水本　義彦	春	火3	2	2	交	275
グローバル社会論a,b	水本　義彦	秋	火3	2	2	交	275
英語圏の国際関係a	永野　隆行	春	月2	2	2	交・法	276
英語圏の国際関係b	永野　隆行	秋	月2	2	2	交・法	276
グローバル・ヒストリーa（2013年度以降入学者）	水本　義彦	春	木2	2	2	交	277
グローバル・ヒストリーb（2013年度以降入学者）	水本　義彦	秋	木2	2	2	交	277
国際開発論	金子　芳樹	春	火2	2	2	交	278
国際協力論	竹田　いさみ	秋	月3	2	2	交	279
国際交流論	小松　諄悦	春	金2	2	2	交	280
国際ツーリズム論	鈴木　涼太郎	春	木4	2	2	交	281
国際NGO・ボランティア論	金子　芳樹	秋	火2	2	2	交	282
国際リスク・海洋論（2013年度以降入学者）	竹田　いさみ	春	月3	2	2	交	283
国際関係特殊講義a（2012年度以前入学者、重複履修不可）	竹田　いさみ	春	月3	2	2	交	283
国際関係特殊講義a	佐野　康子	春	火4	2	2	交13〜	284
国際関係特殊講義a（2012年度以前入学者、重複履修不可）	水本　義彦	春	木2	2	2	交13〜	277
国際関係特殊講義b（2012年度以前入学者、重複履修不可）	水本　義彦	秋	木2	2	2	交13〜	277
国際関係特殊講義b	永野　隆行	秋	木3	2	2	交13〜	285
国際関係特殊講義b	小松　諄悦	秋	金2	2	2	交13〜	286
国際関係文献研究b	佐野　康子	秋	火4	2	3		287
国際関係文献研究a	髙木　綾	春	金4	2	3		288
国際関係文献研究b	髙木　綾	秋	金4	2	3		288

交流文化論（09年度以降入学者）

	副題	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化論（副題）	航空産業論	井上　泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	289
	ツーリズム・マネジメント論	鈴木　涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	290
	表象文化論	高橋　雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	291
	食の文化論	北野　収	春	金2	2	2	交・養・経・法	292
	開発文化論	北野　収	春	金3	2	2	交・養・経・法	293
	フィールドワーク論	須永　和博	春	金4	2	2	独・仏・交・養・経・法	294
	ツーリズム人類学	須永　和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	295
	国際会議・イベント事業論	井上　泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	296
	ツーリズム政策論	井上　泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	297
	ツーリズム文化論	鈴木　涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	298
	旅行・宿泊産業論	井上　泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	299
	パフォーマンス研究【12年度以前入学者】 トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究）【13年度以降入学者】	高橋　雄一郎	秋	木4	2	2	独・仏・交・養・経・法	300
	トランスナショナル文化特殊講義（トランスナショナルな公共圏を求めて）【13年度以降入学者のみ】	高橋　雄一郎	秋	木5	2	2	独・仏・交・養・経・法	301
	ツーリズム・メディア論【12年度以前入学者】 ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）【13年度以降入学者】	倉澤　治雄	秋	金1	2	2	交・養・経・法	302
	トランスナショナル・メディア論	倉澤　治雄	秋	金2	2	2	交・養・経・法	303
	トランスナショナル社会学	北野　収	秋	金2	2	2	交・養・経・法	304
	地域開発論【13年度以降入学者】	北野　収	秋	金3	2	2	交・養・経・法	305
	ツーリズム地誌論【12年度以前入学者】 ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論）【13年度以降入学者】	須永　和博	秋	金4	2	2	独・仏・交・養・経・法	306
	オルタナティブ・ツーリズム論	須永　和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	307

上記は、交流文化論の副題です。修得した場合は、交流文化論（副題）として表記されます。
英語学科生の履修上限単位は、８単位（ただし、副題が異なること）です。

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	髙橋　輝暁	春	水3	2	1	養・経・法	309
総合講座	髙橋　輝暁	秋	水3	2	1	養・経・法	309
総合講座	廣田　愛理	春	月2	2	1	養・経・法	310
総合講座	廣田　愛理	秋	月2	2	1	養・経・法	310
情報科学概論a	呉　浩東	春	月2	2	1	養・経・法	311
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						312～314
(情報処理演習)[総合]	田中　雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中　雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田　富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田　富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						315～318
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子　憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中　雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子　憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子　憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山　恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中　雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山　恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山　恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山　恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	
(HTML)情報科学各論	各担当教員						319
(HTML初級)	金子　憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子　憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中　雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子　憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子　憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	320
経済原論a	野村　容康	春	木2	2	2	養・経・法	321
経済原論b	野村　容康	秋	木2	2	2	養・経・法	321
社会心理学a	樋口　匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	322
社会心理学b	樋口　匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	322

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論　重複履修可否一覧」を参考にしてください。

06 年度以降	英語学入門	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英語学とは英語の言語学であり，言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である．英語学は英語という言語のさまざまな面を科学的に研究する分野である．この講義では，英語の歴史を簡単に振り返り，英語の音・語・文・意味・用法がどのような特徴をもつかを概観する． **講義概要**: 人間がどのような音を用いるか，英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される．文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される．統語論は，語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか，どのように説明するのが適切であるかを研究する．意味論は，文がどのような意味内容を表すかを扱う．文の意味内容を理解するためには，語句の文における機能，語の意味や語の結合の意味計算，語の修飾関係などを知る必要がある．文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である．	1. 英語学とは何か・言語学とは何か 2. 英語のフォニックス: 綴り字と発音 3. 音声学・音韻論(1): 音声学，音韻論，音声器官 4. 音声学・音韻論(2): 母音の分類，子音の分類， 5. 音声学・音韻論(3): アクセントとリズム 6. 形態論(1): 形態素，形態素の種類 7. 形態論(2): 語形成の方法，派生と屈折 8. 統語論(1): 文の種類，文型;〈中間試験〉 9. 統語論(2): 文の内部構造，補文の構造 10. 統語論(3): 変形と文の生成 11. 意味論(1): 語の意味論，文の意味論 12. 意味論(2): 意味関係，意味変化，認知意味論 13. 語用論(1): 直示表現，発話行為 14. 語用論(2): 前提，会話の含意 15. 情報構造:新・旧情報，情報構造と構文;〈期末試験〉
テキスト・参考文献	**評価方法**
テキスト: 安藤貞雄・澤田治美(2001)『英語学入門』開拓社	中間試験(45%程度)と期末試験(45%程度)と受講状況に基づき総合的に評価する．単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる．

06 年度以降	英語学入門	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
contrastive と demonstrative はともに-ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります．では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」と答えるかもしれませんが、実は簡単な規則で予測できてしまいます．英語の母国語話者はこの規則を無意識な知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります．日本語の母国語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています．例えば「凧（たこ）」と「風（かぜ）」の前に「大（おお）」を付けて発音してみてください。違いがあるはずです．１つ１つ単語の発音を暗記しているからだと思うかもしれませんが、実はそうではありません。 この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます．扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます．さらに、実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います．	1. 無意識の（言語）知識＝Human Intelligence（クイズ 1） 2. 英語の音のしくみ（クイズ 2） 3. 様々な音韻現象　（クイズ 3） 4. 英語の単語の成り立ち　（クイズ 4） 5. 続き　（クイズ 5） 6. 英語のアクセント（クイズ 6） 7. 中間試験（１～６週の範囲） 8. 英語の文構造　（クイズ 7） 9. 続き　（クイズ 8） 10. 続き　（クイズ 9） 11. 文構造と意味　（クイズ 10） 12. 子供の言語獲得　（クイズ 11） 13. 言語障害　（クイズ 12） 14. 私たちにとって言語とは何か 15. まとめ 定期試験（８−１５週の範囲）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。プリントを配布する。	授業の最初に簡単な復習クイズを行う（上記の授業計画参照）。評価はこのクイズ（10%)、中間試験(40%)、定期試験(50%）による。

06 年度以降	英語学入門	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
contrastive と demonstrative はともに-ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります．では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」と答えるかもしれませんが、実は簡単な規則で予測できてしまいます．英語の母国語話者はこの規則を無意識な知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります．日本語の母国語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています．例えば「凧（たこ）」と「風（かぜ）」の前に「大（おお）」を付けて発音してみてください。違いがあるはずです．１つ１つ単語の発音を暗記しているからだと思うかもしれませんが、実はそうではありません。 この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます．扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます．さらに、実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います．	1. 無意識の（言語）知識＝Human Intelligence（クイズ 1） 2. 英語の音のしくみ（クイズ 2） 3. 様々な音韻現象　（クイズ 3） 4. 英語の単語の成り立ち　（クイズ 4） 5. 続き　（クイズ 5） 6. 英語のアクセント（クイズ 6） 7. 中間試験（１～６週の範囲） 8. 英語の文構造　（クイズ 7） 9. 続き　（クイズ 8） 10. 続き　（クイズ 9） 11. 文構造と意味　（クイズ 10） 12. 子供の言語獲得　（クイズ 11） 13. 言語障害　（クイズ 12） 14. 私たちにとって言語とは何か 15. まとめ 定期試験（８−１５週の範囲）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。プリントを配布する。	授業の最初に簡単な復習クイズを行う（上記の授業計画参照）。評価はこのクイズ（10%)、中間試験(40%)、定期試験(50%）による。

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の文学文化入門 英語圏の文学・文化入門	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテキストに取り組みながら、理解し、身につけてほしいのは、特に次の四点である。 １．自分自身の「現在と此所」を、近現代 500 年の歴史と世界のひろがり、その複雑なつながりのなかで考える癖をつけよう。 ２．歴史も物語もつくりあげられたものであること、その意味では現実とフィクションの境界は思ったより曖昧であることを理解しよう。 ３．現実やフィクションが構築されるに際しては、「権力」が作用していることに気づこう。 ４．あらゆる現実・フィクションには、いくつもの側面があることに敏感になろう。 なおこの講義は英国とその（旧）植民地で書かれた散文を中心としたものである。	第１回: 言葉のちから。英語圏とは。英語とは何か。 第２回：社会・文学・テクノロジー 第３回：語る・聞く文学から読む文学へ 第４回：帝国と小説 第５回：世紀をこえるベストセラー*Jane Eyre*（１） 第６回：世紀をこえるベストセラー*Jane Eyre*（２） 第７回：フェミニズム批評と *Jane Eyre*（１） 第８回：フェミニズム批評と *Jane Eyre*（２） 第９回：文化「産業」としての文学 第 10 回：ポストコロニアル文学の登場 第 11 回：もうひとつの物語　*Wide Sargasso Sea*（１） 第 12 回：もうひとつの物語　*Wide Sargasso Sea*（２） 第 13 回：ディアスポラと言葉という故郷 第 14 回：英語作家とは？ 第 15 回: グローバル文学の視点
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。	授業内活動参加度（コメントペーパーなど）40% 試験　60%

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の文学文化入門 英語圏の文学・文化入門	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
文学コースの入門編の授業です。「文学」というとカタい感じかもしれませんが、物語、小説、歌詞、漫画、映画など、言葉を（一部であれ）使った芸術に、私たちは多かれ少なかれ影響を受けながら生きています。この講義では、そんな「文学」を改めて見直してみましょう。日頃エンターテイメントとして楽しんで消費しておしまい、ということが多いかもしれませんが、「文学」は時代や社会や権力との応答の中で書かれ、けっこう必死になって自己表現に努めてきた、ということを実感してほしいです。 「英語圏」といっても多様ですが、この講義で扱うのは、16世紀から20世紀にかけて、「イギリス」において英語で書かれた文学作品です。担当者（片山）はストーリーの構成をなるべく原文の肌触りもふくめて伝えます。抜粋を原文で読んだり、映像を見てもらうこともします。受講者のみなさんには、授業中に作品を朗読したり、感想を発言してもらいます。	１．はじめに ２～３．シェイクスピアの世界 William Shakespeare, *Macbeth* ４～５．教養？　恋愛？ Jane Austen, *Pride and Prejudice* ６～８．ヴィクトリア時代への反逆 Charlotte Brontë, *Jane Eyre* ９～１０．ルイス・キャロルとノンセンス文学 Lewis Carroll, *Alice's Adventures in Wonderland* １１～１２．ピーター・パンと男性問題 J.M. Barrie, *Peter and Wendy* １３．格差社会への醒めた視線 Alan Sillitoe, "The Loneliness of the Long-Distance Runner" １４～１５　まとめ （扱う作品は一部変更することがあります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントを配布 参考文献は適宜授業中に提示	授業内の課題約３割、学期末試験約７割。ただし授業回数の 2/3 を越えて欠席した場合、評価対象としない。

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の文学文化入門 英語圏の文学・文化入門	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図ること。 **講義概要** 　それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということを、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評的に考えていきます。 　テキストは、ハンドアウトを使用し、各回の始めに英語の語彙 quiz を行い、各回の終わりに、内容把握の確認 quiz を行います。 　公欠扱いはありません。 　授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。	第 1 回：導入――文学とは？文化とは？ 第 2 回：死生観――生きるための視点から 第 3 回：人種　1――ケルト人 第 4 回：人種　2――ケルト文化 第 5 回：イギリス島の人種のルーツ 第 6 回：物語と英語の始まり 第 7 回：信仰と人間観 第 8 回：Shakespeare　1 第 9 回：Shakespeare　2 第 10 回：ジャーナリズムの誕生――報道の責任 第 11 回：小説の誕生――社会と人間 第 12 回：19 世紀のおもしろ小説 第 13 回：アイルランド移民とアメリカ 第 14 回：James Joyce ――20 世紀から 21 世紀の小説に 第 15 回：まとめ――文学と人間
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の文学文化入門 英語圏の文学・文化入門	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図ること。 **講義概要** 　それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということを、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評的に考えていきます。 　テキストは、ハンドアウトを使用し、各回の始めに英語の語彙 quiz を行い、各回の終わりに、内容把握の確認 quiz を行います。 　公欠扱いはありません。 　授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。	第 1 回：導入――文学とは？文化とは？ 第 2 回：死生観――生きるための視点から 第 3 回：人種　1――ケルト人 第 4 回：人種　2――ケルト文化 第 5 回：イギリス島の人種のルーツ 第 6 回：物語と英語の始まり 第 7 回：信仰と人間観 第 8 回：Shakespeare　1 第 9 回：Shakespeare　2 第 10 回：ジャーナリズムの誕生――報道の責任 第 11 回：小説の誕生――社会と人間 第 12 回：19 世紀のおもしろ小説 1 第 13 回：アイルランド移民とアメリカ 第 14 回：James Joyce ――20 世紀から 21 世紀の小説に 第 15 回：まとめ――文学と人間
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。

06 年度以降	文化コミュニケーション入門（水２）（金１）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
英語を学ぶ皆さんは、文化やコミュニケーションというものに少なからず関心があるのではないでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは文化やコミュニケーション、そして、この２つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ文化やコミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般論の問い直しから始まるからです。 使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。 講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいたしません。 学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（Qual.: 小テスト）を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。 なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。	１．講義概要１：授業方針と注意事項 ２．講義概要２：研究班の編成 ３．コミュニケーションという力（第１章） ４．メディア（第２章） ５．個人・家族（第３章） ６．ジェンダー・セクシュアリティ（第４章） ７．文化（第５章） ８．記号の力（第６章） ９．教育（第７章） １０．精神（第８章） １１．社会思想としてのコミュニケーション（第９章） １２．事例研究１ １３．事例研究２ １４．コンサルテーション １５．研究発表 （研究班の数により変更の可能性もあります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）	①研究発表（準備・発表・審査：90%） ②小テスト（Qual.）＝研究発表の資格審査（10%）

06 年度以降	文化コミュニケーション入門（水２）（金１）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
英語を学ぶ皆さんは、文化やコミュニケーションというものに少なからず関心があるのではないでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは文化やコミュニケーション、そして、この２つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ文化やコミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般論の問い直しから始まるからです。 使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。 講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいたしません。 学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（Qual.: 小テスト）を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。 なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。	１．講義概要１：授業方針と注意事項 ２．講義概要２：研究班の編成 ３．コミュニケーションという力（第１章） ４．メディア（第２章） ５．個人・家族（第３章） ６．ジェンダー・セクシュアリティ（第４章） ７．文化（第５章） ８．記号の力（第６章） ９．教育（第７章） １０．精神（第８章） １１．社会思想としてのコミュニケーション（第９章） １２．事例研究１ １３．事例研究２ １４．コンサルテーション １５．研究発表 （研究班の数により変更の可能性もあります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）	①研究発表（準備・発表・審査：90%） ②小テスト(Qual.)＝研究発表の資格審査（10%）

13 年度以降 06～12 年度	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、入門科目として国際関係論の基礎的な概念、分析枠組み（国際関係の見方）を習得し、現代の国際社会がどのように成り立ち、どのような問題を抱え、それに対処しているかを理解することを目的とする。2年次以降の国際関係関連科目を理解する上で必須の基礎的知識の習得に努める。 講義では、毎回要点をまとめたレジュメを配布し、それに沿って講義を進めていく。春セメスターの前半では、概念的な事柄について講義し、国際関係の3つの分析枠組みを紹介する。後半では、今日のグルーバル・イシューズと呼ばれる諸問題をいくつか取り上げ、具体的に検討していく計画である。 上記の内容に加えて、講義の冒頭で「今週の国際ニュース」と題して時事問題を紹介し、概念(分析枠組み)と現実の国際問題との関連を意識できるように努める。	1　はじめに　国際関係を学ぶ意義 2　国際関係の三つの見方（分析枠組み） 3　リアリズム（1）：国益、権力闘争、戦争 4　リアリズム（2）：アナーキー、勢力均衡 5　リベラリズム（1）：利益の共有、協調・協力 6　リベラリスム（2）：相互依存、国際レジーム 7　マルキシズム（1）：支配と従属 8　マルキシズム（2）：従属論、世界システム論 9　中間のまとめ：三つの分析枠組みの比較 10　グローバリゼーションとは何か 11　反グローバリゼーション 12　グローバル・イシューズ（1）テロ、大量破壊兵器 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）内戦、平和構築 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献リストを配布する。	平常点（20%）、試験（80%）

13 年度以降 06～12 年度	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。 講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第２～５週）と「国際社会の構造と変化」（第７～12）「グローバル化の中の国際社会」（第 13～第 15 週）の３つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。 この授業では、２年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるよう考慮しながら進めます。 なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	**１．イントロダクション** ＊国際社会、国際関係論とは何かを概説します。 **２～６．国際関係の基礎シリーズ** ＊20 世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。 **７～12. 国際社会の構造と変化シリーズ** ＊国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①宗教と国際関係、②イスラムとテロ、③パレスチナ問題などを扱います。 **13～15. グローバル化の中の国際社会シリーズ** ＊1990 年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報の活発な流れがもたらす事例をケースとして取り扱います。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。	学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。

13 年度以降 06～12 年度	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。 講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第２～５週）と「国際社会の構造と変化」（第７～12）「グローバル化の中の国際社会」（第 13～第 15 週）の３つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。 この授業では、２年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるよう考慮しながら進めます。 なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	**１．イントロダクション** ＊国際社会、国際関係論とは何かを概説します。 **２～６．国際関係の基礎シリーズ** ＊20 世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。 **７～12. 国際社会の構造と変化シリーズ** ＊国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①宗教と国際関係、②イスラムとテロ、③パレスチナ問題などを扱います。 **13～15. グローバル化の中の国際社会シリーズ** ＊1990 年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報の活発な流れがもたらす事例をケースとして取り扱います。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。	学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。

06 年度以降	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English. Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester. There are two objectives for the courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented. These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.	Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Introduction to narratives", "Introduction to Africa", "Introduction to Asian Englishes", and "Introduction to American History through Music".
テキスト、参考文献	**評価方法**
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.

06 年度以降	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English. Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester. There are two objectives for these courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented. These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.	Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Gender studies", "Introduction to international relations", "Film studies", and "Japanese culture".
テキスト、参考文献	**評価方法**
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月２、金３）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. <u>Overall Objectives</u> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	In this class, we shall use a Disney movie, (subtitled in English) to study modern American English. Each week, the students will watch one subtitled scene of approximately 10 minutes. We will then study, the vocabulary, idioms and grammar used in that scene. In this class, the students will be exposed to a great deal of modern, idiomatic English, and will have ample opportunities to speak with both each other and the instructor. I hope this will be an enjoyable and educational class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.	The students will be evaluated on class participation, a speaking test and a written report.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月２、金３）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. <u>Overall Objectives</u> 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	This course will have the same format as the earlier semester and will build and expand upon the skills the students developed in the first part of the course.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Same as above.	Same as above.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（火２、木５）	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	1 First Impressions 2 Psychology & Language-learning 3 Communicative & Cultural Awareness 4 Real-world Communication Skills 5 Study Skills 6 Grammatical Awareness 7 WH/open & YN/closed questions 8 Extensive Reading & Listening I 9 Extensive Reading & Listening II 10 Discussion Skills 11 Presentation Skills 12 Presentation Practice 13 Extensive Reading & Listening III 14 Extensive Reading & Listening IV 15 Course Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Group 10: Billy Elliot & The Count of Monte Cristo (Penguin Readers) Group 2: About a Boy (Penguin Active Reading) & The Treasure of Monte Cristo (Macmillan Readers)	Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, assignments 25%, tests 25%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（火２、木５）	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1 Overview of the Creative Process 2 Choosing your topic & Researching 3 Outlining & Drafting 4 Editing 5 Presentation practice 6 Presentation Week 7 V for Vendetta 8 5-paragraph essays 9 1984 PART 1 10 1984 PART 2 11 1984 PART 3 12 Orwell & the English Language 13 Presentation practice 14 Presentation Week 15 Course Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
1984 (Penguin Readers)	Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, two presentations 50%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（木１、金１）	担当者	D．マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Week 1 Introduction Week 2 Alphabet and card preparation Week 3 Newspaper headlines Week 4 Direct and reported speech Week 5 Shared free writing Week 6 Presentation introduction Week 7 Presentation preparation Week 8 Presentation delivery Week 9 Song lyrics Week 10 Song project Week 11 World music Week 12 Presentation preparation Week 13 Presentation delivery Week 14 Shared free writing Week 15 Revision and quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic contemporary media sources	50% class participation and involvement 25% class and home exercises 25% quizzes and surveys

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（木１、金１）	担当者	D．マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1 Summer free writing Week 2 Information exchange Week 3 Direct and reported speech Week 4 Newspaper articles Week 5 Discussion Week 6 Movie reviews Week 7 Movie presentation I Week 8 Movie presentation II Week 9 Movie presentation III Week 10 Cartoons and advertisements Week 11 Individual projects Week 12 Presentation preparation Week 13 Poster presentations Week 14 Final free writing Week 15 Retrospect
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic contemporary media sources	50% class participation and involvement 25% class and home exercises 25% quizzes and surveys

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（火２、木１）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Week 1: Class orientation, introductions Week 2: Introduction to timed speaking (TS) Week 3: Listening for gist, (TS) Week 4: Class survey and report, (TS) Week 5: Introduction to small group leadership, (TS) Week 6: Small group presentations Week 7: Comprehensive reading, (TS) Week 8: Review, Reading and listening tests Week 9: Grammar workshop, (TS) Week 10: Research and report writing, (TS) Week 11: Investigative reporting, (TS) Week 12: Introduction to topic research, (TS) Week 13: Topic research reporting, (TS) Week 14: Review, Speaking test Week 15: Consultations
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Smart Choice Level 2, 2nd Edition (Oxford University Press) ・B5 notebook	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speaking Test

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（火２、木１）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1: Class orientation, timed speaking (TS) Week 2: Active listening, (TS) Week 3: Informal and formal speech, (TS) Week 4: Reading skills: summarizing, (TS) Week 5: Review, Reading and listening tests Week 6: Introduction to making a speech, (TS) Week 7: Topic selection and making outlines, (TS) Week 8: Speech delivery skills, using visual aids Week 9: Class speeches Week 10: Pronunciation workshop, (TS) Week 11: Investigative reporting II, (TS) Week 12: Introduction to peer editing, (TS) Week 13: Topic research reporting II, (TS) Week 14: Review, research reports Week 15: Consultations
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Smart Choice Level 2, 2nd Edition (Oxford University Press)	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月２、金２）	担当者	Ｐ．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Week 1 – Introductions Week 2 – Getting to know you Week 3 – Best friends Week 4- The way we live Week 5- Tales of two cities Week 6- What happened next? Week 7- The Man with The Golden Gun Week 8- Midterm Exam Week 9- The marketplace Week 10- Markets around the world Week 11- What do you want to do? Week 12- Brat camp Week 13- Places and things Week 14- Review Week 15- Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
American Headway 2 (Second Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press	Class participation - 40%, Midterm Exam – 30% and Final Exam – 30%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月２、金２）	担当者	Ｐ．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1- London, The World in One City Week 2- Fame Week 3- The band Cherry Hill Week 4- Dos and don'ts Week 5- Leaving home Week 6- Going places Week 7- Travel addicts Week 8- Midterm Exam Week 9- Things that changed the world Week 10- The Invention of Google Week 11- What if …? Week 12- At a crossroads in life Week 13- Trying your best Week 14- Review Week 15- Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
American Headway 2 (Second Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30% and Final Exam – 30%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月２、水２）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Week 1: Orientation & brainstorm topics / tasks Week 2: Topic / task 1 practice & assessment Week 3: Topic / task 2 practice & assessment Week 4: Topic / task 3 practice & assessment Week 5: Topic / task 4 practice & assessment Week 6: Topic / task 5 practice & assessment Week 7: Topic / task 6 practice & assessment Week 8: Topic / task 7 practice & assessment Week 9: Topic / task 8 practice & assessment Week 10: Topic / task 9 practice & assessment Week 11: Topic / task 10 practice & assessment Week 12: Topic / task 11 practice & assessment Week 13: Topic / task 12 practice & assessment Week 14: Review Week 15: Conversation exam & course survey
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook: None Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% S Participation & in-class performance 25%; Homework 25%; Topic / task assessment 25%; Conversation exam 25%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月２、水２）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1: Orientation & brainstorm topics / tasks Week 2: Topic / task 1 practice & assessment Week 3: Topic / task 2 practice & assessment Week 4: Topic / task 3 practice & assessment Week 5: Topic / task 4 practice & assessment Week 6: Topic / task 5 practice & assessment Week 7: Topic / task 6 practice & assessment Week 8: Topic / task 7 practice & assessment Week 9: Topic / task 8 practice & assessment Week 10: Topic / task 9 practice & assessment Week 11: Topic / task 10 practice & assessment Week 12: Topic / task 11 practice & assessment Week 13: Topic / task 12 practice & assessment Week 14: Review Week 15: Speech & course survey
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook: None Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% S Participation & in-class performance 25%; Homework 25%; Topic / task assessment 25%; Speech 25%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月３、水３）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. <u>Overall Objectives</u> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Week 1: Orientation & brainstorm topics / tasks Week 2: Topic / task 1 practice & assessment Week 3: Topic / task 2 practice & assessment Week 4: Topic / task 3 practice & assessment Week 5: Topic / task 4 practice & assessment Week 6: Topic / task 5 practice & assessment Week 7: Topic / task 6 practice & assessment Week 8: Topic / task 7 practice & assessment Week 9: Topic / task 8 practice & assessment Week 10: Topic / task 9 practice & assessment Week 11: Topic / task 10 practice & assessment Week 12: Topic / task 11 practice & assessment Week 13: Topic / task 12 practice & assessment Week 14: Review Week 15: Conversation exam & course survey
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook: None Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% S Participation & in-class performance 25%; Homework 25%; Topic / task assessment 25%; Conversation exam 25%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月３、水３）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. <u>Overall Objectives</u> 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1: Orientation & brainstorm topics / tasks Week 2: Topic / task 1 practice & assessment Week 3: Topic / task 2 practice & assessment Week 4: Topic / task 3 practice & assessment Week 5: Topic / task 4 practice & assessment Week 6: Topic / task 5 practice & assessment Week 7: Topic / task 6 practice & assessment Week 8: Topic / task 7 practice & assessment Week 9: Topic / task 8 practice & assessment Week 10: Topic / task 9 practice & assessment Week 11: Topic / task 10 practice & assessment Week 12: Topic / task 11 practice & assessment Week 13: Topic / task 12 practice & assessment Week 14: Review Week 15: Speech & course survey
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook: None Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% S Participation & in-class performance 25%; Homework 25%; Topic / task assessment 25%; Speech 25%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月３、木４）	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Week 1: course introduction Week 2: unit 1 Week 3: unit 1 Week 4: unit 1 Week 5: unit 2 Week 6: unit 2 Week 7: unit 2 Week 8: introduction to public speaking Week 9: posture & gestures Week 10: Presentations Week 11: introduce project & form groups Week 12: project preparation Week 13: project preparation Week 14: presentations Week 15: review & feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge	Presentations 40% Quizzes 20% Homework Assignments 20% Participation 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月３、木４）	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1: unit 5 Week 2: unit 5 continued Week 3: unit 5 continued Week 4: unit 7 Week 5: unit 7 continued Week 6: unit 7 continued Week 7: review public speaking Week 8: voice inflection Week 9: small group practice Week 10: Presentations Week 11: introduce project & form groups Week 12: project research Week 13: prepare visual aids Week 14: presentations Week 15: review & feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge	Presentations 40% Quizzes 20% Homework Assignments 20% Participation 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月４、木５）	担当者	Ａ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	1. Course/grading information 2. Personal Information 3. Personal Information 4. Family and Home 5. Family and Home 6. Hobbies and Preferences 7. Hobbies and Preferences 8. Shopping 9. Shopping 10. Phone Talk 11. Phone Talk 12. Eating Out 13. Eating Out 14. Health 15. Health
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be introduced on the first day of class.	Quizzes/Tests: 40%, Participation: 30%, Homework: 30%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月４、木５）	担当者	Ａ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1. Course/grading information 2. Learn and practise posture, eye contact, body language 3. Learn and practise posture, eye contact, body language 4. First presentations 5. First presentations 6. Learn and practise different kinds of gestures 7. Write scripts and prepare for second presentations 8. Second presentations 9. Second presentations 10. Learn and practise ways of emphasizing key words 11. Learn and practise ways of emphasizing key words 12. Refine presentation style 13. Write scripts and prepare for third presentations. 14. Third presentations 15. Third presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be introduced on the first day of class.	Presentations: 80%, Class participation: 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（火１、木４）	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	1 First Impressions 2 Psychology & Language-learning 3 Communicative & Cultural Awareness 4 Real-world Communication Skills 5 Study Skills 6 Grammatical Awareness 7 WH/open & YN/closed questions 8 Extensive Reading & Listening I 9 Extensive Reading & Listening II 10 Discussion Skills 11 Presentation Skills 12 Presentation Practice 13 Extensive Reading & Listening III 14 Extensive Reading & Listening IV 15 Course Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Group 10: Billy Elliot & The Count of Monte Cristo (Penguin Readers) Group 2: About a Boy (Penguin Active Reading) & The Treasure of Monte Cristo (Macmillan Readers)	Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, assignments 25%, tests 25%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（火１、木４）	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1 Overview of the Creative Process 2 Choosing your topic & Researching 3 Outlining & Drafting 4 Editing 5 Presentation practice 6 Presentation Week 7 V for Vendetta 8 5-paragraph essays 9 1984 PART 1 10 1984 PART 2 11 1984 PART 3 12 Orwell & the English Language 13 Presentation practice 14 Presentation Week 15 Course Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
1984 (Penguin Readers)	Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, two presentations 50%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月３、金２）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. <u>Overall Objectives</u> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Week 1 － Teacher and Student Interviews and Introductions Week 2－UNIT 1 MONEY- Part One Week 3－UNIT 1 MONEY-Part Two Week 4－UNIT 2 STRESS & SOLUTIONS- Part One Week 5－UNIT 2 STRESS & SOLUTIONS- Part Two Week 6－UNIT 3 FRIENDSHIP- Part One Week 7－UNIT 3 FRIENDSHIP- Part One Week 8－Midterm Evaluations Week 9 －UNIT 4 CHALLENGES- Part One Week 10－UNIT 4 CHALLENGES- Part One Week 11－UNIT 5 GLOBETROTTERS- Part One Week 12－UNIT 5 GLOBETROTTERS- Part Two Week 13－Final Presentation Preparations Week 14－Final Presentations Week 15－Final Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Springboard Book Two (subject to Change)	Performance and overall improvement of the students' communicative abilities. Continuous assessment including quizzes based on the variety of written homework assignments and tasks given to the students in class Daily classroom participation and special group projects

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月３、金２）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. <u>Overall Objectives</u> 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1 － Teacher and student reviews of first term activities Week 2－UNIT 6－ANIMALS- Part One Week 3－UNIT 6－ANIMALS--Part Two Week 4－UNIT 7－PARTNERS- Part One Week 5－UNIT 7－PARTNERS-Part Two Week 6－UNIT 8－COLOR AND DESIGN- Part One Week 7－UNIT 8－COLOR AND DESIGN-Part Two Week 8－Midterm Evaluations Week 9 －UNIT 9－THEME PARKS - Part One Week 10－UNIT 9－THEME PARKS -Part Two Week 11－UNIT 10－VALUES- Part One Week 12－UNIT 10－ VALUES-Part Two Week 13－Final Presentation Preparations Week 14－Final Presentations Week 15－Final Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Springboard Book Two (subject to Change)	Performance and overall improvement of the students' communicative abilities. Continuous assessment including quizzes based on the variety of written homework assignments and tasks given to the students in class Daily classroom participation and special group projects

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（水４、木４）	担当者	Ｔ．ミニオン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Lesson 1. Class description, Unit 1: Introductions, Tune in, Video 1, Check the script Lesson 2. Act 1: Putting it into practice, Language focus 1, Video 2, Intermission Lesson 3. Tune in, Video 3, Check the script, Act 3, Language Focus 2 Lesson 4. Video 4, Sort it out, quiz Lesson 5. Unit 2: Starting conversations, Video 1, Tune in, Check the script Lesson 6.Act 1, Language focus 1, Sort it out, quiz Lesson 7. Video 3: Talking to a stranger, Check the script, Act 3, Screen test: How sociable are you? Lesson 8. Language focus 2, Video 4, Sort it out, quiz Lesson 9. Unit 3: Developing conversations, Tune in, Video 1, Check the script, Act 1: Putting it into practice Lesson 10. Language focus 1, Video 2, Intermission Lesson 11. Tune in, Video 3, Check the script, Act 3, Screen test Lesson 12. Language focus 2,Video 4, Sort it out, quiz Lesson 13. Unit 4: Invitations and Suggestions, Tune in, Video 1: An Invitation to go out、Check the script, Act 1: Putting it into practice Lesson 14. Language focus 1, Video 2: Another invitation, Intermission, Video 3, Check the script, Act 3 Lesson 15. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
The English Course, Students Book 1 (The English Company)	Participation, and all quizzes, test and an original conversation test in pairs and role plays

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（水４、木４）	担当者	Ｔ．ミニオン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Lesson 1. Unit 5: Likes/dislikes, feelings, Tune in, Video 1: What kind of cuisine do you prefer, Check the script, Language focus 1 Lesson 2. Sort it out, VIdeo 2: What's your favorite group, Act 2 Lesson 3. Intermission, Tune in, Video 3: What makes you angry, Check the script, Act 3, Screen test Lesson 4. Language focus 2, Sort it out, Act 4, quiz, Finale, quiz Lesson 5. Unit 6: Requests, Video 1, Tune in, Check the script Lesson 6. Act 1, Language focus 1, Sort it out, quiz Lesson 7. Video 3: Talking to a stranger, Check the script, Act 3, Screen test: How sociable are you? Lesson 8. Language focus 2, Video 4, Sort it out quiz Lesson 9. Unit 7: Opinions, Tune in, Video 1: Agreeing and disagreeing, Check the script, Act 1, Language focus 1 Lesson 10. Video 2: Do you believe in ghosts?, Act 2, Intermission Lesson 11. Tune in, Video 3: Do you like my new bag?, Check the script, Act 3, Language focus 2, Sort it out, Video 4, quiz Lesson 12. Unit 8: Advice, Tune in, Video 1: You look worried, Check the script, Act 1: Putting it into practice Lesson 13. Language focus 1, Video 2: Another invitation,Intermission, Video 3, Check the script, Act 3 Lesson 14. Test Lesson 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The English Course, Students Book 1 (The English Company)	Participation, and all quizzes, test and an original conversation test in pairs and role plays

06 年度以降	Comprehensive English I （再履修）秋学期 月５	担当者	バーナード　クリストファ

講義目的、講義概要	授業計画
Comprehensive English I（再）は、秋学期 月曜５限と水曜５現（下段）をセットで受講してください。 This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. <u>Overall Objectives</u> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Lesson 1. Getting started: introduction to the course. Introduction to presentation project: talking about myself Lesson 2. How to deliver spoken material: eye contact, gestures, posture. Getting the attention of listeners Lesson 3. The effective use of speech aids Lesson 4. Getting opinions and interviewing people (part 1): asking different kinds of questions; the grammar of questions; reporting what has been said Lesson 5. Getting opinions and interviewing people (part 2): asking different kinds of questions; the grammar of questions; reporting what has been said Lesson 6. Collecting and organizing material for a short talk or presentation (part 1): identifying an area of interest Lesson 7. Collecting and organizing material for a short talk or presentation (part 2): generating ideas, selecting ideas, organizing ideas, narrowing the topic Lesson 8. Talking about problems, causes, and solutions (part 1): related vocabulary Lesson 9. Talking about problems, causes, and solutions (part 2): organizing material for a speech Lesson 10. Student speeches on problems, causes, and solutions (to the class or in groups depending on class size) Lesson 11. Continuation of student speeches on problems, causes, and solutions (to the class or in groups depending on class size) Lesson 12. Review of student speeches in Lesson 10 and Lesson 11 Lesson 13. Explaining and giving information (part 1): summarizing what has been said Lesson 14. Explaining and giving information (part 2): explaining “how to” Lesson 15. Review of the course: What has been learnt, and what targets have been achieved?
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speech Communication Made Simple, Book 1 (Paulette Dale and James C. Wolf: Pearson): The emphasis will be on the first part of the book.	Students will be graded on classroom participation and performance, as well as on an end-of-semester project.

06 年度以降	Comprehensive English I （再履修）秋学期 水５	担当者	Ｔ．ミニオン

講義目的、講義概要	授業計画
Comprehensive English I（再）は、秋学期 月曜５限（上段）と水曜５現をセットで受講してください。 This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. <u>Overall Objectives</u> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2.To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution (this includes some combination of listening, reading and writing skills development in addition to the main focus on communication skills and strategies development)	Lesson 1. Class description, Unit 1: Introductions, Tune in, Video 1, Check the script Lesson 2. Act 1: Putting it into practice, Language focus 1, Video 2, Intermission Lesson 3. Tune in, Video 3, Check the script, Act 3, Language Focus 2 Lesson 4. Video 4, Sort it out, quiz Lesson 5. Unit 2: Starting conversations, Video 1, Tune in, Check the script Lesson 6.Act 1, Language focus 1, Sort it out, quiz Lesson 7. Video 3: Talking to a stranger, Check the script, Act 3, Screen test: How sociable are you? Lesson 8. Language focus 2, Video 4, Sort it out, quiz Lesson 9. Unit 3: Developing conversations, Tune in, Video 1, Check the script, Act 1: Putting it into practice Lesson 10. Language focus 1, Video 2, Intermission Lesson 11. Tune in, Video 3, Check the script, Act 3, Screen test Lesson 12. Language focus 2,Video 4, Sort it out, quiz Lesson 13. Unit 4: Invitations and Suggestions, Tune in, Video 1: An Invitation to go out、Check the script, Act 1: Putting it into practice Lesson 14. Language focus 1, Video 2: Another invitation, Intermission, Video 3, Check the script, Act 3 Lesson 15. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
The English Course, Students Book 1 (The English Company)	Participation, and all quizzes, test and an original conversation test in pairs and role plays

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（再履修）春学期 月５	担当者	バーナード　クリストファ

講義目的、講義概要	授業計画
Comprehensive English Ⅱ（再）は、春学期 月曜５限と水曜５現（下段）をセットで受講してください。 This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Lesson 1. Getting started: introduction to the course. Introduction to presentation project: talking about myself Lesson 2. Review of basic concepts connected with giving talks and presentations (Part 1): preparing the talk; generating ideas Lesson 3. Review of basic concepts connected with giving talks and presentations (Part 2): organizing ideas; making speech outlines Lesson 4. Review of basic concepts connected with giving talks and presentations (Part 3): practice talks in small groups; posture and voice Lesson 5. Communication between cultures: beliefs, rules, and customs of communication Lesson 6. Continuation of communication between cultures Lesson 7. Talking and persuasion (part 1): how to persuade; the language of persuasion Lesson 8. Talking and persuasion (part 2) : how to persuade; the language of persuasion Lesson 9. How to research a topic Lesson 10. How to lead a discussion on one's topic Lesson 11. Writing a summary of a discussion one's topic (part 1) : outlining Lesson 12. Writing a summary of a discussion one's topic (part 2) :writing Lesson 13. Telling a story: the genre of "storytelling"; vocabulary used in storytelling Lesson 14. Telling informal, personal stories Lesson 15. Review of the course: What has been learnt, and what targets have been achieved?
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speech Communication Made Simple, Book 1 (Paulette Dale: Pearson): The emphasis will be on the second part of the book.	Students will be graded on classroom participation and performance, as well as on an end-of-semester project.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（再履修）春学期 水５	担当者	Ｔ．ミニオン

講義目的、講義概要	授業計画
Comprehensive English Ⅰ（再）は、秋学期 月曜５限（上段）と水曜５限をセットで受講してください。 This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Lesson 1. Unit 5: Likes/dislikes, feelings, Tune in, Video 1: What kind of cuisine do you prefer, Check the script, Language focus 1 Lesson 2. Sort it out, VIdeo 2: What's your favorite group, Act 2 Lesson 3. Intermission, Tune in, Video 3: What makes you angry, Check the script, Act 3, Screen test Lesson 4. Language focus 2, Sort it out, Act 4, quiz, Finale, quiz Lesson 5. Unit 6: Requests, Video 1, Tune in, Check the script Lesson 6. Act 1, Language focus 1, Sort it out, quiz Lesson 7. Video 3: Talking to a stranger, Check the script, Act 3, Screen test: How sociable are you? Lesson 8. Language focus 2, Video 4, Sort it out quiz Lesson 9. Unit 7: Opinions, Tune in, Video 1: Agreeing and disagreeing, Check the script, Act 1, Language focus 1 Lesson 10. Video 2: Do you believe in ghosts?, Act 2, Intermission Lesson 11. Tune in, Video 3: Do you like my new bag?, Check the script, Act 3, Language focus 2, Sort it out, Video 4, quiz Lesson 12. Unit 8: Advice, Tune in, Video 1: You look worried, Check the script, Act 1: Putting it into practice Lesson 13. Language focus 1, Video 2: Another invitation,Intermission, Video 3, Check the script, Act 3 Lesson 14. Test Lesson 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The English Course, Students Book 1 (The English Company)	Participation, and all quizzes, test and an original conversation test in pairs and role plays

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｅ．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Week 1 – Introduction to Course & Self - Introductions Week 2 – Participating in a Group Discussion Week 3 – Controlling a Conversation & Active Listening Week 4 – What is Sociology Pt. I (ch. 1) Week 5 – What is Sociology Pt. II (ch. 1) Week 6 – 3 Sociological Paradigms (ch. 1) Week 7 – Directed Group Discussion Activity #1 Week 8 – What is Culture & Who has it (ch.3) Week 9 – What Differentiates One Culture From Another (ch.3) Week 10 – Cultural Icon Activity Week 11 – Directed Group Discussion Activity #2 (ch.4) Week 12 – Characteristics of Social Groups (ch.4) Week 13 – Social Capital (ch.4) Week 14 – Film Clip Pair Presentation (Day 1) Week 15 – Film Clip Pair Presentation (Day 2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Carl, J.D. (2011). *Think: Sociology 2011.* Upper Saddle River; Pearson	In-class participation (40%), Directed Group Discussions X 2 (20%), Topical Review (write-up)x 2 (20%), Film Clip Final Presentation (20%)

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｅ．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. <u>Overall Objectives</u> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Week 1 – Introduction to Fall Course & Catching Up Week 2 – What Makes a Good Presentation? Week 3– Populations and Environmental Impact (ch. 9) Week 4– What is Demograhpy (ch. 9) Week 5 – Environmental Sociology Week 6 – Group Presentations (Grps. 1 – 4) Week 7 – Group Presentations (Grps. 5 – 8) Week 8 – Marriage & Family (ch. 14) Week 9 – Is the Family in Decline? (ch. 14) Week 10 – Future Families (ch. 14) Week 11 – Marriage Equality Debates Week 12 – Final Presentation Prep & Consultation Week 13 – Final Presentation Week 14 – Final Presentation Week 15 – Final Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Carl, J.D. (2011). *Think: Sociology 2011.* Upper Saddle River; Pearson	In-class participation (30%), Group Presentation (Mid-Term) (20%),Debate (10%), and Final Presentation (20%), Homework (20%)

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Course Introduction 2. Exchange Stories 3. Little Boxes / Let Your Freak Flag Fly 4. Little Boxes / Let Your Freak Flag Fly, continued 5. Unconditional Love 6. Unconditional Love, continued 7. Sound and Fury 8. Sound and Fury, continued 9. When Mom and Dad Share it All 10. When Mom and Dad Share it All, continued 11. Living up to High Expectations 12. Living up to High Expectations, continued 13. Walking in Another's Shoes 14. Walking in Another's Shoes, continued 15. Final Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	未定

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	初回授業にて指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回授業にて指示する。	初回授業にて指示する。

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（水２）	担当者	Ｒ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Japanese work ethics. 3 Attitudes towards women. 4 Other gender issues. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（水２）	担当者	Ｒ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. <u>Overall Objectives</u> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 Brief introduction/welcome back to class. 2 Computers and society. 3 Ageing Society. 4 The Automobile. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements. Week 2: Chapter #1, reading & discussion Week 3: Chapter #2, reading & discussion Week 4: Chapter #3, reading & discussion Week 5: Chapter #4, reading & discussion Week 6: Chapter #5, reading & discussion Week 7: Quiz 1 - 15% Week 8 Chapter #6, reading & discussion Week 9: Chapter #7, reading & discussion Week 10: Chapter #8, reading & discussion Week 11: Chapter #9, reading & discussion Week 12: Chapter #10, reading & discussion Week 13: Chapter #11, reading & discussion Week 14: Chapter #12, reading & discussion Week 15: Quiz 2 - 15%
テキスト、参考文献	**評価方法**
Bennett, Shimabayashi & White. 'Bottom Line Business Stories'. Seibido Publisher.	1. Company research report 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Week 1: Introductions, course outline, course evaluation and requirements. Week 2: Chapter #13, reading & discussion Week 3: Chapter #14, reading & discussion Week 4: Chapter #15, reading & discussion Week 5: Chapter #16, reading & discussion Week 6: Chapter #17, reading & discussion Week 7: Quiz Week 8: Chapter #18, reading & discussion Week 9: Chapter # 19, reading & discussion Week 10: Chapter#20, reading & discussion Week 11: Lead, prepare presentation Week 12: Lead, prepare presentation Week 13: Lead, prepare presentation Week 14: Lead, prepare presentation Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Bennett, Shimabayashi & White. 'Bottom Line Business Stories'. Seibido Publisher.	1. Company class presentation 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Introduction 2-3. Social issues in Japan 4-5. Social issues around the world 6-7. The economy 8-9. The environment 10-11. Entertainment 12-13. Language 14-15. The media
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual reading texts will be distributed in class.	Essays 50% Notebook 50%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Introduction 2-3. Bilingualism 4-5. The middle east 6-7. Indigenous cultures 8-9. Education 10-11. English around the world 12-13. Globalization 14-15. Refugees
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual reading texts will be distributed in class.	Essays 50% Notebook 50%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Introduction – Journal Writing 2. Cosmetic Surgery – Discussion Preparation 3. Cosmetic Surgery – The Role of a Discussion Member 4. Just Friends? – Stating Opinions 5. Just Friends? – Disagreeing with Opinions 6. Just Friends? – In-class Debate 7. The Environment – The Discussion Group Leader 8. The Environment – Using Names and Eye Contact 9. Career Choice – Asking Questions on Topic 10. Career Choice – Making Comments on Topic 11. Housework – Student Led Discussion 12. Deciding on a Topic –Presentation Preparation 13. Group Presentation Workshop 14. In-class Presentations 15. Review and Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Day, Shaules and Yamanaka. *Impact Issues 3* Pearson/Longman	Journal 20%, Debate 20%, Presentation 20% Contribution to in-class discussions 40%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Introduction – Journal Writing (Continued) 2. Body Art – Supporting Opinions 3. Body Art – Countering Opinions 4. Body Art – Preparing for a Debate 5. Body Art – In-class Debate 6. High-tech Toys – Researching a Topic 7. High-tech Toys – Organizing Ideas in a Group 8. High-tech Toys – Group Presentation Workshop 9. High-tech Toys – In-class Group Presentations 10. Choosing a Discussion Topic 11. Preparing Discussion Questions on a Topic 12. Individual Student Led Discussions 13. Individual Student Led Discussions 14. Individual Student Led Discussions 15. Review and Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Day, Shaules and Yamanaka. *Impact Issues 3* Pearson/Longman	Journal 20%, Debate 20%, Presentation 20% Discussion Leading 20%, Contribution to in-class discussions 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（水１）	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Japanese work ethics. 3 Attitudes towards women. 4 Other gender issues. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（水１）	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 Brief introduction/welcome back to class. 2 Computers and society. 3 Ageing Society. 4 The Automobile. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｂ．Ｓ．ハウエル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Introduction, outline, course requirements, getting to know your teacher and each other. 2. Reading topic #1 3. Reading topic #2 4. Reading topic #3 5. Reading topic #4 6. Reading topic #5 7. Reading topic #6 8. Group presentation 1 9. Reading topic #7 10. Reading topic #8 11. Reading topic #9 12. Reading topic #10 13. Reading topic #11 14. Reading topic #12 15. Group presentation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
Albery, David. Language Leader, Intermediate. Pearsson Longman.	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 30% homework assignments, in-class points, notebooks 40% mid-term and final presentations

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｂ．Ｓ．ハウエル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Introduction, outline, course requirements, getting to know your teacher and each other. 2. Discussion topic #1 3. Discussion topic #2 4. Discussion topic #3 5. Discussion topic #4 6. Discussion topic #5 7. Discussion topic #6 8. Group presentation 9. Discussion topic #7 10. Discussion topic #8 11. Discussion topic #9 12. Discussion topic #10 13. Discussion topic #11 14. Discussion topic #12 15. Group presentation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
Albery, David. Language Leader, Intermediate. Pearsson Longman.	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 30% homework assignments, in-class points, notebooks 40% mid-term and final presentations

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Week 1: Introductions Week 2: Foreign countries Week 3: Foreign countries/ intro to internet research Week 4: Developing nations Week 5: Technology trends Week 6: Technology trends Week 7: Health Issues Week 8: Health Issues Week 9: Poster presentation Week 10: Intelligence and talents Week 11:　Intelligence and talents Week 12: Sport Issues Week 13：Movies Week 14: Practice for the speaking test Week 15: Speaking test
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook. The teacher will provide all materials An electronic dictionary will be helpful	40% class effort　　30% poster presentation 30% end of semester speaking test

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Week 1: Education Week 2: Education Week 3: Business issues Week 4: Business issues Week 5: Image in society Week 6: Image in Society Week 7: Africa Week 8: Poster presentation Week 9: Globalization Week 10: Environmental Tourism Week 11: Poverty and Tourism Week 12: Global Living Trends Week 13: Global Living Trends Week 14: Practice for the speaking test Week 15: Speaking test
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook. The teacher will provide all materials An electronic dictionary will be helpful	40% class effort　　30% poster presentation 30% end of semester speaking test

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	(* Note: This is a ***tentative*** weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking *student suggestions for* **INTERNATIONAL** *topics/themes which they would like to learn & study.* Week 3: 'What are your plans for Golden Week?": explaining Future activities, in Moder English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment. Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with discussion therof. Week 5: Student hobbies, and expaining thereof, in Modern English. Pair practice thereof. Continuous assessment. ***Mother's Day*** song and/or discussion. Week 6: Discussion of recent **International News** articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Ongoing student assessment. Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners (EQ)***. Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment. Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of --- do you like?": explaining preferences, in Modern English. Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listenining exercise. Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Presentations. Week 12: Further student presentations & class discussion. Video and/or song listening & discussion exercise. Week 13: Final presentations. 'What do you think of ----?": ***Giving your opinions*** about various topics. Week 14: Giving opinions, part two: ***elaborating***. Final presentations. Ongoing assessment. Week 15: Final presentations. If time remains: discussing & explaining ***future plans for the Summer***.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. ***IF*** a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes,*** **for any reason.** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (**One late = 1/2 absence**.)

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your ***Summer Break***, using modern English. Week 2: "Used to": four different usages of 'used to'; with pair practice. Continuouis assessments. Week 3: Researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video. Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone. Ongoing assessments. Week 5: Practice with ***telephone inviations***. Hallowe'en discussion, and/or video. Week 6: ***Restaurant ordering***, in English, at sit-down restaurants. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening & discussion. Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'. Week 8: ***Thanksgiving***: history; and usual Thanksgiving customs & dates. '***What are you thankful for?*** Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations. Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations. Week 10: Asking for, and giving, ***street directions*** and/or ***train directions***, in English. Pair practice of that. Student presentations begin. Week 11: Class presentations & discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video. Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations. Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations. Week 14: Discussing & pair-practicing ***New Year's Resolutions***. Last opportunity for class presentations. Week 15: Finalizing ***specific*** New Year's Resolutions. *If* time remains: discussion of ***future plans*** (for the February & March Break).
テキスト、参考文献	**評価方法**
We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. **IF** a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you research, summarize, and present information in English; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. **You must NOT miss more than three classes, for any reason.** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (**One late = 1/2 absence**.)

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Course orientation and introductions. 2. Topic reading and discussion. 3. Discussion activities. 4. Topic reading and discussion. 5. Discussion activities 6. Topic reading and discussion. 7. Discussion activities. 8. Presentation preparation. 9. Student presentations. 10. Topic reading and discussion. 11. Discussion activities. 12. Topic reading and discussion. 13. Discussion activities. 14. Test. 15. Course review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the teacher and the students.	Students will be assessed through ongoing class performance, presentations and a final test.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Course orientation and introductions. 2. Topic reading and discussion. 3. Discussion activities. 4. Topic reading and discussion. 5. Discussion activities 6. Topic reading and discussion. 7. Discussion activities. 8. Presentation preparation. 9. Student presentations. 10. Topic reading and discussion. 11. Discussion activities. 12. Topic reading and discussion. 13. Discussion activities. 14. Test. 15. Course review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the teacher and the students.	Students will be assessed through ongoing class performance, presentations and a final test.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Week 1: Orientation Week 2: Reading task 1 Week 3: Reading task 2 Week 4: Reading task 3 Week 5: Reading task 4 Week 6: Reading task 5 Week 7: Reading task 6 Week 8: Reading task 7 Week 9: Reading task 8 Week 10: Reading task 9 Week 11: Reading task 10 Week 12: Reading task 11 Week 13: Reading task 12 Week 14: Reading task 13 Week 15: Reading assignment & course survey
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook: To be decided Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% S Participation & in-class performance 25%; Homework 25%; Reading tasks 25%; Reading assignment 25%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	未定

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as, the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussions based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	初回授業にて指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回授業にて指示する。	初回授業にて指示する。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review 15. Final Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review 15. Final Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	1 Orientation and syllabus 2-3 The millennial generation 4-5 Cultural encounters 6-7 Consumer lifestyle 8-9 Aging 10-11 Youth in action 12-14 The environment 15 Summary and wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual reading texts will be distributed in class.	Essays 50% Notebook 50%

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	1 Orientation and syllabus 2-3 Value of work 4-5 Inequality 6-7 Wisdom 8-9 Culture and change 10-11 Managing nature 12-14 Democracy and liberty 15 Summary and wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual reading texts will be distributed in class.	Essays 50% Notebook 50%

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	1 Introduction 2 Extensive reading ①: New vocabulary 3 Extensive reading ②:Fiction and Nonfiction 4 Extensive reading ③ : Books 5 Supplementary reading material(1) 6 Vocabulary building① : Making good use of the dictionary 7 Vocabulary building②:Guessing meaning from context 8 Vocabulary building③:Word parts 9 Vocabulary building④:Collocations 10 Vocabulary building⑤: Structure and reference 11 Supplementary reading material(2) 12 Comprehensive reading①:Scanning and previewing 13 Comprehensive reading②-1: Making inference 14 Comprehensive reading②-2: Making inference 15 Supplementary reading material(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, *More Reading Power 3* (Pearson Longman,2012).	Participation（20%）, Assignments (30%), Quizzes(20%), Exam(30%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	1 Comprehensive reading③-1:Understanding paragraphs 2 Comprehensive reading③-2:Understanding paragraphs 3 Supplementary reading material(4) 4 Comprehensive reading④: Identifying the pattern 5 Comprehensive reading⑤-1: Reading longer passages 6 Comprehensive reading⑤-2: Reading longer passages 7 Comprehensive reading⑤-3: Reading longer passages 8 Supplementary reading material⑤-4: Skimming 9 Supplementary reading material(5) 10 Summarizing①:short passages 11 Summarizing②:short passages 12 Summarizing③ : longer passages 13 Reading faster① 14 Reading faster② 15 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, *More Reading Power 3* (Pearson Longman,2012).	Participation(20%), Assignments (30%), Quizzes(20%), Exam(30%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	1. 導入 2. Reading strategies 診断（1） 3. Reading strategies 診断（2） 4. Culture and communication (pp. 1-16) 5. Verbal messages (pp.17-27) 6. ポスターセッション（1） 7. ポスターセッション（2） 8. Verbal messages (pp.27-36) 9. Nonverbal communication (pp.37-51) 10. Nonverbal communication (pp.51-67) 11. Becoming more effective (pp.68-83) 12. チュートリアル（1） 13. チュートリアル（2） 14. チュートリアル（3） 15. まとめ ＊「プロジェクト型学習（Project-Based Learning）」と呼ばれる実習・演習型の学習方法により、読解力はもちろんのこと、英語話者としての総合的能力の向上を目指します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
ヴァンス・W（2011）『人を動かす英語』PHP。 サモーバー・L・A 他（2002）『異文化との出会い』研究社。 その他、プリントを配布。	（1）ポスター発表（グループワーク）30% （2）研究レポート（グループワーク）60% （3）授業への貢献 10%

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	1. 導入と春学期の復習 2. Reading strategies 再診断（1） 3. Reading strategies 再診断（2） 4. Japan: The land and its people 5. Japan: Settling in 6. Japan: Doing business 7. Japan: Synthesis 8. Australia: The land and its people 9. Australia: Settling in 10. Australia: Doing business 11. Australia: Synthesis 12. チュートリアル（1） 13. チュートリアル（2） 14. チュートリアル（3） 15. まとめ ＊「プロジェクト型学習（Project-Based Learning）」と呼ばれる実習・演習型の学習方法により、読解力はもちろんのこと、英語話者としての総合的能力の向上を目指します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Bramble, P. S. (2012). *Culture shock! Japan* (4th ed.). New York: Marshal Cavendish. Sharp, I. (2012). *Culture shock! Australia* (8th ed.). New York: Marshal Cavendish.	（1）グループ発表　30% （2）研究レポート（グループワーク）　60% （3）授業への貢献　10%

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	1. Introduction to course 2. Fashion Forward (1) 3. Fashion Forward (2) 4. Fashion Forward (3) 5. Making connections 6. Challenging Nature (1) 7. Challenging Nature (2) 8. Challenging Nature (3) 9. Making connections 10. The Maori and Cultural Expression (1) 11. The Maori and Cultural Expression (2) 12. The Maori and Cultural Expression (3) 13. Making connections 14. Small-group presentations 15. Small-group presentations and wrap-up discussion
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Powerful Reader-High intermediate, Pacheco & Gregg, MacMillan (Supplemental materials will be also provided in class.)	Reading journals, vocabulary quizzes, assignments, and in-class participation

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	1. Introduction to course 2. Advertisements (1) 3. Advertisements (2) 4. Advertisements (3) 5. Small-group presentations 6. Mystery in Pompeii (1) 7. Mystery in Pompeii (2) 8. Mystery in Pompeii (3) 9. Making Connections 10. The grand tour (1) 11. The grand tour (2) 12. The grand tour (3) 13. The grand tour (4) 14. Small-group presentations 15. Small-group presentations and wrap-up discussion
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Powerful Reader-High intermediate, Pacheco & Gregg, MacMillan (Supplemental materials will be also provided in class.)	Reading journals, vocabulary quizzes, assignments, group project, and in-class participation

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	第１回　オリエンテーション 第２回～第１４回 　テキストに沿って進める。 第１５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Scott Miles. *Essential Reading 3*. Macmillan, 2008.	単語テスト、授業への参加態度、課題、学期末試験の総合評価とする。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	第１回　オリエンテーション 第２回～第１４回 　テキストに沿って進める。 第１５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Scott Miles. *Essential Reading 3*. Macmillan, 2008.	単語テスト、授業への参加態度、課題、学期末試験の総合評価とする。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	1. Unit 1, Reading 1 & Introduction 2. Unit 1, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 2, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 2, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 3, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 3, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 4, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 4, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 5, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 5, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 6, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 6, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	1. Unit 7, Reading 1 & Introduction 2. Unit 7, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 8, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 8, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 9, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 9, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 10, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 10, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 11, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 11, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 12, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 12, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	春学期は早くたくさん読めるようになることを第一の目的とします。 1. Introduction & Assessment 2. Rapid Reading Introduction 3~10 <Fun Reading> 第 1 回目に決定した Graded Reading のテキストを複数冊読みます。楽しみながら英語を読み、速読力をアップさせましょう。 11~14 <Making a Trip Plan> 情報検索スキル習得へのイントロダクションです。（ネット上の）膨大な情報のなかから必要かつ質の高い情報を取り出す方法を身につけましょう。 11. Research Skill 1 (Catalogue Scanning) 12. Research Skill 2 (HP Scanning) 13. Citation and Bibliography 14. Editing 15. Term Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意する。Graded Reader については、クラスでテクストを決定した後、共同購入する。	授業内活動参加 40%　授業内小テスト 20% 試験 40%　（パーセンテージは暫定のものである）

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	秋学期は文章の構造を把握できるようになることを第一の目的とします。 1. Introduction & Assessment 2. Reading for Structure and Organization --- Introduction 3~8 <Structure & Organization I> 様々なテキストの構成法などに着目して、より効果的にテキストを読む練習をします。テキストには最新のニュース記事などを用い、ただの語学習得に終わらないコンテンツをめざします。グローバル化した現代の世界を、複眼的に捉える姿勢を身につけましょう。 9-14. <Structure & Organization II> かなり長い講演原稿を読み、より精緻に文章の構成を分析する訓練をします。テキストには以下の講演を用います。 The Danger of A Single Story by Chimamanda Ngosi Adichie 15. Term Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意する。	授業内活動参加 40%　授業内小テスト 20% 試験 40%　（パーセンテージは暫定のものである）

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	初回の授業から英文を読んでゆく。 １．オリエンテーション及び英文の読解 ２～１４．英文の読解 １５．春学期のまとめと復習 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリントによる。	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	初回の授業から英文を読んでゆく。 １～１４．英文の読解 １５．秋学期のまとめと復習 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリントによる。	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	1. Guidance 2. Chapter 1 Buy One, Get Two Free 3. Chapter 2 The Upside-Down Circus 4. Chapter 3 Bikini or Die 5. Chapter 4 Please Take Out Your Wallets 6. Library Tour 7. Chapter 5 The Secret Sauce of Silicon Valley 8. Chapter 6 No Way… Engineering Is for Girls 9. Chapter 7 Turn Lemonade into Helicopters 10. Chapter 8 Paint the Target around the Arrow 11. Chapter 9 Will This Be on the Exam? 12. Chapter 10 Experimental Artifacts 13. Preparation for Presentations 14. Presentation (1) 15. Presentation (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
(1) Seelig, T. (2009). *What I Wish I Knew When I Was 20*. HarperOne. (2) ティナ･シーリグ (2010). 『20 歳のときにしっておきたかったこと』阪急コミュニケーションズ.	Active participation (45%) Assignments (55%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	1. *Charlie and the Chocolate Factory* (1) 2. *Charlie and the Chocolate Factory* (2) 3. *Charlie and the Chocolate Factory* (3) 4. Reading and summary telling (1) 5. Reading and summary telling (2) 6. Reading and summary telling (3) 7. Presentation (1) 8. Reading and summary telling (4) 9. Reading and summary telling (5) 10. Reading and summary telling (6) 11. Presentation (2) 12. Reading and summary telling (7) 13. Reading and summary telling (8) 14. Reading and summary telling (9) 15. Presentation (3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
(1) Dahl, R (1964). *Charlie and the Chocolate Factory*. Puffin (2) Books of your choice	Active participation (45%) Assignments (55%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	第 1 回：英字新聞抜粋 a-1。*It Runs in the Family* a-1 第 2 回：英字新聞抜粋 a-2。*It Runs in the Family* a-2 第 3 回：英字新聞抜粋 a-3。*It Runs in the Family* a-3 第 4 回：英字新聞抜粋 a-4。*It Runs in the Family* a-4 第 5 回：英字新聞抜粋 a-5。*It Runs in the Family* a-5 第 6 回：英字新聞抜粋 a-6。*It Runs in the Family* a-6 第 7 回：英字新聞抜粋 a-7。*It Runs in the Family* a-7 第 8 回：英字新聞抜粋 a-8。*It Runs in the Family* a-8 第 9 回：英字新聞抜粋 a-9。*It Runs in the Family* a-9 第 10 回：英字新聞抜粋 a-10。*It Runs in the Family* a-10 第 11 回：英字新聞抜粋 a-11。*It Runs in the Family* a-11 第 12 回：英字新聞抜粋 a-12。*It Runs in the Family* a-12 第 13 回：英字新聞抜粋 a-13。*It Runs in the Family* a-13 第 14 回：英字新聞抜粋 a-14。*It Runs in the Family* a-14 第 15 回：英字新聞抜粋 a-15。*It Runs in the Family* a-15
テキスト、参考文献	**評価方法**
英字新聞抜粋。*It Runs in the Family* by Ray Cooney	毎回授業開始時に行う語彙 quiz　による。 学期末の定期試験はしません。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	第 1 回：英字新聞抜粋 b-1。*It Runs in the Family* b-1 第 2 回：英字新聞抜粋 b-2。*It Runs in the Family* b-2 第 3 回：英字新聞抜粋 b-3。*It Runs in the Family* b-3 第 4 回：英字新聞抜粋 b-4。*It Runs in the Family* b-4 第 5 回：英字新聞抜粋 b-5。*It Runs in the Family* b-5 第 6 回：英字新聞抜粋 b-6。*It Runs in the Family* b-6 第 7 回：英字新聞抜粋 b-7。*It Runs in the Family* b-7 第 8 回：英字新聞抜粋 b-8。*It Runs in the Family* b-8 第 9 回：英字新聞抜粋 b-9。*It Runs in the Family* b-9 第 10 回：英字新聞抜粋 b-10。*It Runs in the Family* b-10 第 11 回：英字新聞抜粋 b-11。*It Runs in the Family* b-11 第 12 回：英字新聞抜粋 b-12。*It Runs in the Family* b-12 第 13 回：英字新聞抜粋 b-13。*It Runs in the Family* b-13 第 14 回：英字新聞抜粋 b-14。*It Runs in the Family* b-14 第 15 回：英字新聞抜粋 b-15。*It Runs in the Family* b-15
テキスト、参考文献	**評価方法**
英字新聞抜粋。*It Runs in the Family* by Ray Cooney	毎回授業開始時に行う語彙 quiz　による。 学期末の定期試験はしません。

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	１．　ガイダンス ２～３．American Campus Portraits ４～５．‘Charge It, Please!’: In College and in Debt ６～７．Top Athletes on Tiptoe ８～９．Don’t Mess with Stress １０～１１．‘Batter Up!’: Baseball American and Japanese Style １２～１３．The History of English: Many Cultures, Many Contributions １４～１５．まとめ テキストのチャプタータイトルを挙げています。授業を進めてみて、ペースや扱うチャプターを一部変更することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Pacheco & Gregg, *The Powerful Reader*, the second edition (Macmillan, 2003)　DUO で購入すること	授業内外の課題で 40%, 定期試験で 60%　（ただし授業回数の 2/3 を越えて欠席した場合、評価対象としません。）

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	１．　ガイダンス ２～３．Sound Sculptures: Ancient Voices and Modern Music ４～５．Reading a Masterpiece ６～７．Hairy Heroes and Furry Friends ８～９．Extinct Is Forever １０～１１．Ecotourism: From Mild to Wild １２～１３．It’s Not Just Fun and Games １４～１５．まとめ テキストのチャプタータイトルを挙げています。授業を進めてみて、ペースや扱うチャプターを一部変更することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期の継続です。	授業内外の課題で 40%, 定期試験で 60%　（ただし授業回数の 2/3 を越えて欠席した場合、評価対象としません。）

06 年度以降	Reading Strategies I （再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	第 1 回 導入 第 2 回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降	Reading Strategies I （再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)	第 1 回 導入 第 2 回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（再履修）	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	1. 英語読解の技法と学習法についての説明 指定教科書の最初の passage を試読します。 2. ～ 15. 毎回、指定教科書内の passage を 2 つずつ読みます。 まず、授業開始時に、単語や表現、内容についての小テストを実施します。 続いて、文章中の語法、熟語、文法、レトリック、および内容理解に必要な歴史、文化、科学的な背景についての discussion を行い、音読の練習も適宜行います。 自宅学習課題として、あらかじめ内容を要約したものを持参し、発表してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
John Farndon, *Do You Think You're Clever?* Icon Books	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（再履修）	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized	1. 英語読解の技法と学習法についての説明 指定教科書中の passage を 1 つ試読します。 2. ～ 15. 毎回、指定教科書内の passage を 2 つずつ読みます。 まず、授業開始時に、単語や表現、内容についての小テストを実施します。 続いて、文章中の語法、熟語、文法、レトリック、および内容理解に必要な歴史、文化、科学的な背景についての discussion を行い、音読の練習も適宜行います。 自宅学習課題として、あらかじめ内容を要約したものを持参し、発表してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
John Farndon, *Do You Think You're Clever?* Icon Books	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	Week 1: Introduction. Week 2: Selected reading & assignment. Week 3: Selected reading & assignment. Week 4: Selected reading & assignment. Week 5: Selected reading & assignment. Week 6: Selected reading & assignment. Week 7: Selected reading & assignment. Week 8: Quiz I. Journals due. Week 9: Selected readings& assignment. Week 10: Selected reading & assignment. Week 11: Selected reading & assignment. Week 12: Selected reading & assignment. Week 13: Selected reading & assignment. Week 14: Selected reading & assignment. Week 15: Quiz II. Journals due.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts, online text material	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	Week 1: Introduction. Week 2: Selected reading & assignment. Week 3: Selected reading & assignment. Week 4: Selected reading & assignment. Week 5: Selected reading & assignment. Week 6: Selected reading & assignment. Week 7: Selected reading & assignment. Week 8: Quiz I. Journals due. Week 9: Selected readings& assignment. Week 10: Selected reading & assignment. Week 11: Selected reading & assignment. Week 12: Selected reading & assignment. Week 13: Selected reading & assignment. Week 14: Selected reading & assignment. Week 15: Quiz II. Journals due.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts, online text material	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	Week 1 – Introduction to Course & Self -Introductions Week 2 – Reading & Learning-Textbook Reconnaissance (ch.2) Week 3 – The Discovery Wheel (ch. 2) Week 4 – Muscle Reading (ch.2) Week 5 – Studying Memory (ch.3) Week 6 – The Nature of Memory (ch.3) Week 7 – The Nature of Memory (cont'd) Week 8 – Reflections of the Self Assignment Week 9 – Remembering Our Lives – La Gringuita (ch.1) Week 10 – La Gringuita (cont'd) Week 11 – My Mother Juggling Beans (ch.1) Week 12 – My Mother Juggling Beans (cont'd) Week 13 – Where I am from Poem Week 14 – Poem Presentation (Day 1) Week 15 – Poem Presentation (Day 2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Benz, C. & Schuemann, C.M.(2006). *College Reading 4* Houghton Mifflin	In-class participation (20%), Reading Responses x 4 (20%),Quizzes x 2 (20%), Where I am From Poem (20%), Homework (20%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	Week 1 – Introduction to Fall Course & DNA of Fairytales Week 2 – More Than 1 Cinderella? Week 3– Themes & Motifs in Fairy Tales Week 4– Reader's Theater-An Introduction Week 5 – Reader's Theater Live! Week 6 – The Hero's Journey Pt. I Week 7 – The Hero's Journey Pt. II Week 8 – Introduction to the Alchemist Week 9 – The Alchemist – Pt. I (1st half) Week 10 – The Alchemist – Pt. I (2nd half) Week 11 – The Alchemist – Pt. II (1st half) Week 12 – The Alchemist – Pt. II (2nd half) Week 13 – Epilogue & Wrap-Up Week 14 – Final Project Presentation Week 15 – Final Project Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Coelho, P. (1992). *The Alchemist* Additional Selected Texts	In-class participation (15%), Reading packets x 2 (40%),Alchemist Reader Responses x 3 (15%), Charting the Hero's Journey (10%), Final Project (20%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. Introduction, Reading for Fun 2. RS I/II: Preview, Passage Type, Paragraphs, Main Idea 3 RS I/II: Paragraph(s), Facts, Outline, Summary 4. RS I/II: Scanning, Skimming 5. TOEFL Exercise (1) 6. Selected Topic (1a) 7. Selected Topic (1b), Exercises 8. TOEFL Exercise (2) 9. Selected Topic (2a) 10. Selected Topic (2b), Exercises 11. TOEFL Exercise (3) 12. Selected Topic (3a) 13. Selected Topic (3b), Exercises 14. TOEFL Exercise (4) 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示、配布資料	平常点（準備・参加）:20%, クイズ・課題:30%, 試験・レポート:50%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	1. Reading for Fun 2. TOEFL Exercise (1) 3. Selected Topic (1a) 4. Selected Topic (1b), Exercises 5. Research Reading (1a) 6. Research Reading (1b), Reading and Report 7. TOEFL Exercise (2) 8. Selected Topic (2a) 9. Selected Topic (2b), Exercises 10. Selected Topic (3a) 11. Selected Topic (3b), Exercises 12. Research Reading (2a) 13. Research Reading (2b) 14. Research Reading, Reading and Report 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示、他、配布資料	平常点（準備・参加）:20%, クイズ・課題:30%, 試験・レポート:50%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	第１回　オリエンテーション 第２回～第 14 回 テキストに沿って進める。 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Bruce Rubin. *Inside Reading 3: The Academic World List in Context.* Oxford University Press, 2012.	単語テスト、授業への参加態度、課題、学期末試験の総合評価とする。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	第１回　オリエンテーション 第２回～第 14 回 テキストに沿って進める。 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kent Richmond. *Inside Reading 4: The Academic World List in Context.* Oxford University Press, 2012.	単語テスト、授業への参加態度、課題、学期末試験の総合評価とする。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. An Introduction 2. “Neighbors” (1) 3. “Neighbors” (2) 4. “Neighbors” (3) 5. “They’re Not Your Husband” (1) 6. “They’re Not Your Husband” (2) 7. “They’re Not Your Husband” (3) 8. “Vitamin” (1) 9. “Vitamin” (2) 10. “Vitamin” (3) 11. “Vitamin” (4) 12. “Will You Please Be Quiet, Please?” (1) 13. “Will You Please Be Quiet, Please?” (2) 14. “Will You Please Be Quiet, Please?” (3) 15. “Will You Please Be Quiet, Please?” (4)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Raymond Carver. *Short Cuts: Selected Stories* .With an Introduction by Robert Altman. New York: Vintage Books, 1993. (ISBN: 0-679-74864-4)	毎回のペアによるプリゼンテーションと授業への参加度、そして定期試験で決める。欠席が授業回数の１／３を越えた場合は、単位を認定しない。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	1. “So Much Water So Close to Home” (1) 2. “So Much Water So Close to Home” (1) 3. “So Much Water So Close to Home” (1) 4. “A Small, Good Thing” (1) 5. “A Small, Good Thing” (2) 6. “A Small, Good Thing” (3) 7. “Jerry and Molly and Sam” (1) 8. “Jerry and Molly and Sam” (2) 9. “Jerry and Molly and Sam” (3) 10. “Collectors” (1) 11. “Collectors” (2) 12. “Collectors” (3) 13. “Tell the Women We’re Going” (1) 14. “Tell the Women We’re Going” (2) 15. “Tell the Women We’re Going” (3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Raymond Carver. *Short Cuts: Selected Stories* .With an Introduction by Robert Altman. New York: Vintage Books, 1993. (ISBN: 0-679-74864-4)	毎回のペアによるプリゼンテーションと授業への参加度、そして定期試験で決める。欠席が授業回数の１／３を越えた場合は、単位を認定しない。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。	筆記試験をします。平常点も３０％ほど考慮します。 欠席が授業回数の１／３を超えた場合、単位を与えません。遅刻は２回で欠席１回分にカウントします。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	初回の授業（出席は必須）から下記テキストを読んでゆく。１章あたり３回の授業をあて，春学期は５章まで読む予定である。 １～３．第１章 ４～６．第２章 ７～９．第３章 １０～１２．第４章 １３～１５．第５章 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。 就職活動，クラブ・サークルの試合参加等による欠席は妥当な欠席理由とはみなされない。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hinds, John (1986) *Situation vs. Person Focus*.（『日本語らしさと英語らしさ』）東京：くろしお出版.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	春学期と同様，下記テキストを読んでゆく。１章あたり３回の授業をあて，秋学期は 10 章まで読む予定である。 １～３．第６章 ４～６．第７章 ７～９．第８章 １０～１２．第９章 １３～１５．第１０章 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。 就職活動，クラブ・サークルの試合参加等による欠席は妥当な欠席理由とはみなされない。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hinds, John (1986) *Situation vs. Person Focus*.（『日本語らしさと英語らしさ』）東京：くろしお出版.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. 導入 2. Reading strategies 診断（1） 3. Reading strategies 診断（2） 4. 実習（1） 5. 実習（2） 6. ポスターセッション（1） *Who Moved My Cheese?* 7. ポスターセッション（2） *I moved your cheese* 8. 実習（3） 9. 実習（4） 10. 実習（5） 11. 実習（6） 12. チュートリアル（1） 13. チュートリアル（2） 14. チュートリアル（3） 15. まとめ ＊「プロジェクト型学習（Project-Based Learning）」と呼ばれる実習・演習型の学習方法により、読解力はもちろんのこと、英語話者としての総合的能力の向上を目指します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
ヴァンス・W（2011）『人を動かす英語』PHP。 Johnson, S. (2006). *Who moved my cheese?* Vermilion. Malhotra, D. (2011). *I moved your cheese.* Berrett-Koehler. その他、プリント教材を配布。	（1）ポスター発表（グループワーク）30% （2）プロジェクト・レポート（グループワーク）60% （3）授業への貢献 10%

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	1. Introduction to the course 2. Buy one, get two free (Seelig, Ch1) 3. The upside-down circus (Seelig, Ch2) 4. Bikini or die (Seelig, Ch3) 5. Please take out your wallets (Seelig, Ch4) 6. ポスターセッション（1） 7. ポスターセッション（2） 8. The secret sauce of Silicon Valley (Seelig, Ch5) 9. No way … Engineering is for girls (Seelig, Ch6) 10. Turn lemonade into helicopters (Seelig, Ch7) 11. Paint the target around the arrow (Seelig, Ch8) 12. チュートリアル（1） 13. チュートリアル（2） 14. チュートリアル（3） 15. まとめ ＊「プロジェクト型学習（Project-Based Learning）」と呼ばれる実習・演習型の学習方法により、読解力はもちろんのこと、英語話者としての総合的能力の向上を目指します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Seelig, T. (2009). *What I wish I knew when I was 20.* New York: Harper One. その他、プリント教材を配布。	（1）ポスター発表（グループワーク）30% （2）プロジェクト・レポート（グループワーク）60% （3）授業への貢献 10%

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（火４）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. Unit 1, Reading 1 & Introduction 2. Unit 1, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 2, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 2, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 3, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 3, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 4, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 4, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 5, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 5, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 6, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 6, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（火４）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	1. Unit 7, Reading 1 & Introduction 2. Unit 7, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 8, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 8, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 9, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 9, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 10, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 10, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 11, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 11, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 12, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 12, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（水２）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. Unit 1, Reading 1 & Introduction 2. Unit 1, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 2, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 2, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 3, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 3, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 4, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 4, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 5, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 5, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 6, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 6, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（水２）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	1. Unit 7, Reading 1 & Introduction 2. Unit 7, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 8, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 8, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 9, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 9, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 10, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 10, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 11, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 11, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 12, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 12, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（月４）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. Unit 1, Reading 1 & Introduction 2. Unit 1, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 2, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 2, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 3, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 3, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 4, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 4, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 5, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 5, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 6, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 6, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（月４）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	1. Unit 7, Reading 1 & Introduction 2. Unit 7, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 8, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 8, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 9, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 9, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 10, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 10, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 11, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 11, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 12, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 12, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（月３）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1.To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. Unit 1, Reading 1 & Introduction 2. Unit 1, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 2, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 2, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 3, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 3, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 4, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 4, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 5, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 5, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 6, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 6, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（月３）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. <u>Overall Objectives</u> 1. To increase academic vocabulary and develop vocabulary development strategies 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary (support reading for pleasure).	1. Unit 7, Reading 1 & Introduction 2. Unit 7, Reading 2 & quiz 1 3. Unit 8, Reading 1 & quiz 2 4. Unit 8, Reading 2 & quiz 3 5. Unit 9, Reading 1 & quiz 4 6. Unit 9, Reading 2 & quiz 5 7. Unit 10, Reading 1 & quiz 6 8. Mid-term reading trial & mid-term word quiz 9. Unit 10, Reading 2 & quiz 7 10. Unit 11, Reading 1 & quiz 8 11. Unit 11, Reading 2 & quiz 9 12. Unit 12, Reading 1 & quiz 10 13. Unit 12, Reading 2 & quiz 11 14. Mid-term reading trial 15. Term-end word quiz & wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Neil Anderson, *ACTIVE skills for Reading (Book 4, 3rd edition)*, Heinle & Heinle.	Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, reflective writing, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1：Introductions & Course Goals Week 2：Chapter 1 - Education & Student Life Week 3：Chapter 2 - City Life + Homework 1 Week 4：Homework 1 – Editing Week 5：Chapter 3 - Business and Money Week 6：Chapter 4 - Jobs + Homework 2 Week 7：Homework 2 - Editing Week 8: Chapter 5 - World Lifestyles Week 9：Chapter 6 - Global Connections + Homework 3 Week 10: Homework 3 - Editing Week 11: Chapter 7 –Language & Communication Week 12：Chapter 8 - Tastes + Homework 4 Week 13: Homework 4 - Editing Week 14: Review Week 15: Homework 4 pick-up & advice
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: Interactions 2 Writing, Silver Edition Authors: C. Pavlik & M. Segal Publisher: McGraw-Hill ISBN: 0073533866	Grading: Journals: 20%　　Homework：80%

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1：Course introduction, goals, homework and grading Week 2：The Introduction Week 3: The Body part 1 – specific examples Week 4：The Body part 2 – outlining technique & logical flow Week 5：The conclusion Week 6：In-class outlining (essay #1 set) Week 7: Essay # 2 title selection / internet search techniques Week 8：Peer Editing – draft #1 Essay Week 9: Internet search techniques workshop (essay #1 final due) Week 10: Internet research techniques & outlining (essay #2 set) Week 11: Introduction to dealing with data (essay #2 draft due) Week 12: Editing – essay #2 Week 13: Review (essay #2 final due) Week 14：Speed outlining practice for the test Week 15: Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook Teacher handouts	Grading: Homework: 80%　　Test：20%

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	In this course, the students will provided with a number of writing assignments – ranging from relatively easy to difficult – in order comprehend the proper use of topic sentences and proper, basic essay structure.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor shall provide handouts to the students.	The students will be evaluated on the following: the quality of their written assignments and one test.

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	This class will build upon the first semester. Will shall increase the complexity of the writing and topics in order to further advance and challenge the abilities of the students.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Same as above	Same as above.

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（火１）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1: Class orientation Week 2: Paragraph organization, academic style Week 3: Introduction to Quick Write Week 4: Planning a paragraph, correction symbols Week 5: Topics and topic sentences Week 6: Supporting sentences and examples Week 7: Introduction to peer editing Week 8: Cause and effect writing Week 9: Grammar workshop Week 10: Persuasive writing Week 11: Comparison and contrast Week 12: Survey and report Week 13: Grammar workshop 2 Week 14: Review Week 15: Return notebooks and consultation
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Ready to Write 3 (Pearson Longman) ・B5 notebook	20% class participation 80% class writings

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（火１）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1: Class orientation Week 2: Elements of good academic writing Week 3: Introduction to timed free writing Week 4: Choosing topics Week 5: Thesis statements Week 6: Grammar mechanics: common writing errors Week 7: Types of essay organization Week 8: Proofreading and proofreading symbols Week 9: Making good introductory paragraphs Week 10: Types of concluding paragraphs Week 11: Quotations and citations Week 12: Grammar: fragments, dependent clauses Week 13: Summarizing Week 14: Review Week 15: Return all writings and consultation
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Ready to Write 3 (Pearson Longman)	20% class participation 80% class writings

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ Basic Essay Writing（再履修）	担当者	D．H．ケネディ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Course introduction and the writing process 2. Quiz 1 / Paragraph basics 3. Paragraph basics – 1st major paragraph assigned 4. Quiz 2 / Focusing ideas 5. The topic sentence 6. Quiz 3 / The topic sentence – 2nd major paragraph assigned 7. The body and support 8. The conclusion 9. Quiz 4 / Paragraph review 10. Paragraph review – 3rd major paragraph assigned 11. Sentence focus 12. Sentence combining / Sentence variety 13. Review of semester course content 14. Writing test 15. Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Great Writing 2: Great Paragraphs (Fourth Edition), by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Elena Vestri Solomon (Cengage Learning, 2014).	Classwork and homework (35%), quizzes (4 × 5% = 20%), major paragraphs (3 × 5% = 15%), final test (30%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ Basic Essay Writing（再履修）	担当者	D．H．ケネディ

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Course introduction and paragraph review (definition paragraphs) 2. Opinion paragraphs – the gateway to academic essays 3. Expanding a paragraph into an essay (Essay 1) 4. Basic essay structure / Essay introductions 5. Thesis statements 6. Body paragraphs and conclusions 7. Outlining essays 8. Students begin Essay 2 9. Student and teacher feedback on thesis statement and outline 10. Student and teacher feedback – begin Essay 3 11. Writing for clarity and conciseness: improving sentence focus 12. Review of essay structure and coherence – begin Essay 4 13. The small details: punctuation, spell checks, and formatting 14. Final essays due 15. Review and student feedback on course
テキスト、参考文献	**評価方法**
Great Writing 2: Great Paragraphs (Fourth Edition), by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Elena Vestri Solomon (Cengage Learning, 2014).	Classwork and homework (40%), 4 short essays (4 ×15% = 60%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ（金２） Basic Essay Writing（再履修）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Course schedule 1. Introduction of the course & free writing 2. Types of sentences & free writing 3. Parallel strictures & describing picture 4. Sentence problems & describing picture 5. Noun clauses & explaining (classifying) 6. Noun clauses & explaining (comparing and contrasting) 7. Adverb Clauses & explaining (describing processes) 8. Adverb Clauses & explaining (describing causes and effects) 9. Adjective Clauses & explaining own culture 10. Adjective Clause & explaining foreign culture 11. Participial Phrases & explaining definition of word 12. Participial Phrases & explaining your interest 13. Punctuation & explaining social problems 14. Punctuation & summarizing and paraphrasing 15. Semester review
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.	In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ（金２） Basic Essay Writing（再履修）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Course schedule 1. Sentence writing & collaborative essay writing 2. Writing introductory paragraphs 3. Writing body paragraphs 4. Writing conclusion 5. Collaborative essay writing 6. Argumentative essay & analyzing model essay 7. Argumentative essay & unity and coherence 8. Argumentative essay & peer feedback 9. Argumentative essay & timed writing 10. Descriptive essay & analyzing model essay 11. Descriptive essay & genre-specific vocabulary 12. Writing customer reviews & paraphrasing 13. Writing book reviews & summarizing 14. Collaborative movie review 15. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.	In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ（火３） Basic Essay Writing（再履修）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1: Class orientation Week 2: Paragraph organization, academic style Week 3: Introduction to Quick Write Week 4: Planning a paragraph, correction symbols Week 5: Topics and topic sentences Week 6: Supporting sentences and examples Week 7: Introduction to peer editing Week 8: Cause and effect writing Week 9: Grammar workshop Week 10: Persuasive writing Week 11: Comparison and contrast Week 12: Survey and report Week 13: Grammar workshop 2 Week 14: Review Week 15: Return notebooks and consultation
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Ready to Write 3 (Pearson Longman) ・B5 notebook	20% class participation 80% class writings

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ（火３） Basic Essay Writing（再履修）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1: Class orientation Week 2: Elements of good academic writing Week 3: Introduction to timed free writing Week 4: Choosing topics Week 5: Thesis statements Week 6: Grammar mechanics: common writing errors Week 7: Types of essay organization Week 8: Proofreading and proofreading symbols Week 9: Making good introductory paragraphs Week 10: Types of concluding paragraphs Week 11: Quotations and citations Week 12: Grammar: fragments, dependent clauses Week 13: Summarizing Week 14: Review Week 15: Return all writings and consultation
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Ready to Write 3 (Pearson Longman)	20% class participation 80% class writings

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ Basic Essay Writing（再履修）	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Introduction – Free Writing 2. Brainstorming – Self-Introduction 3. Revising – Punctuation and Proper Formatting 4. Topic Sentence – Identifying the Topic Sentence 5. Narrative Paragraph – Prepare for 1st Assignment 6. Supporting Sentences I – Submit 1st Assignment 7. Supporting Sentences II – Revise 1st Assignment 8. Concluding Sentence – Resubmit 1st Assignment 9. Descriptive Paragraph – Prepare for 2nd Assignment 10. Cohesive Writing – Submit 2nd Assignment 11. Combining Sentences – Revise 2nd Assignment 12. Sentence Variety – Resubmit 2nd Assignment 13. Opinion Paragraph – Prepare for 3rd Assignment 14. In-class Writing Test – Submit 3rd Assignment 15. Review and Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Pavlic & Segal, *Interaction 2 Writing, Silver Edition.* McGraw Hill	Paragraph 1: 20%, Paragraph 2: 20%, Paragraph 3: 20%, Writing test: 20%, Participation and homework: 20%

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ Basic Essay Writing（再履修）	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Introduction – Free Writing 2. The Narrative Essay 3. The Thesis Statement and Opening Paragraph 4. The Body and Conclusion 5. Making an Outline – 1st Assignment (Narrative) 6. Peer Analysis of Thesis Statement and Outline 7. The First Draft 8. Revising – Second Draft of Narrative Essay 9. The Compare and Contrast Essay 10. Choosing a Topic – 2nd Assignment (Comp. & Cont.) 11. Peer Analysis of Thesis Statement and Outline 12. The Cause and Effect Essay 13. Choosing a Topic – 3rd Assignment (Cause & Effect) 14. In-Class Essay Writing Test 15. Review and Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Pavlic & Segal, *Interaction 2 Writing, Silver Edition.* McGraw Hill	Narrative essay: 20%, Compare & contrast essay: 20%, Cause and effect essay: 20%, Writing test: 20%, Participation and homework: 20%

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ（水３） Paragraph Writing（再履修）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1：Course introduction Week 2：Introducing People Week 3：Organization Week 4：Grammar & capitalization Week 5：Sentence structure Week 6：Writing Week 7：List order paragraphs Week 8：Organization Week 9：Sentence structure Week 10：Writing Week 11：Giving instructions Week 12：Organization Week 13：Sentence structure & punctuation Week 14：Writing Week 15：Feedback & wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hogue, A. , "First Steps in Academic Writing", 2nd Edition, Pearson Longman	Evaluation will be according to quizzes (20%), class participation (20%), and writing assignments (60%).

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ（水３） Paragraph Writing（再履修）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1：Course introduction Week 2：Describing places Week 3：Organization Week 4：Grammar & sentence structure Week 5：Writing Week 6：Stating reasons, giving examples Week 7：Organization Week 8：Sentence structure & punctuation Week 9：Writing Week 10：Expressing an opinion Week 11：Organization Week 12：Sentence structure & punctuation Week 13：Writing Week 14：Journal writing Week 15：Catch-up. wrap-up, feedback.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hogue, A. , "First Steps in Academic Writing", 2nd Edition, Pearson Longman	Evaluation will be according to quizzes (20%), class participation (20%), and writing assignments (60%).

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ Paragraph Writing（再履修）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Course introduction 2. The English paragraph 3. The topic sentence 4. The supporting details 5. Characteristics of a good paragraph 6. Descriptive paragraph 7. Narrative paragraph 8. Personal opinion 9. Writing a second draft 10. Peer evaluation and feedback 11. Classification 12. Cause and effect 13. Comparison 14. Contrast 15. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced.	Grades will be based on in-class performance(40%), assignments(40%), and tests (20%).

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ Paragraph Writing（再履修）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Course introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Thesis statement 4. Essay organization 5. Synthesizing Information 6. Detailed outline 7. Evaluating outlines 8. Descriptive essay 9. Narrative essay 10. Peer evaluation and feedback 11. Writing final draft 12. Comparison and contrast essay 13. Classification essay 14. Persuasion 15. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced.	Grades will be based on in-class performance(40%), assignments(40%), and tests (20%).

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ Paragraph Writing（再履修）	担当者	D．ヴェラスコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1: Introduction: Academic vs. Non-Academic Writing Week 2: Articles and Verb Tense Review Week 3: Chapter 1: Organization Week 4: Chapter 1: The Topic Sentence Week 5: Chapter 1: The Writing Process Week 6: Chapter 2: Narrative Organization Week 7: Chapter 2: Sentence Structure Week 8: Chapter 2: The Writing Process Week 9: Chapter 3: Paragraph Structure Week 10: Chapter 3: Supporting Sentences Week 11: Chapter 3: The Outline Week 12: Chapter 4: Descriptive Paragraphs Week 13: Chapter 4: Sentence Structure Week 14 Chapter 4: The Writing Process Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
1) *Introduction to Academic Writing, Third Edition*. (2006). Oshima, A., & Hogue, A. New York: Pearson Education, Inc. 2) handouts	1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Test / Report (30%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ Paragraph Writing（再履修）	担当者	D．ヴェラスコ

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1: Types of Academic Writing Week 2: Chapter 5: Division of Ideas Week 3: Chapter 5: Coherence Week 4: Chapter 5: Sentence Structure Week 5: Chapter 6: Process Paragraphs Organization Week 6: Chapter 6: Sentence Structure: Clauses Week 7: Chapter 6: Sentence Structure: Complex Sentences Week 8: Chapter 7: Compare & Contrast Models Week 9: Chapter 7: Block/Point-by-Point Organization Week 10: Chapter 7: Sentence Structure Week 11: Chapter 8: Definition Paragraphs Week 12: Chapter 8: Appositives and Adjective Clauses Week 13: Chapter 8: Complex Sentences with Adj. Clauses Week 14: Chapters 9 and 10: A Look Ahead Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
1) *Introduction to Academic Writing, Third Edition*. (2006). Oshima, A., & Hogue, A. New York: Pearson Education, Inc. 2) handouts	1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Test / Report (30%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ Paragraph Writing（再履修）	担当者	Ｂ．Ｓ．ハウエル

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Introduction, outline, course requirements, getting to know your teacher and each other; short writing introduction. 2. Beginning to Work 1 3. Beginning to Work 2 4. Giving and Receiving Presents 1 5. Giving and Receiving Presents 2 6. A Favorite Place 1 7. A Favorite Place 2 8. An Exceptional Person 1 9. An Exceptional Person 2 10. Trends and Fads 1 11. Trends and Fads 2 12. White Lies 1 13. White Lies 2 14. Review 15. Journal review and presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Paragraph Writing, Dorothy E. Zemach & Carlos Islam, (MacMillan) No mobile phones unless teacher allows (for research).	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 40% homework assignments, in-class points, notebooks 30% Final writing assignment and journal

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ Paragraph Writing（再履修）	担当者	Ｂ．Ｓ．ハウエル

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Summary of Units 1-6. Holiday writing exercise. 2. Explanations and Excuses 1 3. Explanations and Excuses 2. 4. Problems 1 5. Problems 2 6. Strange Stories 1 7. Strange Stories 2 8. Differences 1 9. Differences 2 10. Difficult Decisions 1 11. Difficult Decisions 2 12. Fate or Choice? 1 13. Fate or Choice? 2 14. Review 15. Journal review and presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Paragraph Writing, Dorothy E. Zemach & Carlos Islam, (MacMillan) No mobile phones unless teacher allows (for research).	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 40% homework assignments, in-class points, notebooks 30% Final writing assignment and journal

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ（水２） Paragraph Writing（再履修）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1：Course introduction Week 2：Introducing People Week 3：Organization Week 4：Grammar & capitalization Week 5：Sentence structure Week 6：Writing Week 7：List order paragraphs Week 8：Organization Week 9：Sentence structure Week 10：Writing Week 11：Giving instructions Week 12：Organization Week 13：Sentence structure & punctuation Week 14：Writing Week 15：Feedback & wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hogue, A. , "First Steps in Academic Writing", 2nd Edition, Pearson Longman	Evaluation will be according to quizzes (20%), class participation (20%), and writing assignments (60%).

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ（水２） Paragraph Writing（再履修）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Week 1：Course introduction Week 2：Describing places Week 3：Organization Week 4：Grammar & sentence structure Week 5：Writing Week 6：Stating reasons, giving examples Week 7：Organization Week 8：Sentence structure & punctuation Week 9：Writing Week 10：Expressing an opinion Week 11：Organization Week 12：Sentence structure & punctuation Week 13：Writing Week 14：Journal writing Week 15：Catch-up. wrap-up, feedback.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hogue, A. , "First Steps in Academic Writing", 2nd Edition, Pearson Longman	Evaluation will be according to quizzes (20%), class participation (20%), and writing assignments (60%).

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ Writing Strategies（再履修）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Introduction 2. Unit 1-1,2 The Sentence and the Paragraph (Stimulating Ideas, Developing a Paragraph) 3. Unit 1-3,4,5 (Unity and Coherence, Editing Your Paragraph) 4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas) 5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining) 6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas) 7. Unit 2-4 (Editing Your Writing) 8. Unit 2-5 (Putting It All Together) 9. Unit 3-1 Example Paragraphs (Stimulating Ideas) 10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining) 11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas) 12. Unit 3-4 (Editing Your Writing) 13. Unit 3-5 (Putting It All Together) 14.Presentation 15. Summary of the course
テキスト、参考文献	**評価方法**
Effective Academic Writing 1: The Paragraph. Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432346-8	平常点（参加度・課題等）50%、定期試験 50%

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ Writing Strategies（再履修）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. Introduction, review of the spring semester 2. Unit 4-1 Process Paragraphs (Stimulating Ideas) 3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining) 4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas) 5. Unit 4-4 (Editing Your Writing) 6. Unit 4-5 (Putting It All Together) 7. Unit 5-1 Opinion Paragraphs (Stimulating Ideas) 8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining) 9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas) 10. Unit 5-4 (Editing Your Writing) 11. Unit 5-5 (Putting It All Together) 12. Unit 6-1 Narrative Paragraph(Stimulating Ideas) 13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining) 14. Presentation 15. Summary of the course
テキスト、参考文献	**評価方法**
Effective Academic Writing 1: The Paragraph. Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432346-8	平常点（参加度・課題等）50%、定期試験 50%

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ Writing Strategies（再履修）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. 授業概要 2. フリーライティングとアイディアの整理方法（1） 3. フリーライティングとアイディアの整理方法（2） 4. 時を表す表現（1） 5. 時を表す表現（2） 6. 修飾語句（1） 7. 修飾語句（2） 8. 人物描写（1） 9. 人物描写（2） 10. パラグラフとは（1） 11. パラグラフとは（2） 12. エッセイを書く（1） 13. エッセイを書く（2） 14. エッセイを書く（3） 15. 最終課題作成と提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：大井恭子他（2011）*Writing Power (Revised Edition)* 研究社 参考文献：なし	授業貢献度（30%）、課題提出とその評価（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ Writing Strategies（再履修）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1. 授業概要 2. パラグラフパターン 1：順序立て（1） 3. パラグラフパターン 1：順序立て（2） 4. パラグラフパターン 2：定義付け（1） 5. パラグラフパターン 2：定義付け（2） 6. パラグラフパターン 3：分類（1） 7. パラグラフパターン 3：分類（2） 8. パラグラフパターン 4：類似点と相違点（1） 9. パラグラフパターン 4：類似点と相違点（2） 10. パラグラフパターン 5：原因と結果（1） 11. パラグラフパターン 5：原因と結果（2） 12. パラグラフパターン 6：論証文（1） 13. パラグラフパターン 6：論証文（2） 14. パラグラフパターン 6：論証文（3） 15. 最終課題作成と提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：大井恭子他（2011）*Writing Power (Revised Edition)* 研究社 参考文献：なし	授業貢献度（30%）、課題提出とその評価（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ（水３） Writing Strategies（再履修）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Course schedule 1. Introduction of the course & free writing 2. Types of sentences & free writing 3. Parallel strictures & describing picture 4. Sentence problems & describing picture 5. Noun clauses & explaining (classifying) 6. Noun clauses & explaining (comparing and contrasting) 7. Adverb Clauses & explaining (describing processes) 8. Adverb Clauses & explaining (describing causes and effects) 9. Adjective Clauses & explaining own culture 10. Adjective Clause & explaining foreign culture 11. Participial Phrases & explaining definition of word 12. Participial Phrases & explaining your interest 13. Punctuation & explaining social problems 14. Punctuation & summarizing and paraphrasing 15. Semester review
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.	In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ（水３） Writing Strategies（再履修）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Course schedule 1. Sentence writing & collaborative essay writing 2. Writing introductory paragraphs 3. Writing body paragraphs 4. Writing conclusion 5. Collaborative essay writing 6. Argumentative essay & analyzing model essay 7. Argumentative essay & unity and coherence 8. Argumentative essay & peer feedback 9. Argumentative essay & timed writing 10. Descriptive essay & analyzing model essay 11. Descriptive essay & genre-specific vocabulary 12. Writing customer reviews & paraphrasing 13. Writing book reviews & summarizing 14. Collaborative movie review 15. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.	In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ（水４） Writing Strategies（再履修）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1: Introduction: 2: Chap. 1: Paragraph Format / noun 3: " / noun 4: " / article 5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / tense 6: " / " 7: " / compound sentence 8: Chap. 3: Paragraph Structure / passives 9: " / " 10: " / " 11: Chap. 4: Descriptive Paragraphs / Paragraph Unity 12: " / " 13: " / " 14: " / " 15: Review

テキスト、参考文献	評価方法
I*ntroduction to Academic Writing* By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout	class participation（20%） assignments (40%) Final Report (20%) / Final Test (20%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ（水４） Writing Strategies（再履修）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1: Introduction: 2: Chap. 5 Logical Division of Ideas 3: " / transitional signals 4: " / " 5: Chap. 6: Process Paragraphs/ Clauses 6: " / Complex sentences 7: " Subordinators 8: Chap. 7: Comparison/ Contrast Paragraphs 9: " / Comparison Signals 10: " / Contrast Signals 11: Chap. 8: Definition Paragraphs/ Appositives 12: " / Adjective Clauses 13 " / Relative pronouns etc. 14: " 15: Review

テキスト、参考文献	評価方法
Introduction to Academic Writing By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout	class participation（20%） assignments (40%) Final Report (20%) / Final Test (20%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ（金３） Writing Strategies（再履修）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Course schedule 1. Introduction of the course & free writing 2. Types of sentences & free writing 3. Parallel strictures & describing picture 4. Sentence problems & describing picture 5. Noun clauses & explaining (classifying) 6. Noun clauses & explaining (comparing and contrasting) 7. Adverb Clauses & explaining (describing processes) 8. Adverb Clauses & explaining (describing causes and effects) 9. Adjective Clauses & explaining own culture 10. Adjective Clause & explaining foreign culture 11. Participial Phrases & explaining definition of word 12. Participial Phrases & explaining your interest 13. Punctuation & explaining social problems 14. Punctuation & summarizing and paraphrasing 15. Semester review
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.	In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ（金３） Writing Strategies（再履修）	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	Course schedule 1. Sentence writing & collaborative essay writing 2. Writing introductory paragraphs 3. Writing body paragraphs 4. Writing conclusion 5. Collaborative essay writing 6. Argumentative essay & analyzing model essay 7. Argumentative essay & unity and coherence 8. Argumentative essay & peer feedback 9. Argumentative essay & timed writing 10. Descriptive essay & analyzing model essay 11. Descriptive essay & genre-specific vocabulary 12. Writing customer reviews & paraphrasing 13. Writing book reviews & summarizing 14. Collaborative movie review 15. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.	In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅰ（水３） Writing Strategies（再履修）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1: Introduction: 2: Chap. 1: Paragraph Format / noun 3: " / noun 4: " / article 5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / tense 6: " / " 7: " / compound sentence 8: Chap. 3: Paragraph Structure / passives 9: " / " 10: " / " 11: Chap. 4: Descriptive Paragraphs / Paragraph Unity 12: " / " 13: " / " 14: " / " 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
I*ntroduction to Academic Writing* By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout	class participation（20%） assignments (40%) Final Report (20%) / Final Test (20%)

13 年度以降 06～12 年度	Writing Skills Ⅱ（水３） Writing Strategies（再履修）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time. <u>Overall Objectives</u> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students study how others organize ideas 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills	1: Introduction: 2: Chap. 5 Logical Division of Ideas 3: " / transitional signals 4: " / " 5: Chap. 6: Process Paragraphs/ Clauses 6: " / Complex sentences 7: " Subordinators 8: Chap. 7: Comparison/ Contrast Paragraphs 9: " / Comparison Signals 10: " / Contrast Signals 11: Chap. 8: Definition Paragraphs/ Appositives 12: " / Adjective Clauses 13 " / Relative pronouns etc. 14: " 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Introduction to Academic Writing By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout	class participation（20%） assignments (40%) Final Report (20%) / Final Test (20%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（月４）	担当者	Ｄ．ヴェラスコ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Chapter 1: Three Parts of a Paragraph (also, Ch. 10) Week 2: Chapter 1: Topic Sentences Week 3: Chapter 1: Supporting & Concluding Sentences Week 4: Chapter 2: Unity (also, Ch. 11) Week 5: Chapter 2: Coherence: Repetition Week 6: Chapter 2: Transition Signals Week 7: Chapter 3: Facts vs. Opinions (also, Ch. 12) Week 8: Chapter 3: Citing Sources and Plagiarism Week 9: Chapter 3: Quotations Week 10: Chapter 4: Introductory Paragraphs Week 11: Chapter 4: Body Paragraphs Week 12: Chapter 4: Concluding Paragraphs Week 13: Chapter 5: Thesis Statements Week 14: Chapter 5: Transition Signals Week 15: Brainstorming and Outlines
テキスト、参考文献	**評価方法**
1) *Writing Academic English, Fourth Edition*. (2006). Oshima, A., & Hogue, A. New York: Pearson Education, Inc. 2) handouts	1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Test / Report (30%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（月４）	担当者	Ｄ．ヴェラスコ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Chapter 6: Cause/Effect Essays Week 2: Chapter 6: Block and Chain Organization Week 3: Chapter 6: Signal Words (also, Ch. 13) Week 4: Chapter 7: Comparison/Contrast Essays Week 5: Chapter 7: Organization Week 6: Chapter 7: Signal Words Week 7: Informative Essays Week 8: Informative Essays / Descriptive Essays Week 9: Descriptive Essays (also, Ch. 14) Week 10: Chapter 8: Paraphrasing Week 11: Chapter 8: Plagiarism and Support Week 12: Chapter 8: Summarizing Week 13: Chapter 9: Argumentative Essays Week 14: Chapter 9: Thesis Statements (also, Ch. 15) Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
1) *Writing Academic English, Fourth Edition*. (2006). Oshima, A., & Hogue, A. New York: Pearson Education, Inc. 2) handouts	1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Test / Report (30%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Orientation Week 2: Essay 1 & writing skills Week 3: Essay 1 & writing skills Week 4: Essay 1 & writing skills Week 5: Essay 1 & writing skills Week 6: Essay 1 & writing skills Week 7: Essay 1 & writing skills Week 8: Essay 1 & writing skills Week 9: Essay 2 & writing skills Week 10: Essay 2 & writing skills Week 11: Essay 2 & writing skills Week 12: Essay 2 & writing skills Week 13: Essay 2 & writing skills Week 14: Essay 2 & writing skills Week 15: Essay 2 & writing skills & course survey
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook: To be decided Materials: Bring a pen/pencil, notebook and dictionary to every class.	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% S Participation & in-class performance 25%; Homework 25%; Essay 1 25%; Essay 2 25%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Orientation Week 2: Essay & writing skills Week 3: Essay & writing skills Week 4: Essay & writing skills Week 5: Essay & writing skills Week 6: Essay & writing skills Week 7: Essay & writing skills Week 8: Essay & writing skills Week 9: Essay & writing skills Week 10: Essay & writing skills Week 11: Essay & writing skills Week 12: Essay & writing skills Week 13: Essay & writing skills Week 14: Essay & writing skills Week 15: Essay & writing skills & course survey
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook: None Materials: Bring a pen/pencil, notebook and dictionary to every class.	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% S Participation & in-class performance 25%; Homework 25%; Essay 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Introduction & Preparation. Week 2: From Paragraph to essay. Week 3: Three parts of an essay. Week 4: The introductory paragraph, ptI. Week 5: The introductory paragraph, ptII. Week 6: Body paragraphs, ptI. Week 7: Body paragraphs, ptII. Week 8: Body paragraphs, ptIII. Week 9: The concluding paragraph, ptI. Week 10: The concluding paragraph, ptII. Week 11: Essay outlining. Week 12: Review. Week 13: Writing practice. Week 14: Applying what you have learned. Week 15: Consolidation, Papers due.
テキスト、参考文献	**評価方法**
A. Oshima, A. Hogue. *Writing Academic English, 4th Ed.* (Pearson Longman).	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), and a final comprehensive paper (40%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Introduction & Preparation. Week 2: Chronological order: Process essays. Week 3: Thesis statements for a process essay. Week 4: Transition signals for chronological order. Week 5: Review of process essays. Week 6: Writing practice. Week 7: Applying what you have learned. Week 8: Cause/effect essays. Week 9: Organization for cause/effect order. Week 10: Cause/effect signal words. Week 11: Cause/effect signal phrases. Week 12: Review of cause/effect essays. Week 13: Writing practice. Week 14: Applying what you have learned. Week 15: Consolidation, Papers due.
テキスト、参考文献	**評価方法**
A. Oshima, A. Hogue. *Writing Academic English, 4th Ed.* (Pearson Longman).	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), and a final comprehensive paper (40%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	Ｔ．ミニオン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Lesson 1. Introduction, grades, attendance, learning goals, final essay. Beginning the argumentative essay. Brainstorming: Free-writing and Listing. Topic. Sentence and Controlling Idea Lesson 2. Introduction: Catch the Reader's Attention Coherent Paragraphs. Lesson 3. Introductory Paragraph: Preview the Body, Narrow the Topic, State the Thesis Statement Lesson 4. Bring Computers/Computer Room, Expand Research. Paraphrasing Activity, Speaking in Groups, Body One. Lesson 5. Bring Computers/Computer Room, Expand Research in the Second of Your Three Areas. Discussion on Plagiarism, Summaries. Speaking in Groups, Body Two Lesson 6. Bring Computers/Computer Room, Expand Research in the Third of Your Three Areas. Speaking in Groups, Body Three. Lesson 7. Peer Editing Copy Editing Symbols Conclusion: Signal the End, Restate Main Ideas, Final Thought. Lesson 8. Speaking in Groups, Conclusion. Peer Editing. Lesson 9. Bring Computers/Computer Room, Final Revisions, Editing. Teacher to Student Workshop. Lesson 10. Editing. Paper Presentations. Lesson 11. Editing. Paper Presentations. Lesson 12. Paper Presentations. Hand in Final Papers. Lesson 13. Special assignment. Lesson 14. Special class activity. Lesson 15. Wrap up.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None, one resource will be: https://owl.english.purdue.edu/owl/	Participation and completion of all writings are necessary to attain a good grade.

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	Ｔ．ミニオン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Lesson 16. Introduction, grades, attendance, learning goals, final essay. Beginning the narrative essay on the Credo. Brainstorming: Free-writing and Listing. Topic. Sentence and Controlling Idea Lesson 17. Introduction: Catch the Reader's Attention Coherent Paragraphs. Lesson 18. Introductory Paragraph: Preview the Body, Narrow the Topic, State the Thesis Statement Lesson 19. Bring Computers/Computer Room, Expand Research. Paraphrasing Activity, Speaking in Groups, Body One. Lesson 20. Bring Computers/Computer Room, Expand Research in the first of your three Areas. Discussion on Plagiarism, Summaries. Speaking in Groups, Body Two Lesson 21. Bring Computers/Computer Room, Expand Research in the second of your three Areas. Speaking in Groups, Body Three. Lesson 22. Peer Editing Copy Editing Symbols; Research in the third of your three Areas. Conclusion: Signal the End, Restate Main Ideas, Final Thought. Lesson 23. Speaking in Groups, Conclusion. Peer Editing. Lesson 24. Bring Computers/Computer Room, Final Revisions, Editing. Teacher to Student Workshop. Lesson 25. Editing. Paper Presentations. Lesson 26. Editing. Paper Presentations. Lesson 27. Paper Presentations. Hand in Final Papers. Lesson 28. Special assignment. Lesson 29. Special class activity. Lesson 30. Wrap up.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None, one resource will be: https://owl.english.purdue.edu/owl/	Participation and completion of all writings are necessary to attain a good grade.

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	1: Introductions. Course Orientation 2: Writing a paragraph: topic sentences 3: From paragraph to essay: Essay planning, thesis statements. 4: Body paragraphs: developing ideas. 5: Introduction & conclusion paragraph. 6: Expository essay topic- reading & discussion 7: Timed essay 1: Expository essay 8: Editing class 9: Sources & citation 10: Argumentative essays: counter arguments 11: Argumentative essay topic: reading & discussion 12: Argumentative essay topic: reading & discussion 13: Timed essay 2: Argumentative essay 14: Editing class 15: Course review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Academic Writing skills II Cambridge University Press ISBN: 1107621097	2 timed essays, written in class: 20% 2 Final essay drafts: 40% Class preparation: 20% Participation: 20%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	1: Course orientation- 1st semester review 2: Argumentative essays: Thesis statements, topic sentences. 3: Developing body paragraphs 4: Counter arguments, refutation, argumentative essay organization. 5: Sources & Citation 6: Argumentative essay topic- reading & discussion 7: Timed essay 1: Argumentative essay 8: Editing class 9: Quoting, Paraphrasing and summarizing 10: Compare & Contrast essays: structure 11: Compare & Contrast essays: Language 12: Compare & Contrast essay topic- reading & discussion 13: Timed essay 2: Compare & Contrast essay 14: Editing class 15: Final class & Course review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Academic Writing skills II Cambridge University Press ISBN: 1107621097	2 timed essays, written in class: 20% 2 Final essay drafts: 40% Class preparation: 20% Participation: 20%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	S．ペイン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	1. Course Introduction 2. Getting ready to write 3. Getting ready to write 4. Paragraphs 5. Paragraphs 6. Revising and editing 7. Writing essays 8. Writing essays 9. Process essays 10. Process essays 11. Process essays 12. Division and classification essays 13. Division and classification essays 14. Division and classification essays 15. Final evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ready to Write: From Paragraph to Essay Third Edition by Karen Blanchard and Christine Root. 2010 Pearson	in-class performance 30% quizzes and journals 10% homework assignments 20% writing projects 40%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	S．ペイン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	1. Review 2. Cause and effect essays 3. Cause and effect essays 4. Cause and effect essays 5. Comparison and contrast essays 6. Comparison and contrast essays 7. Comparison and contrast essays 8. Problem-solution essays 9. Problem-solution essays 10. Problem-solution essays 11. Writing summaries 12. Writing summaries 13. Expression opinion 14. Expressing opinion 15. Final evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ready to Write: From Paragraph to Essay Third Edition by Karen Blanchard and Christine Root. 2010 Pearson	in-class performance 30% quizzes and journals 10% homework assignments 20% writing projects 40%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	1. Course orientation. 2. Writing and you. 3. Seven steps: The writing process. 4. 50 word stories. 5. Writing for work. 6. Writing for work. 7. Writing for work. 8. Peer group evaluation. 9. Creative writing. 10. Creative writing. 11. Creative writing 12. Peer group evaluation. 13. Timed writing preparation. 14. Timed writing. 15. Course review activities.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials provided by teacher	Assessment based on class participation, homework and written compositions.

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	1. Course orientation. 2. Review of writing structures. 3. Seven steps: The writing process. 4. Comic strip writing. 5. Academic writing. 6. Academic writing. 7. Academic writing. 8. Peer review. 9. Students' choice. 10. Creative writing. 11. Creative writing. 12. Creative writing. 13. Timed writing preparation. 14. Timed writing. 15. Course review activities.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials provided by teacher	Assessment based on class participation, homework and written compositions.

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	1. Course introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. The thesis statement 4. Synthesizing Information 5. Characteristics of a good paragraph 6. Detailed outline 7. Critical Thinking 8. Personal opinion 9. Writing a second draft 10. Peer evaluation and feedback 11. Reading and Discussion 12. Cohesive paragraphs 13. Introductions and Conclusions 14. Narrative essay 15. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	1. Summer Vacation Essay 2. Brainstorming exercises 3. Good Supporting sentences 4. Word Choice 5. Historical Event Essay 6. Describing a World Heritage Site Essay 7. Japanese Culture Essay 8. Peer evaluation and feedback 9. Explaining the Process of Learning 10. Proofreading Exercises 11. Hot Button Topic 12. Comparison and contrast essay 13. Classification essay 14. Persuasion 15. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Introductions, course outline, course evaluation and requirements. Week 2: Chapter #1– Write Elements Week 3: Chapter #1– Writing Process Week 4: Chapter #2– Parts of Paragraphs Week 5: Chapter #2– Parts of Paragraphs Week 6: Chapter #2– Cohesion & Unity Week 7: Quiz 1 - 15% Week 8: Write, review & peer edit. Week 9: Chapter # 3– Revising & Editing Week 10: Essay write, review & peer edit. Week 11: Chapter #4– Essay Introduction Week 12: Chapter #4– Thesis Week 13:Chapter #4Support & conclusion Week 14: Write, review & peer edit. Week 15: Quiz 2 - 15%
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blanchard & Root, Ready to Write 3. Pearson & Longman 3rd Edition.	1. Computer written report 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements. Review Ch1-5 Week 2: Chapter # 5-Process paragraphs Week 3: Chapter # 5-Process essays Week 4: Chapter#6-Division, classification Week 5: Chapter#6-Division, classification Week 6: Chapter#7-Cause & Effect Week 7: Quiz 1 - 15% Week 8: Chapter#7-Cause & Effect Week 9: Chapter # 8-Compare & Contrast Week 10:Chapter# 8-Compare & Contrast Week 11: Chapter # 9-Problem solutions Week 12: Chapter # 9-Problem solutions Week 13: Chapter#10-Writing summaries Week 14: Write, review & peer edit. Week 15: Quiz 2 - 15%
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blanchard & Root, Ready to Write 3. Pearson & Longman 3rd Edition.	1. Computer written essay 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	バーナード　クリストファ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Lesson 1. Introduction to the course aims and lesson activities; familiarization with the textbook Lesson 2. Introductory in-class writing exercise to gauge student interest and ability Lesson 3. Student self-reflection: What makes good writing? Getting ready to write Lesson 4. Types of writing: informative, persuasive, etc. Choosing a topic to write about, and narrowing it down Lesson 5. Writing paragraphs: the parts of the paragraph; transition signals within the paragraph Lesson 6. Revising and correcting based on checklist of grammar points; punctuation and capitalization Lesson 7. In-class writing practice with teacher guidance Lesson 8. Introduction to writing longer essays: thesis statements, supporting sentences, conclusions Lesson 9. Work on transitional signals both between sentences and between paragraphs Lesson 10. Essay types: division and classification; the language used in division and classification Lesson 11. Essay types: cause and effect: the language used in cause and effect Lesson 12. Student writing (homework assignment) corrected in class. Identification of "problem areas" Lesson 13. Introduction to final written project Lesson 14. Developing ideas in class for final written project (individually or in groups) Lesson 15. Review of the semester's work. Q and A session
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ready to Write 3: From Paragraph to Essay (Karen Blanchard and Christine Root: Pearson). The first half of this book will be studied in Writing Skills III, and the second half will be studied in Writing Skills IV	Grades will be based on class participation and the final written project

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	バーナード　クリストファ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Lesson 1. Introduction to the course aims and lesson activities; familiarization with the textbook Lesson 2. Introductory in-class writing exercise to gauge student interest and ability Lesson 3. Student self-reflection: What makes good writing? Getting ready to write Lesson 4. Review of Writing Skills III: the paragraph, the essay Lesson 5. Types of paragraphs: division and classification (review); cause and effect essays; planning a cause and effect essay by using a step-by-step plan Lesson 6. Comparison and contrast essays: the difference between these, and the vocabulary associated with each type Lesson 7. In-class writing practice with teacher guidance Lesson 8. Problem-Solution essays: associated vocabulary Lesson 9. Writing summaries: identifying key points in a written text, and summarizing these points Lesson 10. Writing summaries (continued) Lesson 11. Expressing opinions: the difference between opinion and fact; supporting an opinion Lesson 12. Different kinds of support: data, anecdote, research findings, etc. Lesson 13. Writing formal essays for assessment purposes (e.g. application for entry to a university programme) Lesson 14. Review and self-reflection on the course. Introduction to final writing project Lesson 15. Start of final writing project. Q and A
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ready to Write 3: From Paragraph to Essay (Karen Blanchard and Christine Root: Pearson). The first half of this book has been studied in Writing III. The second half will be studied in Writing Skills IV	Grades will be based on class participation and the final written project

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1 Introduction to the course Week 2 Getting ready to write Week 3 Getting ready to write Week 4 Writing paragraphs Week 5 Writing paragraphs Week 6 Revising and editing Week 7 Revising and editing Week 8 Writing essays Week 9 Writing essays Week 10 Process essays Week 11 Process essays Week 12 Division and classification essays Week 13 Division and classification essays Week 14 Review Week 15 Feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ready to Write 3 by Karen Blanchard and Christine Root, published by Pearson Longman. ISBN: 978-0-13-136334-2	Grades will be based on in-class participation (34%), homework writing activities (33%) and final typed essay assignments (33%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1 Consolidation Week 2 Outlining review Week 3 Cause and effect essays Week 4 Cause and effect essays Week 5 Comparison and contrast essays Week 6 Comparison and contrast essays Week 7 Problem-solution essays Week 8 Problem-solution essays Week 9 Writing summaries Week 10 Writing summaries Week 11 Expressing your opinions Week 12 Expressing your opinions Week 13 Timed writing Week 14 Review Week 15 Feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ready to Write 3 by Karen Blanchard and Christine Root, published by Pearson Longman. ISBN: 978-0-13-136334-2	Grades will be based on in-class participation (34%), homework writing activities (33%) and final typed essay assignment (33%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	D．H．ケネディ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	1. Course introduction 2. Basic essay structure 3. The writing process 4. Process analysis essays (examples) 5. Process analysis essays (draft) 6. Process analysis essays (feedback) 7. Comparison essays (examples) 8. Comparison essays (draft) 9. Comparison essays (feedback) 10. Cause-effect essays (examples) 11. Cause-effect essays (draft) 12. Cause-effect essays (feedback) 13. Review for test 14. Writing test 15. Course review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Great Writing 5: Greater Essays (Second Edition), by Keith S. Folse and Tison Pugh (Heinle Cengage Learning, 2010).	Classwork and homework (30%), essays (3 × 15% = 45%), final test (25%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	D．H．ケネディ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	1. Course introduction 2. Review of essay structure 3. Argumentative essays (examples) 4. Argumentative essays (draft) 5. Argumentative essays (feedback) 6. Narrative essays (examples) 7. Narrative essays (draft) 8. Narrative essays (feedback) 9. Introduction to basic research 10. Recognizing citations 11. Citing sources 12. Supporting the argumentative essay 13. Review for test 14. Writing test 15. Course review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Great Writing 5: Greater Essays (Second Edition), by Keith S. Folse and Tison Pugh (Heinle Cengage Learning, 2010).	Classwork and homework (35%), essays (2 × 20% = 40%), final test (25%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Below is a general outline of the course. Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Week 3 - 4, The thesis statement. Discussion topics Week 5 - 6, Writing an effective introduction. Discussion topics. Week 7 - 8, Unity in an essay. Discussion topics. Week 9 - 10, Concluding an essay. Discussion topics. Week 11 - 14, Other important points in essay writing. Discussion topics. Week 15 - Final assessments. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Below is a general outline of the course. Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Weeks 3 - 4, The paragraph and review of short essay structure. Discussion topics. Weeks 5 - 7, Developing the 5 paragraph essay. Discussion topics. Weeks 8 - 10, Unity and coherence in an essay. Discussion topics. Weeks 11 -14, Editing your writing. Discussion topics. Week 15 Final assessments. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Introduction and orientation Week 2-4: Essay One Week 5-9: Essay Two Week 10: Vocabulary Test Week 11-15: Final Essay
テキスト、参考文献	**評価方法**
The teacher will provide all materials.	Essay One: 20%　Essay Two: 20%　Test: 20% Final Essay: 25%　Participation: 15%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Introduction and orientation Week 2-4: Essay One Week 5-9: Essay Two Week 10: Vocabulary Test Week 11-15: Final Essay
テキスト、参考文献	**評価方法**
The teacher will provide all materials.	Essay One: 20%　Essay Two: 20%　Test: 20% Final Essay: 25%　Participation: 15%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（月３）	担当者	Ａ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	1. Silent Peer Interview writing 2. Begin assignment 1; discuss topic sentences 3. Continue assignment 1 4. Revise and edit draft copy of assignment 1 5. Begin assignment 2; discuss transition words and concluding sentences 6. Revise and edit draft copy of assignment 2 7. Begin assignment 3; discuss complete/incomplete sentences 8. Continue assignment 3 9. Revise and edit draft copy of assignment 3 10. Begin assignment 4; discuss comparison/contrast words 11. Continue assignment 4 12. Revise and edit draft copy of assignment 4 13. Begin assignment 5; discuss story writing 14. Continue assignment 5 15. Revise and edit draft copy of assignment 5
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Handouts will be provided.	Writing assignments: 75% (5 assignments worth 15% each), Participation: 25%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（月３）	担当者	Ａ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	1. Begin assignment 1; discuss adjectives 2. Continue assignment 1 3. Revise and edit draft copy of assignment 1 4. Begin assignment 2; discuss chronological order 5. Continue assignment 2 6. Revise and edit draft copy of assignment 2 7. Begin assignment 3; discuss prepositional phrases 8. Continue assignment 3 9. Revise and edit draft copy of assignment 3 10. Begin assignment 4; discuss writing dialogue 11. Continue assignment 4 12. Revise and edit draft copy of assignment 4 13. Practise scripts 14. Begin assignment 5; group writing 15. Continue assignment 5
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Handouts will be provided.	Writing assignments: 75% (5 assignments worth 15% each), Participation: 25%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	1. Introduction 2. Unit 1-1,2 Paragraph to Short Essay (Paragraph structure, Unity and Coherence) 3. Unit 1-3,4,5 (From Paragraph to Short Essay) 4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas) 5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining) 6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas) 7. Unit 2-4 (Editing Your Writing) 8. Unit 2-5 (Putting It All Together) 9. Unit 3-1 Narrative Essays(Stimulating Ideas) 10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining) 11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas) 12. Unit 3-4 (Editing Your Writing) 13. Unit 3-5 (Putting It All Together) 14. Presentation 15. Summary of the course
テキスト、参考文献	**評価方法**
Effective Academic Writing 2: The Short Essay. Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432347-5	平常点（参加度・課題等）50%、定期試験 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	1. Introduction, review of the spring semester 2. Unit 4-1 Comparison-Contrast (Stimulating Ideas) 3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining) 4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas) 5. Unit 4-4 (Editing Your Writing) 6. Unit 4-5 (Putting It All Together) 7. Unit 5-1 Opinion Essays (Stimulating Ideas) 8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining) 9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas) 10. Unit 5-4 (Editing Your Writing) 11. Unit 5-5 (Putting It All Together) 12. Unit 6-1 Cause-and-Effect (Stimulating Ideas) 13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining) 14. Presentation 15. Summary of the course
テキスト、参考文献	**評価方法**
Effective Academic Writing 2: The Short Essay. Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432347-5	平常点（参加度・課題等）50%、定期試験 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（木４）	担当者	Ａ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	1. Silent Peer Interview writing 2. Begin assignment 1; discuss topic sentences 3. Continue assignment 1 4. Revise and edit draft copy of assignment 1 5. Begin assignment 2; discuss transition words and concluding sentences 6. Revise and edit draft copy of assignment 2 7. Begin assignment 3; discuss complete/incomplete sentences 8. Continue assignment 3 9. Revise and edit draft copy of assignment 3 10. Begin assignment 4; discuss comparison/contrast words 11. Continue assignment 4 12. Revise and edit draft copy of assignment 4 13. Begin assignment 5; discuss story writing 14. Continue assignment 5 15. Revise and edit draft copy of assignment 5
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Handouts will be provided.	Writing assignments: 75% (5 assignments worth 15% each), Participation: 25%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（木４）	担当者	Ａ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	1. Begin assignment 1; discuss adjectives 2. Continue assignment 1 3. Revise and edit draft copy of assignment 1 4. Begin assignment 2; discuss chronological order 5. Continue assignment 2 6. Revise and edit draft copy of assignment 2 7. Begin assignment 3; discuss prepositional phrases 8. Continue assignment 3 9. Revise and edit draft copy of assignment 3 10. Begin assignment 4; discuss writing dialogue 11. Continue assignment 4 12. Revise and edit draft copy of assignment 4 13. Practise scripts 14. Begin assignment 5; group writing 15. Continue assignment 5
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Handouts will be provided.	Writing assignments: 75% (5 assignments worth 15% each), Participation: 25%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（木４）	担当者	D．ヴェラスコ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Chapter 1: Three Parts of a Paragraph (also, Ch. 10) Week 2: Chapter 1: Topic Sentences Week 3: Chapter 1: Supporting & Concluding Sentences Week 4: Chapter 2: Unity (also, Ch. 11) Week 5: Chapter 2: Coherence: Repetition Week 6: Chapter 2: Transition Signals Week 7: Chapter 3: Facts vs. Opinions (also, Ch. 12) Week 8: Chapter 3: Citing Sources and Plagiarism Week 9: Chapter 3: Quotations Week 10: Chapter 4: Introductory Paragraphs Week 11: Chapter 4: Body Paragraphs Week 12: Chapter 4: Concluding Paragraphs Week 13: Chapter 5: Thesis Statements Week 14: Chapter 5: Transition Signals Week 15: Brainstorming and Outlines
テキスト、参考文献	**評価方法**
1) *Writing Academic English, Fourth Edition*. (2006). Oshima, A., & Hogue, A. New York: Pearson Education, Inc. 2) handouts	1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Test / Report (30%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（木４）	担当者	D．ヴェラスコ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand a typical structure of 'good' essays 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills	Week 1: Chapter 6: Cause/Effect Essays Week 2: Chapter 6: Block and Chain Organization Week 3: Chapter 6: Signal Words (also, Ch. 13) Week 4: Chapter 7: Comparison/Contrast Essays Week 5: Chapter 7: Organization Week 6: Chapter 7: Signal Words Week 7: Informative Essays Week 8: Informative Essays / Descriptive Essays Week 9: Descriptive Essays (also, Ch. 14) Week 10: Chapter 8: Paraphrasing Week 11: Chapter 8: Plagiarism and Support Week 12: Chapter 8: Summarizing Week 13: Chapter 9: Argumentative Essays Week 14: Chapter 9: Thesis Statements (also, Ch. 15) Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
1) *Writing Academic English, Fourth Edition*. (2006). Oshima, A., & Hogue, A. New York: Pearson Education, Inc. 2) handouts	1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Test / Report (30%)

06 年度以降	E-learning Ⅰ	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 英語学科1年Group A（1組，2組）の学生を対象とする。Reading Strategies, Writing Skills などの対面授業で習得したスキルを自律学習によって定着，向上させることを目的とする。 【概要】 ・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に再履修者も含め全員集合のこと。 ・2週目以降は毎週語彙に関するテストを行う。 ・ 3週目以降は隔週でオンラインライティングサービス（Criterion）を利用してライティング課題に取り組み，サンプルエッセイをレビューする活動とグループプロジェクトを行う。 ・ 学習内容は、語彙（ALC）とライティング（Criterion）。	1. 全体説明会 2. Criterion ガイダンス Essay Topic (トライアル) 3. テスト(1): ALC & Essay Topic (1) 4. テスト(2): ALC 5. テスト(3): ALC & Essay Topic (2) 6. テスト(4): ALC 7. テスト(5): ALC & Essay Topic (3) 8. テスト(6): ACL 9. テスト(7): ALC & Essay Topic (4) 10. テスト(8): ALC 11. テスト(9): ALC & Essay Topic (5) 12. テスト(10): ALC 13. テスト(11): ALC & Essay topic (6) 14. テスト(12): ALC 15. テスト(13): ALC & まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterion	13回の授業内テスト(50%)、6回の課題エッセイ（30%），レビュー活動、グループワーク（20%）

06 年度以降	E-learning Ⅱ	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 E-learning Iと同じ。 【概要】 ・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について説明をするので再履修者も含め全員集合のこと。 ・2週目以降は毎週語彙に関するテストを行う。 ・ 3週目以降は隔週でオンラインライティングサービス（Criterion）を利用してライティング課題に取り組み，クラスメートのエッセイをレビューする活動とグループプロジェクトを行う。 ・ 第9週に1年生はTOEFL団体受験をする。この日に限り、終了時間は午後7:15。 ・ 学習内容は、語彙（ALC）とライティング（Criterion）。	1. 全体説明会 2. テスト(1): ALC & Essay Topic (1) 3. テスト(2): ALC 4. テスト(3): ALC & Essay Topic (2) 5. テスト(4): ALC 6. テスト(5): ALC & Essay Topic (3) 7. テスト(6): ACL 8. テスト(7): ALC & Essay Topic (4) 9. TOEFL ITP Test 10. テスト(8): ALC 11. テスト(9): ALC & Essay Topic (5) 12. テスト(10): ALC 13. テスト(11): ALC & Essay topic (6) 14. テスト(12): ALC 15. テスト(13): ALC & まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterion	13回の授業内テスト(50%)、6回の課題エッセイ（30%）レビュー活動，グループワーク（20%）

06 年度以降	E-learning Ⅰ	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 英語学科1年3組～12組の学生を対象とする. Reading Strategies, Writing Skills などの対面授業で教員から習ったスキルを自律・反転学習によって定着，向上させることを目的とする. 【概要】 ・1週目の説明会で､オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に再履修者も含め全員集合のこと。 ・ 2週目以降は隔週にALCの語彙、リーディング、リスニングに関するテストを行う。 ・ テストのない週はオンラインライティングサービス（Criterion）を利用したライティング課題(Essay)に取り組み、授業ではリスニングに関する活動（Listening Workshop）を行う。Listening Workshopは授業の進行状況によりテストに変更する。 ・ 8, 13週目には提出したEssayに関してお互いに批評しあうPeer Review活動を行い、最終Essay (5)をレポートとして期限までに提出する。 ・ 学習内容は、語彙（ALC)、リーディング（ALC）リスニング（ALCその他)、及びライティング（Criterion）	1. 全体説明会 2. 補足説明会及び Listening Workshop (1) 3. テスト(1) :ALC 4. Essay Topic (1) & Listening Workshop (2) 5. テスト(2) : ALC 6. Essay Topic (2) ＆ Listening Workshop (3) 7. テスト(3) : ALC 8. Essay Topics (1)&(2)に関する (ア) Peer Review & Listening Workshop (4) 9. テスト(4) : ALC 10. Essay Topic (3) & Listening Workshop (5) 11. テスト(5) : ALC 12. Essay Topic (4) & テスト(6) : Listening Workshop (1)-(5) の教材及び新規 Listening 13. Essay Topics (3)&(4)に関する Peer Review 活動 14. Essay Topic (5) 15. まとめ 定期試験期間　テスト(7) : ALC 復習と応用
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterion, PBSのニュース	7回のテスト(70%) 、5つのEssay とListening Workshop (30%)に基づいて総合的に評価する

06 年度以降	E-learning Ⅱ	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 E-learning Ⅰと同じ。ライティングにより重点を置く。 【概要】 ・1週目の説明会で､オンライン教材とその使用方法について説明をするので再履修者も含め全員集合のこと。 ・2週目以降は隔週に語彙、リーディング、文法に関するテストを行う。 ・ テストのない週はオンラインライティングサービス（Criterion）を利用したライティング課題に取り組み、授業ではライティングに関する活動（Writing Workshop）を行う。Writing Workshopは授業の進行状況によりテストに変更する。 ・ 学期半ば（9週を予定）に1年生はTOEFL団体受験をする。この日に限り、試験終了は午後7:15。 ・ 7, 14週目には提出したEssayに関してお互いに批評しあうPeer Review活動を行い、最終Essay (6)をレポートとして期限までに提出する。 ・ 学習内容は，語彙（ALC)、リーディング（ALC, テキスト)，ライティング（Criterion）	1. 全体説明会& Essay Topic (1) 2. テスト(1) : ALC 3. Essay Topic (2) &Writing Workshop (1) 4. テスト(2) : ALC 5. Essay Topic (3) &Writing Workshop (2) 6. テスト(3) : ALC 7. Peer Review: Essay Topics (1)-(3) 8. テスト(4) : ALC 9. TOEFL ITP Test 10. Essay Topic (4) &Writing Workshop (3) 11. テスト(5) : ALC 12. Essay Topic (5) &Writing Workshop (4) 13. テスト(6) : ALC 復習と応用 14. Peer Review: Essay Topics (4)&(5) 15. Essay Topic (6) 定期試験期間　テスト(7) : 新規 Reading&Writing
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterion	7回のテスト(70%)、6つの Essay Topic と Writing Workshop (30%)に基づいて総合的に A~F の評価をする。AA 評価に関しては TOEFL ITP Test の結果により A を AA とする。

06 年度以降	英語専門講読　I (The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture)	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to help students gain a higher level of confidence in talking about Japanese culture through extensive reading and discussion. The chosen text for this course focuses on the cultural aspects of everyday life here in Japan. While most students are very familiar with terms and concepts addressed in the book, they may not have had a chance to think about them in depth nor to talk about them at length in a group setting. Thus, class time will be divided between text analysis (lectures) and student lead roundtable discussions. Students considering this class should have 1) a keen interest in Japanese culture; 2) a desire to improve English skills and 3) an interest in text analysis. The text for this course is titled: The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture and is available through Amazon or Dokkyo University Book Store. Students are required to have the book on the first lesson.	Week 1: Course Introduction Week 2: Ambiguity and the Japanese (Aimai) Week 3: The concept of Japanese dependence (Amae) Week 4: Descent from heaven (Amakudari) Week 5: The Japanese sense of beauty (Bigaku) Week 6: The way of the warrior (Bushido) Week 7: Silence in Japanese communication (Chinmok) Week 8: Male/Female Relationships (Danjyo Kankei) Week 9: The Dou spirit of Japan Week 10: Japanese Patience & Determination(Gambari) Week 11: Japanese Social Obligations (Giri) Week 12: Implicit Communication (Haragei) Week 13: Japanese personal space (Najimu) Week 14: Review and discussion Week 15: Final presentations.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture by　Roger Davies & Osamu Ikeno Tutle ISBN 978-4-8053-1021-2　Yen 1,700	Grades are based on in-class performance 40%, quizzes 10% and a final report 50%

06 年度以降	英語専門講読　II (The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture)	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to help students gain a higher level of confidence in talking about Japanese culture through extensive reading and discussion. The chosen text for this course focuses on the cultural aspects of everyday life here in Japan. While most students are very familiar with terms and concepts addressed in the book, they may not have had a chance to think about them in depth nor to talk about them at length in a group setting. Thus, class time will be divided between text analysis (lectures) and student lead roundtable discussions. Students considering this class should have 1) a keen interest in Japanese culture; 2) a desire to improve English skills and 3) an interest in text analysis. The text for this course is titled: The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture and is available through Amazon or Dokkyo University Book Store. Students are required to have the book on the first lesson.	Week 1: Course Introduction Week 2: Private vs Personal Stance (Honne/Tatemae) Week 3: The Japanese Ie system Week 4: Adopting elements of foreign culture (Iitoko) Week 5: Childrearing practices in Japan (Ikuji) Week 6: Japanese virtue of modesty (Kenkyo) Week 7: Japanese sense of seasons (Kisetsu) Week 8: Laying the groundwork (Nemawashi) Week 9: Arranged Marriage in Japan (Omiai) Week 10: Folktales of Japan (Otogibanashi) Week 11: Good and Wise Mothers (Ryosaikenbo) Week 12: Seniority (Sempai/Kouhai) Week 13: Group Consciousness (Shudan Ishiki) Week 14: Review and discussion Week 15: Final presentations.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture by　Roger Davies & Osamu Ikeno Tutle ISBN 978-4-8053-1021-2　Yen 1,700	Grades are based on in-class performance 40%, quizzes 10% and a final report 50%

06 年度以降	英語専門講読　I （Social Inequality & Education）	担当者	Ｅ．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
This course will examine the relationships between education and society by looking at how educational institutions foster and maintain equalities and inequalities in society. There is a comparative component; the main course content will look at American schooling and society, but ask students to apply the knowledge they have gained to the Japanese context to better understand the growing economic disparities that are occurring, and the history of discrimination at the economic, social and cultural levels that has plagued Japan with regard to integrating ethnic minorities into the mainstream social structure. The main topics of study include social mobility and educational stratification; human & social capital; social & cultural reproduction; the affect of race, ethnicity, class, and gender on the type and quality of education individuals receive.	Week 1 – Introduction to Course, What is Social Inequality? Week 2 – How Does Social Inequality Affect the Lives of Individuals? Week 3 – The Structure of Schooling Week 4 – The Structure of Schooling (cont'd) Week 5– Social Class & Schooling Week 6 – Social Class (cont'd) Week 7 – Mid-Term Small Group Reports Week 8 – The Affect of Race & Ethnicity on Schooling Week 9 – Race & Schooling (cont'd) Week 10 – A Look at Social Class, Race & Schooling in Japan Week 11 – Social Class, Race & Schooling In Japan (Cont'd) Week 12 – Social Class, Race & Schooling In Japan (Cont'd) Week 13-15 – Educational Journeys: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Selected readings provided in-class	In-class participation (30%), Reading Packets, (20%), Small Grp Report, (10%), Article Summary & Critique x 2 (20%), Final Presentation (20%)

06 年度以降	英語専門講読　II （Social Inequality & Education）	担当者	Ｅ．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
The Fall course continues exploring the inequalities, which exist in our society by applying various theoretical frameworks that attempt to analyze the structural aspects of schooling related to the production and maintenance of social equalities and inequalities. We will consider how some of the larger social inequalities influence formal schooling. We will discuss questions related to what kinds of inequality are created by educational policies and institutions themselves, along with the related question of what practices are developed to address these inequalities and promote more equitable and socially just schooling practices.	Week 1 – Introduction to Course, Equality of Opportunity Week 2 – Social Stratification & Minorities Week 3 – Immigration & Schooling Week 4 – Immigration (cont'd) Week 5 – Indigenous Peoples & Education Week 6 – Indigenous Peoples (cont'd) Week 7 – Case study reports Week 8 – Gender & Schooling Week 9 – Gender (cont'd) Week 10 – Tracking & Educational & Social Stratification Week 11 – Policies that Create Social & Educational Inequality Week 12 – Teacher-Student Relationships & Achievement Week 13 – 15　Final Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Selected readings provided in-class	In-class participation (30%), Reading Packets, (20%), Case Study Report, (10%), Article Summary & Critique x 2 (20%), Final Presentation (20%)

06 年度以降	英語専門講読　I （生成文法入門）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の１つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。	1　Introduction 2　Overview 3　Overview 4　Overview 5　Phrase Structure 6　Phrase Structure 7　Phrase Structure 8　Binding 9　Binding 10　Binding 11　Binding 12　Empty Pronoun PRO 13　Empty Pronoun PRO 14　Review 15　Review ※　上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社	平常点＆授業参加率（30%）、レポート＆試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降	英語専門講読　II （生成文法入門）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の１つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。	1　Anaphors 2　Anaphors 3　Anaphors 4　Government 5　Government 6　Types of Subject 7　Types of Subject 8　Types of Subject 9　Pronouns 10　Pronouns 11　Pronouns 12　Referential Expressions 13　Referential Expressions 14　Review 15　Review ※　上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社	平常点＆授業参加率（30%）、レポート＆試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降	英語専門講読　I （生成英語統語論への誘い）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英語の文で動詞が不定詞節を伴う構造は興味のある問題を提起する. この授業では, 英語の不定詞補文構造の意味上の主語の特徴を繰り上げ構文と制御構文に関する説明を著名な言語学者 Andrew Carnie (アリゾナ大学・言語学教授)の著書の一部を読みながら考察する. **講義概要**: A. Carnie (2013) *Syntax: A Generative Introduction.*（第3版）の第15章 “Raising, Control, and Empty Categories”をテキストとして用いる. この章では繰り上げ構文と制御構文を扱っている. 繰り上げ構文とは, 補文の主語が主節に繰り上げられ, 補文が不定詞節になって, その結果, 不定詞の意味上の主語が欠落する構造を持つ構文である. 制御構文はとは最初から意味上の主語が欠落している不定詞節である. この授業では, Andrew Carnieの著書を丁寧に読み, 英語力の向上を目指しながら, 生成統語論の重要なテーマである不定詞構文とその意味上の主語に関する問題を考察する.	1. 繰り上げ構造と制御構造 (1) 2. 繰り上げ構造と制御構造 (2) 3. 繰り上げ構造と制御構造 (3) 4. 二種類の繰り上げ構造 (1) 5. 二種類の繰り上げ構造 (2) 6. 二種類の繰り上げ構造 (3) 7. 二種類の制御構造 (1)〈中間試験〉 8. 二種類の制御構造 (2) 9. 二種類の制御構造 (3) 10. 意味上の主語の決定と制御構造 (1) 11. 意味上の主語の決定と制御構造 (2) 12. 意味上の主語の決定と制御構造 (3) 13. もう一つの空主語 pro (1) 14. もう一つの空主語 pro (2) 15. 不定詞の意味上の主語に関するまとめ〈期末試験〉
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: Andrew Carnie (2013) *Syntax: A Generative Introduction.* Third Edition.Wiley-Blackwell.（プリント使用）	予習の状況, 受講状況, 中間試験, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる.

06 年度以降	英語専門講読　I （米国のアフリカ系アメリカ人の文化）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
米国のアフリカ系アメリカ人の歴史を理解しながら、彼らのコミュニティにおける文化的表象に注目し、社会的背景との関連をみながら、深く理解していく。 主に、音楽（ジャズ、ソウル音楽、ヒップホップなど）を扱うが、関連したアート、映画の鑑賞も行う。	1　講義の概要 2　黒人のスタイル 3　口承文化の伝統 4　ナラティブ 5　ジャズ 6　ジャズ 7　ソウル音楽 8　ファンク 9　ヒップホップ 10　ヒップホップ 11　スポーツ 12　アート 13　アート 14　講義のまとめ 15　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	授業中の態度　30% グループワーク　20% 期末試験　50%

06 年度以降	英語専門講読　II （米国のラティーノ文化）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
米国の最大マイノリティ、ラティーノの理解することは、米国社会の理解に欠かせない。ラティーノ集団のなかから、メキシコ系、プエルトリコ系、キューバ系、サルバドル系、ドミニカ系についての概要についての文献を読んだ後、それぞれの社会で生成されている文化現象をみていく。 各集団の音楽鑑賞、および文学と詩を読みながら、社会的歴史的背景も理解しながら、理解していく。	1　講義の概要 2　ラティーノとは？ 3　メキシコ系集団 4　メキシコ系集団 5　プエルトリコ系集団 6　プエルトリコ系集団 7　サルバドル系集団 8　キューバ系集団 9　ドミニカ系集団 10　サルサ 11　サルサ 12　ヒップホップ 13　レゲトン 14　講義のまとめ 15　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布	授業中の態度　30% グループワーク　20% 期末試験　50%

06 年度以降	英語専門講読　I （ディズニー文化を読む）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
Disney 映画、そしてそれを核として広がる壮大なDisney 文化の世界は、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。 この授業では、まず、テーマパーク「ディズニーランド」と幾つかのアトラクションについて書かれた論文数篇を読んだ後、Walt Disney 研究の第一人者Bob Thomas の著作を通じて、『白雪姫』から『シンデレラ』まで、戦前戦中までの長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡をたどっていきます。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。	1. 春学期コース・オリエンテーション 2. テーマパーク論を読む① 3. テーマパーク論を読む② 4. テーマパーク論を読む③ 5. Launching the Animated Feature 6. Seven Dwarfs for Snow White 7. New Tools 8. Disney's Folly 9. Pinocchio 10. Fantasia 11. Bambi 12. Economizing: Dumbo 13. The New Studio, the Strike, and the War 14. Cinderella Restores the Glory 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas, Bob, *Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast*, Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。	平常授業における授業貢献度、課題や提出物等の内容、および期末試験（論述中心の筆記試験）の成績から、総合的に評価する。

06 年度以降	英語専門講読　II （ディズニー文化を読む）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の軌跡をたどります。秋学期は、戦後から、Walt 亡き後のスタジオの作品（『美女と野獣』まで）を扱います。 受講者の皆さんには、引き続きテキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。	1. The Anthology Features 2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice) 3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter Pan) 4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&T) 5. Sleeping Beauty Awakens / Walt Disney's Last Films 6. Carrying on the Tradition 7. The Black Cauldron / A New Regime and a Rebirth 8. Who Framed Roger Rabbit 9. Triumph: The Little Mermaid / The Rescuers Down Under 10. Beauty and the Beast ① 11. Beauty and the Beast ② 12. Beauty and the Beast ③ 13. Beauty and the Beast ④ 14. Beauty and the Beast ⑤ 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas, Bob, *Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast*, Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。	平常授業における授業貢献度、課題や提出物等の内容、および期末試験（論述中心の筆記試験）の成績から、総合的に評価する。

06 年度以降	英語専門講読　I （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、英国の作家ジョージ･オーエルの小説 *Nineteen Eighty-four*（1948 年作品）を読む。 ここで描かれているのは、ビッグ･ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は３つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。 人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”)」である。この２０世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。	初回の授業はイントロダクション､その後は１５回目まで、毎回講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。折をみて、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末課題を課す。 第１回　イントロダクション 第２回～１５回 上記の授業内容を毎回行う
テキスト、参考文献	**評価方法**
George Orwell *Nineteen Eighty-four* Penguin	授業への貢献度６０％、期末課題４０％ 授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。

06 年度以降	英語専門講読　II （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き。	春学期の続き。
テキスト、参考文献	**評価方法**
George Orwell *Nineteen Eighty-four* Penguin	授業への貢献度６０％、期末課題４０％ 授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。

06 年度以降	英語専門講読　I （Language, Thought, and Culture）	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
There is a centuries-long debate concerning the influence of language on both a person's thought processes and behavior, and on the construction of a culture's world view. Some scholars have stated that the effect of language is minimal at best, while others claim that the effects of language pervade all aspects of thought and reality-construction. This course will survey the history of this debate and examine recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture. A word of advice: This course will require careful reading of an English textbook that many students will find very challenging. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.	1　Introduction 2-3　Naming the rainbow 4-5　A long-wave herring 6-7　The rude populations 8-11　Those who said our things before us 12-14　Plato and the Macedonian swineherd 15　Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
Through The Language Glass. Guy Deutscher. 2010. Picador Press: NY.	Essays 40% Test 30% Notebook 30%

06 年度以降	英語専門講読　II （Language, Thought, and Culture）	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
There is a centuries-long debate concerning the influence of language on both a person's thought processes and behavior, and on the construction of a culture's world view. Some scholars have stated that the effect of language is minimal at best, while others claim that the effects of language pervade all aspects of thought and reality-construction. This course will survey the history of this debate and examine recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture. A word of advice: This course will require careful reading of an English textbook that many students will find very challenging. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.	1　Review and a look ahead 2-4　Crying Whorf 5-7　Where the sun doesn't rise in the east 8-10　Sex and Syntax 11-12　Russian Blues 13-14　Forgive us our ignorances 15　Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
Through The Language Glass. Guy Deutscher. 2010. Picador Press: NY.	Essays 40% Test 30% Notebook 30%

06 年度以降	英語専門講読　I （戦後国際政治史）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお毎週、英文和訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に２年生は注意して欲しい。この授業と併せて、国際政治史に関する授業を履修することを進める。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも５ページ分は読んでおくこと。	１．　この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第１週） ２．　各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第 2～第 15 週）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert J. McMahon, *Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2003.	評価は次の２点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト（70%）。欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

06 年度以降	英語専門講読　II （戦後国際政治史）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてらうので、予習が不可欠になる。なお毎週、和文英訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に 2 年生は要注意。この授業と併せて、永野が担当する「国際関係特殊講義」の授業の履修を進める。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも５ページ分は読んでおくこと。	１．　この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第１週） ２．　各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第 2～第 15 週）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert J. McMahon, *Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2003.	評価は次の２点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト（70%）。欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （ビデオゲーム研究）	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
デジタルメディアの発達は、人間と表象との関係をどのように変容させたのか。私が担当する授業では、おもな題材としてビデオゲームを取りあげながら、現代の技術的環境における人間とメディアとの関係性について、テキスト講読をつうじて考察していく。 春学期に開講される「英語専門講読Ⅰ」では、主要な講読の対象としてジェスパー・ジュールの*Half-Real: Video Games between Real Rules and Fictional Worlds*を選定する。これは昨今におけるビデオゲーム研究の重要な成果のひとつであり、ビデオゲームがわれわれにもたらしつつあるものを見極めるうえで有用な一冊であるといえる。	1　概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2　ビデオゲームについて【講義】 3　ビデオゲームについて【講義】 4　ビデオゲームについて【講義】 5　テキストを読む【講読】 6　テキストを読む【講読】 7　テキストを読む【講読】 8　テキストを読む【講読】 9　テキストを読む【講読】 １０　テキストを読む【講読】 １１　テキストを読む【講読】 １２　テキストを読む【講読】 １３　研究発表 １４　研究発表 １５　研究発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
Jesper Juul. *Half-Real: Video Games between Real Rules and Fictional Worlds.* The MIT Press.	平常点　40%、　プレゼンテーション　30% レポート　30%

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （ロラン・バルトの記号論）	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
２０世紀後半における記号論の展開を考える上で、言語学者フェルディナン・ド・ソシュールが規定した「言語記号」概念を非言語的な領域にまで拡張したロラン・バルトの功績は重要といえる。 秋学期に開講される「英語専門講読Ⅱ」では、主要な講読の対象としてロラン・バルトの *Elements of Semiology* を選定する。本書の輪読を通して、記号論的なプログラムのもつ可能性と限界を理解していくことが本講義の目的となる。	1　概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2　記号論について【講義】 3　記号論について【講義】 4　記号論について【講義】 5　テキストを読む【講読】 6　テキストを読む【講読】 7　テキストを読む【講読】 8　テキストを読む【講読】 9　テキストを読む【講読】 １０　テキストを読む【講読】 １１　テキストを読む【講読】 １２　テキストを読む【講読】 １３　研究発表 １４　研究発表 １５　研究発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
Roland Barthes . *Elements of Semiology*. Hill and Wang.	平常点　40%、　プレゼンテーション　30% レポート　30%

06 年度以降	英語専門講読　I （異文化コミュニケーションの理論）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This course is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts, and develop creativity and (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give oral presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English. This course is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. ＊内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論a, b」を履修済みであること、かつTOEIC800点以上の英語能力を有していることが望ましい。	1. Introduction to the course 2. Overview (Ch.1, pp. 1-4) 3. Approaching IC (Ch. 2, pp. 5-17) 4. The genealogy of IC (Ch. 3, pp. 18-24) 5. The genealogy of IC (Ch. 3, pp. 24-35) 6. Language and culture (Ch. 4, pp. 36-43) 7. Language and culture (Ch. 4, pp. 43-56) 8. Nation and culture (Ch. 5, pp. 57-65) 9. Nation and culture (Ch. 5, pp. 65-75) 10. IC at work (Ch. 6, pp. 76-83) 11. IC at work (Ch. 6, pp. 84-95) 12. Workshop 1 13. Workshop 2 14. Summary 15. Wrap-up

テキスト、参考文献	評価方法
Piller, I. (2013). *Intercultural communication: A critical introduction. Edinburgh.* UK: Edinburgh University Press.	Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)

06 年度以降	英語専門講読　II （異文化コミュニケーションの理論）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This course is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts, and develop creativity and (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give oral presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English. This course is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. ＊内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論a, b」を履修済みであること、かつTOEIC800点以上の英語能力を有していることが望ましい。	1. Introduction to the course 2. Review of the spring semester 3. IC for sale (Ch. 7, pp. 96-101) 4. IC for sale (Ch. 7, pp. 101-110) 5. Intercultural romance (Ch. 8, pp. 111-120) 6. Intercultural romance (Ch. 8, pp. 120-127) 7. IC and exclusion (Ch. 9, pp. 128-132) 8. IC and exclusion (Ch. 9, pp. 132-143) 9. IC in a multilingual world (Ch. 10, pp. 144-156) 10. IC in a multilingual world (Ch. 10, pp. 144-156) 11. Workshop 1 12. Workshop 2 13. Workshop 3 14. Summary 15. Wrap-up

テキスト、参考文献	評価方法
Piller, I. (2013). *Intercultural communication: A critical introduction. Edinburgh.* UK: Edinburgh University Press.	Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)

06 年度以降	英語専門講読　I （ディスコース分析）	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
時事、演説、論文、広告、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の言語形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと首尾一貫性（coherence）、さらに、レジスター変数（ideational, interpersonal, textual）、テクストタイプ、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルターナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テクストの語彙文法的(lexico-grammatical)分析を、実際のコンテクストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テクストが孕むクリティカルな意味のポテンシャルを、説得力ある言語分析によって浮上させることである。この中庸の感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテクストを、分析したり解釈したりする自信がついてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションが今からとても楽しみである。	1．導入　方法論、評価システムの説明など 2．時事　現代アメリカ情勢 3．Web 情報 I　TED（http://www.ted.com/） 4．演説 I　Steve Jobs スタンフォード大卒業式祝辞 5．学術論文 I　Critical Discourse Studies 関連 6．Web 情報 II　CCHR（http://www.cchr.org/） 7．演説 II　Martin Luther King Jr. 8．学術論文 II　Political Language 9．Web 情報 III　http://www.prisonplanet.com/ 10. 企業広告　“Think Different” (Apple) 11. 洋楽歌詞 Taylor Swift その他 12. プレゼンテーション&ディスカッション I 13. プレゼンテーション&ディスカッション II 14. プレゼンテーション&ディスカッション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
基本的には教室でハンドアウトを配布するが、Portal 等で教材のシェアを行うこともある（具体的方法は授業時に指示する）。	授業参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×５頁以上）＝20%; 自己評価＝20%。４回以上欠席は単位を与えない。

06 年度以降	英語専門講読　II （ディスコース分析）	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ目的及び方法で、異なる題材を採り上げる。時事、演説、論文、物語、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の言語形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと首尾一貫性（coherence）、さらに、レジスター変数（ideational, interpersonal, textual）、テクストタイプ、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルターナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テクストの語彙文法的(lexico-grammatical)分析を、実際のコンテクストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テクストが孕むクリティカルな意味のポテンシャルを、説得力ある言語分析によって浮上させることである。この中庸の感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテクストを、分析したり解釈したりする自信がついてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションが、この授業の有終の美を飾ることは間違いないと思う。	1．導入　方法論、評価システムの説明など 2．時事　ワクチン・医療と健康 3．Web 情報 I　TED（http://www.ted.com/） 4．演説 I　Abraham Lincoln ゲティスバーグ演説 5．学術論文 I　Discourse in Society 関連 6．Web 情報 II　http://stormcloudsgathering.com/ 7．演説 II John F. Kennedy ~ Lyndon B. Johnson 8．学術論文 II　Noetic Science 9．Web 情報 III　http://www.paulcraigroberts.org/ 10. 物語　Aesop’s Fables 等 11. 洋楽歌詞 Cold Play その他 12. プレゼンテーション&ディスカッション I 13. プレゼンテーション&ディスカッション II 14. プレゼンテーション&ディスカッション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。 割当教室：E-309
テキスト、参考文献	**評価方法**
基本的には教室でハンドアウトを配布するが、Portal 等で教材のシェアを行うこともある（具体的方法は授業時に指示する）。	授業参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×５頁以上）＝20%; 自己評価＝20%。４回以上欠席は単位を与えない。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ（火２） （ツーリズム研究の現代的課題）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究の対象となる諸事象、とくに近年関心が寄せられている主要な観光形態について、基礎的な理解を得ることを目的とする。 具体的には、*key concepts in tourist studies*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムが抱える課題について理解を深めたい。 各履修者が項目を分担して担当する。担当者は補助文献等を用いながら他の履修者に内容を解説し、それをもとに議論する。テキストは、該当部分を担当者がコピーすること。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Sustainable Tourism 4、Eco Tourism /SIT 5、Cultural Tourism /Heritage Tourism 6、Sports and Adventure / Festivals and Events Tourism 7、Art Tourism/ Gastronomic Tourism 8、Film and TV Tourism/ Literary Tourism 9、Rural Tourism /Urban Tourism 10、Health and Wellness Tourism/ Religious and Spiritual Tourism 11、Backpacking/ Mature Tourism 12、Dark Tourism/ Ethical Tourism 13、Gay Tourism/ Sex Tourism 14、総合討論 15、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) *key concepts in tourist studies.* Sage.	授業内発表 40%　授業への参加 30%　期末課題 30%

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ（火２） （ツーリズム研究の方法と理論）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究における主要な方法や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。 *key concepts in tourist studies*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。 各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を全訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、該当部分を担当者がコピーすること。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Business Tourism/ Economics of Tourism 4、Experience Economy/ e-Tourism 5、Crisis Management /Destination Management 6、Geography of Tourism /Planning Tourism 7、Regeneration 8、Sociology of Tourism /Anthropology of Tourism 9、Authenticity 10、Tourist Gaze 11、Identity 12、Mobility 13、Post Tourism 14、総合討論 15、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) *key concepts in tourist studies.* Sage.	授業内発表 40%　授業への参加 30%　期末課題 30%

06 年度以降	英語専門講読　I （英語教育・SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[概要と目的] 　言語習得は人間ならではの能力、知識、技能が複雑に絡み合った不思議な現象です。その中でも第二言語習得（SLA: second language acquisition）は学習環境、学習者の年齢・動機付け・適正等の個人差要因、教授法など、さらに多くの要素が絡み合っているもので、高度な研究の対象になり得ます。 　この授業では SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文（一つの論文は十数頁）を講読します。実証研究とは、研究者が持つ疑問（Research question(s)）に対する答えを求める際に、実際にデータをとって、数量的および質的にデータ分析を行い、得られた結果の提示とその考察を行うタイプの研究です。実証研究論文を読み進めるにあたっては、Research question の答えが何かを期待しながら読み解く面白さがあります。また、その論文の研究方法が妥当かを、受講生の皆さんに議論してもらうことも含めます。 　これらの活動により、SLA 研究の専門的な知識を得るだけではなく、ロジカルな思考の訓練、高度な英文を読み解くスキル育成を目指します。	1.　【ガイダンス】実証研究とは何か 2.　実証研究論文の一例（練習用日本語論文） 3.　論文（1-1）：実証研究体験、内容理解の確認 4.　論文（1-2）：内容理解の確認 5.　論文（1-3）：内容理解の確認 6.　論文（1-4）：ディスカッション 7.　論文（2-1）：実証研究体験、内容理解の確認 8.　論文（2-2）：内容理解の確認 9.　論文（2-3）：内容理解の確認 10.　論文（2-4）：ディスカッション 11.　論文（3-1）：実証研究体験、内容理解の確認 12.　論文（3-2）：内容理解の確認 13.　論文（3-3）：内容理解の確認 14.　論文（3-4）：ディスカッション 15.　【まとめ】学期末レポートの課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本国内で publish された第二言語習得にかかわる 実証研究論文（英文）	毎回の授業中での活動（55%） 学期末レポート（45%）

06 年度以降	英語専門講読　II （英語教育・SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[概要と目的] 　春学期同様、SLA 実証研究論文を講読していきます。秋学期は、海外で出版されたジャーナルの中から論文を選びます。海外における SLA 研究の場合、目標言語が英語ではない場合や、学習環境が日本とは異なる場合もあり、その点がまた興味深くもあります。 　論文の内容確認は日本語で行いますが、秋学期は授業中のディスカッションおよび学期末レポートは英語によります。論文をよく読み、その中で使用されている専門用語やアカデミックな表現を習得できるよう、自らアウトプットする練習を兼ねています。	1.　【ガイダンス】 　論文（1-1）：実証研究体験 2.　論文（1-2）：内容理解の確認 3.　論文（1-3）：内容理解の確認 4.　論文（1-4）：内容理解の確認 5.　論文（1-5）：内容理解の確認 6.　論文（1-6）：Summary 7.　論文（1-7）：Discussion 8.　論文（2-1）：実証研究体験 9.　論文（2-2）：内容理解の確認 10.　論文（2-3）：内容理解の確認 11.　論文（2-4）：内容理解の確認 12.　論文（2-5）：内容理解の確認 13.　論文（2-6）：Summary 14.　論文（2-7）：Discussion 15.　【まとめ】Guidance on the final report
テキスト、参考文献	**評価方法**
海外で publish された第二言語習得にかかわる 実証研究論文（英文）	毎回の授業中での活動（55%） 学期末レポート（45%）

06 年度以降	英語専門講読　I （Language & Teaching）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the story of language, taking in phonetics, development, social uses, the Internet, endangered languages, and so forth. By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.	Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter and topic. Week 3: Selected chapter and topic. Week 4: Selected chapter and topic. Week 5: Selected chapter and topic. Week 6: Selected chapter and topic. Week 7: Quiz I. Journals due. Week 8: Selected chapter and topic. Week 9: Selected chapter and topic. Week 10: Selected chapter and topic. Week 11: Selected chapter and topic. Week 12: Selected chapter and topic. Week 13: Selected chapter and topic. Week 14: Selected chapter and topic. Week 15: Quiz II. Journals due.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Crystal, D. *A Little Book of Language*. (Yale University Press).	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

06 年度以降	英語専門講読　II （Language & Teaching）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the story of language, taking in phonetics, development, social uses, endangered languages, and so forth. By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.	Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter and topic. Week 3: Selected chapter and topic. Week 4: Selected chapter and topic. Week 5: Selected chapter and topic. Week 6: Selected chapter and topic. Week 7: Quiz I. Journals due Week 8: Selected chapter and topic. Week 9: Selected chapter and topic. Week 10: Selected chapter and topic. Week 11: Selected chapter and topic. Week 12: Selected chapter and topic. Week 13: Selected chapter and topic. Week 14: Selected chapter and topic. Week 15: Quiz II. Journals due.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Crystal, D. *A Little Book of Language*. (Yale University Press).	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

06 年度以降	英語専門講読　I （子どもの言葉獲得）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ヒトが「ことばを学ぶ」ということについて、(1) 乳幼児が母語（L1）を獲得する、および、(2) 第二言語（L2）や外国語(FL)として習得する、という 2 つの側面からいくつかのトピックを読み、その基礎を学ぶ。 また、(2)に関しては、英語学習者・指導者として、特に英語らしい音の獲得の問題点に目を向け、知識を得る。 テキストは比較的やさしい入門書である。ある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、正確な読解力と分析的な視点を養う。 講義概要 学生は毎回の予習が前提となり，精読の練習をする。内容について，教員が解説・補足をし、また質疑応答・議論を行う。各章の後に担当者が配布資料とともにまとめを発表する。 ＜メッセージ＞ ・コツコツ: 専門的なものを読むことは最初は少し大変かもしれないが、例年見ていると，少しずつ慣れていく。こつこつと継続することで、年度末には必ず読解力向上が実感できると思われる。進度や理解をチェックしながら進めて行くので，一緒に頑張りましょう。	1. Introduction, 1st Language Acquisition（乳幼児の母語獲得） 2. (O'Grady, 2005) Ch 2 WORD HUNT（語をさがせ！） Ch 2-1 Where are the words 3. Ch 2-2 How children find words 4. Ch 2-2 (2) 5. Ch 2-3 Learning Inflection 6. Ch 2-3 (2) 7. Ch 6 TALKING THE TALK（音を聞く、音を出す！） Ch 6-1 An ear for Language, Ch 6-2 Can you hear that? 8. Ch 6-3 Babbling, 6-4 Early vowels and consonants 9. Ch 6-5 Making adjustments 10. Ch 5 WHAT SENTENCES MEAN（文の積み木） 11. Ch 5-1 What a word can do, Ch 5-2 Two is better than one 12. Ch 5-3 Passive Tenses 13. Ch 5-4 Understanding things that aren't there 14. Ch 5-5 Understanding pronouns 15. Ch 5-6 Can you quantify that?
テキスト、参考文献	**評価方法**
O'Grady, William (2005) *How Children Learn Language*. Cambridge University Press.（ISBN: 10: 0521531926） その他　配布資料	授業参加（準備・参加）:約 25%、課題・クイズ：約 25%、試験：約 50%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。

06 年度以降	英語専門講読　II （外国語習得　音の中心に）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 春学期に引き続き読み進め，さらなる読解力を養う。 講義概要 春学期に同じ	1. Ch 9 2nd Language Acquisition（第二言語習得） 2. (P&R, 2004) Ch 9 Issues in Second-Language Acquisition 3. Other Linguistic Factors, Exercise A 4. Exercise A (2) 5. Patterns in Second –Language Acquisition, Phonology, Exercise B（音の問題） 6. Syntax, Exercise D（統語の問題） 7. Review Exercises 8. (Katz, 2013) Ch 9 Perusing the Phonological Rules of English（英語の音を詳しく） 9. Rule 1: Stop Aspiration, Rule 2: Aspiration Blocked by /s/ 10. Rule 3: Approximant Devoicing, Rule 4: Unreleased Stops 11. Rules 5, 6 and 7: Glottal Stopping 12. Rule 8: Alveolar Tapping 13. Rules 9 and 10: Syllabic Consonants (Nasals, Liquids) 14. Rule 11: Dentalized Alveolars, Rule 12: Velarized Laterals, Rule 13 Nasalized Vowels 15. Applying the Rules, Exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Parker, Frank and Riley, Kathryn. (2009). *Linguistics for Non-Linguists*. (5th ed.) Allin and Bacon.（ISBN: 10: 0132464268） Katz, William. (2013). *Phonetics for Dummies*. John Wiley and Sons Inc. (ISBN: 10: 1118505085). その他　配布資料	授業参加（準備・参加）:約 25%、課題・クイズ：約 25%、試験：約 50%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。

06 年度以降	英語専門講読　I （現代国際関係論）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係論の中でも民主化、「アラブの春」、核拡散、北朝鮮情勢などの個別イシューを扱う。教材としては、*Foreign Affairs*、*Current History*、*World Affairs*、*Foreign Policy* などに掲載された論文を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。 基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、発表を行ってもらう。 授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。 なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。	第 1 回　オリエンテーション、発表担当者決め 第 2～15 回　要約、発表、ディスカッション （論文） ・U.S. National Intelligence Council, Global Trends 2025: *A Transformed World*, November 2008. ・Wang Jisi, China's Search for a Grand Strategy, *Foreign Affairs*, March/ April 2011. ・African Child Mortality: The Best Story in Development, *The Economist*, May 19, 2012. ・Bill McKibben, Climate Change, *Foreign Policy*, January/ February, 2009.

テキスト、参考文献	評価方法
適宜配布する。	授業への参加態度、要約、発表、レポートの総合評価とする。

06 年度以降	英語専門講読　II （現代国際関係論）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係論の中でも米中関係、国連改革、人口増加、エネルギー問題などの個別イシューを扱う。教材としては、*Foreign Affairs*、*Current History*、*World Affairs*、*Foreign Policy* などに掲載された論文を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。 基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、発表を行ってもらう。 授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。 なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。	第 1 回　オリエンテーション、発表担当者決め 第 2～15 回　要約、発表、ディスカッション （論文） ・Joshua Kurlantzick, Innovation's Long March, *Bloomberg Businessweek*, July 2, 2012. . ・Francis Fukuyama, The Future of History: Can Liberal Democracy Survive the Decline of the Middle Class?, *Foreign Affairs*, January/ February 2012. ・Christopher Rhoads, Peacekeepers at War, *The Wall Street Journal*, June 23-24, 2012. ・Africa: MCC and Coca-Cola's Shared Commitment to Water, *all Africa.com*, March 21, 2012.

テキスト、参考文献	評価方法
適宜配布する。	授業への参加態度、要約、発表、学期末レポートの総合評価とする。

06 年度以降	英語専門講読　I （異文化理解の基礎と応用）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要

　この授業では，異文化間コミュニケーション論に関する基礎的な文献から専門的な文献までを読みます．春学期は特に，一般コミュニケーションに関する基本的な知識を学習した上で，異文化コミュニケーションの概論的な文献の内容を理解することを目的にします．

　授業は，グループワークが中心です．担当箇所についてのグループ発表の後，内容に関する質疑応答やディスカッション，担当者による補足説明と解説という形で進めていきます．グループ発表では，文献の内容を簡潔かつ具体的に説明することが求められます．コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し，その経験の中にあふれていて，学生諸君も必ず体験していることです．このことを念頭に置いて，受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし，毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています．目指すのは「学生の，学生による，学生のための授業」です．

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. プレゼンテーションの準備，方法，資料の作成
3. 異文化コミュニケーション研究の意義（講義）
4. 〜14. グループプレゼンテーションによる授業を行います．グループは，受講生確定後に決定します．文献は随時配布します．
15. 春学期のまとめ

テキスト、参考文献

1）その他にコピー教材を配布します．
2）心理学，社会学，物理学，統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など．

評価方法

グループワーク（準備，発表の仕方，発表内容），授業への貢献度（質疑応答．議論への参加），予習確認テスト，学期末レポートまたは試験により評価します．

06 年度以降	英語専門講読　II （異文化理解の基礎と応用）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要

　この授業では，異文化コミュニケーション論に関する専門的な文献（書籍・論文）を読みます．この際，より専門的な内容について書かれた英文を読む技術や専門書に見られる書き方のルールについて知り，研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します．

　秋学期では，特にいくつかの理論について書かれた文献を読むため，文献中に見られるそれぞれに概念やそれらの違い，およびその関連性を正しく理解しながら読み進めていくことを最大の目的にします．

　授業は，グループワークが中心です．担当箇所についてのグループ発表の後，内容に関する質疑応答やディスカッション，担当者による補足説明と解説という形で進めていきます．コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し，その経験の中にあふれていて，学生諸君も必ず体験していることです．このことを念頭に置いて，受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし，毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています．目指すのは「学生の，学生による，学生のための授業」です．

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. 〜14. グループプレゼンテーションによる授業を行います．文献は随時配布します．
15. 秋学期のまとめ

テキスト、参考文献

1）コピー教材を配布します．
2）心理学，社会学，物理学，統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など．

評価方法

グループワーク（準備，発表の仕方，発表内容），授業への貢献度（質疑応答．議論への参加），予習確認テスト，学期末レポートまたは試験により評価します．

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ（火４） （現代東南アジア諸国の経済・政治）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は以下の３点です。 ①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。 ②東南アジアの地域研究（area studies）のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。 ③効果的なプレゼンテーション・スキルを身につける。 これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、金子担当の英語専門講読（現代東南アジアの経済・政治）Ⅰ（春）と同Ⅱ（秋）は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で１時間程度の英文読解力を計るためのテスト（国際政治経済の時事問題に関する英文和訳：辞書なし）を実施します。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回～第 15 回：テキストのチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答，討論、さらにフォローアップ（次週）を行います。 テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2013*, ISEAS, 2013.（約 360 頁、価格は 2500 円程度）。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。この他に下記の資料もサブ・テキストとして使用します。 CIA, The World Factbook (https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/) ・テキストは担当者が授業開始前に一括注文します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業計画欄を参照のこと。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。	授業内活動参加、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外します。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ（火４） （現代東南アジア諸国の経済・政治）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。 授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、金子担当の英語専門講読（現代東南アジアの経済・政治）Ⅰ（春）と同Ⅱ（秋）は継続性が強いため、本授業（Ⅱ）の履修については春学期のⅠを履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回～第 15 回：テキストのパート（チャプター）に沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト： I Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2013*, ISEAS, 2013.（約 360 頁、価格は 2500 円程度）。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。この他に下記の資料もサブ・テキストとして使用します。 CIA, The World Factbook (https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/) ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業計画欄を参照のこと。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。	授業内活動参加、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外します。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高価なため、コピーを配布します。	毎回出席をとります。授業日数の１／３以上欠席された方は単位をあげません。遅刻２　回で欠席１回にカウント。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （米国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
米国ユダヤ人史の概説書を使用します。	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ（火４） （グローバルな眼でアジアを読む）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思います。 グループごとにプレゼンテーションを行ないます。４人～５人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。 グループは２週間を担当し、次のグループに交代します。 第１週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょう。 第２週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思います。	１．オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 ６つのグループを編成 グループ発表の日程を調整 ２．グループ発表のテーマ候補 以下の中から、グループごとに選びます。 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）など
テキスト、参考文献	**評価方法**
Asian Survey（A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2013.	プレゼン資料、プレゼンテーション、授業内活動参加、質疑応答への貢献度などによって評価します。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ（火４） （グローバルな眼でアジアを読む）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思います。 グループごとにプレゼンテーションを行ないます。４人～５人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。 グループは２週間を担当し、次のグループに交代します。 第１週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょう。 第２週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思います。	１．オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 ６つのグループを編成 グループ発表の日程を調整 ２．グループ発表のテーマ候補 春学期に扱っていない国を、以下の中から選びます。 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）など
テキスト、参考文献	**評価方法**
Asian Survey（A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2013.	プレゼン資料、プレゼンテーション、授業内活動参加、質疑応答への貢献度などによって評価します。

06 年度以降	英語専門講読　I （映画批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　アルフレッド・ヒッチコック監督の映画作品を諸哲学的立場から批評した論考を精読する。精読を通して映像テクストの表象分析とはいかなるものであるかを考察する。講義においては以下の３点が探求のテーマとなる。１）理論とは何か、２）批評とは何か、３）レトリック研究とは何か。これら３点のテーマについて、映画の綿密なテクスト分析を実践し、この映画の可能性に含まれた文化的意義を探っていく。 **講義概要** 　映像という表象手段によってコミュニケートされる映画をテクストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映像というレトリックの手段が哲学を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を綿密に読み込み、さらに理論的な背景を加味しながら理解していく。この講義の目的は、映画をエンターテイメントとして楽しむのではなく、映画からレトリック理論の探究という今まで意識してこなかったであろう「読み」を行うことである。如何にして理論的な「読み」の重要性を映画というテクストを通じて見いだすことができるか。これが、学生が講義と活発な討論で探求する主題となる。したがって、テクストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め各自で観ておくことが必須である。	1. Course Orientation 2. *Sabotage*: Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia 3. *Sabotage*: Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia 4. *Rope*: Nietzsche and the Art of Murder 5. *Rope*: Nietzsche and the Art of Murder 6. *Psycho*: Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil 7. *Psycho*: Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil 8. *The Birds*: Plato and Romantic Love 9. *The Birds*: Plato and Romantic Love 10. Featherless Bipeds: The Concept of Humanity in *The Birds* 11. Featherless Bipeds: The Concept of Humanity in *The Birds* 12. Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in *Breakdown* 13. Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in *Breakdown* 14. Review of chapters 15. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics. ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2007)	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。

06 年度以降	英語専門講読　II （映画批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
同上	1. Course Orientation 2. *Veritigo* and the Pathologies of Romantic Love 3. *Veritigo* and the Pathologies of Romantic Love 4. On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in *North by Northwest* 5. On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in *North by Northwest* 6. Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in *North by Northwest* 7. Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in *North by Northwest* 8. Democracy Adrift in *Lifeboat* 9. Democracy Adrift in *Lifeboat* 10. *Rear Window*: Hitchcock's Allegory of the Cave 11. *Rear Window*: Hitchcock's Allegory of the Cave 12. *Rear Window*: Looking at Things Ethically 13. *Rear Window*: Looking at Things Ethically 14. Review of chapters 15. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics. ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2007)	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ（水１） （アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は３つあります。第１に、国際関係論や地域研究（area studies）にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第２に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第３に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定されたパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春）と同Ⅱ（秋）は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で１時間程度の英文読解力を計るためのテスト（国際政治経済の時事問題に関する英文和訳：辞書なし）を実施します。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回～第 15 回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト：下記のシリーズの中から article 選択 ISEAS, *ISEAS Monitor Series*, ISEAS. ISEAS, *ISEAS Perspective Series*, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。 ・テキストについては、担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時にプリントして配布（場合によっては受講者各自にダウンロードとプリントを任せます）。事前入手の必要はありません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時に印刷して配布。事前入手の必要はありません。	授業内活動参加、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外します。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ（水１） （アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春学期）と同Ⅱ（秋学期）は継続性が強いため、本授業（Ⅱ）の履修については春学期のⅠを履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回～第 15 回：指定したテキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト：下記のシリーズの中から article 選択 ISEAS, *ISEAS Monitor*, ISEAS. ISEAS, *ISEAS Perspective Series*, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。 ・テキストについては、担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時にプリントして配布（場合によっては受講者各自にダウンロードとプリントを任せます）。事前入手の必要はありません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時に印刷して配布。事前入手の必要はありません。	授業内活動参加、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外します。

06 年度以降	英語専門講読　I （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
『怒りの葡萄』(*The Grapes of Wrath*, 1939)、『エデンの東』(*The East of Eden,* 1952)の著者であり、1962 年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck(1902-1968)は、20 世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、寓話的中編『真珠』(*The Pearl, 1947*)を中心に彼の作品を扱ってゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインベックの他の作品と比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。 授業には予習をして臨んで下さい。	1:　Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介 2:　小説を読む楽しみについて／修辞法解説 3:　Introduction by Linda Wagner-Martin 読解 4:　*The Pearl* の時代的文化的背景 5:　Native American について 6:　*The Pearl* 読解　　Chapter 1 7:　　同上 8:　*The Pearl* 読解　　Chapter 2 9:　　同上 10:　*The Pearl* 読解　　Chapter 3 11:　　同上 12:　Chapter 1~3 について　詳細解説と問題提起 13:　Chapter 1~3 について　　学生発表 14:　　Review 15:　テスト／期末レポート回収

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：John Steinbeck, *The Pearl* (Penguin Classics)	授業参加度（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

06 年度以降	英語専門講読　II （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、*The Pearl* を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。 ＊授業には予習をして臨んで下さい。	1: 前期レポートについてグループ発表 2:　　同上 3:　*The Pearl* 読解　　Chapter 4 4:　　同上 5:　*The Pearl* 読解　　Chapter 5 6:　　同上 7:　*The Pearl* 読解　　Chapter 6 8:　　同上 9:　Chapter 4~6 について　詳細解説と問題提起 10:　Chapter 4~6 について　　学生発表 11:　　同上 12:　関連資料　読解と考察 13:　　同上 14:　Review 15:　テスト／期末レポート回収

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：John Steinbeck, *The Pearl* (Penguin Classics)	授業参加度（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （英語圏の現代演劇）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 10～15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、理由の如何を問わず、単位を認めません。	＊　第 1 回の授業の資料は中央棟 5 階 504 研究室前に用意しておきます。事前に準備してから出席すること。 毎回授業開始時に英語の vocabulary テストを行います。 教室で読むテキストは、第 1 回～15 回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 また、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。 Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも、英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。 指定する演劇の観劇レポート（450 字以上 500 字以下）に関することなど、詳細は教室にて説明します。

テキスト、参考文献	評価方法
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です	毎回授業開始時に行う英語 vocabulary テストで 60%。 観劇レポート（450～500 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修です。2 編提出しない場合は単位を認めません。 学期末に定期試験はしません。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （英語圏の現代演劇）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 10～15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、理由の如何を問わず、単位を認めません。	＊　秋学期から履修する人は、第 1 回の授業の資料について、必ず事前に問い合わせください。 毎回授業開始時に英語の vocabulary テストを行います。 教室で読むテキストは、第 1 回～15 回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 また、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。 Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも、英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。 指定する演劇の観劇レポート（450 字以上 500 字以下）に関することなど、詳細は教室にて説明します。

テキスト、参考文献	評価方法
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です	毎回授業開始時に行う英語 vocabulary テストで 60%。 観劇レポート（450～500 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修です。2 編提出しない場合は単位を認めません。 学期末に定期試験はしません。

06 年度以降	英語専門講読　I （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
インコタームズ®（Incoterms®）とは、国際商業会議所（the International Chamber of Commerce; ICC）が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。数次の改訂を経て、現在、最新版のIncoterms®2010と旧版のIncoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。インコタームズ®を貿易取引に採用すれば、FOBやCIF等の貿易条件（trade terms）の略号を表示することにより、売主と買主の義務、費用負担、貨物の引渡し場所などが明確になり、誤解や紛争が防げます。 　ところで、貿易実務やビジネス・コミュニケーションの学習者にとって不可欠な知識でありながら、インコタームズ®だけに焦点をあてて広く深く勉強するといった機会はこれまでほとんどありませんでした。そこで、この授業では、海外の文献を使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、単に実務的な知識を身につけるだけでなく、いわゆるロジスティクスの観点からも貿易条件を考察します。（下欄に続く）。	1.　春学期の授業内容および授業計画の説明 2.　Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件の概略 3.　E 類型（出荷地条件）の詳細 4.-5.　F 類型（主要運賃買主負担条件）の詳細 6.-8.　C 類型（主要運賃込み条件）の詳細 9.-11.　D 類型（到着条件）の詳細 12.　改正米国貿易定義(1941)と Incoterms®2000 の比較 13.-14.　主要貿易条件を用いた輸出入価格の積算訓練 15.　春学期の総復習および質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
Petersen, Catherine J.,　*Incoterms® 2000 and Incoterms®2010:　A Practical Review,*　Global Training Center Inc., 2011　および配布プリント	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

06 年度以降	英語専門講読　II （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
（上欄から続く）春学期は、Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の範囲（価格の構成要素）、危険負担の分岐点（貨物の引渡し場所）、適用可能な運送手段などの点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練を行います。また、特に米国との貿易で混乱を生じやすい「改正米国貿易定義」(Revised American Foreign Trade Definitions, 1941）の貿易条件についても学習する機会をもうけます。 　秋学期は、Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件について、Incoterms®2000 からの変更点を中心に詳細かつ正確に学習した後、各々の貿易条件の長所と短所を売主と買主の立場からそれぞれ検討して、国際ロジスティクス（logistics）の観点から有利な貿易条件を選択する戦略考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。 　この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクスなどに興味があり、これらの分野への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益な知識を提供できるものと確信しています。その一方、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くなければ最後まで履修を継続することが難しいかもしれません。くれぐれも熟慮して履修の決定をして下さい。	1.　秋学期の授業内容および授業計画の説明 2.　Incoterms®2000 から Incoterms®2010 への変更点 3.　Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件の概略 4.-7.　「いかなる単数または複数の輸送手段にも適した」7 条件（EXW, FCA, CPT, CIP, DAT, DAP, DDP）の詳細 8.-10.　「海上および内陸水路輸送のための」4 条件（FAS, FOB, CFR, CIF）の詳細 11.-12.　各々の貿易条件についての売主側および買主側からみた長所と短所の検討 13.　貿易条件の誤用事例の紹介と問題点の検討 14.　国際ロジスティクスの観点から有利な貿易条件を選択する戦略の検討 15.　秋学期の総復習および質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
Petersen, Catherine J.,　*Incoterms® 2000 and Incoterms®2010:　A Practical Review,*　Global Training Center Inc., 2011　および配布プリント	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ（水２） （英語でグローバル社会を語る）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、以下の３つの目標（チャレンジ）が設定されています。 第１の目標は、グローバル化した国際関係の中で、主要メディアが取り上げたトピック（新聞・雑誌記事）に注目して討論することです。 第２の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第３の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 テキストは、英語圏を中心に発行された新聞、週刊誌、月刊誌に掲載された記事です。 毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。 課題テーマに関するプレゼン資料（レジュメ）を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。重複履修は原則として出来ません。	受講生の人数が確定した後、プレゼンテーションのテーマと発表者を適宜、受講生と相談しながら決めます。最終的に６つのグループを作ります。 第１回　　オリエンテーション （授業の進め方、テーマに関する事例の紹介） 第２回～７回 受講生によるプレゼンと討論 第８回　　まとめ 第９～１４回 受講生によるプレゼンと討論 第１５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
アメリカの雑誌『フォーリン・アフェアーズ』などに掲載された記事を適宜配布します。	プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ（水２） （英語でグローバル社会を語る）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、以下の３つの目標（チャレンジ）が設定されています。 第１の目標は、グローバル化した国際関係の中で、主要メディアが取り上げたトピック（新聞・雑誌記事）に注目して討論することです。 第２の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第３の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 テキストは、英語圏を中心に発行された新聞、週刊誌、月刊誌に掲載された記事です。 毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。 課題テーマに関するプレゼン資料（レジュメ）を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。重複履修は原則として出来ません。	受講生の人数が確定した後、プレゼンテーションのテーマと発表者を適宜、受講生と相談しながら決めます。最終的に６つのグループを作ります。 第１回　　オリエンテーション （授業の進め方、テーマに関する事例の紹介） 第２回～７回 受講生によるプレゼンと討論 第８回　　まとめ 第９～１４回 受講生によるプレゼンと討論 第１５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
アメリカの雑誌『フォーリン・アフェアーズ』などに掲載された記事を適宜配布します。	プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。

06 年度以降	英語専門講読　I （Culture and Communication）	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This course provides intensive training on reading different types of articles to build and develop integrated reading skills.	1. Introduction 2. The Importance of NVC 3. Greetings: Kiss, Bow or Shake Hands 4. Smile across cultures 5. The Picture Paints a Thousand Words 6. Body Language: Is It Important 7. The Confusing World of Gestures 8. Time Value Across Cultures 9. Interpersonal Space and Distance 10. Space Communication Style 11. The Tempura Metaphor 12. The Ping-Pong Metaphor 13. Gender Styles in Communication 14. Culture and Communication Style 15. Summary and Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.

06 年度以降	英語専門講読　II （Culture and Communication）	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This course provides intensive training on reading different types of challenging articles to build and develop integrated reading skills.	1. Review of First Term 2. Computer for Literacy? 3. The Power of You Tube 4. SNS: Addicting? 5. Fashion in Italy and around 6. Self-Disclosure across Cultures 7. Self-Assertiveness across Cultures 8. The Skills of Active Listening 9. Conflict Management 10. Culture Values: Are they Changing? 11. Ethnocentrism 12. Barrier to Communication: Stereotypes 13. Barrier to Communication: Prejudice 14. Barrier to Communication: Discrimination 15. Summary and Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.

06 年度以降	英語専門講読　I （音声が「言語音」となるしくみ）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 日ごろ意識しない様々な音声現象（子供のおしゃべり・空耳など）が実はある程度音響音声学の理論で説明がつくという面白さに気付く。現象から仮説を立て、実験・分析をもって実証する、という過程の大切さを理解する。 概要 英語音声学の基本概念を元に、日常に見られる様々な現象の実例を通して学習する。授業では各章を事前に読んでおくことを前提に進めるので、予習が肝要となる。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. コース概要２：音声学と音響音声学について 3. 第１章：音声とは 4. 第２章：音響音声学の基礎 5. 第３章：母音の知覚 6. 第４章：子音の知覚 7. 第１章～４章のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. 第５章：カテゴリー知覚（範疇知覚） 10. 第６章：音声知覚の運動理論 11. 第７章：弁別的素性と音声素性検出器 12. 様々な音声現象と最新の研究（１） 13. 様々な音声現象と最新の研究（２） 14. ＜期末テスト＞ 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
ジャック・ライアルズ 著／今富摂子・荒井隆行・菅原勉 監訳／新谷敬人・北川裕子・石原健 訳 『音声知覚の基礎』（海文堂、2003 年）	中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

06 年度以降	英語専門講読　II （音声が「言語音」となるしくみ）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 日ごろ意識しない様々な音声現象（子供のおしゃべり・空耳など）が実はある程度音響音声学の理論で説明がつくという面白さに気付く。現象から仮説を立て、実験・分析をもって実証する、という過程の大切さを理解する。 概要 英語音声学の基本概念を元に、日常に見られる様々な現象の実例を通して学習する。授業では各章を事前に読んでおくことを前提に進めるので、予習が肝要となる。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. コース概要２：音声学と音響音声学について 3. 第８章：音響的不変性の理論 4. 第９章：両耳分離聴 5. 第 10 章：並列分散処理モデルーボトムアップ対トップダウン 6. 第 11 章：乳児の音声知覚 7. 第８章～11 章のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. 第 12 章：音声知覚の発達 10. 第 13 章：動物の音声知覚 11. 第 14 章：音声知覚の障害 12. 様々な音声現象と最新の研究（１） 13. 様々な音声現象と最新の研究（２） 14. ＜期末テスト＞ 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
ジャック・ライアルズ 著／今富摂子・荒井隆行・菅原勉 監訳／新谷敬人・北川裕子・石原健 訳 『音声知覚の基礎』（海文堂、2003 年）	中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

06 年度以降	英語専門講読　I （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will approach the topics in second language acquisition from myths, and from questions that you might have about language learning as non-specialist teacher candidates. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the teacher training program.	1. Introduction 2. Reflecting on your own language learning 3. Myth 1: Language learning and age 4. Presentation and discussion 5. Presentation and discussion 6. Myth 2: Bilingualism 7. Presentation and discussion 8. Presentation and discussion 9. Myth 3: Input, output, and interaction 10. Presentation and discussion 11. Presentation and discussion 12. Myth 4: Attention and noticing 13. Presentation and discussion 14. Presentation and discussion 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Second Language Acquisition Myths S. Brown & J. Larson-Hall (Uni. Of Michigan Press)	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)

06 年度以降	英語専門講読　II （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will approach the topics in second language acquisition from myths, and from questions that you might have about language learning as non-specialist teacher candidates. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the teacher training program.	1. Introduction 2. Reviewing myths 1 to 4 3. Myth 5: Explicit and implicit learning 4. Presentation and discussion 5. Presentation and discussion 6. Myth 6: Correction and recasts 7. Presentation and discussion 8. Presentation and discussion 9. Myth 7: Individual differences 10. Presentation and discussion 11. Presentation and discussion 12. Myth 8: Social approaches 13. Presentation and discussion 14. Presentation and discussion 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Second Language Acquisition Myths S. Brown & J. Larson-Hall (Uni. Of Michigan Press)	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)

06 年度以降	英語専門講読　I （History of International Relations）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course examines the history of international relations from the beginning of the First World War to the end of the Cold War. It attempts to clarify the process in which contemporary international politics took shape as it is today. The spring semester will cover the period between the beginning of the First World War to the end of the Second World War. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. There will be quizzes and/ or assignments every week. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students wishing to learn international relations in English.	1. Introduction 2. The Second Phase of World War I (1) 3. The Second Phase of World War I (2) 4. The World in Postwar Confusion (1) 5. The World in Postwar Confusion (2) 6. The Return of Relative Stability (1) 7. The Return of Relative Stability (2) 8. Midterm Examination 9. The Collapse of the International Order (1) 10. The Collapse of the International Order (2) 11. The Beginning of War in East Asia and Europe (1) 12. The Beginning of War in East Asia and Europe (2) 13. World War II after Pearl Harbor (1) 14. World War II after Pearl Harbor (2) 15. Course Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
有賀貞『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）	Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

06 年度以降	英語専門講読　II （History of International Relations）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on the Cold War period. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students wishing to learn international relations in English.	1. Introduction 2. The Onset of the Cold War (1) 3. The Onset of the Cold War (2) 4. Turbulence in East Asia (1) 5. Turbulence in East Asia (2) 6. The Post-Stalin USSR and East-West Relations (1) 7. The Post-Stalin USSR and East-West Relations (2) 8. Midterm Examination 9. The Retreat of Western European Imperialism (1) 10. The Retreat of Western European Imperialism (2) 11. Vietnam and the Reorientation of American Foreign Policy (1) 12. Vietnam and the Reorientation of American Foreign Policy (2) 13. The End of the Cold War (1) 14. The End of the Cold War (2) 15. Course Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
有賀貞『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）	Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （ツーリズムの現状と課題）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国を訪問する外国人旅行者は、昨年過去最高の１０００万人を突破したが、我が国のツーリズムはいまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムを理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。 講義概要： 　本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	１．Orientation ２．Outline of Tourism in Japan ３．Japan's World Heritage Site ４．Presentation & Discussion 1-(1) ５．Presentation & Discussion 1-(2) ６．Presentation & Discussion 1-(3) ７．Presentation & Discussion 1-(4) ８．Culture of Japan & "Cool Japan" ９．Travel & Tourism Competitiveness １０．Japanese National Culture １１．Pros and Cons of Japanese Tourism １２．Presentation & Discussion 2-(1) １３．Presentation & Discussion 2-(2) １４．Presentation & Discussion 2-(3) １５．Presentation & Discussion 2-(4)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストを適宜配布する。	受講姿勢、講義参画：７０％ プレゼンテーションとレポート：３０％

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （The Leaders of Airline Business）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　本講義においては、ＬＣＣモデル創設の原点に立ち返り、ＬＣＣモデル創出の背景、成功の秘訣、また、その企業をリードした名経営者の手法を学習する。 講義概要： 　航空は大変重要な産業であるが、米国における航空の重要性は我が国の比ではない。米国はライト兄弟による人類初飛行以来、たえず世界をリードしている航空の最先進国である。近年ＬＣＣ（低コスト航空会社）が注目を集めているが、その原点は米国にあり、この新しいビジネスモデルは、小規模な航空会社が大手航空会社との競争に打ち勝つために創造したものであった。しかし、同様のモデルを採用しながらも破綻した企業もあり、本学習を通して企業経営の成功と失敗の本質の考察も行う。	１．Orientation ２．Outline of LCC ３．PSA's Modest Beginning ４．Southwest's Early Years ５．Response to Local and National Regulation and Deregulation ６．PSA's Diversification versus Southwest's Focus ７．Kelleher – The Founder as CEO ８－９．Southwest versus Traditional Carriers: Different Approaches to Expansion １０．The Southwest Effect １１．The End of an Era? １２．Presentation & Discussion (1) １３．Presentation & Discussion (2) １４．Presentation & Discussion (3) １５．Presentation & Discussion (4)
テキスト、参考文献	**評価方法**
"*Entrepreneurs, Managers, and Leaders- What the Airline Industry Can Teach Us About Leadership* "の対象ページを配布する。	受講姿勢、講義参画：７０％ プレゼンテーションとレポート：３０％

06 年度以降	英語専門講読　I （小さき人々の歴史――変化する英国社会を読む）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
2004 年の英国のベスト・セラーのひとつ、Andrea Levy の *Small Island*（全 439 頁）を読みます。この小説は出版の年に Whitbread Book of the Year と Orange Prize for Fiction を、翌年には Common Wealth Writers' Prize を受賞。2007 年には、史上最大規模のリーディング・プロジェクトが英国全土で展開されました。これほどまでにひろく読まれることになった作品、その魅力はなにでしょか。 おもしろい構成をしています。1948 と Before とそれぞれ題されたセクションが交互に登場し、各セクションに属する章のひとつひとつには、Queenie、Hortense、Gilbert、Bernard と、主要登場人物の名前がついています。 1948 年とは、実は英国の現代史にとって大きな意味をもつ年です。その年の 6 月、英国が現在のような、多人種・他民族・多文化社会へと変貌していく大きなモメントとなる出来事があったのです。1948 年 6 月 23 日、429 人のジャマイカ人移民を乗せた船が、ティルベリー港に到着しました。戦後の（旧）植民地から英国への大量移民の幕開けです。「母国」の戦後復興の労働力として植民地からやってきた黒い肌の英国籍の人々は、よりよい生活を夢みながら、船を下りました。しかし彼らを待ち受けていた現実は、期待とは大きく異なるものでした。一方、移民を受け入れ 側の白い英国人たちの生活もいやおうなく変化していきます。	1. Introduction –小さき人々の戦争と記憶の小説 2. Prologue—I thought I'd been to Africa. 3.<1948> chap1+2—幻滅のロンドン(1) 4. <Before>chap3-5—Hortense のジャマイカ、成長と失恋 5. chap6-8—Gilbert と Hortense 6. <1948>chap9&10—幻滅のロンドン(2) 7.<Before> chap11-14—英国空軍軍人 Gilbert の夢と失望 8. chap15-17—Gilbert と Queenie の出会い、差別と友情 9. chap18-19—Gilbert の再出発 10. <1948> chap20-22—それぞれの 1948。 Hortense, Gilbert &Queenie 11.<Before> chap23-24—Queenie の幼年時代と青春 12. chap25-27—Queenie と Bernard 出会い、結婚、すれ違う二人、そして戦争へ 13. chap28-29—戦場へと去る Berard と Queenie の恋 14. まとめの講義+レポート指導 15. まとめの講義 2 ＋レポートガイダンス 授業は原則として、1. 全体での導入　2. グループワーク　3. 全体での確認　4. プレゼンテーションの構成で行ないます。また受講生の希望によって、授業の一部は英語で行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Andrea Levy, *Small Island* ＋ ハンドアウト テキストは版を統一するために、講師が一括して Amazon でとりよせ、第一回目の授業で購入していただきます。	授業内活動参加　40%　小テスト　30% レポート　30%

06 年度以降	英語専門講読　II （小さき人々の歴史――変化する英国社会を読む）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
（上からの続き） *Small Island* は、英国社会のこの激動の時期と、そこにいたるまでの歴史を、普通の人々の人生を丹念に語ることで描き出します。 歴史とは何でしょう。年表に羅列されるいわゆる歴史上の出来事をつなげたものでしょうか。伝記の主人公たちの人生を総合したものでしょうか。それだけではないでしょう。*Small Island* を読むと、生きられた人生の数だけ歴史の貌があるのだと実感するはずです。Hortense と Gilbert はジャマイカ生まれの黒人。白人の Queenie は英国の田舎のブッチャーの娘。Beranard はロンドン生まれの銀行員の息子。第二次世界大戦と戦後の移民という歴史の動きが、大西洋を隔てた場所にそれぞれ異なる背景をもって生まれた四人の人生をロンドンで交差させます。 作者は両親が 1948 年に英国に移民してきた、ロンドン生まれのジャマイカ系英国人女性。移民第二世代のブラック・ブリティッシュの作家が描く、「小さき人々の歴史」を読みながら、英国社会の変化についても考察します。 テキストを深く理解するには、本文の精読のみならず、歴史・文化・社会についての様々なリサーチも必要ですので、文献検索能力も身につけていただくつもりです。	1. レポートへのコメント 2. <1948>chap30-32—日常の闘い：現実を知る Gilbert と強気の新参者 Hortense 3. chap33-34—三日目のロンドン：Hortense&数年ぶりのロンドン：行方不明の Bernard の帰還 4. <Before>chap35-38—Bernard の戦争 5. chap39-42—Bernard の戦争 6. chap43-45—Bernard の戦争 7. <1948> chap46-48—癒えぬ戦争の傷 8. chap49-51—Hortense の挫折 9. chap52-53—衝撃の事実：Queenie の恋の結果 10. chap54-55—誤解・告白・理解 11. chap56-57—誤解・告白・理解 12. chap58-59—それぞれの出発 13. 講義 Changing Britannia (1) 14. 講義 Changing Britannia (2) 15. 講義　過去を語るとは、歴史とは？ 一回の授業で読む頁数は 20 頁から 30 頁ほどです。
	評価方法
春学期と同じ。	春学期と同じ。

06 年度以降	英語専門講読　I （ビートに関する散文を読む）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
「ビート」について書かれた、おもに、散文を精読する。 この、高度消費社会が浸透した日本。その 50 年以上前にそういった社会の在り方に対して違和感を提示していたビート詩人たち。かれらはなにを考えていたのか。この授業の目的は、そのビート詩人たちが示してくれた道筋を、21 世紀を迎えて 10 数年たった日本において、どのようなこれからの道筋を示してくれるのか、どのような“alternative” なあり方を示してくれるのか、おもに、ビートについて書かれた散文、そしてそれに対応する詩を読んで、これを探りたい。 テーマ系としては、「超高度消費社会」、「時間の空間化」というものがあげられるが、それのみにとどまらない。	1. introduction 2~5. “Variations on a Generation” (Ann Charters) 6. “A Supermarket in California” (AllenGinsberg) 7~11. “*Go* (excerpt)” (John Clellon Holmes) 12~15. “Beat Zen, Square Zen, Zen” (Alan Watts)
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Portable Beat Reader (ed. Ann Charters, Penguin)	授業への参加度、そして、学期末のレポート。

06 年度以降	英語専門講読　II （ビートに関する散文を読む）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、ビートに関する散文を、詩を時折交えながら読む。 世の中のいろいろなものは、連続性を持つことを、こういった散文や詩から認識してもらいたいと思う。 音楽は J-Pop 専門、アルバム単位で聞かず、好きな曲をピンポイントでダウンロードして聞くだけ、そういう学生に最適な授業である。	1. introduction 2~8. “The White Negro” (Norman Mailer) 9~13. “The Game of the Name” (John Clellon Holmes) 14~15. “Piute Creeks”、 “Axe Handles”、 “Pine Tree Tops” (Gary Snyder)
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Portable Beat Reader (ed. Ann Charters, Penguin)	春学期同様。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
時代の変化がますます激しくなってきたことを実感する機会が更に多くなってきましたが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、今の時代にリアルに不安を抱えているのではないでしょうか。 そんな状況の中で、「**詩を学ぶ**」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、**詩を学ぶことも実用的**だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、**「言葉の力」を体感**することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「**詩を学ぶ＝生き方を学ぶ**」と言えるかもしれません。 詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れしたイメージがしにあるとしたら、詩を一面的にしかみていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密接しているものだと思います。（↓に続きます。）	私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます（便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です）。 発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。 1.　ガイダンス 2.　履修確定の学生との確認、グループ＆担当箇所の決定 3-4　オーストラリアの歴史①② 5-6　アボリジニの歴史①② 7-8　アボリジニの神話・伝説①② 9-10　英訳されたアボリジニの詩①② 11-14　英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤ 15.　講義のまとめ **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね**
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。	※ 学期末レポート（**提出しなかった場合不可**）５０％ 授業での参加度（プレゼン発表&発言）５０％ ※ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
（↑からの続きです） 「**オーストラリアを学ぶ**」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しいのではないでしょうか。 それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。（例えば「オーストラリア人とは誰を指すか？」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。） 講義目的をまとめて書くと、「**言葉の力を体感する**」「**オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す**」「**オーストラリアを通して己を考える**」また、発表形式の授業ですので「**自分の言葉で考え、語る**」ことになります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「**自分の意見を他人に正確に伝える**」ことも学んでほしい大事なことです。 授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立つことができたら最高に嬉しく思います。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。 春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。 春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。 1.　ガイダンス 2～14. オーストラリアの詩、精読 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。	※ 学期末レポート（**提出しなかった場合不可**）５０％ 授業での参加度（プレゼン発表&発言）５０％ ※ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降	英語専門講読　I （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得する。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指す。 講義概要： 　1テーマを2週かけて取り上げる。政治や技術、医療などに関する英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱う。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。「通訳I」（木曜1限）および「通訳II」（木曜2限）とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。	1.　オリエンテーション・政治 2.　政治 3.　技術 4.　技術 5.　犯罪 6.　犯罪 7.　中間テスト 8.　IT 通信 9.　IT 通信 10.　産業 11.　産業 12.　医療厚生 13.　医療厚生 14.　期末テスト 15.　春学期の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：　適宜資料を配布する 参考文献：　適宜紹介する	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。

06 年度以降	英語専門講読　II （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得する。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指す。 講義概要： 　春学期に学んだ方法を応用しながら引き続き1テーマを2週かけて取り上げる。テーマは教育、環境、医学、経済など。英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱う。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から続けて履修することが望ましい。「通訳I」（木曜1限）および「通訳II」（木曜2限）とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。	1.　オリエンテーション・教育 2.　教育 3.　国際関係 4.　国際関係 5.　環境 6.　環境 7.　中間テスト 8.　軍事 9.　軍事 10.　医学 11.　医学 12.　経済 13.　経済 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：　適宜資料を配布する 参考文献：　適宜紹介する	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。

06 年度以降	英語専門講読　I （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。そのために、全員が予習して、授業に臨むことが求められます。 講義概要 　ユダヤ系作家（Bernard Malamud 等）の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。 　授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらう場合があります。	1.　授業の進め方などについての説明と「質問表」にもとづく討論による体験授業。 2.　前週に配布した質問表による討論。 3-15.　同様な方法で毎週平均ほぼ 5 から 10 ページ程度読んでいく予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	不定期に課す課題、学期末の定期試験、および平常点（授業・討論への貢献度で、出席点ではない）

06 年度以降	英語専門講読　II （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。そのために、全員が予習して、授業に臨むことが求められます。 講義概要 　ユダヤ系作家（Bernard Malamud 等）の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。 　授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらう場合があります。	1.　春学期定期試験問題の返却と講評。春学期と同じく、質問表による討論。 2.　質問表による討論。 3-15.　同様な方法で毎週平均ほぼ 5 から 10 ページ程度読んでいく予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	不定期に課す課題、学期末の定期試験、および平常点（授業・討論への貢献度で、出席点ではない）

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ（木３） （観光研究入門）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、英語文献の講読を通じて現代ツーリズムについての基礎的な理解を得ることを目的とする。 英語圏の大学で幅広く使用されているテキスト、Goeldner と Ritchie の *Tourism: Principles, Practices, Philosophies*を使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムが抱える課題について理解を深めたい。 授業では、各履修者が決められた項目を分担して担当する。なお、履修人数に応じて個人あるいはグループによる担当を判断する。担当者は補助文献等を用いながら他の履修者に内容を解説し、それをもとに議論する。テキストは、該当部分のコピーを配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Tourism in Perspective(1) 4、Tourism in Perspective(2) 5、Tourism in Perspective(3) 6、Tourism trough the Ages(1) 7、Tourism trough the Ages(2) 8、Career Opportunities 9、World, National, Regional and Other Organizations 10、Passenger Transportation 11、Hospitality and Related Services 12、Organizations in Distribution Process 13、Attractions, Entertainment, Recreation and Other Tourist Draws 14、総合討論 15、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Goeldner, C. and J. Ritchie (2012) *Tourism: Principles, Practices, Philosophies Twelfth Edition.* Wiley.	授業内発表 40%　授業への参加 30%　期末課題 30%

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ（木３） （ツーリズム人類学入門）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、英語文献の講読を通じてツーリズムと文化の動態について、基礎的な理解や視座を得ることを目的とする。 英語圏で使用されているツーリズム人類学の入門書、Peter Burns による An Introduction to Tourism and Anthropologyをテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、ツーリズム人類学についての理解を深めたい。 授業では、各履修者が決められた項目を分担して担当する。なお、履修人数に応じて個人またはグループによって分担する。担当者は補助文献等を用いながら他の履修者に内容を解説し、それをもとに議論する。テキストは、該当部分のコピーを配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Anthropology(1) 4、Anthropology(2) 5、Anthropology(3) 6、Tourism (1) 7、Tourism (2) 8、Tourist 9、Culture 10、The Anthropology of Tourism(1) 11、The Anthropology of Tourism(2) 12、Issues in the Anthropology of Tourism(1) 13、Issues in the Anthropology of Tourism(2) 14、Issues in the Anthropology of Tourism(3) 15、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Burns, P. (1999) *An Introduction to Tourism and Anthropology.* Routledge.	授業内発表 40%　授業への参加 30%　期末課題 30%

06 年度以降	英語専門講読　I （アメリカ現代詩―Gary Snyder 詩集 *Regarding Wave* を読む）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(*Regarding Wave,* 1970) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプリゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。 DVD やＣＤを使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照してください。レポートの書き方については、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html を参照。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. An Introduction to Gary Snyder's poetry 2. "It" 3. "Running Water Music" 4. "Sours of the Hills" 5. "The Wild Edge" 6. "The Wide Mouth" 7. "The Trade" 8. "To Fire" 9. "Love" 10. "The Way Is Not a Way" 11. "In the Night, Friend" 12. "Beating Wings" 13. "Poke Hole Fishing After the March" 14. "Brown" 15. "Meeting the Mountains"

テキスト、参考文献	評価方法
Gary Snyder, *Regarding Wave.* New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4)	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は、評価対象とはしません。

06 年度以降	英語専門講読　II （アメリカ現代詩―Gary Snyder 詩集 *Regarding Wave* を読む）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(*Regarding Wave,* 1970) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプリゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。 DVD やＣＤを使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照。レポートの書き方については、原ゼミの HP の「MLA 論文の書き方」を参照。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. "Before the Stuff Comes Down" 2. "All the Sprit Powers Went to Their Dancing Place" 3. "For Jack Spicer" 4. "Running Water Music II" 5. "Long Hair" 6. "Looking for Nothing" 7. "Stovewood" 8. "For Will Petersen the Time We Climbed Mt. Hiei Cross-Country in the Snow" 9. "Shinkyogoku, Kyoto" 10. "Hiking in the Totsugawa Gorge" 11. "Why I Laugh When Kai Cries" 12. "At Kitano Shrine for the Fair" 13. "The Old Man" 14. "Some Good Things to Be Said for the Iron Age" 15. "Cats Thinking about What Birds Eat"

テキスト、参考文献	評価方法
Gary Snyder, *Regarding Wave.* New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4)	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は、評価対象とはしません。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （グローバル・イシューズを考える）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読し、今日の国際関係の理解に努める。 課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生など、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。 授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定 2　文献①－１ 3　文献①－２ 4　文献①－３ 5　文献②－１ 6　文献②－２ 7　文献②－３ 8　文献③－１ 9　文献③－２ 10　文献③－３ 11　文献④－１ 12　文献④－２ 13　文献④－３ 14　文献⑤－１ 15　文献⑤－２
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、プリントを配布する。	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が 5 回に達すると、評価の対象にならないので注意すること。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （グローバル・イシューズを考える）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読し、今日の国際関係の理解に努める。 課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生など、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。 授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定 2　文献⑥－１ 3　文献⑥－２ 4　文献⑥－３ 5　文献⑦－１ 6　文献⑦－２ 7　文献⑦－３ 8　文献⑧－１ 9　文献⑧－２ 10　文献⑧－３ 11　文献⑨－１ 12　文献⑨－２ 13　文献⑨－３ 14　文献⑩－１ 15　文献⑩－２
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、プリントを配布する。	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が 5 回に達すると、評価の対象にならないので注意すること。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （動詞の意味と文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は，英語の読解力を高めることである。使用するテキストは，英語のテンス，アスペクト及びモダリティに関する書籍である。 講義では，下記のテキストの３章を読んでゆく予定である。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえさえすればそれでよし，というようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて，日本語らしさ，英語らしさについても学ぶことができるはずである。 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。	進度の目安・目標は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。 １．オリエンテーション及び講義（出席は必須である） ２．The Expression of Past Time 1 ３．The Expression of Past Time 2 ４．The Expression of Past Time 3 ５．The Expression of Past Time 4 ６．The Expression of Past Time 5 ７．The Expression of Past Time 6 ８．The Expression of Past Time 7 ９．The Expression of Past Time 8 １０．The Expression of Past Time 9 １１．The Expression of Past Time 10 １２．The Expression of Past Time 11 １３．The Expression of Past Time 12 １４．The Expression of Past Time 13 １５．春学期のまとめと復習

テキスト、参考文献	評価方法
Leech, Geoffrey (2011) *Meaning and the English Verb* (Third Edition). 東京：ひつじ書房.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （動詞の意味と文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は，英語の読解力を高めることである。使用するテキストは，英語のテンス，アスペクト及びモダリティに関する書籍である。 講義では，下記のテキストの４章を読んでゆく予定である。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえさえすればそれでよし，というようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて，日本語らしさ，英語らしさについても学ぶことができるはずである。 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。	進度の目安・目標は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。 １．春学期の復習 ２．The Expression of Future Time 1 ３．The Expression of Future Time 2 ４．The Expression of Future Time 3 ５．The Expression of Future Time 4 ６．The Expression of Future Time 5 ７．The Expression of Future Time 6 ８．The Expression of Future Time 7 ９．The Expression of Future Time 8 １０．The Expression of Future Time 9 １１．The Expression of Future Time 10 １２．The Expression of Future Time 11 １３．The Expression of Future Time 12 １４．The Expression of Future Time 13 １５．秋学期のまとめと復習

テキスト、参考文献	評価方法
Leech, Geoffrey (2011) *Meaning and the English Verb* (Third Edition). 東京：ひつじ書房.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

06 年度以降	英語専門講読　I （現代イギリスの移民の物語）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
〈講義目的〉現代のグローバル化した世界においては、人の「移住」が活発になっています。より豊かな生活を求めて貧しい国から働きに出てくる人もいれば、国内の戦争のためにやむなく「難民」として外国に逃げてくる人もいます。 「移住」とはどんな体験なのか、どんな苦労そして希望があるのか、この講義では一冊の小説をとおして具体的に感じ取ってみたいと思います。この小説のタイトルは、日本語にすれば『ウクライナ語によるトラクター小史』とでも訳せそうで、生真面目そうな感じですが、実はかなり人を食ったタイトルで、中身に書いてあるのは、ウクライナ出身、イギリス在住の80代の男性が、ウクライナから30代の女性を呼び寄せて「歳の差婚」をしようとする悲喜こもごもについて。それが、男性の娘のひとりの視点から、毒舌のきいた英語で語られています。 （下に続く）	第 1 回　イントロダクション 第 2 回～14 回　テキストの講読 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Marina Lewycka, *A Short History of Tractors in Ukrainian* (Penguin, 2006).	課題プリント 2 割、発表 3 割、レポート 5 割。ただし授業回数の 2/3 以上欠席した場合、評価の対象としません。

06 年度以降	英語専門講読　II （現代イギリスの移民の物語）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
（上から続く） この講義では、小説の成り行きをみんなで見届けつつ、小説に書かれていることがどんな社会的現実に対応しているのかを考えていきたいと思います。 〈講義概要〉毎回、10～15 ページ前後を読み進めます。受講者のみんなに毎回の範囲を読んできてもらうほか、担当グループを決めて、その回の範囲について発表してもらいます。 発表のグループ決め、やり方の説明を授業第一回で行いますので、受講を希望する人はかならず一回目の授業から出席してください。	第 1 回　イントロダクション 第 2 回～14 回　テキストの講読 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	課題プリント 2 割、発表 3 割、レポート 5 割。ただし授業回数の 2/3 以上欠席した場合、評価の対象としません。

06 年度以降	英語専門講読　I （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本の多民族・多文化状況について、文化人類学者や社会学者によって書かれた論文の読解・議論を通じて、日本社会の現状や課題について考える。 春学期は、英語圏の大学で広く読まれている日本研究の基本的文献を教材とする。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。 なお週末等を利用して、東京郊外に巡検に出かける可能性もある。	1. 趣旨説明・グループ分け(1 回) （初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。） 2. 各課題についての解説(2~3 回) 3. 基礎文献の講読・議論(3~15 回) テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業時までに用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。 ・ Geographical and Generational Variations ・ Varieties in Work and Labor ・ Gender Stratification and the Family System ・ Minority Groups: Ethnicity and Discrimination ・ Popular Culture and Everyday Life

テキスト、参考文献	評価方法
Sugimoto, Yoshio 2010. *An Introduction to Japanese Society (Third Edition)*. **Cambridge and New York: Cambridge University Press**.	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

06 年度以降	英語専門講読　II （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本の多民族・多文化状況について、文化人類学者や社会学者によって書かれた論文の読解・議論を通じて、日本社会の現状や課題について考える。 秋学期は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、在日フィリピン人女性などについて書かれた英文モノグラフを教材として扱う。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。 なお週末等を利用して、東京郊外に巡検に出かける可能性もある。	1 回 講義 2~14 回　プレゼンテーション 15 回　総合討論・まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
初回の授業で、論文リスト（基本的には学術雑誌所収論文）を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

06 年度以降	英語専門講読　I （米国のポピュラー・ナショナリズム ①）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、ナショナリズムに関する基礎理論を学んだ上で、米国の児童から成人まで一般庶民が抱いている自国のイメージや一般常識をポピュラー・カルチャーとして考察することを目的とします。 授業形式は、読書課題に関するグループ・ワークとグループ発表が中心となります。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。 使用するテキストは、初回の授業で共同購入申請ができるよう、現在、その手続き方法について検討中です。（もちろん各自で購入しても構いません。）	1. Overview of the semester 2. Warm-up activities 3. "The Problem" 4. "What it a nation?" 5. "The nation as a social relation" 6. "Motherland, fatherland, and homeland" 7. "The nation in history" 8. "Whose god is mightier?" 9. "human divisiveness" 10. "Conclusion" 11. Oral reports (TBA) 12. "No More Kings" 13. "Fireworks" 14. Consultation 15. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Steven Grosby, *Nationalism: A Very Short Introduction* (2005, Oxford University Press).	①参加＆貢献度（発表や発言など）：50%（理由にかかわらず、5回以上の欠席で学期成績がFまたは×となります。） ②クイズ：50%

06 年度以降	英語専門講読　II （米国のポピュラー・ナショナリズム ②）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
春学期からの続きです。目的や授業形式は春学期と同じです。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。	1. Overview of the semester 2. Warm-up activities 3. "The Shot Heard 'Round the World" 4. "The Preamble" 5. "Elbow Room" 6. "The Great American Melting Pot" 7. "Mother Necessity" 8. "Sufferin' Till Suffrage" 9. "I'm Just a Bill" 10. "Three-Ring Government" 11. Case Studies 1 (TBA) 12. Case Studies 2 (TBA) 13. Case Studies 3 (TBA) 14. Consultation 15. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント資料及び映像教材を配布又は指定する予定	①参加＆貢献度（発表や発言など）：50%（理由にかかわらず、5回以上の欠席で学期成績がFとなります。） ②クイズ：50%

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ（金３） （米国の対外政策）	担当者	髙木　綾

講義目的、講義概要	授業計画
米国の対外政策、特に日米関係及び米中関係について、その背景と現状を学ぶ。その理由は、グローバル化が進展する世界において、米国と中国は、日本にとってこれまで以上に重要な大国となるためである。本講義では、米国の視点から捉えられた日米関係及び米中関係に関する知識を習得したのち、問題点を見つけ、解決策を模索することを試みる。 講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト（受講者全員が登録される）に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。 有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。	第１週：Introduction （１）Japan-U.S. Relations 第２週：Most Recent Developments 第３週：March 2011 “Triple Disaster” 第４週：Major Diplomatic and Security Issues 第５週：Japan-China Relations 第６週：Alliance Issues 第７週：Economic Issues 第８週：Japanese Politics （２）U.S.-China Relations 第９週：Overview of U.S.-China Relations 第 10 週：Obama Administration Policy Toward China 第 11 週：Security Issues 第 12 週：Taiwan 第 13 週：Economic Issues 第 14 週:Climate Change and Clean Energy Cooperation 第 15 週：Human Rights Issues

テキスト、参考文献	評価方法
米国連邦議会図書館議会調査局（CRS）の報告書を教材とする。(1)Japan-U.S. Relations 及び (2)U.S.-China Relations を扱う。	毎回の要約（４５%）、ディスカッションへの貢献度（１５%）、小テスト（４０%）で評価します。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ（金３） （米国の対外政策）	担当者	髙木　綾

講義目的、講義概要	授業計画
英語専門講読Ⅰ（米国の対外政策）で得た知識を前提に、米国の対外政策、特に米韓関係及び米国のアジア重視政策について学ぶ。春学期で学んだ、日米関係及び米中関係と併せて、日本を取り巻く国際政治経済環境の総合的理解をめざす。 講義の進め方は、春学期と同様である。	第１週：Introduction （１）U.S.-South Korean Relations 第２週：Recent Developments 第３週：North Korea in U.S.-ROK Relations 第４週：South Korea’s Regional Relations 第５週：Security Relations and the U.S.-ROK Alliance 第６週：South Korea-Iran Relations 第７週：Economic Relations 第８週：Nuclear Energy and Non-Proliferation Cooperation 第９週：South Korean Politics （２）Pivot to the Pacific? The Obama Administration’s “Rebalancing” Toward Asia 第 10 週：Introduction 第 11 週：Overall Benefits, Costs, and Risks 第 12 週：Military and Strategic Dimensions of “The Pivot” 第 13 週：Diplomatic Dimensions of the “Pivot” 第 14 週：Economic Aspects of the “Pivot” 第 15 週：１年間の総括

テキスト、参考文献	評価方法
米国連邦議会図書館議会調査局（CRS）の報告書を教材とする。(1) U.S.-South Korean Relations 及び (2) Pivot to the Pacific? The Obama Administration’s “Rebalancing” Toward Asia を扱う。	毎回の要約（４５%）、ディスカッションへの貢献度（１５%）、小テスト（４０%）で評価します。

06 年度以降	英語専門講読　I （地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。 大切なのは身の回りのできることから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。 授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。	1. 授業の進め方について 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 5. Why is Fair Trade so popular? 6. Fair Trade principles and practices 7. Fair Trade histories 8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』 9. Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 教員によるレクチャー（予定） 15. 全体のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
Jacqueline Decarlo, *Fair Trade: A Beginner's Guide* (Oneworld Publications, 2007) ※各自で購入して下さい。	授業内活動参加、レジメ、プレゼン、プレゼンまとめ中間レポート、期末レポート。

06 年度以降	英語専門講読　II （地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。 取り上げる文献は、フェアトレード関連に限定せず、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。	授業では、担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスを行う。

テキスト、参考文献	評価方法
図書館の論文データベース、検索サービスを利用する。	授業内活動参加、レジメ、プレゼン、プレゼンまとめ中間レポート、期末レポート。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅰ（金５） （米国及び中国の対外政策決定過程）	担当者	髙木　綾

講義目的、講義概要	授業計画
米国及び中国は、今後の国際政治の帰趨に影響を及ぼす重要な大国であるといわれる。特に日本においては、両国の政策が大きなインパクトを与えることは必至である。それゆえ、両国がどのような政策を採用するのか、常に注視することが求められている。 本講義では、米国において、諸政策がどのように策定されているのか、そのメカニズムを学ぶ。その目的は、日本の類推によってではなく、米国の対外政策決定過程を理解した上で、諸政策を分析できるようにすることにある。 講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト（受講者全員が登録される）に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。 有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。	第 1 週：Introduction 第 2 週～第 14 週： 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。 1. The Study of American Foreign Policy 2. The Presidency 3. The National Security Council 4. The Department of State 5. The Department of Defense 6. National Security Intelligence 7. The Foreign Economic Bureaucracy 8. Congress 9. Public Opinion 10. News Media 11. Interest Groups 第 15 週：春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Steven W. Hook and Christopher M. Jones (eds.), *Routledge Handbook of American Foreign Policy*, (New York: Routledge, 2012).	毎回の要約（４５%）、ディスカッションへの貢献度（１５%）、小テスト（４０%）で評価します。

06 年度以降	英語専門講読　Ⅱ（金５） （米国及び中国の対外政策決定過程）	担当者	髙木　綾

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、本講義では、中国において、諸政策がどのように策定されているのか、そのメカニズムを学ぶ。その目的は、日本の類推によってではなく、中国の対外政策決定過程を理解した上で、諸政策を分析できるようにすることにある。 講義の進め方は、春学期と同様である。有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。	第 1 週：Introduction 第 2 週～第 14 週： 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。 1. China's Leadership and Foreign Policy 2. China's Think Tanks and Foreign Policy 3. China's National Identity and Foreign Policy 4. Financial Factors in Chinese Foreign Policy Making 第 15 週：1 年間の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
Gilbert Rozman, *China's Foreign Policy: Who makes it, and how is it made?* (New York: Palgrave Macmillan, 2012).	毎回の要約（４５%）、ディスカッションへの貢献度（１５%）、小テスト（４０%）で評価します。

06～12 年度	Academic Writing	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.	1. Course Introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Organization 4.Collecting and synthesizing information 5 Paragraph to short essay 6.Descriptive essay 7.Narrative essay 8.Opinion essay 9.Peer evaluation 10.writing final draft 11.Comparison and contrast essay 12.Paraphrasing 13.Bibliography 14 In-text citations 15.Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced.	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).

06～12 年度	Academic Writing	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself. The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing. The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers. By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.	Week 1: Course Introduction Week 2: Evaluating sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting sources & paraphrasing Week 11: Using in-text citations Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies will be provided by the instructor.	Research Assignments 20% Writing Drafts 20% Participation 20% Final Essay 40%

06～12 年度	Academic Writing	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration: ・ Students will need an English-English dictionary ・ Students will be required to have a notebook	Week 1: Course Introduction Week 2: Evaluating sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting sources & paraphrasing Week 11: Using in-text citations Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies will be provided by the instructor.	Research Assignments 20% Writing Drafts 20% Participation 20% Final Essay 40%

06～12 年度	Academic Writing	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning to write in a foreign language takes time and effort, but it is very satisfying to be able to communicate your ideas in writing. The purpose of this course is to refine the skills acquired in the Basic Essay Writing course. Each student has a different level of skill in writing, but the only way to improve writing skills is to write. The course will introduce and give practice in collecting, organizing and presenting information in a written format in an academic environment. There will be number of short assignments that students will resubmit after receiving feedback and one longer paper on a topic of their choice. Students with a score of less than TOEIC 700 may find this course challenging.	1. Introduction to the course 2. Review of writing basics 1 3. Review of writing basics 2 4. Review of writing basics 3 - writing assignment 5. Critical reading and summary skills 1 6. Summary skills 2 – summary assignment 7. Responding to an article – summary and outlining 8. Responding to an article – summary and outlining 9. Writing assignment –revising and editing 10.Topic for the final paper -outlines 11. Citations and references 12. Writing the first draft – formatting 13. Revising the first draft – proofreading and editing 14. Presenting research – sharing the product 15. Assignment submission and wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
All materials will be provided by the instructor. Reference materials will introduced during the course	Preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%

06～12 年度	Academic Writing	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to further refine academic writing skills. The more students practice, the more enjoyable writing will become. There will be a number of short assignments designed to reinforce class content and to enable students to receive detailed feedback from the instructor. Students should resubmit these assignments because it is common practice in academic writing to revise drafts before final submission. Students will also write one short paper on a topic of their choice. Students with a score of less than TOEIC 700 may find this course challenging。	1. Introduction to the course 2. Writing workshop 1 3. Writing workshop 2 – writing assignment 4. Library research skills 5. Avoiding plagiarism 1 – summary and paraphrase 6. Topics, outlines and academic writing patterns 7. Different sources of information – writing assignment 8. Avoiding plagiarism 2- citations and references 9. Common errors in English – revising drafts 10. Topic for the final paper 11. Research, narrowing the topic and making an outline 12. Questionnaires, graphs and tables 13.Checking the first draft and rewriting 14. Presenting research – sharing the final product 15. Assignment submission and wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
All materials will be provided by the instructor. Reference materials will introduced during the course	Preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%

06～12 年度	Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).

06～12 年度	Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).

06～12 年度	Academic Writing	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
Don't worry! Although the words "Academic Writing" strike fear into the hearts of even many native English-speaking students this course will: 1) help you overcome any fears you may have 2) show you how the process of writing an academic essay on a topic of your choice can be an interesting and rewarding experience In the first third of the course: while I demonstrate the key stages in this process, you will have plenty of time to read your primary text and do research Second third: we shall focus on planning, drafting and formatting your essay Final third: editing - you will learn how to improve your own and your classmates' essays to make them as interesting as possible for their readers	1 Course overview 2 Choosing a good topic 3 Reading the primary text 4 Researching secondary sources 5 Thesis statement ..... 6 Deadline 1: your thesis statement 7 Making your essay outline 8 Writing your first draft 9 MLA format citations & references 10 Using editing checklists ..... 11 Deadline 2: your second draft 12 Peer correction 13 Deadline 3: your final draft 14 Sharing your work & discussion 15 Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook for this course	Evaluation based upon continuous assessment of: class participation - 50% one academic essay - 50%

06～12 年度	Academic Writing	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course we will aim to build upon the writing knowledge and ability students already have, developing their skills in the techniques and practice of writing. We will look at a variety of types of essays and study each step of the writing process in detail. We will also focus upon developing the students' own voices and ability to communicate their opinions through their choice of essay style and topic. This will be an English only class and it will help the students to order and organize their thought processes in English while enjoying improving their academic and general writing skills.	1. Course orientation. 2. Review of paragraph structure. 3. Seven steps: The writing process. 4. Essay analysis. 5. Short essay organization and features. 6. What makes a good essay? 7. Brainstorming and outlining. 8. Writing the first draft. 9. Peer review and editing. 10. Writing the second draft. 11. Citation, references, proofreading, and revision 12. Final draft and review. 13. Timed writing preparation. 14. Timed writing. 15. Course review activities.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Great Writing 4: Great Essays (Heinle, Cengage Learning)	Assessment based on class participation, homework and written compositions.

06 年度以降	Academic Writing	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This course hopes to engage students in practical and useful hands-on exercises based on correct understanding and values of academic writing.	1. Introduction to the Course 2. Looking at the Big Picture: What is AW? 3. Values of Academic Writing: Truth, Evidence, Balance 4. Rules of Thumb 1: “They Say/ I Say” 5. Rules of Thumb 2: Plagiarism 6. Research Work: collecting data 7. Citations: quotations, paraphrasing, summarizing 8. Characteristics of AW1: General VS Specific Purpose: 9. Characteristics of AW2: Types of Essays 10. Expository Writing: Purpose, structure and Development – Draft 1 11. Descriptive Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 2 12. Narrative Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 3 13. Writing of Draft: 14. Writing of Final Essay 15. Summary and Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the 1st day of class.	Summative evaluation will be conducted based on completeness of required paper and quality of submitted work.

06 年度以降	Academic Writing	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This course hopes to engage students in practical and useful hands-on exercises based on correct understanding and values of academic writing.	1. Introduction to the Course 2. Looking at the Big Picture: What is AW? 3. Values of Academic Writing: Truth, Evidence, Balance 4. Rules of Thumb 1: “They Say/ I Say” 5. Rules of Thumb 2: Plagiarism 6. Research Work: collecting data 7. Citations: quotations, paraphrasing, summarizing 8. Characteristics of AW1: General VS Specific Purpose: 9. Characteristics of AW2: Types of Essays 10. Expository Writing: Purpose, structure and Development – Draft 1 11. Descriptive Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 2 12. Narrative Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 3 13. Writing of Draft: 14. Writing of Final Essay 15. Summary and Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the 1st day of class。	Summative evaluation will be conducted based on completeness of required paper and quality of submitted work.

06 年度以降	Academic Writing	担当者	T．ミニオン

講義目的、講義概要	授業計画
Students will also learn how to collect, organize, and synthesize information, and to quote from sources. Students should have ample opportunity to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes. Students should write at least one 1000 or more-word-long essay and revise it.	Lesson 1. Course introduction Lesson 2. Brainstorming and topic selection Lesson 3. Library research skills Lesson 4. Collecting and synthesizing information Lesson 5. Writing the first draft Lesson 6. Citation and references (using MLA) Lesson 7. Writing the second draft Lesson 8. Peer evaluation Lesson 9. Writing the final draft Lesson 10. Writing a summary of the final product Lesson 11. Copy editing Lesson 12. Sharing their final product Lesson 13. Special activity Lesson 14. Class activity Lesson 15. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
None, one resource will be: https://owl.english.purdue.edu/owl/	Participation and completion of all writings are necessary to attain a good grade.

06 年度以降	Academic Writing	担当者	T．ミニオン

講義目的、講義概要	授業計画
Students will also learn how to collect, organize, and synthesize information, and to quote from sources. Students should have ample opportunity to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes. Students should write at least one 1000 or more-word-long essay and revise it.	Lesson 1. Course introduction Lesson 2. Brainstorming and topic selection Lesson 3. Library research skills Lesson 4. Collecting and synthesizing information Lesson 5. Writing the first draft Lesson 6. Citation and references (using MLA) Lesson 7. Writing the second draft Lesson 8. Peer evaluation Lesson 9. Writing the final draft Lesson 10. Writing a summary of the final product Lesson 11. Copy editing Lesson 12. Sharing their final product Lesson 13. Special activity Lesson 14. Class activity Lesson 15. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
None, one resource will be: https://owl.english.purdue.edu/owl/	Participation and completion of all writings are necessary to attain a good grade.

06 年度以降	Academic Writing	担当者	D．ヴェラスコ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to refine students' ability to construct logical, unified, coherent academic essays. The typical class will include a short lecture followed by writing-related activities (group discussions, brainstorming, and peer-review editing). Time will be provided in every class for writing practice. The class will be conducted entirely in English. Students are expected to speak English at all times in the classroom. Students are also expected to spend time outside of class reading, writing, conducting research, and completing assignments. In class, students are expected to participate in class and small-group discussions, volunteer to read their work, and provide constructive feedback to their peers.	Week 1: Course Introduction Week 2: Grammar Trouble Spots Week 3: Choosing a Topic / Brainstorming Week 4: Conducting Research and Note-Taking Week 5: Thesis Statements Week 6: Outlines and Unity Week 7: The Paragraph and Coherence Week 8: Transitions Week 9: Evidence and Support Week 10: In-Text Citations Week 11: Plagiarism Week 12: Introductory Paragraphs Week 13: Concluding Paragraphs Week 14: Editing Drafts Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no textbook for this course. The instructor will provide materials throughout the semester.	1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Essay (30%)

06 年度以降	Academic Writing	担当者	D．ヴェラスコ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to refine students' ability to construct logical, unified, coherent academic essays. The typical class will include a short lecture followed by writing-related activities (group discussions, brainstorming, and peer-review editing). Time will be provided in every class for writing practice. The class will be conducted entirely in English. Students are expected to speak English at all times in the classroom. Students are also expected to spend time outside of class reading, writing, conducting research, and completing assignments. In class, students are expected to participate in class and small-group discussions, volunteer to read their work, and provide constructive feedback to their peers.	Week 1: Course Introduction Week 2: Grammar Trouble Spots Week 3: Choosing a Topic / Brainstorming Week 4: Conducting Research and Note-Taking Week 5: Thesis Statements Week 6: Outlines and Unity Week 7: The Paragraph and Coherence Week 8: Transitions Week 9: Evidence and Support Week 10: In-Text Citations Week 11: Plagiarism Week 12: Introductory Paragraphs Week 13: Concluding Paragraphs Week 14: Editing Drafts Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no textbook for this course. The instructor will provide materials throughout the semester.	1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Essay (30%)

06 年度以降	Academic Writing	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to improve and refine academic writing skills. Students will complete weekly classroom activities. In order to synthesize information to produce clear and coherent discourse, students are expected to work on self-expression and aim for continuous self-improvement. Some of the topics that will be covered in class are: evaluation of basic writing structures, drafting, re-drafting, pre-writing techniques, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, citation, referencing, peer evaluation, library research skills, citation and referencing.	Week 1: Introductions, course outline, course evaluation and requirements. Week 2: Clustering and brainstorming. Week 3: Review, peer evaluation Week 4: Writing Process Week 5: Collecting & synthesizing Week 6: Citation & references (MLA) Week 7: Quiz 1 - 15% Week 8: Compare & contrast essays 1 Week 9: Compare & contrast essays 2 Week 10: Write essay draft # 1 Week 11: Review, feedback & peer edit Week 12: Write essay draft # 2 Week 13: Library Research Skills Week 14: Final draft, review & peer edit Week 15: Quiz 2 - 15%
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.	1. Computer written essay 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%

06 年度以降	Academic Writing	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to improve and refine academic writing skills. Students will complete weekly classroom activities. In order to synthesize information to produce clear and coherent discourse, students are expected to work on self-expression and aim for continuous self-improvement. Some of the topics that will be covered in class are: evaluation of basic writing structures, drafting, re-drafting, pre-writing techniques, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, citation, referencing, peer evaluation, library research skills, citation and referencing.	Week 1: Introductions, course outline, course evaluation and requirements. Week 2: Clustering and brainstorming. Week 3: Review, peer evaluation Week 4: Writing Process Week 5: Collecting & synthesizing Week 6: Citation & references (MLA) Week 7: Quiz 1 - 15% Week 8: Compare & contrast essays Week 9: Compare & contrast essays Week 10: Write essay draft # 1 Week 11: Review, feedback & peer edit Week 12: Write essay draft # 2 Week 13: Library Research Skills Week 14: Final draft, review & peer edit Week 15: Quiz 2 - 15%
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.	1. Computer written essay 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%

06 年度以降	Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay. The topic of the 1000-word essay is selected from a list of issues that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. It will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. This essay assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).

06 年度以降	Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay. The topic of the 1000-word essay is selected from a list of issues that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. It will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. This essay assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).

06 年度以降	College Grammar（月２） Introductory Grammar（再履修）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画2~7参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画7~14参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. 授業概要 2. 文 3. 主部・文型 4. 述語動詞Ⅰ 5. 述語動詞Ⅱ (1) 6. 述語動詞Ⅱ (2) 7. 文の種類・8 品詞 8. 名詞 9. 代名詞 (1) 10. 代名詞 (2) 11. 形容詞 12. 冠詞 13. 副詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar*　開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	授業貢献度 (30%)、期末試験 (70%) を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

06 年度以降	College Grammar（月２） Introductory Grammar（再履修）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、動詞に関連する文法事項を重点的に学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ（授業計画 2~9 参照）。次に、日本人学習者が間違え易い文法事項について学ぶ（授業計画 10~14 参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞　(1) 4. 助動詞　(2) 5. 助動詞　(3) 6. 時制 (1) 7. 時制 (2) 8. 呼応と時制の一致 (1) 9. 呼応と時制の一致 (2) 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞 (1) 13. 関係代名詞 (2) 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	授業貢献度 (30%)、期末試験 (70%) を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

06 年度以降	College Grammar（月５） Introductory Grammar（再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be 動詞の機能（１） 13・Be 動詞の機能（２） 14・Be 動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降	College Grammar（月５） Introductory Grammar（再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC 構文の下位区分（１） ６・SVOC 構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降	College Grammar Introductory Grammar（再履修）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は，英文法そのものに対する理解を深めること及びその方法論を修得することである。学期末には，暗記の対象としてではなく，発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また，英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して，多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。	1. オリエンテーション（出席は必須） 2. 場所扱いか道具扱いか 3. 自動詞＋前置詞は他動詞か 4. 〈道具〉はいつ主語になれるか 5. 再帰代名詞の不思議 6. EAT AT は EAT とどう違うのか 7. Mary hit John on the head.の構文 8. I did the book.＝「私はその本をした」？ 9.「数の一致」はどのように決まるか 10. 絶対複数名詞 trousers の不思議 11. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 12. 秤の変遷：scales から scale への道 13. なぜ in a car なのに on a bus なのか 14. なぜ at night というのに at day とはいわないか 15. まとめと復習 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中右実（1995-2001）「発見の英文法 連載 1～13」『高校英語展望』第 8 号～第 20 号．小学館・尚学図書.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

06 年度以降	College Grammar Introductory Grammar（再履修）	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
レキシカル・グラマーの観点からコミュニケーションに資する英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙（レキシコン）に文法情報（グラマー）が含まれているという前提に立って、語のコア（本質的な意味）に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。 レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ（semantic motivation）」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007 年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。 英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text（テクストにおける文法）の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。	1. 導入　レキシカル・グラマーの世界 2. 前置詞の用法展開 3. Grammar in text I 前置詞の空間的イメージ 4. WILL とテンス 5. Grammar in text II 未来表現とテンス・アスペクト 6. 冠詞の使用原理と名詞チャンクの基本構造 7. Grammar in text III 名詞形への感性を磨く 8. GIVE のコアと構文展開と句動詞 9. Grammar in text IV 基本動詞の表現世界 10. AS の構文的多様性　比較、比例、同時、同様など 11. Grammar in text V 複文構造に慣れる 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:『レキシカル・グラマーへの招待―新しい教育英文法の可能性』（開拓社）. 参考文献:『表現英文法 GFE』（コスモピア）,『イメージでわかる単語帳』(NHK 出版)。	参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×５頁以上）＝20%; 自己評価＝20%。４回以上欠席は単位を与えない。

06 年度以降	College Grammar Introductory Grammar（再履修）	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
春学期から継続して、レキシカル・グラマーの観点からコミュニケーションに資する英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙（レキシコン）に文法情報（グラマー）が含まれているという前提に立って、語のコア（本質的な意味）に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。 レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ（semantic motivation）」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007 年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。 英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text（テクストにおける文法）の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。	1. 導入　レキシカル・グラマーの可能性 2. 前置詞の多義と文法化 3. Grammar in text I 前置詞の把握が解釈を決める 4. TO DO と ING の用法 5. Grammar in text II 不定詞・動名詞・分詞の意味世界 6. WH-構文のネットワーク　疑問詞～関係詞へ 7. Grammar in text III　WH 構文を自在に操る 8. 態度表明を示す法助動詞 MAY, MUST, CAN など 9. Grammar in text IV 話し手の主観を読み解く 10. IT&THAT とその構文展開 11. Grammar in text V　IT・THAT から見えてくること 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ ※ 「前置詞」は春学期も扱っているが、特に重要な項目であるため、敢えて、秋学期も再度扱うものとする。 ※ 上記内容はクラス状況に応じて調整・変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:『レキシカル・グラマーへの招待―新しい教育英文法の可能性』（開拓社）. 参考文献:『表現英文法 GFE』（コスモピア）,『イメージでわかる単語帳』(NHK 出版)。	参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×５頁以上）＝20%; 自己評価＝20%。４回以上欠席は単位を与えない。

06 年度以降	College Grammar Introductory Grammar（再履修）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英文法は，英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである．文は語から構成され，複数の語が句を構成し，句が結合されて文となる．英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている．英語ができるようになるために，この授業では英文法を身に付けることを目的とする． **講義概要**: 英文法を学習する際に，トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である．文全体から句，句から語というような方式をとりながら，春学期ではまず，英文法の基本的な事項のうち，文というものはどのようなものがあるかを考える．文は基本的な文，拡張的な文，派生的な文の三種類に分けられ，基本的な文は5文型によって説明し，拡張的な文は一つの文に二つ以上の節（主語＋述語）を含む文であり，重文や複文として学習する．さらに，文の種類として，疑問文，感嘆文，命令文，受動文，時制などを学習する．	1. 英文法の全体的構成：文型・文法 2. 文：主部を欠く文，「主部 ＋ 述部」，節・句・語 3. 主部：主部の要素と述部の要素 4. 文型（1）：5文型 5. 文型（2）：5文型の拡張，7文型 6. 述語動詞（1）：述部，述語動詞の種類，等位叙述型，補語 7. 述語動詞（2）：自動詞型，自動詞・他動詞両用の動詞 8. 述語動詞（3）：他動詞型，他動詞型の述部；〈中間試験〉 9. 文の種類（1）：文の種類，重文と複文 10. 文の種類（2）：疑問文，感嘆文 11. 文の種類（3）：命令文，否定文 12. 時制（1）：現在時制，過去時制 13. 時制（2）：現在完了形，過去完了形，進行形 14. 態：能動態と受動態の区別，受動態の用法 15. 〈文構造〉を中心とした授業内容のまとめ；〈期末試験〉
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社） 参考書：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』（開拓社）	予習の状況，受講状況，中間試験，期末試験の成績を総合して評価します．なお，単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされます．

06 年度以降	College Grammar（水２） Introductory Grammar（再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be 動詞の機能（１） 13・Be 動詞の機能（２） 14・Be 動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降	College Grammar（水２） Introductory Grammar（再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC 構文の下位区分（１） ６・SVOC 構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降	College Grammar（金２） Introductory Grammar（再履修）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、動詞に関連する文法事項を重点的に学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ（授業計画 2~9 参照）。次に、日本人学習者が間違え易い文法事項について学ぶ（授業計画 10~14 参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞 (1) 4. 助動詞 (2) 5. 助動詞 (3) 6. 時制 (1) 7. 時制 (2) 8. 呼応と時制の一致 (1) 9. 呼応と時制の一致 (2) 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞 (1) 13. 関係代名詞 (2) 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	授業貢献度 (30%)、期末試験 (70%) を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

06 年度以降	College Grammar Introductory Grammar（再履修）	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中学・高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの単語はこんな意味で使用されるのか？」、「この単語の品詞は何だろう？」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず諸用法を丸暗記することでしのいで来たのではないでしょうか。受験から解放された今こそ、こうした疑問について徹底的に考えるチャンスです。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から主に動詞に関する問題を取り上げて、一定の説明を与えることを試みます。使用する教科書『実践ロイヤル英文法』で網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。英文法の諸現象には、まだ十分に説明されていないものがたくさんあります。先生の説明を鵜呑みにするのではなく、皆さんなりの説明を見つけることを試みましょう。	1. 主要な文法体系の概要 （認知文法、生成文法、伝統文法など） 2. 文のタイプ 3. 自動詞と他動詞 4. アスペクトによる動詞の分類 5. 本動詞、助動詞としての be, do, have 6. 時制 7. 完了形 8. 進行形 9. 法助動詞(can, will) 10. 法助動詞(may, should) 11. 態 12. to 不定詞 13. 過去分詞 14. 現在分詞と動名詞 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
綿貫陽・Mark Petersen 著『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)

06 年度以降	College Grammar Introductory Grammar（再履修）	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、英文法について多くの学生が抱きながら、明確な説明を得られないままになっている諸問題について、検討し、納得できる説明を得ることを目指します。 本講座で使用する教科書『実践ロイヤル英文法』で網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。たとえば、なぜ仮定法では時制が過去方向にずれるのでしょうか？　疑問詞と関係詞には、なぜ同じ単語が用いられるのでしょうか？　多くの前置詞は、なぜ空間と時間の両方の文脈で用いることができるのでしょうか？　no と not には、どのような相違があるのでしょうか？　こうした疑問について、こちらから特定の説明法を押し付けることははしませんので、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、認知文法、生成文法、伝統文法など、様々な視点からまとめられた文法体系の考え方を比較、検証し、また自ら思索することによって、皆さんなりの解答を見つけて下さい。	1. 春学期の内容を概観 2. 仮定法 3. 疑問詞 4. 接続詞 5. 関係詞 6. 前置詞 7. 名詞 8. 冠詞 9. 代名詞 10. 形容詞 11. 副詞 12. 比較 13. 否定(完全否定、部分否定、準否定) 14. 否定(no と not の相違、鯨の構文) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
綿貫陽・Mark Petersen 共著『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)

06 年度以降	College Grammar Introductory Grammar（再履修）	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えるのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切です。そうすると、次第に表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、ネイティブスピーカーが無意識に身につけてきた英語の感覚・イメージを探っていく習慣が身につき、結局はこの方法がもっとも効率の良い英語学習の方法である、ということがわかるようになります。この授業は、これまで習ってきた英文法についての説明が、必ずしもネイティブ･スピーカーの持つあるがままの自然な英語知識を分かりやすく反映したものとは限らないという前提に立ち、「なぜそうは言えても、こうは言えないの？」「どうしてそういう意味になるの？」ということに対して「意味の世界」から迫っていきます。	1. 和訳は英語をわからなくする 2. コミュニケーションに必要な文法とは？ 3. 日常言語の中の比喩 4. 多義語の意味も比喩によってつながる 5. 続き 6. 英語の基本構造（自動詞/他動詞構文・受動態の意味） 7. 続き（have と be のイメージ･二重目的語構文） 8. 英語の情報構造 9. a と the の使い方 10. 名詞の２つの用法―可算･不可算の区別はあるの？ 11. 時制の表現法―未来時制はあるの？ 12. 単純･進行・完了相の概念 13. 過去形と丁寧表現 14. 否定の意味 15. 前置詞の意味
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法：認知文法を参照した英語学習法』開拓社 参考書：田中茂範『表現英文法』コスモピア	最終成績は、課題と定期試験および授業への参加度によります。ただし、40 分以上の遅刻を 0.5 回分の欠席とみなし、欠席が 4 回を超えた場合は F となります。

06 年度以降	College Grammar Introductory Grammar（再履修）	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、そしてこれまで習ってきたグラマーにたいしてもおかしなところはおかしいと言えるだけの、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから始めると、次第に英語ということばの学問的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、母語話者の発想法が具現した、厳格かつゆるやかな規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い学習方法である、ということがわかるようになります。この授業では、テキストを基にした講義を聴き、練習問題を解き、そして時には実際の英文の分析をしてもらうことによってそのような規則性を探ります。	1. 文（発話行為・疑問文・命令文・感嘆文） 2. 続き 3. 文の要素（意味役割） 4. 文の構造（動詞型） 5. 文の構造（形容詞型・名詞型） 6. 文の構造（主節・従節） 7. 時制と相（現在・過去・未来） 8. 時制と相（完了相・進行相） 9. 時制と相（話法） 10. 法助動詞 11. 否定 12. 態 13. 情報構造と主題構造 14. 前提と断定 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：村田勇三郎・他『英語の文法』大修館書店 参考書：田中茂範『表現英文法』コスモピア	最終成績は、課題と定期試験および授業への参加度によります。ただし、40 分以上の遅刻を 0.5 回分の欠席とみなし、欠席が 4 回を超えた場合は F となります。

06 年度以降	College Grammar（金３） Introductory Grammar（再履修）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画2~7参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画7~14参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. 授業概要 2. 文 3. 主部・文型 4. 述語動詞Ⅰ 5. 述語動詞Ⅱ (1) 6. 述語動詞Ⅱ (2) 7. 文の種類・8 品詞 8. 名詞 9. 代名詞 (1) 10. 代名詞 (2) 11. 形容詞 12. 冠詞 13. 副詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar*　開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	授業貢献度 (30%)、期末試験 (70%) を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

06 年度以降	College Grammar（金３） Introductory Grammar（再履修）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、動詞に関連する文法事項を重点的に学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ（授業計画 2~9 参照）。次に、日本人学習者が間違え易い文法事項について学ぶ（授業計画 10~14 参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞　(1) 4. 助動詞　(2) 5. 助動詞　(3) 6. 時制 (1) 7. 時制 (2) 8. 呼応と時制の一致 (1) 9. 呼応と時制の一致 (2) 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞 (1) 13. 関係代名詞 (2) 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	授業貢献度 (30%)、期末試験 (70%) を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	P．M．ホーネス

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.	1 Introduction 2 Future, Suprasegmentals (intonation) 3 Simple Past 4 Alibi 5 Alibi 6 Culture Presentation: food & tourist attractions 7 Comparisons and superlatives 8 Conditionals 9 Conditionals 10 Reading presentation 11 Survey: Movies 12 Survey: Personality 13 Culture Presentation 14 Speaking tests 15 Speaking tests (written summaries due) Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Participation (Absence = -5 points) 30 Summary 10 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 30

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	P．M．ホーネス

講義目的、講義概要	授業計画
This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.	1 Introduction 2 Survey: Bilinguals 3 Survey: Dating 4 Culture Presentation: language & art 5 Survey: MASK 6 School festival 7 Survey: Travel 8 Survey: Music 9 Music presentation 10 Presentation preparation 11 Formal Presentation using PowerPoint 12 Formal Presentation using PowerPoint 13 Christmas 14 Speaking tests (written summaries due) 15 Speaking tests Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Participation (Absence = -5 points) 30 Summary 20 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 20

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Let's speak lots of English Together Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Japanese work ethics. 3 Attitudes towards women. 4 Other gender issues. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Let's speak lots of English Together Beat the Monday morning blues with this dynamic and exciting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 Brief introduction/welcome back to class. 2 Computers and society. 3 Ageing Society. 4 The Automobile. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The object of this course is to have students lead a discussion on a topic of their choosing. Students will prepare material and questions in advance and then present their topic to small groups or the class. They will take the role of discussion leader and will be responsible for ensuring an engaging discussion. Preparation and participation as members of the discussion group will also be emphasized. Students will get the chance to voice their opinions on various student generated topics. Group members are responsible for contributing meaningfully in a given discussion.	1. Introduction 2. Contributing to a Discussion - Workshop 3. Current Topics in the News – Teacher Led 4. Current Topics in the News – Teacher Led 5. Leading a Discussion – Workshop 6. Current Topics in the News – Small Group Discussion 7. Current Topics in the News – Small Group Discussion 8. Choosing a Topic – Workshop 9. Student Led Short Discussions 10. Student Led Short Discussions 11. Giving Feedback – Workshop 12. Student Led Discussions 13. Student Led Discussions 14. Student Led Discussions 15. Review and Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text book is required for this course.	Preparation and homework 20%, Contribution as a discussion group member 50%, Performance as a discussion leader 30%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	A．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on the language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions. 5. To encourage experimentation with advanced visual and multimedia techniques.	1. Introductions, course explanation 2. Research and analysis of topic 1 3. Discussion of topic 1; write summary of discussion 4. Presentation of findings/opinions on topic 1 5. Research and analysis of topic 2 6. Discussion of topic 2; write summary of discussion 7. Presentation of findings/opinions on topic 2 8. Research and analysis of topic 3 9. Discussion of topic 3; write summary of discussion 10. Presentation of findings/opinions on topic 3 11. Research and analysis of debate topic 12. Discussion of debate topic; write debate scripts 13. Prepare for team debate 14. Team debate 15. Team debate
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Presentations/Debate: 80%, Participation: 20%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	A．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on the language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions. 5. To encourage experimentation with advanced visual and multimedia techniques.	1. Introductions, course explanation 2. Research and analysis of topic 1 3. Discussion of topic 1; write summary of discussion 4. Presentation of findings/opinions on topic 1 5. Research and analysis of topic 2 6. Discussion of topic 2; write summary of discussion 7. Presentation of findings/opinions on topic 2 8. Research and analysis of topic 3 9. Discussion of topic 3; write summary of discussion 10. Presentation of findings/opinions on topic 3 11. Research and analysis of debate topic 12. Discussion of debate topic; write debate scripts 13. Prepare for team debate 14. Team debate 15. Team debate
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Presentations/Debate: 80%, Participation: 20%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills（火２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to **international** communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills（火２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your ***Summer Break***, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: **"What do you usually do ...?"**: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: **Hallowe'en**: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive ***advice***, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to make a presentation. Discussion about "**EQ**", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: **Thanksgiving**. Song-listening exercise. Student answersto *"What are you thankful for?"* Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: **"How often do you ...?"**: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: **Christmas,** and ***Christmas cultures*** in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about ***New Year's wishes and plans***. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: **"How was your Christmas?"** & **"How was your O Sho Gatsu?"**: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your **"New Year's Resolutions".** Final student presentations. Week 15: Review of *specific* New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: ***future plans*** for the February & March Break.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
This course gives you maximum opportunities to practice and develop the communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II We shall focus on historical events and current affairs issues through 1) research 2) critical reading 3) presentations 4) discussion & debate In the first third of the course: I will present historical and topical issues of my choice for you to read, discuss and debate Second third: You will choose, research and prepare a presentation of your own on a news story or historical event Final third: You will present your topics for your classmates to read, discuss and debate	1 Course overview 2 Historical events: research & readings 3 Presentation & discussion 4 Current affairs: research & readings 5 Presentation & debate ..... 6 Choosing your topic 7 Reading & sharing your research 8 Outlining your presentation & handout 9 Creating your presentation 10 Presentation practice and editing ..... 11 Class presentations for discussion or debate 12 Class presentations for discussion or debate 13 Class presentations for discussion or debate 14 Class presentations for discussion or debate 15 Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook for this course	Evaluation based upon continuous assessment of: class participation - 50% one presentation with handout - 50%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an intermediate-level context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture I 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. British Universities 13. An English Summer 14. Review 15. Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.	30% Class Work, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an upper-intermediate context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture II 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. Charles Dickens 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review 15. Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.	30% Class Work , 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course we will build upon what students learned in Communicative English I as well as Comprehensive English. The students will work on their speaking and reading, and development of their critical thinking processes through a variety of topics and materials, some provided by the teacher and others by the students themselves.	1. Course orientation and introductions. 2. Aspects of culture. 3. Aspects of culture. 4. Media communications and you. 5. Media communications and you. 6. Ways of thinking. 7. Ways of thinking. 8. Presentation preparation. 9. Student presentations. 10. World matters. 11. World matters. 12. Looking ahead. 13. Looking ahead. 14. Test. 15. Course review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the teacher and the students.	Students will be assessed through ongoing class performance, presentations and a final test.

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	D．マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.	Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.	Assessment will be based on involvement, performance and class participation, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	D．マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.	Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.	Assessment will be based on involvement, performance and class participation, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to improve students' oral communication and critical thinking skills. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of current topics. The class will also emphasize developing effective presentation skills. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a class participation.	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Introduction to critical thinking Week 3: Finding the controversy Week 4: Making effective summaries Week 5: Introduction to critical thinking Week 6: Introduction to small group discussion Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Introduction to topic presentations Week 12: Presentation workshop Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

テキスト、参考文献	評価方法
No class textbook. Handout will be provided by the teacher.	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% Presentation

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to improve students' oral communication and critical thinking skills. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of current topics. The class will also emphasize developing effective presentation skills. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a class participation.	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Presentation workshop Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

テキスト、参考文献	評価方法
No class textbook. Handout will be provided by the teacher.	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% Presentation

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to **international** communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your ***Summer Break***, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: **"What do you usually do ...?"**: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: **Hallowe'en**: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive ***advice***, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to make a presentation. Discussion about "**EQ**", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: **Thanksgiving**. Song-listening exercise. Student answersto *"What are you thankful for?"* Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: **"How often do you ...?"**: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: **Christmas,** and ***Christmas cultures*** in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about ***New Year's wishes and plans***. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: **"How was your Christmas?"** & **"How was your O Sho Gatsu?"**: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your **"New Year's Resolutions".** Final student presentations. Week 15: Review of *specific* New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: ***future plans*** for the February & March Break.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues from the textbook.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text – unit 2 continued Week 9: Discussions & text – unit 3 Week 10: Discussion & text – unit 3 continued Week 11: Discussion & text – unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text – unit 5 Week 14: Discussion & text – unit 5 continued Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues 3	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues in the textbook.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text – unit 2 continued Week 9: Discussions & text – unit 3 Week 10: Discussion & text – unit 3 continued Week 11: Discussion & text – unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text – unit 5 Week 14: Discussion & text – unit 5 continued Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues 3	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.	1.Introduction 2.Exchanging personal information 3.Personality Types 4.Appearances 5.Attitudes 6.Comparing experiences 7.Getting information 8.Events 9.Quiz 10. Movies 11. Music 12. Media 13. Education 14. Commercials 15. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on class participation and tests.

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.	1. Summer vacation 2. Personal opinions 3. Japan 4. Preferences 5. Religions 6. Film and TV 7. Language 8. Poverty 9. War and Peace 10. Diet and nutrition 11. Green issues 12. Natural Disasters 13. Sexism 14. Poster Presentations 15. Poster Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on class participation and tests.

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one`s own ideas and opinions.	Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Student presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House	Classroom Participation: 50%, Presentations: 50%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one`s own ideas	Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Student presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House	Classroom Participation: 50%, Presentations: 50%

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.	1. Course Introduction 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.	1. Course Introduction 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).

13 年度以降 06～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	未定 （曜時を含め、掲示にて確認）

講義目的、講義概要	授業計画
初回授業にて指示する。	初回授業にて指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回授業にて指示する。	初回授業にて指示する。

06 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%

06 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman	It isnecessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%

06 年度以降	Discussion	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Self-Introductions 2. Avertising 3. Animal Rights 4. Art & Artists 5. Beauty 6. Beliefs 7. Cime and Punishment 8. Discipline 9. Drinks and Drugs 10. Family 11. Fashion 12. Film and TV 13. IQ vs EQ 14. Future Occupations 15. Test- Poster presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced.	Grades will be based on in-class performance((40%), presentations(30%) and tests (30%).

06 年度以降	Discussion	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will learn the principles and skills necessary for effective communication/discussion in English. The students will learn to cultivate and express their opinions and ideas, as well as engage in critical thinking in English.	Various discussion topics will be announced after evaluating the level of the students. Week 1: Introduction and orientation Week 2 - 12: Various discussion topics (to be announced) Week: 13-15: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide all materials necessary.	Participation:50% Presentation:50%

06 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%·

06 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 5 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 6 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 7 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 8 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%·

06 年度以降	Discussion	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This class will provide training on self-expression, correct language use and confidence through effective discussion and practical hands-on exercises.	1. Introduction to the Course 2. Discussion and Chat: what's the difference? 3. Discussion VS Debate: what's the difference? 4. Principles of a Good Discussion 5. Listening, Agreeing and Disagreeing 6. Topic 1: Graded (group) Exercise 7. Organization of Ideas 8. Topic 2: Graded (group) Exercise 9. The Importance of Language 10. Topic 3: Graded Exercise 11. Mind-mapping: Can't be overlooked 12. Topic 4: Graded Exercise 13. Facts, Data & Evidence 14. Topic 4: Graded Exercise 15. Summary and evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.

06 年度以降	Discussion	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This class will provide training on self-expression, correct language use and confidence through effective discussion and practical hands-on exercises.	1. Introduction to the Course 2. Discussion VS Chat: what's the difference? 3. Discussion VS Debate: what's the difference? 4. Principles of a Good Discussion 5. Skills for Effective Discussion 6. Topic 1: Social Networking (Graded) 7. Organization of Ideas 8. Topic 2: LCC (Graded) 9. Importance of Language 10. Topic 3: Providing Evidence (Graded) 11. Mind-mapping: Can't be overlooked 12. Topic 4: Data Processing (Graded) 13. Connecting Links in Speech 14. Topic 4: Why Plastic Surgery (Graded) 15. Summary and evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.

06 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 Week 2: Discussion Topic # 2 Week 3: Discussion Topic # 3 Week 4: Discussion Topic # 4 Week 5: Discussion Topic # 5 Week 6: Discussion Topic # 6 Week 7: Discussion Topic # 7 Week 8: Discussion Topic # 8 Week 9: Discussion Topic # 9 Week 10: Discussion Topic # 10 Week 11: Discussion Topic # 11 Week 12: Discussion Topic # 12 Week 13: Discussion Topic # 13 Week 14: Discussion Topic # 14 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Discussion notes and handouts will be provided every week.	1. E-Journal 20% 2. Weekly class activities 70% 3. Quiz 1 – week 15 10%

06 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic #1 Week 2: Discussion Topic # 2 Week 3: Discussion Topic # 3 Week 4: Discussion Topic # 4 Week 5: Discussion Topic # 5 Week 6: Discussion Topic # 6 Week 7: Discussion Topic # 7 Week 8: Discussion Topic # 8 Week 9: Discussion Topic # 9 Week 10: Discussion Topic # 10 Week 11: Discussion Topic # 11 Week 12: Discussion Topic # 12 Week 13: Discussion Topic # 13 Week 14: Discussion Topic # 14 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Discussion notes and handouts will be provided every week.	1. E-Journal 20% 2. Weekly class activities 70% 3. Quiz 1 – week 15 10%

06 年度以降	Discussion	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
As the title of the course suggests, in this class we will focus on developing students' discussion abilities. Through a variety of teacher and student led activities we will work upon improving our skills in developing and communicating our thoughts and ideas. Through interesting topics chosen by both teacher and students we will engage the class in productive discussions that will help to give us new perspectives on the world and the complex and everyday situations, problems and circumstances. As well as pair work and group work, students will also be required to do presentations for groups or the entire class.	1. Class introductions and course orientation. 2. First impressions. 3. Show and tell, mystery items and question and answer. 4. Cultural comparisons. 5. Students' choice. Topic chosen by class. 6. Presentation preparation. 7. Presentations. 8. Paris syndrome. Perceptions and expectations of the future. 9. Versions of self. 10. On screen, movie or TV excerpts and discussion. 11. The downside. The influence and construction of attitudes in society. 12. Students' choice. Topic chosen by class. 13. Presentation preparation. 14. Presentations. 15. Course review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this class.	Assessment will be based on class participation, contributions, and presentations.

06 年度以降	Discussion	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
As the title of the course suggests, in this class we will focus on developing students' discussion abilities. Through a variety of teacher and student led activities we will work upon improving our skills in developing and communicating our thoughts and ideas. Through interesting topics chosen by both teacher and students we will engage the class in productive discussions that will help to give us new perspectives on the world and the complex and everyday situations, problems and circumstances. As well as pair work and group work, students will also be required to do presentations for groups or the entire class.	1. Class introductions and course orientation. 2. Group discussion activities. 3. Single life. Modern relationships and communication. 4. Scary experiences. A Halloween lesson. 5. Students' choice. Topic chosen by class. 6. Presentation preparation. 7. Presentations. 8. On track. Music and you. 9. The culture of fear. 10. The big picture. Move or TV excerpts and discussion. 11. Students' choice. Topic chosen by class. 12. Christmas. Festivals and tradition. 13. Presentation preparation. 14. Presentations. 15. Course review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this class.	Assessment will be based on class participation, contributions, and presentations.

06 年度以降	Public Speaking　I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	Week 1　Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation. Week 2　What listeners need. What speakers must do. Week 3　Topic : explain a future plan.　Ideas, research, homework ! Week 4　Write and edit Week 5　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 6　Presentations, evaluation, feedback. Week 7　Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! Week 8　Write and edit Week 9　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 10　Presentations, evaluation, feedback. Week 11　Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! Week 12　Write and edit Week 13　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 14　Presentations, evaluation, feedback. Week 15　Feedback, wrap-up.
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

06 年度以降	Public Speaking　I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	Week 1　Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation. Week 2　What listeners need. What speakers must do. Week 3　Topic : explain a future plan.　Ideas, research, homework ! Week 4　Write and edit Week 5　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 6　Presentations, evaluation, feedback. Week 7　Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! Week 8　Write and edit Week 9　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 10　Presentations, evaluation, feedback. Week 11　Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! Week 12　Write and edit Week 13　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 14　Presentations, evaluation, feedback. Week 15　Feedback, wrap-up.
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

06 年度以降	Public Speaking　I	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual reading texts will be distributed in class.	Speeches (drafts and final version) 50% Presentations (drafts and final version) 50%

06 年度以降	Public Speaking　II	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual reading texts will be distributed in class.	Speeches (drafts and final version) 50% Presentations (drafts and final version) 50%

06 年度以降	Debate　I	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to have students improve and practice their English through debating. Students will learn essential debating skills such as supporting and countering arguments, defining a topic and debate procedures. Emphasis will be placed on team work, preparation and quick thinking. The topics for the debate will be a mixture of those chosen by the teacher and those generated by the students. Students will also be active in the evaluation process and encouraged to offer feedback to their peers. Student participation is a must for success in this class.	1. Introduction 2. Debate Topic #1 – Supporting Arguments 3. Debate Topic #2 – Organizing Supporting Arguments 4. Debate Topic #3 – Preparing Counter Arguments 5. Debate Topic #4 – The Structure of a Debate 6. Debate Topic #5 – Judging a Debate 7. Debate Topic #6 – Mock Debate 8. What is a Topic? – Student Topics 9. Student Topics – Team Work & Debate Preparation 10. Final Team Preparations 11. In-class Debate I 12. Student Topics – Team Work & Debate Preparation 13. Final Team Preparations 14. In-class Debate II 15. Review and Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced.	Debate I: 20%, Debate II: 20%, Homework 20%, Contributions made in the first six debates: 30%, Peer feedback: 10%

06 年度以降	Debate　I	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues. 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates. Students considering this class should keep in mind that a continuing course is offered in the 2nd semester, and will build on the skills previously learned.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Newspaper articles will be provided and internet debates will be presented.	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final debate 25%

06 年度以降	Debate　Ⅱ	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a continuation of Debate I. The course will follow the same format as Debate, but will addressed more advanced topics and allow more time for text analysis. The two basic goals in mind for this course are：1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 5 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 6 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 7 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 8 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Newspaper articles will be provided and internet debates will be presented	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final debate 25%

13 年度以降	Academic Lecture （Japanese Art History）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. In addition, supplemental readings and associated vocabulary exercises will be provided to ensure comprehension of unfamiliar, specialized language and difficult-to-understand points. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal paintings and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. The Basic Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.	Evaluations will be based on participation (20%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (40%). Students missing more than four class sessions will not receive course credit.

13 年度以降	Academic Lecture （Japanese Art History）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. In addition, supplemental readings and associated vocabulary exercises will be provided to ensure comprehension of unfamiliar, specialized language and difficult-to-understand points. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal paintings and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. The Basic Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.	Evaluations will be based on participation (20%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (40%). Students missing more than four class sessions will not receive course credit.

13 年度以降 06～12 年度	Listening and Pronunciation Pronunciation Practice（再履修）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 様々な英語の音声媒体を聴いて積極的に演習に取り組むことにより、英語の聴解力とネイティブに近い発音の獲得を目標とする。同時に e-Learning プログラムを課題に組み込むことによって履修後の自律学習への習慣をつけることも目指す。音声学の基礎知識を適宜盛り込みながら、英語のリズムやアクセント体系、及び子音・母音の特徴を学習し、実際のコミュニケーションへ応用できるように心がけていきたい。土台となる教材は教科書とするが、関連事項をウェブ教材などで補足することもある。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペア/グループワークにも力を入れること。	1. コースの説明・概要 2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明 3. 情報伝達のためのスピーチ 4. ニュースと天気予報 5. 説得のためのスピーチ 6. ウェブでのリスニング学習（1） － ポッドキャストによる時事英語 7. 祝いの場でのスピーチ 8. 中間テスト及び映像を介した英語（1） 9. 機内アナウンス ： 雑音混じりの英語 10. 電話での音声案内 11. 詩と歌 ： 英語のリズムと音のつながり（連結） 12. チャンツとラップ ： 強弱や脱落のパターン 13. ウェブでのリスニング学習（2） － 様々なメディアでの英語 14. 期末テスト及び映像を介した英語（2） 15. 総復習 ： 今期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』（金星堂、2014 年）	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

13 年度以降 06～12 年度	Listening and Pronunciation Pronunciation Practice（再履修）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 大きな文脈における内容を理解し、要点を聞きとる力のさらなる向上を目指す。オンライン教材を補強し、コース終了後も校内外での学習が継続できることを目標とする。意味のまとまりを聞き取る演習とディクテーション等で細部を確認するタスクを並行して取り入れ、録音やシャドゥイングなど発音向上へ繋がるタスクも随時導入の予定。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペア/グループワークにも力を入れること。	1. コースの説明・概要 2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明 3. ラジオの DJ ： 音のつながり（同化現象） 4. コマーシャル: 音のつながりに関する総まとめ 5. 初対面の人と話す：上昇のイントネーション 6. クレームを伝える：下降イントネーション 7. ウェブでのリスニング学習（1） － 安全で効率的なサイトを検証する 8. 中間テスト及び映像を介した英語（1） 9. 予想外の出来事について：感嘆文のイントネーション 10. 楽しいプラン：列挙/選択におけるイントネーション 11. 住環境の好み ： 話者の意図によるイントネーション 12. 詩と歌 ： 詩歌を通しての英語リズム 13. ウェブでのリスニング学習（2） － 様々なサイトやアプリを紹介し合う 14. 期末テスト及び映像を介した英語（2） 15. 総復習 ： 今期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』（金星堂、2014 年）	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

13 年度以降 06～12 年度	英語の音声 英語音声学（再履修）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要

講義目的
音声コミュニケーションを考えたときに，音声がどのように作られ，伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では，英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について，その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて，英語音声をよりよく理解し，実践できるようになることを目指す。また，音声や言語のさまざまな面について触れることにより，ことばの知の面白さを紹介し，これ以降の音声・言語関係の科目履修への導入とする。

講義概要
音声学の基礎の講義であり，適宜，練習を取り入れる。学生はテキストの指定部分を読んだり，課題をやってくることが必須となる。

＜メッセージ＞
・貴方の英語，「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら，音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について，一度しっかり学んでみませんか。
・「英語らしさって何?」，「なぜ言えない，聞き取れない?」等，初めて学べば目からウロコ。
・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ，この先ずっと知らない「音声」について，今! この機会に学んでほしい。
◎ゼミ応募の可能性のある人は(2 次でも 3 次でも)，是非 2 年生で履修することを勧める。

授業計画

1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域，学習者/指導者として
2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官，音声が運ぶ情報
3. 第 3 章 「音声表記」 綴りと発音，IPA
4. 第 4 章 「母音」 基本母音，英語の母音
5. 「母音」(2) 日本語との比較
6. 第 5 章 「子音」 分類
7. 「子音」(2) 日本語との比較
8. 第 3 章「音素と異音」 日本の干渉
9. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢と母音
10. 第 7 章 「語強勢」
11. 「語強勢」(2) フット/リズム 日本語と英語
12. 第 8 章「音縮小」 音縮小と統語構造， 第 9 章「同時調音」
13. 第 10 章「イントネーション」 音調核，統語/意味構造，パラ言語
14. 「イントネーション」(2)
15. 音声科学の応用 （教育・政策・社会学・臨床・工学等）

テキスト、参考文献

佐藤寧・佐藤努(1997)『現代の英語音声学』金星堂
その他　配布資料

評価方法

授業参加(準備・参加):約 15%，クイズ・課題:約 25%，試験:約 60%。
単位認定には 70%以上の出席が求められる。

13 年度以降 06～12 年度	英語の音声 英語音声学（再履修）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要

講義目的
音声コミュニケーションを考えたときに，音声がどのように作られ，伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では，英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について，その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて，英語音声をよりよく理解し，実践できるようになることを目指す。また，音声や言語のさまざまな面について触れることにより，ことばの知の面白さを紹介し，これ以降の音声・言語関係の科目履修への導入とする。

講義概要
音声学の基礎の講義であり，適宜，練習を取り入れる。学生はテキストの指定部分を読んだり，課題をやってくることが必須となる。

＜メッセージ＞
・貴方の英語，「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら，音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について，一度しっかり学んでみませんか。
・「英語らしさって何?」，「なぜ言えない，聞き取れない?」等，初めて学べば目からウロコ。
・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ，この先ずっと知らない「音声」について，今! この機会に学んでほしい。
◎ゼミ応募の可能性のある人は(2 次でも 3 次でも)，是非 2 年生で履修することを勧める。

授業計画

1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域，学習者/指導者として
2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官，音声が運ぶ情報
3. 第 3 章 「音声表記」 綴りと発音，IPA
4. 第 4 章 「母音」 基本母音，英語の母音
5. 「母音」(2) 日本語との比較
6. 第 5 章 「子音」 分類
7. 「子音」(2) 日本語との比較
8. 第 3 章「音素と異音」 日本の干渉
9. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢と母音
10. 第 7 章 「語強勢」
11. 「語強勢」(2) フット/リズム 日本語と英語
12. 第 8 章「音縮小」 音縮小と統語構造， 第 9 章「同時調音」
13. 第 10 章「イントネーション」 音調核，統語/意味構造，パラ言語
14. 「イントネーション」(2)
15. 音声科学の応用 （教育・政策・社会学・臨床・工学等）

テキスト、参考文献

佐藤寧・佐藤努(1997)『現代の英語音声学』金星堂
その他　配布資料

評価方法

授業参加(準備・参加):約 15%，クイズ・課題:約 25%，試験:約 60%。
単位認定には 70%以上の出席が求められる。

06 年度以降	通訳 I	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。 講義概要： 　講義では、会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について説明する。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。	1.　オリエンテーション・政治　英日 2.　政治　日英 3.　技術　英日 4.　技術　日英 5.　犯罪　英日 6.　犯罪　日英 7.　中間テスト 8.　IT 通信　英日 9.　IT 通信　日英 10.　産業　英日 11.　産業　日英 12.　医療厚生　英日 13.　医療厚生　日英 14.　期末テスト 15.　春学期の総括

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：　適宜資料を配布する 参考文献：　適宜紹介する	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。

06 年度以降	通訳 I	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。 講義概要： 　春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みる。基礎トレーニングの一環として日本語・英語の運用能力の強化を図ると同時に、幅広い分野に対応できるような知識についても学ぶ。語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修するのが望ましい。木曜 3 限「英語専門講読 II」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。	1.　オリエンテーション・教育　英日 2.　教育　日英 3.　国際関係　英日 4.　国際関係　日英 5.　環境　英日 6.　環境　日英 7.　中間テスト 8.　軍事　英日 9.　軍事　日英 10.　医学　英日 11.　医学　日英 12.　経済　英日 13.　経済　日英 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：　適宜資料を配布する 参考文献：　適宜紹介する	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。

06 年度以降	通訳Ⅰ（金１）	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、総合的な英語力の向上を目指す人も対象としています。 授業では英日の逐次通訳演習を中心としますが、数字の聞き取り演習やディクテーション、クイックレスポンス、シャドーイングなどの訓練も行います。 第１回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。	1. オリエンテーション 2. 通訳訓練（1）シャドーイング 3. 通訳訓練（2）リテンション・リプロダクション 4. 通訳訓練（3）クイックレスポンス 5. 通訳訓練（4）ノートテーキング 6. 逐次通訳演習（1） 7. 逐次通訳演習（2） 8. 確認テスト(1) 9. 逐次通訳演習（3） 10. 逐次通訳演習（4） 11. 逐次通訳演習（5） 12. 逐次通訳演習（6） 13. 逐次通訳演習（7） 14. 逐次通訳演習（8） 15. 確認テスト(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で随時配布します。	授業中に随時実施する小テストおよび２回の確認テストによって評価する。

06 年度以降	通訳Ⅰ（金１）	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、総合的な英語力の向上を目指す人も対象としています。 授業では英日の逐次通訳演習を中心としますが、数字の聞き取り演習やディクテーション、クイックレスポンス、シャドーイングなどの訓練も行います。 第１回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。	1. オリエンテーション 2. 通訳訓練（1）シャドーイング 3. 通訳訓練（2）リテンション・リプロダクション 4. 通訳訓練（3）クイックレスポンス 5. 通訳訓練（4）ノートテーキング 6. 逐次通訳演習（1） 7. 逐次通訳演習（2） 8. 確認テスト(1) 9. 逐次通訳演習（3） 10. 逐次通訳演習（4） 11. 逐次通訳演習（5） 12. 逐次通訳演習（6） 13. 逐次通訳演習（7） 14. 逐次通訳演習（8） 15. 確認テスト(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で随時配布します。	授業中に随時実施する小テストおよび２回の確認テストによって評価する。

06 年度以降	通訳Ⅰ（金２）	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、総合的な英語力の向上を目指す人も対象としています。 授業では英日の逐次通訳演習を中心としますが、数字の聞き取り演習やディクテーション、クイックレスポンス、シャドーイングなどの訓練も行います。 第１回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。	1. オリエンテーション 2. 通訳訓練（1）シャドーイング 3. 通訳訓練（2）リテンション・リプロダクション 4. 通訳訓練（3）クイックレスポンス 5. 通訳訓練（4）ノートテーキング 6. 逐次通訳演習（1） 7. 逐次通訳演習（2） 8. 確認テスト(1) 9. 逐次通訳演習（3） 10. 逐次通訳演習（4） 11. 逐次通訳演習（5） 12. 逐次通訳演習（6） 13. 逐次通訳演習（7） 14. 逐次通訳演習（8） 15. 確認テスト(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で随時配布します。	授業中に随時実施する小テストおよび２回の確認テストによって評価する。

06 年度以降	通訳Ⅰ（金２）	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、総合的な英語力の向上を目指す人も対象としています。 授業では英日の逐次通訳演習を中心としますが、数字の聞き取り演習やディクテーション、クイックレスポンス、シャドーイングなどの訓練も行います。 第１回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。	1. オリエンテーション 2. 通訳訓練（1）シャドーイング 3. 通訳訓練（2）リテンション・リプロダクション 4. 通訳訓練（3）クイックレスポンス 5. 通訳訓練（4）ノートテーキング 6. 逐次通訳演習（1） 7. 逐次通訳演習（2） 8. 確認テスト(1) 9. 逐次通訳演習（3） 10. 逐次通訳演習（4） 11. 逐次通訳演習（5） 12. 逐次通訳演習（6） 13. 逐次通訳演習（7） 14. 逐次通訳演習（8） 15. 確認テスト(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で随時配布します。	授業中に随時実施する小テストおよび２回の確認テストによって評価する。

06 年度以降	通訳Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とする。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることを目指す。 講義概要： 基礎訓練ではシャドーイングをはじめとする通訳基礎トレーニングを行う。一方、応用訓練では、逐次通訳、同時通訳に向けて文化的な背景も踏まえた訳出法を習得していく。毎回単語小テストを実施しボキャブラリーを増やしていく。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。	1. オリエンテーション・政治　英日 2. 政治　日英 3. 技術　英日 4. 技術　日英 5. 犯罪　英日 6. 犯罪　日英 7. 中間テスト 8. IT 通信　英日 9. IT 通信　日英 10. 産業　英日 11. 産業　日英 12. 医療厚生　英日 13. 医療厚生　日英 14. 期末テスト 15. 春学期の総括

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：　適宜資料を配布する 参考文献：　適宜紹介する	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。

06 年度以降	通訳Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とする。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることを目指す。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、環境、経済などといったテーマを取り上げる。効果的なコミュニケーションや文化的な背景も踏まえた精度のより高い通訳を目指す。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修するのが望ましい。木曜 3 限「英語専門講読 II」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。	1. オリエンテーション・教育　英日 2. 教育　日英 3. 国際関係　英日 4. 国際関係　日英 5. 環境　英日 6. 環境　日英 7. 中間テスト 8. 軍事　英日 9. 軍事　日英 10. 医学　英日 11. 医学　日英 12. 経済　英日 13. 経済　日英 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：　適宜資料を配布する 参考文献：　適宜紹介する	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。

06 年度以降	翻訳	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。 授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。 また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。	第１回　ガイダンス　辞書について 第２回　翻訳の難しさと面白さについて 第３回　機械翻訳の可能性について 第４回　翻訳の実例比較検討 第５回　復習テスト 第６～１４回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第１５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	分析コメント３０％、プレゼンテーション３０％、翻訳実習３０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

06 年度以降	翻訳	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。 授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。 また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。	第１回　前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第２回　日英および英日翻訳の実例検討　その１ 第３回　日英および英日翻訳の実例検討　その２ 第４～６回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第７回　復習テスト 第８～１４回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第１５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	分析コメント３０％、プレゼンテーション３０％、翻訳実習３０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

06 年度以降	翻訳	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。 　問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。またテキストの性質によっても、考慮すべき問題はかわってきますので、そこにも注目していきます。また後半にはグループでミニ翻訳プロジェクトに取り組んでもらいます。 　受講生に求める英語力のレベル：*Guardian* 紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。（時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません）そこに達していない学生は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。	＊授業はひとつの教材について次の流れで行う。 教材の紹介（授業）→教材を読んで不明点を洗い出す＋翻訳開始（課題）→不明点を解決する（授業）→訳了＋提出（課題）→添削＋解説（授業）。 ＊15 回の授業は原則として以下のとおりにすすめる。紙幅の都合によりここに提示できない詳細については一回目の授業で説明する。 ＿＿＿＿＿＿15 回の授業は以下のとおり＿＿＿＿＿＿ 1. 導入とトライアル（短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う）＋教材 1 の紹介 2～10. 教材 1 －8 までを上記のプロセスで訳了。 （第 2 回めの半分は図書館で辞書・事典の紹介を行う。適切なところで、11 回目以降のプロジェクトについての解説と下準備を行う。） 11～15. グループ・プロジェクト （邦訳されていない本を選び、一冊読了したうえで、最初の章、あるいは数頁を翻訳し、その本の書評の翻訳と、自分たちで作成した本の紹介文とともに提出。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
1 回から 10 回までは、ハンドアウトおよびインターネットからのダウンロードを使用する。また、講師が実際に仕事としてやってきた業務翻訳から文学作品まで、翻訳の実際のプロセスも提示する。11 回以降のプロジェクト用には、自分が選んだ本を購入していただく。対象テキストは散文とする。辞書や参考書については、授業内で指示する。	授業内活動参加度　20% 授業内のアサインメント　50% 最終レポート　30%

06 年度以降	翻訳	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。 翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。 本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。 なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。	1. イントロダクション 2－14. 演習 15. 講義のまとめ 一時間に翻訳する分量は少な目かもしれません。その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。 慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう。 なお、通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
短編小説等または長編小説の一部を使用。必要箇所のコピーを配布します。	授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。

06 年度以降	翻訳	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。 翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。 本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。 なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。	1. イントロダクション 2－14. 演習 15. 講義のまとめ 一時間に翻訳する分量は少な目かもしれません。その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。 慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう。 なお、通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
短編小説等または長編小説の一部を使用。必要箇所のコピーを配布します。	授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。

06 年度以降	翻訳（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 1 番から 25 番を扱います。	1　翻訳という仕事① 2　試練に立つ文明 3　文体論 4　技師の親指 5　過激の効用 6　神経質な私 7　独立独歩 8　詩人の感性 9　文化伝達の経路 １０旅の楽しみ １１興味をもつこと １２食べ物の話題 １３余暇の過ごし方 １４自分の基準をもて １５翻訳のための文法① ＊各回、他に１題を扱います
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

06 年度以降	翻訳（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋学期は 26 番から 50 番を扱います。	1、翻訳という仕事② 2、集団と個人 3、編集者の誇り 4、歴史が証明するもの 5、親であるよろこび 6、隣人について 7、民主主義国家の政治 8、イギリスの官界の習い 9、あるがままの人生 10、赤ずきんのお話 11、人から尊敬をうけるには 12、話すことと書くこと 13、日本人論 14、都市問題 15、翻訳のための文法② ＊各回とも上記ほか１編を扱う
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

06 年度以降	翻訳（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。 木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。 秋学期同時限(木 4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。	1、英語の規則　① 2、児童文学「幸福の王子」Ⅰ 3、児童文学「幸福の王子」Ⅱ 4、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅰ 5、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅱ 6、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ 7、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ 8、子供百科「フクロウの目」 9、子供百科「恐竜」 10、子供百科「宇宙」 11、ミュージカル「オクラホマ」 12、詩「虹の歌」 13、小説「マダム・ロゼット」 14、歴史「トロイ戦争」 15、歴史「ミノタウロス」
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

06 年度以降	翻訳（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600 ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。 木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。 抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。	1、英語の規則② 2、音楽「スライ・ストーン」 3、ロマンス小説「サラの冒険」 4、ロマンス小説「サラの冒険」(続き) 5、評論「日本人」① 6、評論「日本人」② 7、評伝「吉田寅次郎」 8、評伝「吉田寅次郎」(続き) 9、ジャック・ニコラウス自伝 10、精神世界「ミーガンの奇跡」 11、歴史「ギロチン」 12、短編小説「悲劇のはじまり」① 13、短編小説「悲劇のはじまり」② 14、短編小説「悲劇のはじまり」③ 15、短編小説「悲劇のはじまり」④
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

06 年度以降	翻訳	担当者	田村　斉敏

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。 翻訳の対象として、児童文学作品を取り上げます。ひとつは、児童文学作者として、またJ. R. R. TolkienやC. S. Lewisの伝記などを著した児童文学研究者としても著名なHumphrey CarpenterのMr. Majeikaシリーズです。「元」魔法使いの先生と、一癖も二癖もある教え子たち、とりわけ悪魔的とさえいえるHamish Bigmoreの掛け合いは読んでいても面白く、きっと訳してみたくなるでしょう。 もうひとつは現代英国の代表的詩人のひとりでもあるTed Hughesの*The Iron Man*（アメリカンコミックではありません）です。優れた詩人の研ぎ澄まされた言葉遣いと、児童文学としての楽しさが融合した名作です。 クラスでは担当を決めて訳文を発表し、互いに批評しながら、教師が添削するという形で進めていきます。また、翻訳をする際に心得ておくべき点や、翻訳に関する従来の考え方などを講義として紹介する予定です。	1. イントロダクション 2. レクチャー１/ 翻訳訓練（準備） 3. レクチャー２/ 翻訳訓練（準備） 4. レクチャー３/ 翻訳発表（Carpenter） 5. レクチャー４/ 翻訳発表（Carpenter） 6. レクチャー５/ 翻訳発表（Carpenter） 7. レクチャー６/ 翻訳発表（Carpenter） 8. レクチャー７/ 翻訳発表（Carpenter） 9. レクチャー８/ 翻訳発表（Hughes） 10. レクチャー９/ 翻訳発表（Hughes） 11. レクチャー１０/ 翻訳発表（Hughes） 12. レクチャー１１/ 翻訳発表（Hughes） 13. レクチャー１２/ 翻訳発表（Hughes） 14. まとめ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは後日指定。 参考文献は授業中に指示。	授業内の発表およびその際に提出された課題の評価を重視します（５０%）。最後に課題レポートを課しますので、それによって残る５０%の評価を行います。

06 年度以降	翻訳（水４）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.)newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-languagemovies (Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanesepresenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1.1 Introduction 1.2 Document #1 (see list at left for examples) 1.3 Document #2 1.4 Document #3 1.5 Document #4 1.6 Document #5 1.7 Document #6 1.8 Document #7 1.9 Document #8 1.10 Document #9 1.11 Document #10 1.12 Document #11 1.13 Document #12 1.14/15 Final Examination and Self-Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation50%

06 年度以降	翻訳（水３）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, NatsumeSoseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors's works, and Japanese animated features(looking at the English and Japanese subtitles). The format of the course will consist of lecturesin Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	2.1 Introduction 2.2 Author #1 (see list at left for examples) 2.3 Author #2 2.4 Author #3 2.5 Author #4 2.6 Author #5 2.7 Author #6 2.8 Author #7 2.9 Author #8 2.10 Author #9 2.11 Author #10 2.12 Author #11 2.13 Author #12 2.14/15 Final Examination and Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50%

06 年度以降	翻訳	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　翻訳にあたっては、目的・文脈・対象者・ジャンルに応じた訳語や決まり事など、さまざまな面を踏まえる必要がある。この講義では翻訳に必要な心得を身につけ、翻訳の実践に役立つ基礎体力を養うことを目的とする。 講義概要 　さまざまなスタイルの英文を翻訳する実践的演習を中心に、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通じて翻訳の力を身につける。詳細は初回のオリエンテーションで説明する。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回～第 14 回　　翻訳演習 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。	授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。

06 年度以降	翻訳	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　翻訳と英語学習で使われている英文和訳との間には、大きな違いがある。翻訳の第一歩は、その違いをしっかりと認識することから始まる。この講義では等価の翻訳とは何か、翻訳をするとはどういうことかの枠組みを学び、実践に役立つ翻訳の基本姿勢を身につけることを目的とする。 　秋学期のみの履修も可能だが、翻訳の基礎から学びたいと考える人は、最初に春学期の講座を履修することをお勧めします。 講義概要 　多様なジャンルのテキストを用い、パソコンを活用して訳語や表現を検索し、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通じて、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていく。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回～第 14 回　翻訳演習 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。	授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３部構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600 点以上	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　ビジネス英語の特徴 2　プリント①（英文ビジネスコラム） 3　国際取引概略Ⅰ 4　プリント② 5　国際取引概略Ⅱ 6　プリント③ 7　引合（inquiry） 8　プリント④ 9　オファーⅠ（offer） 10　プリント⑤ 11　オファーⅡ 12　プリント⑥ 13　プリント⑦ 14　プリント⑧ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、 信 達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３部構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600 点以上	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　契約１（contract） 2　プリント⑦ 3　契約Ⅱ 4　プリント⑧ 5　クレームⅠ（claim） 6　プリント⑨ 7　クレームⅡ 8　プリント⑩ 9　企業内組織の英語 10-15　プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、 信 達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３部構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600 点以上	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　ビジネス英語の特徴 2　プリント①（英文ビジネスコラム） 3　国際取引概略Ⅰ 4　プリント② 5　国際取引概略Ⅱ 6　プリント③ 7　引合（inquiry） 8　プリント④ 9　オファーⅠ（offer） 10　プリント⑤ 11　オファーⅡ 12　プリント⑥ 13　プリント⑦ 14　プリント⑧ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、 信 達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３部構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600 点以上	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　契約１（contract） 2　プリント⑦ 3　契約Ⅱ 4　プリント⑧ 5　クレームⅠ（claim） 6　プリント⑨ 7　クレームⅡ 8　プリント⑩ 9　企業内組織の英語 10-15　プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、 信 達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単なビジネス英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。**「英語ビジネス・コミュニケーション」**とあるように、**「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」**の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に、英文 **Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。 **水曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。**一緒に勉強しましょう。 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の説明 2. ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」） 3. ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と**練習問題１** 4. 効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」） 5. 効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と**練習問題２** 6. よく使用される表現（その１―「取引の申込み」） 7. よく使用される表現（その２―「引合い」）**練習問題３** 8. よく使用される表現（その３―「オファー」） 9. よく使用される表現（その４―「信用状」）**練習問題４** 10. よく使用される表現（その５―「積出し」） 11. よく使用される表現（その６―「クレーム」） 12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方 13. 英文 Business Writing **実践練習問題（その１）** 14. 英文 Business Writing **実践練習問題（その２）** 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
海老沢達郎著 『BUSINESS WRITING　英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版） プリント：必要に応じて随時配布する。	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト２回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は５回までとする。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあって、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。**本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済用語（例えば、**ヨーロッパの債務危機、TPP**）について分かりやすく解説・説明していきます。 **水曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。** 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の説明 2.「英字新聞の特徴について（１）」 3.「英字新聞の特徴について（２）」 4.「Headline の読み方実践練習（１）」 5.「Headline の読み方実践練習（２）」 6.「Lead の読み方実践練習（１）」 7.「Lead の読み方実践練習（２）」 8.「Lead の読み方実践練習（３）」 9.「Lead の読み方実践練習（４）」 10.「本格的な経済記事の読み方実践練習（１）」 11.「本格的な経済記事の読み方実践練習（２）」 12.「国際経済記事の読み方実践練習（１）」 13.「国際経済記事の読み方実践練習（２）」 14.「国際経済記事の読み方実践練習（３）」 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト２回（20%）、毎回授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は５回までとする。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあって、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。**本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済用語（例えば、**ヨーロッパの債務危機、TPP**）について分かりやすく解説・説明していきます。 **火曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。** 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の説明 2.「英字新聞の特徴について（１）」 3.「英字新聞の特徴について（２）」 4.「Headline の読み方実践練習（１）」 5.「Headline の読み方実践練習（２）」 6.「Lead の読み方実践練習（１）」 7.「Lead の読み方実践練習（２）」 8.「Lead の読み方実践練習（３）」 9.「Lead の読み方実践練習（４）」 10.「本格的な経済記事の読み方実践練習（１）」 11.「本格的な経済記事の読み方実践練習（２）」 12.「国際経済記事の読み方実践練習（１）」 13.「国際経済記事の読み方実践練習（２）」 14.「国際経済記事の読み方実践練習（３）」 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度等（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。**「英語ビジネス・コミュニケーション」**とあるように、**「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」**の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 **Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。 **火曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。** 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の説明 2. ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」） 3. ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と**練習問題１** 4. 効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」） 5. 効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と**練習問題２** 6. よく使用される表現（その１―「取引の申込み」） 7. よく使用される表現（その２―「引合い」）**練習問題３** 8. よく使用される表現（その３―「オファー」） 9. よく使用される表現（その４―「信用状」）**練習問題４** 10. よく使用される表現（その５―「積出し」） 11. よく使用される表現（その６―「クレーム」） 12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方 13. 英文 Business Writing **実践練習問題（その１）** 14. 英文 Business Writing **実践練習問題（その２）** 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
海老沢達郎著『BUSINESS WRITING　英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版） プリント：必要に応じて随時配布する。	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要

時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。

具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期は Unit1~12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan）、および専門語彙(technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。

なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。

＊注意： このシラバスは**木曜日3時限**の授業のものです。杉山担当のもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。

受講レベル：TOEIC600 点以上

授業計画

1. 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。
2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。
3. 「市況」の通信文の読解・作成を行います。
4. 「取引先の発見」の通信文の読解・作成を行います。
5. 「取引の申込み」の通信文の読解・作成を行います。
6. 「信用照会」の通信文の読解・作成を行います。
7. 「引合い」の通信文の読解・作成を行います。
8. 「引合いに対する返事」の通信文の読解・作成を行います。
9. 「オファー」の通信文の読解・作成を行います。
10. 「カウンター・オファー」の通信文の読解・作成を行います。
11. 「注文」の通信文の読解・作成を行います。
12. 「注文の受諾」の通信文の読解・作成を行います。
13. 「注文の謝絶」の通信文の読解・作成を行います。
14. 「成約」の通信文の読解・作成を行います。
15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。

テキスト、参考文献

（テキスト） 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（三訂版)』(三恵社、2013 年）および配布プリント
（参考書） 杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年）

評価方法

期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要

時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。

具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期は Unit13~21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。

なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。

＊注意： このシラバスは**木曜日 3 時限**の授業のものです。杉山担当のもう 1 つの同一名称科目とは内容が異なります。

受講レベル：TOEIC600 点以上

授業計画

1. 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。
2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。
3. 「信用状の開設と訂正」の通信文の読解・作成を行います。
4. 「海上保険」の通信文の読解・作成を行います。
5. 「輸出手配」の通信文の読解・作成を行います。
6. 「船積み」の通信文の読解・作成を行います。
7. 「輸入手配」の通信文の読解・作成を行います。
8. 「決済」の通信文の読解・作成を行います。
9. 「クレーム」の通信文の読解・作成を行います。
10. 「クレーム調整」の通信文の読解・作成を行います。
11. 「会社社交文」（推薦状）の読解・作成を行います。
12. 「会社社交文」（案内状）の読解・作成を行います。
13. 「会社社交文」（礼状）の読解・作成を行います。
14. 「会社社交文」（見舞状）の読解・作成を行います。
15. 秋学期の総復習と質疑応答を行います。

テキスト、参考文献

（テキスト） 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（三訂版)』(三恵社、2013 年）および配布プリント
（参考書） 杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年）

評価方法

期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品 の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、成約にいたるまでの段階に登場する代表的なビジネス文書として、レター・オブ・インテント (Letter of Intent ; LOI) 、スポット売買契約(One-shot Sales Contract) の表面約款と裏面約款、長期売買契約書(Long-term Sales Contract) 、取扱説明書(Instruction Manual) などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日４時限**の授業のものです。 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2.-3. LOI の意義と目的や作成上の注意点について説明し実際のサンプルを検討します。 4.-5. 実際の案件に基づき LOI 作成の実習を行います。 6.-8. スポット売買契約書の目的や作成上の注意点について説明し、「表面約款」および「裏面約款（一般取引条件)」の現物のサンプルを検討します。 9-10. 長期売買契約書について説明し、現物のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。 11-12. 製造物責任 (Product Liability) の観点から英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。 13-14. “Plain English”を用いた取扱説明書作成の方略を検討します。 15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、履行および決済の段階に登場する代表的なビジネス文書として、商業送り状(Commercial Invoice)、船荷証券 (Bill of Lading; B/L)、保険証券 (Insurance Policy) 等の船積書類、輸出申告書と輸入(納税)申告書、荷為替信用状 (Documentary Letter of Credit; L/C) などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日４時限**の授業のものです。 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2. 各種の船積書類(Shipping Documents; S/D)の意義と目的、作成上および読解上の注意点等を説明します。 3.-4. 商業送り状のサンプルを検討し、作成する実習を行います。 5.-6. 船荷証券と保険証券のサンプルを検討し、各々の記載事項を読解する実習を行います。 7. 輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。 8.-9. 輸出申告書（Export Declaration; E/D）を作成する実習を行います。 10.-11. 輸入(納税)申告書（Import Declaration; I/D）を作成する実習を行います。 12.-14. 荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明し、サンプルを検討しながら信用状の記載事項をチェックする実習を行います。 15 秋学期の授業の総復習と質疑応答を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要

英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。

具体的には、春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に 6 つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティング段階、取引関係創設段階、成約段階）に属するテーマを詳しく学習します。

履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。

なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。

既修条件:英語ビジネス･コミュニケーションを既修または並行履修

授業計画

1. 春学期の授業内容および授業計画の説明

2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など
3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観
4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関
5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など

6. 貿易マーケティング段階(1)：”Market Research”
7. 貿易マーケティング段階(2)：”Marketing Research”

8. 取引関係創設段階(1)：取引先選定と引合い
9. 取引関係創設段階(2)：信用照会(credit inquiry)

10. 成約段階(1)：　「一般取引条件」の意義と内訳
11. 成約段階(2)：　オファー(offer)と承諾(acceptance)
12. 成約段階(3)：　品質と数量に関する条件
13. 成約段階(4)：　価格と決済に関する条件
14. 成約段階(5)：　船積みと保険に関する条件

15. 春学期の授業の総復習および質疑応答

テキスト、参考文献

（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント
（参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）

評価方法

期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

06 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要

英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。

具体的には、秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に 6 つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習します。

履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。

なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。

既修条件:英語ビジネス･コミュニケーションを既修または並行履修

授業計画

1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明

2. 履行段階(1)：”Incoterms 2010”の各貿易条件の概観
3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認
4. 履行段階(3)：輸出通関手続き
5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き
6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き
7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き
8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き
9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き
10. 履行段階(9)：各種運送書類（transport document）
11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法

12. 決済段階(1)：信用状(Letter of Credit; L/C)と荷為替手形による決済の仕組み
13. 決済段階(2)：L/C によらない決済の仕組み

14. クレームおよびクレーム調整の段階:クレームの種類、クレームの予防、クレームの種々の解決法など

15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答

テキスト、参考文献

（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント
（参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）

評価方法

期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

06 年度以降	メディア英語　I	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
今年度、**春学期は「映画で学ぶ言葉と文化」**と題して、マスメディアの一つである**「映画」**を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、**「日本語字幕と音声英語の違い」**、**「原作小説との比較」**などを通して、**「映画で学ぶ言葉と文化」**を分かりやすく講義していきます。同時に、**映画が社会にどのような影響を与えるかについて考えたいと思います**。就活や社会に出てから必要な**「考える力」**も養います。学生諸君にとっては、きっと**「目から鱗が落ちる」**講義となるでしょう。 具体的に講義を説明いたします。アメリカ映画を２本取りあげます。最初の映画は、『ジャイアンツ ***Giant***』（1956 年）で、アカデミー賞監督賞を受賞した作品です。人種問題、東部と南部の文化の違い、テキサスの誇り、女性の自立等を扱っています。２本目の映画は、『紳士協定 ***Gentleman's Agreement***』（1947 年）で、ユダヤ人差別を扱った初めての映画です。2 本の映画を通して、特にアメリカの「人種問題」等を中心にして講義して、皆さんとお話したいと思っております。また、**Stand- your -ground law** についても説明したいと思います。	１．講義の説明 ２．「ジャイアンツ（その１）」部分鑑賞と講義 ３．「ジャイアンツ（その２）」部分鑑賞と講義 ４．「ジャイアンツ（その３）」部分鑑賞と講義 ５．「ジャイアンツ（その４）」部分鑑賞と講義 ６．「ジャイアンツ（その５）」部分鑑賞と講義 ７．「ジャイアンツ（その６）」部分鑑賞と講義 ８．「ジャイアンツ（その７）」部分鑑賞と講義 ９．「ジャイアンツ（その８）」部分鑑賞と講義 １０．「紳士協定（その１）」部分鑑賞と講義 １１．「紳士協定（その２）」部分鑑賞と講義 １２．「キング牧師の関連映像」鑑賞と講義 １３．「現代アメリカと Stand your ground law（その１）」 １４．「現代アメリカと Stand your ground law（その２）」 １５．まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06 年度以降	メディア英語　I	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
今年度、**秋学期も「映画で学ぶ言葉と文化」**と題して、マスメディアの一つである**「映画」**を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、**「日本語字幕と音声英語の違い」**などを通して、**「映画で学ぶ言葉と文化」**を分かりやすく講義していきます。同時に、**映画が社会にどのような影響を与えるかについて考えたいと思います**。就活や社会に出てから必要な**「考える力」**も養います。学生諸君にとっては、きっと**「目から鱗が落ちる」**講義となるでしょう。 具体的に講義を説明いたします。1973 年のアメリカ映画『追憶 ***The Way We Were***』を取り上げます。**「赤狩り」**を背景とした**「感動のラブ・ストーリー」**である。次に、関連映像**『赤狩りとアカデミー賞』**を取り上げます。秋学期の授業では、この「赤狩り」を詳しく講義していきます。「赤狩り」は**「共産主義の脅威」**から、1948 年ごろから 1950 年代前半にかけて、アメリカの「共産党員・シンパ」を排斥した運動ですが、現代の**「テロの脅威」**と比べながら、映画を通して「現代アメリカ社会」を探っていきたいと思います。	１．講義の説明 ２．「追憶（その１）」部分鑑賞と講義 ３．「追憶（その２）」部分鑑賞と講義 ４．「追憶（その３）」部分鑑賞と講義 ５．「追憶（その４）」部分鑑賞と講義 ６．「追憶（その５）」部分鑑賞と講義 ７．「追憶（その６）」部分鑑賞と講義 ８．「追憶（その７）」部分鑑賞と講義 ９．「赤狩りとアカデミー賞（その１）」部分鑑賞と講義 １０．「赤狩りとアカデミー賞（その２）」部分鑑賞と講義 １１．「エリア・カザンとダルトン・トランボ」講義 １２．「赤狩りと現代アメリカ社会（その１）」講義 １３．「赤狩りと現代アメリカ社会（その２）」講義 １４．「赤狩りと現代アメリカ社会（その３）」講義 １５．まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06 年度以降	メディア英語　I	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 英語学習の目標の一つとして「いわゆる教材英語ではない生きた英語（時事英語）を直接理解すること」がある。時事的なトピックを英語で読める・聞けるようになるには一般的な英語力に加えて世界の情勢や文化への知識を持つことも必要となる。以上を前提に、このコースでは、自分の生活圏を離れた国内外の出来事への興味関心を喚起し、同時に「使える英語」の習得を目標とする。 概要 イギリスの放送局 BBC から配信されたニュースの中から、様々なトピックを取り上げる。語彙のまとめ方などを工夫し、理解した内容を自分のフィルターを通して要約文が書けるようになるプロセスを News Report として順次学習していく。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. コース概要２：ニュース英語について 3. *The Queen : Patron of the Arts* 4. *Finding British Food in France* 5. *Facebook and Free Speech* 6. *The Stonehenge Site* 7. その他オンラインニュースなど（1） 8. ＜中間テスト＞ 9. *Muslim Dress* 10. The Death of the Book? 11. *A Day Trip to Derry?* 12. *Bringing Back the Bees* 13. その他オンラインニュースなど（2） 14. ＜期末テスト＞ 15. Review

テキスト、参考文献	評価方法
Dominic Cheetham・武岡由樹子・田村真弓・浦口理麻著『BBC　Seeing the World through the News 1』(金星堂、2014 年)	中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

06 年度以降	メディア英語　I	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ジャーナリズムの英語を中心に様々な媒体を通して生きた英語に触れ、教材英語ではない「生の英語を理解する」ことを目標とする。後半は英語の理解（読解・聴解）にとどまらず、プレゼンテーションの場を設けて、英語での発信力も徐々に養っていく。 概要 BBC のニュース記事を教材とし、表現や運用法を英語学習のリソースとして活用する。学期の後半はグループワークで地域(国)別の問題・社会現象を取り上げ、発表することを中心課題とする。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. コース概要２：ニュース英語について 3. Becoming British Citizens 4. At Home with Dementia 5. The Price of Parking 6. Space : Next Step of Dead End? 7. <中間テスト＞ 8. グループの決定→地域／リソースの選択 9. グループワークー１ 10. グループワークー２ 11. グループワークー３ 12. プレゼンテーションー１ 13. プレゼンテーションー２ 14. ＜期末テスト＞ 15. Review

テキスト、参考文献	評価方法
Dominic Cheetham・武岡由樹子・田村真弓・浦口理麻著『BBC　Seeing the World through the News 1』(金星堂、2014 年)	中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

06 年度以降	メディア英語　I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は、私たちの日々の生活に直接関わる諸問題を、様々な「メディア」を介して検討していきます。今学期では、「テロ」「食」「金融」「エネルギー問題」が主な議題となります。また、３つの国（インド、スイス、ブータン）の歴史等、背景知識を学んだ上で、今後日本との関係を検証していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3. 9.11：なぜ「歴史的事件」となったのか？ 4-5.　再生可能エネルギーの可能性 6-7.　大企業化①：食品業界 8-9.　大企業化②：金融業界 10-11. インド独立とその後 12-13. 国交樹立１５０周年：スイスとの距離 14.　国民総幸福度(GNH):ブータンから何を学べるか？ 15. 春学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。 **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね！**
テキスト、参考文献	**評価方法**
＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。 必要な場合は、印刷して配布します。	※提出物（レポート）５０％、授業内での発表&発言５０％ ※遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降	メディア英語　I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、「日本」をテーマに授業を進めていきます。主に英語圏の「メディア」からの検証となりますが、海外ではどのように日本の出来事が報道されているのかを学んでいきます。特定の意見のみに偏らないよう、様々な立場からの資料を、学生の皆様と共に出来る限り集め、あらゆる角度から問題を考察していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3-4.　3.11：海外ではどう報道されたか？日本との比較 5-6.　靖国神社参拝問題 7-8.　沖縄の歴史 9-10.　国の借金：本当に深刻なのか？ 11.　年間自殺者数３万人時代(1998-2011)とその後 12-13. 日本のアニメと漫画 14.　これから日本はどう世界と関わっていくのか？ 15. 秋学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。 **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね　！**
テキスト、参考文献	**評価方法**
＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。 必要な場合は、印刷して配布します。	※提出物（レポート）５０％、授業内での発表&発言５０％ ※遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降	メディア英語　I （金１）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will　raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Military 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.

06 年度以降	メディア英語　I （金１）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will　raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan　border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.

06 年度以降	メディア英語　I	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediatelevel. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essaysor make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.	1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75%

06 年度以降	メディア英語　I	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediatelevel. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essaysor make presentationsas requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75%

06 年度以降	メディア英語　I （金３）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will　raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Military 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.

06 年度以降	メディア英語　I （金３）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will　raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan　border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.

06 年度以降	メディア英語　Ⅱ	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the Spring term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class. The contents of the course are subject to change.	1 Introduction 2 Route 66, Weekly Current Event 3 The American RED Cross, Weekly Current Event 4 The Boston Ballet, Weekly Current Event 5 Comedy, Weekly Current Event 6 Political Protest, Weekly Current Event 7 The Yellow Pages, Weekly Current Event 8 The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event 9 The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event 10 Healthy Life Styles, Weekly Current Event 11 Supermarkets, Weekly Current Event 12 Apples in the US Northwest, Weekly Current Event 13 Equal Pay for Women 14 Social Welfare Change 15 Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes

06 年度以降	メディア英語　Ⅱ	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.	1 Introduction 2 Tennessee, Weekly Current Event 3 The Special Olympics, Weekly Current Event 4 Sports Shoes, Weekly Current Event 5 Charities for Children, Weekly Current Event 6 Health and Comedy, Weekly Current Event 7 Broadway Musical, Weekly Current Event 8 Country Western Singers, Weekly Current Event 9 Space Exploration, Weekly Current Event 10 Analysis of Commercial 11 You tube music analysis 12 Critique of Viral video 13 The Cove 14 Whaling Issues 15 Final Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes

06 年度以降	メディア英語　Ⅱ	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に努めたい。	初回の授業はイントロダクション。その後は１５回目まで毎回、授業の初めに単語小テストを行った後で主に和訳をしながら記事を読み進める。 第１回　イントロダクション 第２回～１５回 上記の授業内容を毎回行う
テキスト、参考文献	**評価方法**
次の授業で使う教材を毎回配布する。	毎回の単語小テストの平均点により評価する。 授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。

06 年度以降	メディア英語　Ⅱ	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	春学期に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
次の授業で使う教材を毎回配布する。	毎回の単語小テストの平均点により評価する。 授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。

06 年度以降	メディア英語　Ⅱ	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is designed for students whose English is at anadvanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.”As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essaysor give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.	1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75%

06 年度以降	メディア英語　Ⅱ	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is designed for students whose English is at anadvanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories, as well as travel guides (online and other).As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essaysor give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English II.	2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75%

06 年度以降	シネマ英語	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。 前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。 履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習と確認 第８回　学生プレゼンテーションとコメント 第９回　学生プレゼンテーションとコメント 第１０回　学生プレゼンテーションとコメント 第１１回　学生プレゼンテーションとコメント 第１２回　学生プレゼンテーションとコメント 第１３回　学生プレゼンテーションとコメント 第１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントその他。開講時に指示します。	コメント４０％、ワークシート１０％、プレゼンテーション２０％、復習テスト２０％、レポート１０％とします。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。

06 年度以降	シネマ英語	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。 後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習と確認 第８回　学生プレゼンテーションとコメント 第９回　学生プレゼンテーションとコメント 第１０回　学生プレゼンテーションとコメント 第１１回　学生プレゼンテーションとコメント 第１２回　学生プレゼンテーションとコメント 第１３回　学生プレゼンテーションとコメント 第１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントその他。開講時に指示します。	コメント４０％、ワークシート１０％、プレゼンテーション２０％、復習テスト２０％、レポート１０％とします。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。

06 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期では、様々なジャンルの映画（「ＳＦ」「ミュージカル」「ドキュメンタリー」「歴史」「青春」）を取り上げます。右記の授業計画を見て下さると分かるように、テーマは様々あり、取り扱う映画によって異なりますが、授業では、映画を丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 基本的に、１回の授業で１本の映画を分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思います。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション 3. Matrix (1999)：他メディアからの影響も検証する 4. Star Wars Ⅳ(1977)：神話学者曰く「現代の神話」 5. Gattaca（1997)：自然出産者はデザイナーベイビーを超えられるか？ 6. Slumdog Millionaire (2008)：インドの現実？英国監督作品のためか、議論を呼んだ作品 7. Mother Teresa（1988)：やっぱりすごい！マザーテレサ本人を映像で観る 8. Ten Commandments (1956)：十戒を学んでみよう 9. The Truman Show (1998)：メディアに操られる世界 10. Chicago (2002)：殺人事件も娯楽になる？ 11. Moulin Rouge! (2001)：ラブソングの変遷を追う 12. Hedwig and the Angry Inch (2001)：「不完全な私」を受け入れるまで 13. Outsiders (1983)：フロストとスティービー・ワンダー 14. Dead Poet Society (1989)：「いまを生きる」とは？ 15. 春学期授業のまとめ ※順番が変わる可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。 必要な場合は、印刷して配布します。	※ 提出物（レポート）７０％、授業での発言等３０％ ※ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では、イギリスとアメリカの「コメディ」&「コメディアン」を取り扱います。「笑い」は、いつの時代でも「武器」や「治癒」として機能してきました。「裸の王様」に向かって「王様は裸だ！」と指摘するのは道化しかできないことでしたし（道化については２回目にお話する予定です)、「笑い」によって病を治療する方法も近年ではよく知られていることです。とはいえ、右記の授業計画にあるように、コメディやコメディアンにはいろいろなタイプがあります。今回の授業では分類することはあまり重視せず（英米の比較も少し触れる程度にします)、それぞれのコメディアンたちの作品をじっくり検証、分析、批評していきます。 基本的に講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション 3. George Carlin 4. Seinfeld 5. Eddie Murphy 6. Monty Python 7. Frasier 8. Ali G 9. Little Britain 10. Michael Moore 11. Friends 12. Mr. Bean 13. League of Gentlemen 14. Charlie Chaplin 15. 秋学期授業のまとめ ※順番が変わる可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。 必要な場合は、印刷して配布します。	※ 提出物（レポート）７０％、授業での発言等３０％ ※ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降	シネマ英語	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本授業の目的は、映画の中の英語表現を理解するだけでなく、映画の中で描かれる海外の文化、歴史、思想、考え方を理解することである。本授業は、単なる楽しみとしての映画鑑賞の授業でも、映画の感想を言い合う授業でもないので注意してほしい。 講義概要 　授業は予習を前提とし、ワークショップと講義をする。映画を指定するので、予習として、1) 最低2回は指定映画を観て、台詞だけにとらわれず、映像の中の文化の描かれ方まで観察してくること、2) 映画の背景を調べてくること。本授業では3本の映画を扱う予定であるが、学生の学習習熟度、授業状況、学生の関心事項に応じて、扱う映画や授業進度を変更することがある。	1. 授業概要（必ず出席すること） 2. 映画 1-1 3. 映画 1-2 4. 映画 1-3 5. 映画 1-4 6. 映画 2-1 7. 映画 2-2 8. 映画 2-3 9. 映画 2-4 10. 映画 3-1 11. 映画 3-2 12. 映画 3-3 13. 映画 3-4 14. 映画 3-5 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：なし	授業貢献度（30%）、期末レポート（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

06 年度以降	シネマ英語	担当者	田村　斉敏

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、映画『ノッティング・ヒルの恋人』を題材に、映画を皆で「読む」体験をしたいと思っています。同映画は 1999 年に公開されたアメリカ映画ですが、舞台はイギリスのロンドン西部にあるノッティグ・ヒルで、冴えない書店主をヒュー・グラントが、ハリウッドの大女優をジュリア・ロバーツが演じ、現在でも人気の高いロマンティック・コメディです。 本作では設定どおり、イギリス英語とアメリカ英語が交互に登場します。イギリス英語にあまりなじみのない方にも、教科書や、他の題材をつかって親しめるように配慮します。 授業は、毎回映画を少しずつ見ながら、個別のエクササイズのほか、グループワークを多用して意見を交換しながら進めていきます。また映画の様々な側面に関して感想を英語で書いてもらいますので、積極的な参加を求めたいと思います。 なお、時間が許せば後半に少し別の映画ないしドラマなどを見るかもしれません。	1. イントロダクション（映画前半を見る） 2. イントロダクション（映画後半を見る） 3. Unit 1 William's Notting Hill & 'She' 4. Unit 2 Surreal, But Nice 5. Unit 3 A Goddess Is A Movie Star 6. Unit 4 Birthday Party 7. Unit 5 A Date with Anna 8. Interlude: ここまでの感想まとめ 9. Unit 6 She's Gone 10. Unit 7 She's Back 11. Unit 8 Rude Awakening—Ain't No Sunshine 12. Unit 9 Like Me Again 13 Unit 10 The Right Decision—The Meaning of My Life Is She 14. まとめ１ 15. まとめ２ ※授業の進度によって一部変更の可能性あり
テキスト、参考文献	**評価方法**
Richard Curtis 著、神谷久美子／Kim R. Kanel 編『Notting Hill/映画総合教材「ノッティング・ヒルの恋人」』 その他参考文献は授業中に指示。	授業中の参加、発表、課題を重視します（５０％）。最後に課題レポートを課しますので、それによって残る５０％の評価を行います。

06 年度以降	英語学の世界（金１）	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
受講者は TOEIC900 点以上の取得者から break の過去形を broked と、また dog に冠詞も-s も付けずに書く人までさまざまいますが、9 割は教諭免許取得希望者ですから、授業の狙いは、言語学の最近の成果を踏まえ、英語の本当の姿についての知識をしっかり身につけてもらうことにあります。したがって、授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対する「なるほど！」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。 この授業は単位を取るのが難しいと言われていますが、既習文法知識とその発想を捨てたうえで予習･復習をしていればそのようなことはありません。 参考のために、単位を落とす人の傾向を示しておきます。 ★授業当日までにプリントに目を通し、例文の意味を調べず、授業後も復習をしない。 ★欠席しがちで、出席しても集中して聴かない。 ★講義内容でわからないところを（メール等で）質問せず、ほったらかしておく。 ★英語の知識を身につけたいという意欲があまりない。 <以下に続く>	1. モノの捉え方と表現の仕方 2. 前置詞の意味 3. 続き 4. 不定冠詞 vs. はだか名詞 5. 英語と日本語の情報構造 6. 情報の新旧と冠詞 7. 自動詞構文と他動詞構文 8. BE 受動文の使い方 9. GET 受身と BE 受身･動詞的受身と形容詞的受身 10. 再帰代名詞の使い方 11. 動詞の意味と構文（結果構文） 12. 動詞の意味と構文（二重目的語構文･ほか） 13. 否定の意味 14. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） 15. 助動詞の使い方 ※ 上のトピックに変更を加える場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：第 2 週目からはポータルサイト PorTa を通じて 配布しますので、各自で印字して下さい。 参考書：佐藤・田中『レキシカル・グラマーへの招待』開拓社	最終成績は、平常テストと課題と定期試験の総合評価で決まります。

06 年度以降	英語学の世界（火５）	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業を受ける利点には次のようなこともあります。 (1) 3 通りのかたちの名詞それぞれの使い分けが出来るようになる。 a. Anyone who plays piano knows that is no great feat. b. He hates playing a piano which is out of tune. c. Do you play the piano? (2) 上の c の the と the sun、the wines of France などに使う the の規則に共通性のあること知ることができる。 (3) “I was standing (　) the corner.” のカッコに at も in も on も入るが意味（=見方）が違うことがわかる。 (4) 疲れている人に向かって「疲れているのは一所懸命働いたからだよ」という場合には a のほうがよいとわかる。 a. You feel tired because you've worked hard. b.??Because you've worked hard, you feel tired. (5) 日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言えても、“I persuaded John out of smoking, but he didn't quit smoking.” とは言えない理由がわかるようになる。 (6) No shoes are allowed.と No shoes is allowed.の意味の違いがわかるようになる。	1. モノの捉え方と表現の仕方 2. 前置詞の意味 3. 続き 4. 不定冠詞 vs. はだか名詞 5. 英語と日本語の情報構造 6. 情報の新旧と冠詞 7. 自動詞構文と他動詞構文 8. BE 受動文の使い方 9. GET 受身と BE 受身･動詞的受身と形容詞的受身 10. 再帰代名詞の使い方 11. 動詞の意味と構文（結果構文） 12. 動詞の意味と構文（二重目的語構文･ほか） 13. 否定の意味 14. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） 15. 助動詞の使い方 ※ 上のトピックに変更を加える場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：第 2 週目からはポータルサイト PorTa を通じて 配布しますので、各自で印字して下さい。 参考書：佐藤・田中『レキシカル・グラマーへの招待』開拓社	最終成績は、平常テストと課題と定期試験の総合評価で決まります。

06 年度以降	言語情報処理Ｉa	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 言語情報処理Ｉa では、「言語情報とは何か？」、「コーパス（＝言語データ）とは何か？」、「言語情報処理とは何か？」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか？」、「コーパスをどのように分析するのか？」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題（Research question(s)）をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。 授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。 従って、品詞を英語で言える、センテンス構造を分析できるなど、基本的な言語学の知識を必要とします。また、「コンピューターの使い方を学習する」授業ではありませんので、その点も注意してください。 成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。 言語情報 Ia と Ib では、Ia の方が言語学的内容です。	1.【ガイダンス】第１章「コーパス言語学への招待」 2. 第２章「コーパスとは何か」 3. 第３章「さまざまなコーパス」 4. 第５章「コーパス検索の技術」 第６章「コーパス頻度の処理」 5. 第７章「コーパスと語彙」（１） 6. 第７章「コーパスと語彙」（２） 7. 第８章「コーパスと語法」（１） 8. 第８章「コーパスと語法」（２） 9. 第９章「コーパスと文法」（１） 10. 第９章「コーパスと文法」（２） 11　プレゼンテーション準備（１）：RQ を検討 12. プレゼンテーション準備（２）：データ分析 13. プレゼンテーション準備（３）：資料作成 14. 発表（１） 15. 発表（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
（使用テキスト） 『ベーシックコーパス言語学』 （石川慎一郎著　ひつじ書房）	毎回の授業における課題への取り組み（50%） 最終プレゼンテーション（50%）

06 年度以降	言語情報処理Ｉb	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 言語情報処理 Ib では、「日本人英語学習者のコーパス（＝言語データ）」を扱います。究極的な研究課題（Research question）は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか？」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する（あるいはしない）文法項目、誤り（error）などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まってくるに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容といえます。 授業では、教科書（下記参照）を参照しながら既存の学習者コーパスを分析する演習が中心になります。必ずしも言語情報処理 Ia を履修していなくても構いませんが、コンピューターの作業に慣れていることが望ましいです。 成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。	1.【ガイダンス】第１章「コーパス言語学への招待」 2. 第 10 章「コーパスと学習者」（１） 3. 第 10 章「コーパスと学習者」（２） 4. 第４章「コーパスの作成」とデータ加工 5. 学習者コーパスの語彙分析（１） 6. 学習者コーパスの語彙分析（２） 7. 学習者コーパスの文法分析（１） 8. 学習者コーパスの文法分析（２） 9. 学習者コーパスの誤り分析（１） 10. 学習者コーパスの誤り分析（２） 11　プレゼンテーション準備（１）：RQ を検討 12. プレゼンテーション準備（２）：データ分析 13. プレゼンテーション準備（３）：資料作成 14. 発表（１） 15. 発表（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
（使用テキスト） 『ベーシックコーパス言語学』 （石川慎一郎著　ひつじ書房）	毎回の授業における課題への取り組み（50%） 最終プレゼンテーション（50%）

06 年度以降	言語情報処理Ⅱa	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は，コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 「言語情報処理Ⅰ」と同様の目標としながらも、「言語情報処理Ⅱ」では電子化された言語データについてより広範囲に学習します。例えば，母語話者や英語上級者の言語データ比較分析の基本，英語辞書コーパス，日本語テキストの分析の基本，二言語を同時に扱う「パラレルコーパス」を活用した日本語と英語の対照研究等について議論します。授業では，教科書に沿って様々な研究例を見ながら，適時，参考文献も紹介します。また，演習形式で分析ツール（例　BNCweb、AntPConc，AntPConc）の基本的な使用方法を学習します。「発表」の時間では，各人の興味と技能に応じて，一つのテーマについてプレゼンテーションを行います。講義と実習を平行して進めますので，授業を受けながら，研究発表のテーマを探すようにしてください。この単位の成績評価においては，パワーポイントを使ったプレゼンテーションの出来栄えを最も重視します。なお，学内の PC や自宅等授業外の作業が多く含まれる場合があることをあらかじめ伝えておきます。 （履修の検討に際して，言語情報処理Ⅰのシラバスも必ず読んでください。）	1.【ガイダンス】 *この授業を通して学んでほしいこと* 2. 学習者と母語話者の言語，及び様々なコーパスツールとエクセル統計 3. 学習者言語と英語母語話者データの比較：語彙 4. 学習者言語と英語母語話者データの比較：コロケーション 5. 学習者言語と英語母語話者データの比較：語法・文法 6. 日本語テキストの扱い（1）：概説 7. 日本語テキストの扱い（2）：処理 8. 日英パラレルコーパスの基本（1）：概説 9. 日英パラレルコーパスの基本（2）：処理 10. 日英パラレルコーパスの基本（3）：処理 11. プレゼンテーション準備：何を伝えるか，伝えないか 12　プレゼンテーション準備：どう効果的に伝えるか 13. 発表（1） 14. 発表（2） 15. 総括（*この授業から何を学んだか*）
テキスト、参考文献	**評価方法**
（使用テキスト） 『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著　ひつじ書房）	発表内容・方法（50%）、パワーポイントスライド（40%）、講義における聴講態度・活動への積極的関与・貢献（10%）

06 年度以降	言語情報処理Ⅱb	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は，コンピューターを活用して，計量的に言語を見る洞察力と高度な分析力を身につけることを目標とします。授業では，「言語情報処理Ⅰ」及び「言語情報処理Ⅱa」の内容についてより深く学習します。 コンピューターによる高度な言語解析技術を扱うので，必ずしも履修条件とはしませんが，「言語情報処理Ⅰa，Ⅰb」や「言語情報処理Ⅱa」の内容を理解できる，あるいは文字列に関する情報処理が得意で，言語を分析的に見ることにかなり関心と自信があることが望まれます。 授業では，教科書や参考文献に沿って語彙・コロケーション・語法を中心に研究例を紹介します。また，演習形式で分析ツール(Ⅱa で紹介)の使用方法と統計処理について学習します。「発表」の時間では，各人の興味と技能に応じて，一つのテーマについてプレゼンテーションを行います。講義と実習を平行して進めますので，授業を受けながら，研究発表のテーマを探すようにしてください。あるいはⅡa での発表を精緻化・高度化する場合もあるでしょう。この単位の成績評価においては，パワーポイント及び配布資料を使ったプレゼンテーションの出来栄えを最も重視します。なお，学内の PC や自宅等授業外の作業が多く含まれる場合があることをあらかじめ伝えておきます。 （履修の検討に際して，言語情報処理ⅠaⅠb 及びⅡa のシラバスも必ず読んでください。）	1.【ガイダンス】 *この授業を通して学んでほしいこと* 2. 語彙・コロケーション・語法分析の多角的な視点 3. 語彙・コロケーション分析のための新しいツール 4. 語法・統語分析の視点 5. コロケーション統計と処理（1） 6. コロケーション統計と処理（2） 7. 基本的な言語統計（1） 8. 一般的な言語統計（2） 9. 高度な言語統計 10. 発表テーマ報告 11. プレゼンテーション準備：何を伝えるか，伝えないか 12　プレゼンテーション準備：どう効果的に伝えるか 13. 発表（1） 14. 発表（2） 15. 総括（*この授業から何を学んだか*）
テキスト、参考文献	**評価方法**
（使用テキスト） 『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著　ひつじ書房）	発表内容・方法（50%）、全ての発表資料（40%）、講義における聴講態度・活動への積極的関与・貢献（10%）

06 年度以降	音声・音韻論 a	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「英語音声学」(2012 年度以前入学生)で学んだことを基にさらに発展させ，英語と日本語を中心に様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考え，ことばの知について学ぶ。 音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。音声は常に変化する量的なもので千差万別であり，空中に音波としての具体的実体がある。一方，音韻はその変化する音声に，A ならA, B なら B という質的(非量的)な記号を当てて脳に格納されている抽象的実体である。音声の特徴や変化の法則性(音韻)について、その背後にある音声実態(音声)の多様性を紹介しながら、音声と音韻の関係という言語音声の表裏一体性について基礎的な導入を試みる。 各論は，英語や日本語の様々な音現象について具体的に学ぶ。”英語好き”の疑問や何となく感じていた事象について解き明かす。 講義概要 テキストや配布資料を基に講義をし，学生は読み課題や練習課題をこなして理解を深める。予習、授業参加，提出などに積極的な参加が求められる。 ＜メッセージ＞ ・2 年生は，まず「英語の音声」を学んでから履修することが望ましい。 ・3, 4 年生は春・秋と連続で履修することをお勧めする。春学期を基に秋からがさらに面白くなっていく。秋だけの履修は…（下欄につづく）	1. 音声学と音韻論，第 1 章　音と文字 2. 第 2 章　子音の調音 3. 第 3 章　母音の調音 (1) 4. 母音の調音 (2) 5. 母音の有標性、子音の有標性、Exercises 6. 第 4 章　音と意味 (1) 7. 音と意味 (2) 8. 音素と異音，Exercises 9. 第 6 章　音節と音の並び方 (1)（音韻的/音声的分節、分綴法） 10. 音節と音の並び方 (2) 11. 第 10 章 語アクセント 12. 語アクセント (2)、第二アクセント、無アクセント 13. 音節とモーラ (1) 14. 音節とモーラ (2) 15. Review Exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館 (1999) (ISBN4-469-21232-6)，　その他 配布資料	授業参加(準備・参加):約 15%，クイズ・課題:約 35%，試験:約 50%。単位の認定には 70%以上の出席が求められる。

06 年度以降	音声・音韻論 b	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 春学期に同じ。 講義概要 春学期に同じ。 メッセージ ・2 年生: まず「英語の音声」を学んでから履修することが望ましい。 ・3, 4 年生: 春学期と学習内容は変わるので秋のみの受講もあり得るし歓迎ではあるが、春の内容が前提とならざるを得ないので、その分、各自補足が必要になるであろう(春に足し算を学んで、秋に掛け算を学ぶと、秋に足し算なしでは問題が解けないようなもの)。	1. Review セグメント，音節, Exercises 2. フット，アクセント（語，句), Exercises 3. 第 11 章 リズムとイントネーション (1) 4. リズムとイントネーション (2) 5. 第 5 章　音声特徴 弁別素性 6. 第 7 章 音韻現象を探る (1) 7. 音韻現象を探る (2) , Exercises 8. 第 8 章　同化現象 9. 同化現象 (2) 10. 第 9 章　形態音素 (1) 11. 形態音素 (2) 12. Review Exercises 13. 音韻表示と音声実現 14. 音声と統語構造，意味構造とのインターフェース 15. 音声と音韻の研究
テキスト、参考文献	**評価方法**
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館 (1999) (ISBN4-469-21232-6)，　その他 配布資料	授業参加(準備・参加):約 15%，クイズ・課題:約 35%，試験:約 50%。単位の認定には 70%以上の出席が求められる。

06 年度以降	シンタクス a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中高 6 年間英語を学び、かなりの文法知識を持っていることと思います. しかし、いざ英語でまとまった文章を書いたり、家庭教師として英文解釈の説明をしようとすると、その知識のあやふやさに気づくことがあるのではないでしょうか. この授業では、英語の文構造を分析的に整理（＝シンタクス）していきます. 分析的に英語を見直していくことによって、実用的な英語力が高まるだけでなく、私たちが無意識に使っている日本語とも多くの共通性があることを知ることになるでしょう. さらに、何語であれ言語は私たちの知的活動に不可欠なものなので、英語のシンタクスを学ぶことにより、人間とは何かについての考察も深まると思います. 春学期に扱う英語のデータは主に単文です. 授業の前半は講義形式で進めます. 後半には講義内容に関する英語のデータを受講者に分析して提出してもらい、次週に返却して解説します. 2013 年度シンタクス a との重複履修は不可.	1. シンタクスとは？ 2. 句構造 3. X-bar Syntax （一般句構造理論） 4. X-bar Syntax （一般句構造理論） 5. X-bar Syntax （一般句構造理論） 6. 主要部による語彙選択 7. Midterm Activity 8. 主要部による語彙選択 9. 節の内部構造 10. 節の内部構造 11. 主語と助動詞の倒置 12. 本動詞・助動詞と時制辞の分布 13. 動詞句の省略 14. Yes/No 疑問文・Wh 疑問文 15. まとめ、質問

テキスト、参考文献	評価方法
テキストなし。参考文献は*Transformational Syntax* (A. Radford, CUP) *Introduction to Government and Binding Theory* (L. Haegeman, Blackwell).『生成文法の基礎』（中村捷他、研究社）など	Midterm Activity(40%)は通常授業で行い、履修者間で協力して取り組む。定期試験(60%)は「すべて持ち込み可」で行う. 授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である.

06 年度以降	シンタクス b	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的や授業の進め方はシンタクス a と同様です。シンタクス a の履修もしくはそれと同程度の知識を持っていることを前提として授業を行います。 扱うデータは主に that 節や不定詞節を含む英語の複文になります。 2013 年度シンタクス b との重複履修は不可.	1. シンタクス a 定期試験の解説など 2. 機能範疇と語彙範疇 3. persuade と expect の統語的差異 4. likely と eager の統語的差異 5. 不定詞補文一般について 6. 名詞句の分布と格理論 7. 格理論と名詞句移動 8. 格理論と名詞句移動 9. 中間試験 10. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 11. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 12. 名詞句移動の局所性 13. he などの代名詞と先行詞との構造的関係 14. 日本語の再帰形 15. まとめ、質問

テキスト、参考文献	評価方法
テキストなし。参考文献は*Transformational Syntax* (A. Radford, CUP) *Introduction to Government and Binding Theory* (L. Haegeman, Blackwell).『生成文法の基礎』（中村捷他、研究社）	Midterm Activity(40%)は通常授業で行い、履修者間で協力して取り組む。定期試験(60%)は「すべて持ち込み可」で行う. 授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である.

06 年度以降	意味論 a	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は，言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。扱う予定のテーマは次の通りである。 ・有標性 ・反対語と反意語 ・直示性 ・主語指向と話者指向 ・法助動詞 テキストは，われわれにとって手本となりうる英語で書かれた，優れた意味論の入門書である。英語そのものについて学ぶことができるだけでなく，多くの者にとっての母語である日本語についても深い理解が得られるであろう。 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。	進度の目安・目標は次の通りである。春学期は，下記の教科書の第 1 章から第 5 章のテーマを扱う予定である。 １．オリエンテーション及び講義（出席は必須である） ２．第 1 章 Markedness のはじめから ３． ４． ５． ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４．第 5 章 Modal Verbs の終わりまで １５．春学期のまとめと復習

テキスト、参考文献	評価方法
Hoffmann, Th. R. and T. Kageyama (1986) 10 Voyages in the Realms of Meaning.（『10 日間意味旅行』）東京：くろしお出版.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

06 年度以降	意味論 b	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は，言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。扱う予定のテーマは次の通りである。 ・テンスとアスペクト ・語彙的アスペクト ・語から文へ ・意味と文脈 ・文から文章へ テキストは，われわれにとって手本となりうる英語で書かれた，優れた意味論の入門書である。英語そのものについて学ぶことができるだけでなく，多くの者にとっての母語である日本語についても深い理解が得られるであろう。 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。	進度の目安・目標は次の通りである。秋学期は，下記の教科書の第 6 章から第 10 章のテーマを扱う予定である。 １．オリエンテーション及び講義（出席は必須である） ２．第 6 章 Time: Tense & Aspect のはじめから ３． ４． ５． ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４．第 10 章 Combining Sentences の終わりまで １５．秋学期のまとめと復習

テキスト、参考文献	評価方法
Hoffmann, Th. R. and T. Kageyama (1986) 10 Voyages in the Realms of Meaning.（『10 日間意味旅行』）東京：くろしお出版.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

06 年度以降	英語学特殊講義 a	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、従来の記憶･暗記型の文法学習から脱却するにはどうすればよいのか、という観点から「教育英文法」のあるべき姿を考えます。 「ドアをノックする」を英語で何と言うかと尋ねると、多くの学生が knock the door と回答する。正解は knock on the door ですが，ではなぜそうなのかと問うと、「そう習ったからそう覚えている」としか答えない学生がほとんです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことなのです。そうすれば、Let's talk business.と、about なしで言った場合の意味もわかるようになります。 そして「なぜそう言えるのか？」にたいする答（＝理屈）に「なるほど、そうなのか！」と納得することができれば、英語を学ぶことの知的好奇心を満たすことになり､それがひいては英語学習の強い動機づけにつながります｡そうやって動機づけられた学習者は、「そういえば、あれも同じ原理なのではないだろうか」という思考を通じ､例えば､「鉛筆を噛むな」もDon't chew your pencil.ではなくonが必要になること､どうしてlookにはShe looked me in the eye.の「他動詞」用法とShe looked at me.の「自動詞」用法があるのかということ、またThe hunter shot at the tiger dead（撃ち殺した）とは言えない <以下に続く>	1. 認知言語学の基本的考え方 2. 続き 3. 基本動詞(break/ take/go/remember)の意味世界 4. 続き 5. 基本動詞(speak/talk/tell/say/arraive/reach)の意味世界 6. 続き 7. 前置詞（at/on/ほかの前置詞と句動詞)の意味世界続き 8. 続き 9. 指導法アラカルト 10. 続き 11. 新しい教育英文法：①make, give, have, be 等 12. 続き 13. ②-ing のはたらき、進行相 14. ③to 不定詞と動名詞 15. 続き ※ 上のトピックに変更を加える場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：田中茂範・ほか 2006.『英語感覚が身につく実践的指導 コアとチャンクの活用法』大修館書店	最終成績は、小テストと課題と授業への参加度と定期試験の総合評価で決まります。

06 年度以降	英語学特殊講義 b	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
けれど at を取れば言えるようになること、"I was standing (　) the corner."のカッコに at も in も on も入るが意味（＝見方･とらえ方）が違うこと、あるいは The President of the United States is Barack Obama,の付加疑問は isn't he?ではなく isn't it?になること、さらに Love is the reason to get married.の the を a に替えると言っている価値観が全く異なってしまうこと等々、これまで習ってきた文法を認知意味論的な視点から捉え直し、英語を日常的に使用する環境にない日本人学習者に教えるとき､「なぜそうは言えても、こうは言えないのか」「書き換え構文同士と習ったのにどうして両構文はそんなに意味が違うのか」などの理由をきちんとした知識として理解できるようになります。 なおこの授業は、敢えて区別すれば、教育技術･方法を勉強するというよりは、教える中身（＝正しい英語についての知識）を学びの対象とします。なぜならば、教え方がよければよいほど習ったことがその分早く確実に身につくはずですから、もし教える内容に間違いがあるとしたら、教え方がよい分に比例して誤った知識が定着しやすくなってしまい、その間違いを矯正するのに大変な苦労が必要になるからです。英語教師として WHAT to teach を理解することが大事な理由です。	1. 新しい教育英文法：③不定詞と動名詞と that 節 2. 続き 3. ④wh-構文：疑問詞か関係詞か 4. ⑤冠詞の機能 5. 続き 6. 続き 7. 続き 8. ⑥法助動詞：心的態度の表明続き 9. 続き 10. ⑦仮定法、it と that と this 11. ⑧書き換え構文 12. 続き 13. 英文法指導法アラカルト 14. チャンキング・メソッド―会話と読解 15. 続き ※ 上のトピックに変更を加える場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書：佐藤・田中『レキシカル・グラマーへの招待』開拓社 /田中茂範『表現英文法』コスモピア	最終成績は小テストと課題と授業への参加度と定期試験の総合評価で決まります。

06 年度以降	英語学特殊講義 a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では英語の文構造に関する入門的な論文(1)を読みながら、日本語と比較をしていきます。 1週目で日英語の文構造にどのような違いがあるか、皆さんからお聞きします。言語学で知られている大きな違いとして、例えば、"John told Mary a story about himself/herself"に対して、日本語の「太郎は花子に自分の話をした」の「自分」は主語と同一指示の解釈しかありません。しかし、"John criticized Mary in a story about himself/*herself"では、日本語同様、再帰形(~self)が目的語を指す解釈は難しいようです。実は、日英語に限らずどの言語でも再帰形は主語を指せますが、目的語だけ指せるという言語はありません。つまり、これは人間言語に共通の性質であり、私達が生まれながらに持っている無意識の「知識」と考えられるのではないでしょうか。 以上のような観点から、日英語を比較分析し、両者に多くの共通点がみられることを理解することをこの授業は目指します。	1. 日英語の文構造に関する違いをリストアップ 2. 構成素を仮定する根拠：構造的曖昧性 3. 構成素を仮定する根拠：代用表現など 4. 階層構造の拡張 5. 動詞と目的語などの「主要部−補部」関係 6. 日英語の再帰形とその先行詞の構造的関係 7. 続き 8. 日英語のYes/No疑問文 9. 日英語のwh-疑問文 10. フランス語のYes/No疑問文 11. 等位構造 12. 修飾語 13. 日英語の受動態 14. 続き 15. 1週目の「日英語の違い」について再検討
テキスト、参考文献	**評価方法**
(1) O'Grady et al. (2011) *Contemporary Linguistics: An Introduction*: Chapter 5. (2) その他	毎回の授業での活動(40%)、定期試験(60%) とする。

06 年度以降	英語学特殊講義 b	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では春学期の「英語学特殊講義a」と同じ視点で、日英語の音韻構造に関する論文(1)(2)を部分的に読みながら、英語、日本語およびドイツ語の音韻、語彙構造に関して分析します。 日本語の「カメラ」、英語のcamera、ドイツ語のKameraはすべて最初にアクセントがきます。「トマト」は「カメラ」と同様最初にアクセントがきますが、英語のtomatoは中学校で習ったと思いますが、アクセント位置も発音も異なりますね。また英語のmagazineは最後の音節、disciplineは最初の音節にアクセントがきますが、ドイツ語のMagazinとDisziplinはともに最後の音節にアクセントが来るようです。言語が異なれば発音、アクセントが違うのは当たり前と思うかも知れませんが、実は、これらは「規則的に」異なっており、この3つの言語以外にも広く当てはまる一般化に従っています。この一般化を、辞書で英単語の発音（正確には音節構造）を調べることによって皆さんに「発見」してもらうことをこの授業は目指します。	1. 日英語の音韻構造に関する違いをリストアップ 2. 音節の重さ 3. 日英語の名詞のアクセント位置 4. 日英語の名詞のアクセント位置 5. 日英語の動詞のアクセント位置 6. 日英語の動詞のアクセント位置 7. ドイツ語の名詞、動詞のアクセント位置 8. Long Vowel Stressing 9. Geminate Consonants 10. Syllables Closed by Sonorants and *s* 11. Superheavy Syllables 12. Weak Syllables 13. Stress and Word-formation 14. Stress and Word-formation 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
(1) Burzio (2005) *Principles of English Stress*. CUP. (2) Kubozono (1999) "Mora and Syllable." In Tsujimura (ed.) *The Handbook of Japanese Linguistics*. Blackwell. (3) その他	毎回の授業での活動(40%)、定期試験(60%) とする。

06 年度以降	英語学文献研究 a	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英語の文構造は基本的に述語動詞として用いられる動詞によって決定されるので，動詞の特徴は文の統語構造を考える上できわめて重要である．表層構造と語彙構造と意味特徴など必要な全ての情報を用いて動詞の特徴を明らかにし，これによって，英語の文構造の特徴を明らかにする． **講義概要**: まず，身近な〈自動詞〉について，表面構造と項構造や事象構造からその定義を考える．次に，動詞を自動性と他動性の観点から検討する．さらに，対格性と能格性から自動詞・他動詞や非対格動詞や能格動詞・非能格動詞や中間動詞を考える．また，Vendler（1967）とDowty（1979）で提案されている状態・行為・達成・到達という動詞が表す意味による動詞の分類と統語的な影響を考える． あわせて，動詞の種類と構文との関係も考える．例えば，受動文や存在文が可能な動詞，また，非人称構文や繰り上げ構文を許す動詞の特徴も検討する．	1. 自動詞は二種類か四種類か 2. 表層構造からの動詞の分類 3. 項構造・事象構造からの動詞の分類 (1) 4. 項構造・事象構造からの動詞の分類 (2) 5. Vendler(1967)と Dowty(1979)の動詞の分類（1） 6. Vendler(1967)と Dowty(1979 の動詞の分類（2） 7. 非対格動詞の定義とその問題点；〈中間試験〉 8. 能格動詞と非能格動詞 9. 他動性と受動態の可能な動詞 10. 中間動詞と能格動詞と非対格動詞 11. 他動詞と中間動詞と受動態動詞 12. 存在文の可能な動詞 13. 非人称構文の可能な動詞 14. 繰り上げ構文の可能な動詞 15. 動詞の種類と文構造に関するまとめ；〈期末試験〉
テキスト・参考文献	**評価方法**
テキスト: プリントを使用． **参考文献**: 鈴木英一・安井泉『動詞』研究社．久野暲・高見健一『日英語の自動詞構文』研究社．鈴木英一『統語論』開拓社．影山太郎『動詞意味論』くろしお出版．	受講状況，中間試験，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる．

06 年度以降	英語学文献研究 b	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は，英語学に関する知識を単に増やすことではなく，英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術，単なる揚げ足取りでない問題点の捉え方，有意義な問題設定の仕方，説得力のある議論の仕方などを身につけることを目標としたい。合わせて，英語そのものについての理解を深めることも目指したい。 講義では，下記のテキストを一行一行丹念に読み進めてゆく。なお，ここでいう「読み」とは，「情報として読む」ということではなく，「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては，内田義彦の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 学期末には，たとえば，We saw Joan blink.と We saw Joan blinking.の間の意味の違いや，In this photograph you can see Joan blinking.とは言えるが In this photograph you can see Joan blink.とは言えないことなどについて説明を与えられるようになるであろう。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。	進度の目安・目標は次の通りである。 1. オリエンテーション（出席は必須） 2. 始めから 3. 4. 5. 6. 7. 8. 中程まで 9. 中程から 10. 11. 12. 13. 14. 15. 最後まで 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお，いわゆる「救済措置」の機会はない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kirsner, Robert S., Charles N. Li, and Sandra A. Thompson (1976) "The Role of Pragmatic Inference in Semantics: A Study of Sensory Verb Complements in English," *Glossa* 10.2: 200-240.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の文学・文化 a 英語圏の文学・文化	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
Poetry and Culture in the San Francisco Bay Area 講義目的 アメリカ西海岸の文化的特徴を、自然環境・歴史・風土・社会といった文脈から考察する。 講義概要 *Historic San Francisco*をテキストに、1950年代以降、サンフランシスコ・ベイ・エリアで書かれた詩やその場所を歌ったポピュラー・ミュージックを取り上げながら、環境問題、アメリカ先住民の文化、ビート、ポエトリー・リーディング、ベトナム戦争、ホモセクシュアリティ、ドラッグ、カウンターカルチャー、ロック・ミュージック、禅仏教などについて論じる。	1. An Introduction 2. What is San Francisco? 3. What was Gold Rush? 4. Counterculture & Rock Music 5. Zen Buddhism in the Bay Area Poets in San Francisco 6. Kenneth Rexroth (1905-1982) 7. Robert Duncan (1919-1988) 8. Lawrence Ferlingetti (1919-) 9. Jack Kerouac (1922-1969) 10. Philip Whalen (1923-2002) 11. Allen Ginsberg (1926-1997) 12. Gary Snyder (1930-) 13. Michael McClure(1932-) 14. Robert Hass (1941-) 15. Jane Hirshfield (1953-)

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト: Rand Richards. *Historic San Francisco: A Concise History and Guide*. San Francisco: Heritage House Pub., 2007.(ISBN: 978-1-879367-05-0) 詩は担当者がプリントを用意します。	講義のトピックの中からテーマを選び、4,000 程度のレポート（原ゼミの HP の「MLA 論文の書き方」を参照）と授業への参加度によって決める。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない。

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の文学・文化 b 英語圏の文学・文化	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　文学コース中級篇です。私たちに比較的ちかい、20 世紀にイギリスで書かれた小説を扱います。受講者のみなさんには、「文学文化入門」に引き続き、文学作品、とくに小説の言葉を読みこなす力を養ってもらいます。 　また、講義で扱う作品のうち１作については、翻訳でもよいので、自分で読み通して作品論を書いてもらいます。 講義概要 　講義の前半では、20 世紀前半の「モダニズム」文学運動の中で書かれた２作を取り上げます。言語化しにくいテーマをどう表現しているのかが、読むときのひとつのポイントです。 　講義の後半では、20 世紀後半の３作を取り上げます。「モダニスト」の先輩たちの実験を踏まえつつ、さらにスケールの大きな物語を作り上げているのが特徴で、「歴史」をどう見ているかがポイントです。 　毎回、作品の抜粋を読んできてもらい、講義のはじめにクイズをします。その後、抜粋についてみんなで話し合い、担当者（片山）からの解説をつけます。映像がある場合は一部お見せします。作品論の書き方については講義中に指示します。	１．イントロダクション ２～３．異人種交流のむずかしさ 　E.M. Forster, *A Passage to India* (1924) ４～５．戦争の傷跡 　Virginia Woolf, *Mrs. Dalloway* (1925) ６～８．インドをめぐる大冒険 　Salman Rushdie, *Midnight Children* (1980) ９～１１．イギリス湿地帯の風景 　Graham Swift, *Waterland* (1983) １２～１４．ヴィクトリア時代のロマンス 　A.S. Byatt, *Possession* (1990) １５．まとめ 取り上げる作品は一部変更することがあります。

テキスト、参考文献	評価方法
テキストはプリントを配布 参考文献は適宜授業中に提示	課題とクイズ 30%, 作品論 35%, 定期試験 35%。ただし欠席が授業回数の 2/3 を越える場合は評価対象としない。

13年度以降 06～12年度	英語圏の文学・文化・批評 a 英語圏の小説 a	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。 1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。 2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します） 3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。 講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。 注意事項：TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。	1. 新奇なるもの、小説？ (1) 2. 新奇なるもの、小説？ (2) 3. 英語圏の拡大　(1) 4. English Bestsellers of all time (1) 5. English Bestsellers of all time　(2) 6. 英語圏の拡大　(2) 7. 国民文学と政治的無意識 8. 小説の新たな挑戦　(1) 9. 小説の新たな挑戦　(2) 10. 語り返す言葉たちの登場、ポストコロニアルの文学地図(1) 11. ポストコロニアルの文学地図　(2) 12. ポストコロニアルの文学地図　(3) 13. ポストコロニアルの文学地図　(4) 14. テキストの思わぬ旅路　(1) 15. テキストの思わぬ旅路　(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します。	授業内活動参加度　40% 定期試験　60%

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の文学・文化・批評 b 英語圏の詩 b	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。 講義概要 アメリカ先住民の口承詩（うた）、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、「ここそしていま」の視点から論じる。	1.アメリカの大地の声—Native American のうた 2. Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon 3.デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman 4.ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson 5.モダニズムの起源を探る—(１)Ezra Pound がみた東洋 6.(2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” に描かれた現代人の苦悩 7. (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8. (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩 9.ポストモダンの詩を読む (1)Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” 10.(2)Gary Snyder の “Riprap” 11.(3) Sylvia Plath の “Daddy” 12. (4) Robert Bly の “Snowfall in the Afternoon” 13. (5) Adrienne Rich の “Onion” 14. (6) Frank O’Hara の “The Day Lady Died” 15. (7) Sandra Cisneros の “My Wicked Wicked Ways”
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: *The Penguin Anthology of 20th Century American Poetry*. Ed. Rita Dove. New York: Penguin Books, 2013.(ISBN: 978-0-14-312148-0) 参考文献、『アメリカ名詩選』（岩波文庫）	4,000 程度の作品論（原ゼミ HP の「MLA 論文の書き方」を参照）とその詩の日本語訳をつけたレポートによって評価する。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない。

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の文学・文化・批評 b 英語圏の演劇 b	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらう場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。	毎回授業開始時に英語の語彙 quiz を、終了前に内容把握 quiz を行います。教室で読むテキストは、第 1～15 回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ＊　第 1 回の授業の資料は中央棟 5 階 504 研究室前に用意しておきます。事前に準備してから出席すること。 **＊＊＊注意事項＊＊＊** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ」は、英語学科生は「英語圏の演劇 b（06～12 年度）」「英語圏の文学・文化・批評 b（13 年度以降）」、言語文化学科生は「多言語間交流研究各論（06～12 年度）」「英語圏の文学・文化・批評Ⅱ（13 年度以降）」として登録ください。テキストの英文は TOEIC650 点程度かそれ以上の英語力が前提です。650 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	授業時 2 つの quiz で 50%。観劇レポート 2 編（必修）で 50%、未提出者には単位を認めません。学期末定期試験はしません。

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の社会・思想・歴史 a 英語圏の社会と思想 a	担当者	田村　斉敏

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、戦争と詩人の関係を、とりわけ第一次大戦を中心として、考察していきます。いまや前世紀となった２０世紀は戦争の世紀ともいわれますが、戦争のみならず戦争の表象自体も大きくそれ以前とは変化をしました。その痕跡は、いわゆる戦争詩と言われる作品にも、また一見戦争とは無関係に見える作品にもしばしば確認できます。 戦争は外部からも、また内部からも、詩などの芸術作品を生み出す根底となる理性や感性等の枠組み自体をゆるがせます。また戦争は人に影響を与える原因のみならず人々の思想や行動の結果でもあるため、思わぬ形で詩人が戦争にコミットしているということもまたありえます。 イギリスの第一次世界大戦期に登場した戦争詩人たちや彼らとは全く異なる出自をもつモダニストあるいはその流れに位置づけられる詩人たちを中心に扱いますが、一部小説や映画などを取り入れて、広い角度からこの問題を見ていこうと考えています。	1.　イントロダクション：戦争と詩人 2.　トマス・ハーディ 3.　戦争詩人　ルパート・ブルック 4.　戦争詩人　シーグフリート・サスーン 5.　戦争詩人　ロバート・グレーヴズ 6.　戦争詩人　アイザック・ローゼンバーグ 7.　ウィリアム・バトラー・イエイツ１ 8.　ウィリアム・バトラー・イエイツ２ 9.　グレーヴズと「ドイツ人」問題 10.　第二次世界大戦へ 11.　間奏　クリストファー・イシャウッド 12.　間奏　カズオ・イシグロ 13.　アメリカ詩人　ウォレス・スティーヴンス 14.　現代へ　ヒル、ヒーニー、ボランド 15.　まとめ ※内容は一部変更される可能性があります
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントを配布して使用。 参考文献は授業時に連絡する。	評価方法：レポート７０％。授業中に課す課題等の評価が３０％。

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の社会・思想・歴史 b 英語圏の社会と思想 b	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 イギリスのフェミニズム思想と運動の歴史をたどります。フェミニズムとは簡単に言えば女性の権利主張のこと。イギリスのフェミニズムには、メアリ・ウルストンクラフト、J.S.ミル、ヴァージニア・ウルフなど、世界史レベルで著名な思想家がいます。また、参政権運動、アメリカの軍事施設占拠など、直接行動の歴史もユニークです。 今日の世界を理解するのに、階級や民族などと並んでジェンダー（性別）の視点は欠かせません。イギリスのフェミニズムを勉強することで、今日の世界の成り立ちについて、イギリスという具体的な場をとおして知識を得てほしいと思います。 講義概要 毎回、その時代の人々の生の声をいくつか引用してプリントにして、日本語に訳してきてもらいます。担当者（片山）はそれらの「声」の意味や背景について説明しつつ疑問点を提示します。 フェミニズムには正解のない問いがいっぱい。受講者の性別を問わず、みんなでディスカッションして理解を深めましょう。	1. はじめに 2. 中世から近代初期（１）：キリスト教と女性 3. 中世から近代初期（２）：世俗の場でのフェミニズム 4. 18 世紀：メアリ・ウルストンクラフト 5. 19 世紀（１）：J.S.ミル 6. 19 世紀（２）：.ナイチンゲール 7. 19 世紀（３）：個人から集団へ 8. 19 世紀から 20 世紀へ（１）：女性参政権運動 9. 19 世紀から 20 世紀へ（２）：参政権運動の過激化 10. 戦間期のフェミニズム（１）：バースコントロール運動 11. 戦間期のフェミニズム（２）：ヴァージニア・ウルフ 12. 20 世紀後半（１）：第二波フェミニズム運動 13. 20 世紀後半（２）：グリーナム占拠 14. 20 世紀から 21 世紀へ：ブラック・フェミニズム 15. まとめ （各回タイトル・内容は一部変更することがあります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Margaret Walters, *Feminism: A Very Short Introduction* (OUP: Oxford, 2005).　参考文献は授業で提示	課題プリント約３割、学期末試験約７割。ただし授業回数の 2/3 を越えて欠席した場合、評価対象としない。

13 年度以降 06～12 年度	英語圏の社会・思想・歴史 b 英語圏の歴史 b	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生みだしたメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 「ユダヤの視点でみるアメリカ史」が秋学期後半のテーマとなる。 前半は彼らがアメリカの地でパワーエリートに成り上がる以前、中世から近代の英国で負け犬として「下積み」をすごした時代を概観する。	1．中世英国のユダヤ人金融 2．中世英国からのユダヤ人追放 3．隠れユダヤ教徒の足跡 1290～1656 4．千年王国とユダヤ人再入国 5．17～18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人 6．英国人地主貴族社会への同化現象 7．移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 8．英国ファシスト勢力との対決 9．現代英国のユダヤ社会 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コ ンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活した中世 13. ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 14. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 15. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行著『アメリカのユダヤ人迫害史』（2000 年 集英社新書）740 円 佐藤唯行著『英国ユダヤ人』（1995 年 講談社選書）1600 円	評価はクイズ形式による筆記試験（8 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。

06 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
混迷を深め、出口の見えないパレスチナ・イスラエルの紛争。 公平な仲介者を演じられぬアメリカの国内事情を分析し、パレスチナ、イスラエル側の問題点も明らかにしてゆく。後半はアメリカ社会のマルチ・エスニックな成り立ちを映像ソフトをみながら解説してゆく。	1．パレスチナは独立国家たりうるのか 2．アメリカはなぜ公平な仲介者となりえないのか 3．イスラエル国防軍を掌握する宗教シオニスト 4．在米キリスト教徒のシオニスト 5．イスラエル・ロビーの番付表 6．最強のイスラエル・ロビーとは 7．弟分、在欧イスラエル・ロビー 8．アラブ・ロビーはなぜ脆弱なのか 9．アメリカ先住民 10. 越境するヒスパニック 11. アメリカの黒人問題 12. 反ユダヤ主義 13. アジア系移民 14. ホワイト・エスニック 15. 異人種間結婚
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行『アメリカがイスラエルを見捨てる日は来るのか』(仮題)日新報道、14 年 3 月刊行予定、1500 円位 佐藤唯行『映画で学ぶエスニック・アメリカ』NTT 選書、1600 円	20 問 8 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可

06 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English. This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.	1. Introduction, The First Americans 2. Columbus and the Conquistadors 3. The First British in America 4. War and Independence 5. Building a New Nation 6. Civil War Splits the Country 7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts 8. European Immigrants Pour In 9. Agriculture: Amber Waves of Grain 10. Industrialists, Inventors, Tycoons 11. Black Culture in America 12. Imperial World Capital 13. Postwar Good Life & The Sunbelt 14. America the Beautiful 15. Final Test (Essay)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be handed out in class.	Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence.

06 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 アイルランドの文学と文化についての理解を図る。 **講義概要** アイルランドに視点を据えて、この島の歴史や文化を、できるだけ文学作品（主に現代演劇）を基にして、時に DVD 資料を利用しながら、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わり考えていきます。 イギリスからの視点一辺倒だったアイルランド観が変わると思います。 各回の始めに語彙 quiz を、各回の終わりに内容把握の確認 quiz を行います。 公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。 **＊＊＊注意事項＊＊＊** テキストにする英文は TOEIC650 点程度かそれ以上の英語力が前提です。650 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。	＊　第 1 回の授業で使用する資料は中央棟 5 階 504 研究室前に用意しておきます。事前に準備して出席すること。 第 1 回：導入──アイルランド予備知識 第 2 回：神話と Harry Potter 第 3 回：ケルト人と人種のルーツ 第 4 回：ケルト文化と Hallowe'en 第 5 回：妖精伝説：現代怪談戯曲 *Shining City* 第 6 回：ケルトの祭：戯曲 *Dancing at Lughnasa* 第 7 回：キリスト教と聖パトリック 第 8 回：イギリス支配への抵抗：戯曲 *Robert Emmet* 第 9 回：イギリスからの独立：映画『麦の穂を揺らす風 第 10 回：独立運動とテロ：映画『マイケル・コリンズ』 第 11 回：争いと荒廃からの再生：戯曲 *Carthaginians* 第 12 回：サッカー&ラグビー：戯曲 *The Man from Clare* 第 13 回：移民：戯曲 *Philadelphia, Here I Come!* 第 14 回：移民：映画 *Kings* とミュージカル *Once* 第 15 回：まとめ──アイルランドの今
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。

06 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
今年生誕 100 年を迎えるアメリカのユダヤ系移民の第２世代作家、Bernard Malamud(1914-1986)の作品と生涯を概観することにより、この作家の重要性と 20 世紀のアメリカ社会・文化の諸問題・特質などを考察する。 全長編小説と代表的な短編を時系列に紹介する。できるだけ、作品の抜粋を読んでもらい鑑賞・解説を試みる。また、伝記情報をもとに、作品が誕生する経緯を解き明かし、Malamud の作家としての成長と発表当時の社会状況を考察したい。貧しいブルックリンの食料品店に生まれた無名なユダヤ系移民の２世が、アメリカ社会で重要な作家としての地位を確立し、American Dream を達成する過程を追うことにより、この作家の全体像とアメリカ社会・文化の一断面を明らかにしたい。	1：Bernard Malamud と初期の作品 2：*The Natural* (1952)について 3：*The Assistant* (1957) について(1) 4：*The Assistant*(1957) について(2) 5：*The Magic Barrel* (1958) について 6：*A New Life* (1961) について(1) 7：*A New Life* (1961) について(2) 8：*Idiots First* (1963) について 9：*The Fixer* (1966) について 10：*Pictures of Fidelman: An Exhibition* (1969) について 11：*The Tenants* (1971)と *Rembrandt's Hat* (1973) について 12：*Dubin's Lives* (1979) について(1) 13：*Dubin's Lives* (1979) について(2) 14：*God's Grace* (1982) について 15：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリント 参考文献：Philip Davis, *Bernard Malamud: A Writer's Life*, (Oxford: Oxford Univ. Press, 2007)	定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。

06 年度以降	英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英語圏の文学・文化に関するポスト構造主義の批評を読み、近年の批評理論についての理解を深めます。 講義概要 　授業はあらかじめ配布したプリントを予習してきてもらい、毎回順番に文献を輪読してもらい、不明な点があれば、解説します。希望があれば、希望者によるプレゼン形式などもとりいれる予定です。	1：はじめに：授業の進め方と構造主義以降の批評理論の紹介 2-14：　文献の輪読と解説 15：まとめ：
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配布します。 参考文献：随時紹介します。	不定期に課すかもしれない課題、学期末の試験、および平常点（輪読、プレゼンの質や授業・討論への貢献度で、出席点ではない）

06 年度以降	英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	田村　斉敏

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英国ロマン派を代表する二人の詩人、ウィリアム・ワーズワスとウィリアム・ブレイクを取り上げて、とりわけ子供（時代）との関わりが深い詩を精読していきます。 　ワーズワスについては『抒情歌謡集（リリカル・バラッズ)』に収められた比較的初期の詩、またブレイクについては『無垢と経験の歌』所収の詩を抜粋して扱います。 　時に長大であったり（ワーズワス『序曲』など)、難解であったり（ブレイク『天国と地獄の結婚』など）するために、有名であってもなかなか実際にじっくりと読めずにいる方も多いと思われる二人の詩人ですが、ここではじっくりと腰を落ち着けて、丁寧に読んでいきたいと思っています。 　昔の時代に書かれた詩を読むには、時に根気強く辞書等に当たり、ひとつひとつの言葉を吟味して、背景の知識なども調べたりする必要が出てくると思います。また詩に独特の約束事を知っておくことも大事です。この授業ではあくまで各人がそれぞれ担当する個所について発表を行っていただくのを中心としますので、テキストを前に汗をかく心の準備だけはしておいてください。そのために必要な知識や情報については、毎回の講義を通じて補っていきます。	1.　イントロダクション 2.　ワーズワスとブレイクにおける「童心」 3.『抒情歌謡集』より「少年がいた」 4.『抒情歌謡集』より「ルーシー詩篇」1 5.『抒情歌謡集』より「ルーシー詩篇」2 6.『抒情歌謡集』より「ルーシー詩篇」3 7.『抒情歌謡集』より「茨」 8.『抒情歌謡集』より「私たちは七人」 9.『無垢と経験の歌』1 10.『無垢と経験の歌』2 11.『無垢と経験の歌』3 12.『無垢と経験の歌』4 13.『無垢と経験の歌』5 14. まとめ 1 15. まとめ 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントの予定。 参考文献等については授業中に指示する。	評価方法：授業内での発表 50%、レポート 50%。

06 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要

受講生が異文化コミュニケーション研究の総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようになることを学習目的としています。扱う主な学習テーマは、右記「授業計画」の欄に書かれている通りですが、本講義担当者の関心事であり、異文化コミュニケーションにおける最重要課題の一つである偏見と差別については、詳しく学習したいと考えています。

本科目は「講義＋グループワーク」の参加型形式で進めます。知識、態度、行動の三局面から受講生の自己形成を促すことに主眼をおきます。受講生は各回の講義までに基本教材（和書２冊と関連する英語論文）の指定箇所を読んでくることが求められます。また、他の受講生と協力して研究活動を行い、共同でポスター発表と研究レポートの執筆を行います。このような活動を通して、受講生は異文化コミュニケーション学の知識だけでなく、「ジェネリックスキル」と呼ばれる、社会・職業生活に必要とされる汎用的技能も向上させることが期待されます。

創造的で独創的な学習成果を期待しています。

授業計画

1. 導入
2. 基礎概念――（異）文化とコミュニケーション
3. 自己とアイデンティティ
4. ステレオタイプ、偏見、差別
5. 価値観、思考パターン
6. ポスターセッション（１）
7. ポスターセッション（２）
8. 言語と非言語メッセージ
9. カルチャーショックと異文化適応
10. 対人コミュニケーション――友情と恋愛
11. 異文化コミュニケーションの教育・訓練・研究
12. チュートリアル（１）
13. チュートリアル（２）
14. チュートリアル（３）
15. まとめ

＜主要参考文献＞

池田理知子 編著（2010）『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房。
石井敏 他 編（2013）『異文化コミュニケーション事典』春風社。
春原憲一郎 編著（2010）『わからないことは希望なのだ』アルク。
好井裕明 編（2009）『排除と差別の社会学』有斐閣

テキスト、参考文献

石井敏、久米照元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人（2013）『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣。
加賀美常美代、横田雅弘、坪井健、工藤和宏 編（2012）『多文化社会の偏見・差別』明石書店。

評価方法

（1）ポスター発表（グループワーク）30%
（2）研究レポート（グループワーク）60%
（3）授業への貢献 10%

06 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要

受講生が異文化コミュニケーション研究の総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようになることを学習目的としています。扱う主な学習テーマは、右記「授業計画」の欄に書かれている通りですが、本講義担当者の関心事であり、異文化コミュニケーションにおける最重要課題の一つである偏見と差別については、詳しく学習したいと考えています。

本科目は「講義＋グループワーク」の参加型形式で進めます。知識、態度、行動の三局面から受講生の自己形成を促すことに主眼をおきます。受講生は各回の講義までに基本教材（和書２冊と関連する英語論文）の指定箇所を読んでくることが求められます。また、他の受講生と協力して研究活動を行い、共同でポスター発表と研究レポートの執筆を行います。このような活動を通して、受講生は異文化コミュニケーション学の知識だけでなく、「ジェネリックスキル」と呼ばれる、社会・職業生活に必要とされる汎用的技能も向上させることが期待されます。

創造的で独創的な学習成果を期待しています。

授業計画

1. 導入
2. 基礎概念――（異）文化とコミュニケーション
3. 自己とアイデンティティ
4. ステレオタイプ、偏見、差別
5. 価値観、思考パターン
6. ポスターセッション（１）
7. ポスターセッション（２）
8. 言語と非言語メッセージ
9. カルチャーショックと異文化適応
10. 対人コミュニケーション――友情と恋愛
11. 異文化コミュニケーションの教育・訓練・研究
12. チュートリアル（１）
13. チュートリアル（２）
14. チュートリアル（３）
15. まとめ

＜主要参考文献＞

池田理知子 編著（2010）『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房。
石井敏 他 編（2013）『異文化コミュニケーション事典』春風社。
春原憲一郎 編著（2010）『わからないことは希望なのだ』アルク。
好井裕明 編（2009）『排除と差別の社会学』有斐閣

テキスト、参考文献

石井敏、久米照元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人（2013）『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣。
加賀美常美代、横田雅弘、坪井健、工藤和宏 編（2012）『多文化社会の偏見・差別』明石書店。

評価方法

（1）ポスター発表（グループワーク）30%
（2）研究レポート（グループワーク）60%
（3）授業への貢献 10%

06 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・「よき日本人こそ真の国際人」: これは1968年3月、第一回卒業式の式辞の中で天野貞祐学長が言われたことばである。当時は「異文化コミュニケーション」という概念はなかったが、現代社会の人々のありようを考えるとき正鵠を射ている、と思う。 ・そこで「コミュニケーション」という視点から日本文化・社会の幾つかの側面を学習しよう。 ・講義内容に関連して客員講義も予定する。	1. コミュニケーション序章 2. 言語とコミュニケーション 3. 同上② 4. 同上③ 5. ビジネスとコミュニケーション 6. 同上② 7. 同上③ 8. 歴史とコミュニケーション 9. 同上② 10. 同上③ 11. 異文化屈折 12. 同上② 13. イノベーションの普及 14. 同上② 15. 終章(まとめ)
テキスト、参考文献	**評価方法**
・参考文献 ; 石井敏ほか(2013)『はじめて学ぶ 異文化コミュニケーション』有斐閣(¥2,000) ・その他 ; その都度紹介する	・小レポート : 20% ・課題レポート : 30% ・定期試験 : 50%

06 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・春学期とほぼ同じ	・春学期とほぼ同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
・同上	・同上

06 年度以降	メディア・コミュニケーション論 a	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
人間とはコミュニケーションする動物である。初歩的な記号表現から複雑なテクノメディアに至るまで、人間はこれまで様々なタイプのコミュニケーション手段を考案してきた。人間にとってコミュニケーションとは不可避であり、それを媒介するメディアなしに文化的活動を営むことはできない。 本講義では、わたしたち人間にとって重要な意味をもつ「メディア・コミュニケーション」の本質に迫るために、コミュニケーション研究やメディア論における基本的な考え方を、現代社会にあふれる豊富な具体例とともに解説してゆく。またメディア史の代表的なモデルを概観しながら、メディア・テクノロジーの発達によって、人間のコミュニケーション形態がどのように変化してきたのかを理解していく。	1　ガイダンス――本講義をつうじて学んでほしいこと 2　コミュニケーションの諸相① 3　コミュニケーションの諸相② 4　コミュニケーションの諸相③ 5　コミュニケーションの諸相④ 6　メディアの媒介作用と延長作用① 7　メディアの媒介作用と延長作用② 8　メディアの媒介作用と延長作用③ 9　メディア・コミュニケーションの歴史① １０　メディア・コミュニケーションの歴史② １１　ポスト・ヒューマンの肖像① １２　ポスト・ヒューマンの肖像② １３　ポスト・ヒューマンの肖像③ １４　ポスト・ヒューマンの肖像④ １５　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
池田理知子・松本健太郎編　『メディア・コミュニケーション論』（ナカニシヤ出版、　２０１１年）	平常点　50%、　期末試験　50%

06 年度以降	メディア・コミュニケーション論 b	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
昨今においてゲームは「テレビ」「パソコン」「ケータイ」の画面を含め、さまざまなメディウムや装置のなかに侵入し、人はそれをつうじて、生きていくうえで重要な何かを学んだり、現実のなかでは不可能な何かを体験したり、あるいは社会の誰かと交わったり結びついたりする、きわめて影響力の大きな媒体としての役割を演じている。いまやゲームは常に若い世代にとっての話題の中心、あるいはオンラインのなかで人々を連結する結節点として機能している、といって過言ではないだろう。 本講義では現代的なメディウムの一例としてコンピュータゲームに焦点をあてながら、映像表象とそれを受容する人間の身体との現代的な関係性について多角的に――記号論、メディア論、視覚文化論、ゲーム研究などの知見を援用しながら――考察していく。	1　ガイダンス――本講義をつうじて学んでほしいこと 2　映像メディアとそれを受容する視点① 3　映像メディアとそれを受容する視点② 4　映像メディアとそれを受容する視点③ 5　映像メディアとそれを受容する視点④ 6　ゲーム化する世界① 7　ゲーム化する世界② 8　ゲームにおける身体と表象① 9　ゲームにおける身体と表象② １０　ゲームにおける身体と表象③ １１　ゲームにおける身体と表象④ １２　テクノロジーが陶冶する想像力の現在① １３　テクノロジーが陶冶する想像力の現在② １４　テクノロジーが陶冶する想像力の現在③ １５　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本記号学会編　『ゲーム化する世界――コンピュータゲームの記号論』（新曜社、　２０１３年）	平常点　50%、　期末試験　50%

06 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーションとは、「はなし」が関わることに限定されるものではないし、スピーチ(発話)は「ことば」に限定されるわけでもない。本授業では、様々なメッセージをスピーチとしてとらえ、様々な社会事象をコミュニケーションとしてとらえることで、現代を生きる我々がいかに関係や意味の産出に関わっていけるのか講義していく。 春学期は<する・おこる>、<対称性>、<記号の均質性>、<時間>、<主体>などのキーワードを足がかりとして、様々な事象(新聞、雑誌、漫画、小説、映画)の検討をおこなう。 授業参加のために事前に課題の読書をすませ、考えてくるとともに、遅刻・早退をせず、授業内での話し合いに積極的に関わることが必要となる。	1 授業概要の説明 2 コミュニケーションとは？スピーチとは？ 3 コミュニケーションと認識 4 発生するコミュニケーション 5 コミュニケーションの対称性 6 CM とコミュニケーション 7 映画とコミュニケーション 8 共通記号とコミュニケーション 9 共通記号、笑い、コミュニケーション 10 物語とコミュニケーション 11 音楽とコミュニケーション 12 物語とコミュニケーション 13 ナショナリズムとコミュニケーション 14 歴史とコミュニケーション 15 時間、自己・他者認識、コミュニケーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に配布	授業参加、試験またはレポートによる総合評価。

06 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の「スピーチ・コミュニケーション論 a」をふまえ、比較的理論的な考察をおこなう。 まずは、スピーチ・コミュニケーションにとって重要となる、「記号･象徴･表象・言説･シンボル･サイン」といったことばで語られる概念を、記号論、レトリック論の研究者がどのように捉えてきたのかを検討し、これらの概念を提唱する諸理論家の考えによってどのような研究が可能になるのか考察する。 これらの記号に関する諸概念を検討した後、ハーバマスの公共圏に関する理論を踏まえ、公共圏の構築、そこからの排除に関連する諸理論を扱う。 授業参加のために事前に課題の読書をすませ、考えてくるとともに、遅刻・早退をせず、授業内での話し合いに積極的に関わることが必要となる。	1 授業概要の説明 2 記号論: ソシュールとバルト 3 記号論: パース 4 記号論: パース 5 レトリック論: ケネス・バーク 6 レトリック論: ケネス・バーク 7 公共圏とコミュニケーション: ハーバマス 8 対抗的下位の公共圏とコミュニケーション: フレイザー 9 ネットワークと公共圏 10 権力・主体とコミュニケーション: フーコー 11 権力・主体とコミュニケーション: フーコー 12 オリエンタリズム: サイード 13 オリエンタリズム: サイード 14 日本とオリエンタリズム 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に配布	授業参加、試験またはレポートによる総合評価。

06 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 現代のコミュニケーション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、文化テクストを解読することを学ぶ。 **講義概要** 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーションの問題の中心は権力関係にある。そこで、メディアやレトリック等のスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』(有斐閣)を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、＜今＞に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。	1　オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点 2　時計時間の支配 3　空間と権力 4　アイデンティティの問い 5　レトリックと権力 6　レトリックと権力 7　家庭内コミュニケーション 8　ジェンダーとコミュニケーション 9　ジェンダーとコミュニケーション 10　テクノロジーとコミュニケーション 11　テクノロジーとコミュニケーション 12　メディアのレトリック 13　多文化主義とコミュニケーション 14　多文化主義とコミュニケーション 15　グローバル化と日本社会／総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.	定期試験又はレポート及び不定期に課すクイズ等による総合評価。

06 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第1に口承、文学、さらには電子メディアに媒介された表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第2にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。 **講義概要** 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 b では、20世紀以降のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。	1　オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 2　フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 3　ハイデガーと存在論 4　ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L.オースティンと発話行為理論 5　ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L.オースティンと発話行為理論 6　精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク 7　精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク 8　ミシェル・フーコーと表象 9　ミシェル・フーコーと表象 10　ミシェル・フーコーと表象 11　ミシェル・フーコーと表象 12　エドワード・サイードとオリエンタリズム 13　エドワード・サイードとオリエンタリズム 14　スチュアート・ホールと文化研究 15　総括
参考文献	**評価方法**
立川健二・山田広昭『現代言語論―ソシュール　フロイト　ウィトゲンシュタイン』新曜社 土田土則・神郡悦子・伊藤直哉『現代文学理論―テクスト・読み・世界』新曜社	定期試験又はレポート及び不定期に課すクイズ等による総合評価。

06 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・日本と韓国の文化比較に焦点を当てる：ある意味では文献講読のような内容であるから、日韓関係に関心があるのが望ましい（担当者は現時点－1月末韓国在住)。 ・講義内容に関連して客員講義も予定する。	1. 日韓比較序章 2. おいしく召し上がってください 3. どうしてボーイフレンドがいないんですか 4. 泣く子に乳をやる 5. 社長様はいらっしゃいません 6. お膳の足が折れるまで 7. 母はもっと若く見えるんですよ 8. 「君」と＜クン＞ 9. 似ていて違う日本語と韓国語 10. 韓国人が抱く日本語のイメージ 11. 日韓の自国語・外来語意識 12. 日韓の敬語意識の違い 13. ことばの乱れ意識の違い 14. 日韓の姓名比較 15. 終章（まとめ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
・任 栄哲・井出里咲子(2004)『箸とチョッカラク』大修館書店(¥1,800) ・関連文献はその都度紹介する	・小レポート：50% ・学期末レポート：50% ・受講生数によって変更する

06 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・春学期とは内容を変えて、＜ハムレット＞と＜忠臣蔵＞の比較に焦点を当てる。日本の社会的・文化的事象を再確認する。 ・講義内容に関連して客員講義も予定する。	1. 概要説明：比較序章 2. 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 3. 同上② 4. 同上③ 5. ドラマ＜ハムレット＞ 6. 同上② 7. ドラマ＜忠臣蔵＞ 8. 同上② 9. 同上③ 10. 同上④ 11. 個人／集団プレゼンテーション 12. 同上② 13. 同上③ 14. 同上④ 15. 終章（まとめ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
・参考文献を指示する ・関連文献はその都度紹介する	・個人／集団プレゼンテーション：40% ・学期末レポート：60% ・受講生数によって変更する

06 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
我々を取り巻く現代の世界は、テレビや映画を始め、写真や広告映像等の視覚的なコミュニケーションで溢れている。本講義は、視覚コミュニケーションを理解し分析するのに必要な歴史と多用なアプローチを可能とさせる視覚文化論の知を学ぶことを目的としている。 １９８０年代に米国で台頭した視覚文化論は、絵画芸術を中核とする美術（史）の分野に加えて、メディア論やコミュニケーション論、比較文学等の隣接領域を包みつつ、視覚的表象の文化的次元を扱う新たな領域として認知されている。現在、視覚文化論はコミュニケーション学で最も注目される分野の一つであり、その諸相を扱っていく。 春学期の講義では、視覚文化論が射程とする様々なトピックを取り上げ、写真、映画、絵画、空間、建築等の視覚性を検討していく。	1. オリエンテーション 2. 視覚文化論とは 3. 視覚の諸理論（言葉とイメージ） 4. 視の制度（scopic regime）と視覚の専制的力への批判 5. 眼差しと視線 6. 視覚技術と身体 7. スペクタクルと文化 8. イメージのレトリック 9. 写真と映像にみるイデオロギー 10. 視覚と写真（イメージと記憶） 11. 建築の視覚空間と博物館 12. 空想（イマジナリー）の場所と視の主体 13. 映画と映像の視覚構成 14. 芸術（アート）の視覚 15. 前期の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業で紹介する。	定期試験又はレポートによって評価する。

06 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は春学期の「コミュニケーション論特殊講義a」と連続をなすものである。 春学期に、視覚文化論のアプローチを理解するための理論と歴史を学習したことを踏まえて、秋学期ではその内容を前提としながら、その対象を１４世紀のルネッサンス以降の西洋絵画に絞り、絵画の歴史文化的な視覚性を考察していく。考察する視覚論の基軸となる遠近法と視覚技術の歴史を踏まえつつ、それぞれの絵画が構成する視覚の文化的空間を描きだしていく。遠近法箱（perspective box）や製図法、印刷技術、カメラ・オブスクラ等、様々な技術との関わりの中で変容する絵画の視覚性を歴史的に辿っていくことになる。しかし、それは絵画に表現された視覚と技術の決定論的歴史ではない。むしろ、視覚というメディアの変容がもつ複雑さに注目する。１９世紀に起こった視覚の拡張が単なる技術的な発展ではなく、ルネッサンス以降の歴史的な潮流の中から形成されたメディアとしての視覚の変容であることを考察する。視覚の歴史的変容の際に生産される知が立ち上がる様相にも着目してみたい。	1. オリエンテーション 2. 視覚技術としての遠近法と透視画法 3. 視覚技術の変容と視覚の言説（クレーリーの視覚論） 4. ジョット、マザッチョ：ルネッサンスと遠近法 5. ベラスケス：古典主義時代（17-18 世紀）の表象関係 6. ニセロン：アナモルフォーズ画とバロック 7. フェルメール、ファブリティウス：北方ルネッサンスと描写術（幾何学の空間と二点・三点遠近法） 8. ホーホストラーテン、アルチンボルド：遠近法箱と驚異の部屋（ヴンダーカンマー） 9. ヘイスブレヒツ：騙し絵（トロンプルイユ）のレトリック 10. ターナー：網膜と光（外部に曝される視覚） 11. クールベ、マネ：前景化される奥行きと遠近法的空間の消失 12. セザンヌ：多元的視角の構成と生起する空間 13. ムンク：映像と精神分析の視覚空間 14. マグリット：アンフォルム 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業で紹介する。	定期試験又はレポートによって評価する。

06 年度以降	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
（言説生産とオーラルヒストリー） インタビューで得られる「語り (oral discourse)」や文献調査をもとに「歴史 (history)」を記録し、執筆すること。「言説生産とオーラルヒストリー」という副題の本授業では、レトリック論/議論の理論と口承文化に関する理論的考察を踏まえつつ、言説生産＝執筆実践をおこなう。コミュニケーション研究と歴史の接点を探りつつ、「声」と「文字」資料をどのように位置づけるべきか、「声」を掘りおこすとはどういうことか、インタビュー時の自己とナレーターの立ち位置をどのように考えるべきかなどを、インタビュー実践を通して考察し、作品に仕上げることを目指す。コミュニケーションと歴史に関心のある学生、インタビュー実践が関わる職（例えばライターや編集者）に関心のある学生の受講を望む。受講者はインタビューのために録音機器が必要となる。	1 授業概要の説明 2 コミュニケーション、歴史、オーラルヒストリー 3 レトリックと言説生産 4 プロジェクト検討 5 声と文字 6 質問の作成・研究上の倫理規定・著作権について 7 記録と記憶 8 作品化 9-11 事例検討 12-15 発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業で紹介する。	授業参加、宿題、発表、最終レポートをもとに総合的に判断する。

06 年度以降	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
（言説生産とオーラルヒストリー） インタビューで得られる「語り (oral discourse)」や文献調査をもとに「歴史 (history)」を記録し、執筆すること。「言説生産とオーラルヒストリー」という副題の本授業では、レトリック論/議論の理論と口承文化に関する理論的考察を踏まえつつ、言説生産＝執筆実践をおこなう。 本学期は春学期のプロジェクトをさらに発展させて作品を執筆するか、新たなプロジェクトを立ち上げてインタビューと執筆をおこなうことが求められる。歴史とコミュニケーションに関心のある学生、インタビュー実践が関わる職（例えばライターや編集者）に関心のある学生の受講を望む。受講者はインタビューのために録音機器が必要となる。	1 授業概要の説明 2 オーラルヒストリーの流れ 3 レトリックと言説生産 4 プロジェクト検討 5 事例検討 6 質問の作成・研究上の倫理規定・著作権について 7-11 事例検討 12-15 発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業で紹介する。	授業参加、宿題、発表、最終レポートをもとに総合的に判断する。

06 年度以降	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要

イメージが氾濫する現代において、＜見る＞とは何かを考察した視覚文化論の古典、ジョン・バージャーの *Ways of Seeing* と *About Looking* の一部を題材として、視覚とは何かを考えていく。

バージャーの *Ways of Seeing* は、中世絵画から現代を取り巻く広告メディアや写真等を射程として、＜見る＞とは何かを考え直す名著である。視覚文化論の古典とも言える本著は、美術史の大きな流れを踏まえつつ、我々がものを見るとはどのようなことかを考察している。バージャーは見ることの中に隠された階級やジェンダー等の文化的価値観を、イメージの言語として視覚的題材に読むことでえぐり出す。その読みを丹念に踏まえることで、いかにイメージは見られるのかを理解することが可能となる。*About Looking* は写真と絵画に関する短編集であり、その短い論考の中にも彼の批判的主張が読み取れる。

イメージの批評的な分析と考察を深めていく本講義においては、以下の３点が探求の目的となる。１)現代のイメージと古典絵画との歴史的な関係を踏まえること、２)視覚文化批評とは何かを理解すること、３)イメージのコミュニケーション論とは何かを理解すること。これら３点について、その批評的意義を探っていく。

授業計画

1. Course Orientation
2. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 1)
3. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 1, 2)
4. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 3)
5. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 3, 4)
6. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 5)
7. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 5, 6)
8. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 7)
9. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 7, 8)
10. Reading *About Looking* (Paul Strand)
11. Reading *About Looking* (Uses of Photography)
12. Reading *About Looking* (Francis Bacon and Walt Disney)
13. Reading *About Looking* (Courbet and the Jura)
14. Reading *About Looking* (Magritte and the Impossible)
15. Wrap up

テキスト、参考文献

John Burger. *Ways of Seeing*. (Penguin Books Ltd., 1972)
About Looking については、プリントを配布する。

評価方法

定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。

06 年度以降	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要

西洋近代の文化史において、視覚技術はカメラの発明から映画技術として発展したと考えるのが一般的である。しかし、視覚コミュニケーション論においては、この近代化と共に発想された歴史的変遷と技術決定論は批判の対象となっている。この歴史的な分岐点となるのは１９世紀であり、新たな知の条件によって、近代的な観察者が生まれる。この視覚技術の変遷と同時に発生する近代の観察者はいかに生まれたのか。当時の視覚技術の主体となる観察者の構成が課題となる。

本授業では、当時の歴史的状況を踏まえつつ、視覚コミュニケーション論において重要な絵画や図版を主な題材として、近代の観察者の歴史的な誕生を分析した、ジョナサン・クレーリーの *Techniques of the Observe* を読んでいく。

単なる視覚技術の発展ではない、知の条件の変容が視覚メディアとして近代的な観察者を産み出す際、様々な出来事や力の諸相が絡み合う様子を把握していく。

授業計画

1. Course Orientation
2. Modernity and the Problem of the Observer
3. Modernity and the Problem of the Observer
4. Modernity and the Problem of the Observer
5. The Camera Obscura and Its Subject
6. The Camera Obscura and Its Subject
7. The Camera Obscura and Its Subject
8. The Camera Obscura and Its Subject
9. Subjective Vision and the Separation of the Senses
10. Subjective Vision and the Separation of the Senses
11. Subjective Vision and the Separation of the Senses
12. Techniques of the Observer
13. Techniques of the Observer
14. Techniques of the Observer
15. Visionary Abstraction / Wrap up

テキスト、参考文献

Jonathan Crary. *Techniques of the Observer: On Vision and Modernity in the Nineteenth Century*. (Cambridge, MA: MIT Press, 1992).

評価方法

定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。

06 年度以降	グローバル社会論 a,b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
スパイ映画００７シリーズや、ツーリズム映画を鑑賞しながら、映画に登場する世界の主要都市、そして当時の国際関係を解説します。 例えばスパイ映画「スカイフォール」では、英国ロンドンを舞台に、情報機関のコンピューター・システムに侵入し、国家機密を暴露するハッカーを相手に、ハッカーと戦う秘密情報機関のエージェント（ＩＤ番号が００７）が描かれています。国家機密を暴露する事件は実際に米国で発生しており、世界が直面する現実の問題です。 映画００７シリーズは、１９６０年代にリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 ツーリズム映画では、世界的なブランドが登場します。世界のブランドが生まれた１８世紀から２０世紀前半を、ツーリズム映画の中で発見します。 映画「タイタニック」では、高級バッグ「ルイ・ヴィトン」が登場しますが、すでに２０世紀初頭に富裕層のステータス・シンボルでした。	１　スパイ映画００７から見る世界 最新作「スカイフォール」鑑賞と解説 ２　同上 ３　スパイ映画００７―１９９０年代の世界 ４　スパイ映画００７―１９８０年代の世界 ５　同上 ６　スパイ映画００７―１９７０年代の世界 ７　スパイ映画００７―１９６０年代の世界 ８　スパイ映画００７―１９５０年代の世界 ９　まとめ １０　ツーリズム映画「タイタニック」鑑賞と解説 １１　同上（旅行バッグ「ルイ・ヴィトン」、 大型豪華クルーズ船の登場） １２　ツーリズム映画「８０日間世界一周」 １３　同上（旅行エージェント「トマスクック」、 「ロイズ」保険、アフタヌーンティー） １４　同上 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『グローバル社会論資料集』	評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の３点セットです。

06 年度以降	グローバル社会論 a,b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
スパイ映画００７シリーズや、ツーリズム映画を鑑賞しながら、映画に登場する世界の主要都市、そして当時の国際関係を解説します。 例えばスパイ映画「スカイフォール」では、英国ロンドンを舞台に、情報機関のコンピューター・システムに侵入し、国家機密を暴露するハッカーを相手に、ハッカーと戦う秘密情報機関のエージェント（ＩＤ番号が００７）が描かれています。国家機密を暴露する事件は実際に米国で発生しており、世界が直面する現実の問題です。 映画００７シリーズは、１９６０年代にリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 ツーリズム映画では、世界的なブランドが登場します。世界のブランドが生まれた１８世紀から２０世紀前半を、ツーリズム映画の中で発見します。 映画「タイタニック」では、高級バッグ「ルイ・ヴィトン」が登場しますが、すでに２０世紀初頭に富裕層のステータス・シンボルでした。	１　スパイ映画００７から見る世界 最新作「スカイフォール」鑑賞と解説 ２　同上 ３　スパイ映画００７―１９９０年代の世界 ４　スパイ映画００７―１９８０年代の世界 ５　同上 ６　スパイ映画００７―１９７０年代の世界 ７　スパイ映画００７―１９６０年代の世界 ８　スパイ映画００７―１９５０年代の世界 ９　まとめ １０　ツーリズム映画「タイタニック」鑑賞と解説 １１　同上（旅行バッグ「ルイ・ヴィトン」、 大型豪華クルーズ船の登場） １２　ツーリズム映画「８０日間世界一周」 １３　同上（旅行エージェント「トマスクック」、 「ロイズ」保険、アフタヌーンティー） １４　同上 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『グローバル社会論資料集』	評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の３点セットです。

06 年度以降	グローバル社会論 a,b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自国際問題を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週の国際問題」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心をも喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体系 3　行為主体（2）国際組織、NGO、多国籍企業 4　行為主体（3）世界政府は必要か？可能か？ 5　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 6　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 7　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和維持・構築 8　国際機構：国際連盟、国際連合 9　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 10　地域主義・地域協力（2）アジアの統合は可能か？ 11　グローバリゼーション：国境を超える人、モノ、カネ、情報、思想 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献リストを配布する。	平常点（20%）、試験（80%）

06 年度以降	グローバル社会論 a,b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自国際問題を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週の国際問題」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心をも喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体系 3　行為主体（2）国際組織、NGO、多国籍企業 4　行為主体（3）世界政府は必要か？可能か？ 5　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 6　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 7　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和維持・構築 8　国際機構：国際連盟、国際連合 9　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 10　地域主義・地域協力（2）アジアの統合は可能か？ 11　グローバリゼーション：国境を超える人、モノ、カネ、情報、思想 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献リストを配布する。	平常点（20%）、試験（80%）

06 年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、オーストラリアの歴史をイギリスの植民地時代から第二次世界大戦終結期まで振り返り、現代オーストラリア理解の一助とすることである。 多くの日本人が観光客、留学生として訪れ、また経済的にも繋がりが深い国でありながら、これまでオーストラリアがどのような歴史をたどってきたのかを知る者はおどろくほど少ない。また知りたいと思っても、日本では文献がそもそも少なく、オーストラリアを知る機会はおのずと限られてしまっている。 そこで本講義では、イギリス人が18世紀後半に入植してから６つの植民地がそれぞれ発展を遂げ、それが1901年にオーストラリア連邦として独立し、そして20世紀前半の二つの世界大戦を経験するまでの、オーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国、英連邦）やアメリカ、アジア地域（日本や中国、東南アジア）との関係性の中で振り返って行く。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお２～３回、小テストを実施する予定。	第１回：イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義 第２回：植民地オーストラリア①～植民地の誕生 第３回：植民地オーストラリア②～植民地の発展 第４回：大英帝国・英連邦とオーストラリア① ～英帝国の起源とその発展 第５回：大英帝国・英連邦とオーストラリア② ～英帝国から英連邦、コモンウェルスへ 第６回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第７回：多文化主義社会オーストラリア 第８回：講義前半の総括と質疑応答 第９回： 20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～「二つのナショナリズム」 第 10 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神 第 11 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第 12 回：第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論 第 13 回：２つの捕虜収容所～アンボンとカウラ 第 14 回：対日講和問題とオーストラリア 第 15 回：総括と質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：永野隆行他編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

06 年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。 それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。日豪両国が戦争をしたことすら知られていない。本講義では、戦後のアジア太平洋においてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には 21 世紀の国際関係において日本が学ぶべき何かを考えてもらいたい。 本講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリアの歴史を概観していく。	第１回：イントロダクション ～オーストラリア外交を見る眼 第２回：チフリー労働党政権の外交 ～新たな国際関係構築の模索 第３回：アンザス同盟の実現 第４回：冷戦下のアジア① ～中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争 第一次インドシナ危機 第５回：冷戦下のアジア② ～イギリスのアジアの戦争「対決政策」 第６回：冷戦下のアジア③ ～アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第７回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第８回：講義前半の総括と質疑応答 第９回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」 第 10 回：ミドルパワー外交①PKO、多国間主義 第 11 回：ミドルパワー外交②移民、難民、援助 第 12 回：ミドルパワー外交③核軍縮 第 13 回：ミドルパワー外交④国際テロとの戦い 第 14 回：日豪関係の歴史的展開～敵国から同盟国へ 第 15 回：21 世紀オーストラリア外交の行方＆質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：永野隆行他編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

13 年度以降 06～12 年度	グローバル・ヒストリー a 国際関係特殊講義 a	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」を国際関係史の観点から考察する。春セメスターでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合（今日の欧州連合）の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。 （注意）なお、本講義は2013年度に水本が担当した「国際関係特殊講義a」の名称変更科目であるため、水本担当の「国際関係特殊講義a」の単位修得者は、本講義の履修登録はできませんのでご注意ください。	1 はじめに 2　第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開 3　ヨーロッパ冷戦の起源 4　ヨーロッパ分断体制の形成（1） 5　ヨーロッパ分断体制の形成（2） 6　「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ 7　ヨーロッパ諸国の脱植民地化（アフリカ諸国の独立） 8　冷戦構造の多極化とデタント 9　米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント 10　デタントの崩壊：ソ連の第三世界進出 11　新冷戦とヨーロッパ 12　冷戦の終焉（1）：ゴルバチョフの登場、東欧革命 13　冷戦の終焉（2）：ドイツ統一、ソ連崩壊 14　冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献リストを配布する。	平常点（20%）、試験（80%）

13 年度以降 06～12 年度	グローバル・ヒストリー b 国際関係特殊講義 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」を国際関係史の観点から考察する。秋セメスターでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。 （注意）なお、本講義は2013年度に水本が担当した「国際関係特殊講義b」の名称変更科目であるため、水本担当の「国際関係特殊講義b」の単位修得者は、本講義の登録はできませんのでご注意ください。	1 はじめに 2　第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争 3　大戦の終結と占領：日本の敗北、帝国の解体 4　朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容 5　脱植民地化（1）南アジア、東南アジア 6　脱植民地化（2）中東 7　非同盟・中立運動 8　アジア冷戦における中ソ対立の意義 9　ベトナム戦争 10　米中和解とその影響 11　1970年代の地域紛争：印パ戦争、第三次・第四次中東戦争、第三次インドシナ戦争 12　新冷戦とアジア 13　経済発展と民主化：ASEAN,経済成長、民主化 14　冷戦の終焉とアジア 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献リストを配布する。	平常点（20%）、試験（80%）

06 年度以降	国際開発論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、開発途上国における貧困およびそれを克服するための開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。 講義は３つのシリーズから構成されます。第１の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。 第２の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、経済成長重視政策の問題点やグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに近年目覚まし中国の経済発展の実態について、その弊害を含めて探ります。 第３の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、新たな開発の方向性やビジネスの可能性について考えます。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	１．イントロダクション：開発と国際関係 **＜開発途上国の貧困＞** ２．貧困の現状／歴史的要因（1）：植民地支配の影響 ３．歴史的要因（2）：アジアにおける植民統治 ４．歴史的要因（3）：日本による植民地支配の功罪 ５．政治的要因（1）：民主主義と開発 ６．政治的要因（2）：開発独裁体制 ７．社会・文化的要因：インド・カースト制度 **＜開発途上国の開発とその実態＞** ８．経済開発の方法とパターン ９．高度経済成長の要因と弊害 10. 開発途上国にとってのグローバリゼーション 11. 中国経済発展の光と影（1）発展の勢い 12. 中国経済発展の光と影（2）弊害と矛盾 **＜グローバル化時代の国際開発＞** 13. 新産業開拓の展開（1）：ツーリズム関連産業 14. 新産業開拓の展開（2）：イスラム関連産業 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。	学期末試験の成績を中心に評価を行います。

06 年度以降	国際協力論	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ほぼ毎回の授業で、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみます。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。 国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際協力に関連した２つのトピックを取り上げます。 第１のトピックは、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、オーストラリアに注目して、国際協力の視点から取り上げます。 第２のトピックは、現代の海賊（パイレーツ）問題です。インド洋や東南アジアに出没するパイレーツに注目します。世界の商船やクルーズ船に脅威を与えるパイレーツ問題への対応が、国際協力で大きな課題となっています。	１　オリエンテーション ２　オーストラリアは、どんな国 ＜国際協力のテーマ＞ ３　国境を越える（移民の受け入れ） ４　国境を越える（移民の受け入れ） ５　国境を越える（難民の受け入れ） ６　国境を越える（難民の受け入れ） ７　地域紛争への協力 ８　ニッチ外交 ９　まとめ ＜現代の海賊問題を考える＞ １０　映画「キャプテン・フィリップス」鑑賞 １１　現代のパイレーツ問題 １２　　同上 １３　国際協力――パイレーツ対策 １４　国際協力――パイレーツ対策 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』（中公新書）、同『世界を動かす海賊』（ちくま新書）。	評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の３点セットです。

06 年度以降	国際交流論	担当者	小松　諄悦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本の文化交流の中核を担う国際交流基金の活動を中心に、文化交流について論じます。 特に、国際交流基金活動の三本柱である、芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流の各分野における、国際文化交流事業の実践を検証します。 分野ごとの文化交流事業の実践を学習しながら、文化交流政策、文化交流の目的についても、考察して行きます。 国際交流基金を取り巻く環境の変化が、文化交流にいかに影響を与えるかについても、検討します。	１．　講義の概要（日本の国際交流と国際交流基金） ２．　国際交流基金の歴史 ３．　国際文化交流政策の変遷 ４．　芸術交流 ５．　芸術交流の実践 ６．　芸術交流の実践（２） ７．　日本語教育 ８．　日本語教育の実践 ９．　日本研究 １０．　日本研究の実践 １１．　知的交流 １２．　知的交流の実践 １３．　知的交流の実践（２） １４．　国際交流基金環境と国際文化交流の実践 １５．　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、授業でレジュメを配布	期末レポート 80%、授業への参加度・学期中の小レポート 20%

06 年度以降	国際ツーリズム論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関る複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関る基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識の習得を目指す。 講義では、まずツーリズムに関る基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。	1、ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？ 2、ツーリズムとは何か：諸概念の整理 3、近代ツーリズム前史 4、近代ツーリズムの成立と交通・宿泊業 5、近代ツーリズムの成立と旅行業 6、近代ツーリズムの成立とメディア 7、ツーリストの諸分類 8、ツーリストのパラドクス 9、観光対象と観光資源①：観光地の成立 10、観光対象と観光資源②：風景へのまなざし 11、ツーリズムと地域社会①：経済効果 12、ツーリズムと地域社会②：社会的・文化的効果 13、ツーリズムと政策①：観光地計画 14、ツーリズムと政策②：訪日外国人旅行者 15、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
前田勇編著『現代観光総論（第４版)』学文社 岡本伸之編『観光学入門』有斐閣	授業への参加／講義内小課題 30%　期末試験 70%

06 年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化、社会的ニーズの多様化、途上諸国の多極化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助における NGO の機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。 本講義は４つのシリーズから構成されます。第１の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。 第２の「NGO の役割と課題」では NGO やボランティア組織のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発と NGO との関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。 第３の「日本の NGO 活動」では、日本における国際協力 NGO に焦点を当て、歴史、実態、課題について検討します。最後に、「国際協力の新たなテーマと NGO」として、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たな開発援助の実態と課題について検討します。	１．イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO **＜開発援助の仕組みと展開＞** ２．ODA の仕組みとトレンド ３．日本の ODA の特徴 ４．日本の援助実績 ５．開発援助の問題点 ６．ODA の課題と改革 **＜NGO の役割と課題＞** ７．国際援助の新たなテーマと NGO ８．NGO の定義と歴史的経緯 ９．NGO の機能と途上国での役割 10. 開発と NGO：ケーススタディ・バングラデシュ **＜日本の NGO＞** 11. 市民活動の歴史と国際協力 NGO 12. 国際協力 NGO の実態と課題 **＜国際協力の新たなテーマとその実態＞** 13. マイクロクレジットという方法 14. ジェンダー問題と開発 15. 中国による「ODA」の特徴と問題点
テキスト、参考文献	**評価方法**
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。	学期末試験の結果（100%）を基に評価を行います。

13 年度以降 06～12 年度	国際リスク・海洋論 国際関係特殊講義 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
W・ディズニー映画「カリブの海賊」シリーズを鑑賞しながら、世界の危険な海を舞台に、航海のリスクを抱えつつ、歴史に登場した「海賊（パイレーツ)」の正体に迫ります。 毎回の授業では前半に、ディズニー映画、ノンフィクション映画､もしくはアメリカ CNN やイギリス BBC の国際ニュースを取り上げます。 また毎回の授業では後半に、テキストを参照しながらツーリズム・リスクに関連したトピックを取り上げます。この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。 １６～１８世紀の海賊に焦点をあて、なぜリスクを冒してまで世界中を移動したのか――その謎を解きます。 （注意）既に同担当者の「国際関係特殊講義」を修得済の場合は履修不可とします。	１　ディズニー映画「カリブの海賊　＜呪われた海賊たち＞」鑑賞・解説 ２　ディズニー映画「カリブの海賊」鑑賞・解説 ３　英雄としての海賊 ４　　同上 ５　映画「エリザベス＜ゴールデン・エイジ＞」女王と側近ウォルシンガム、ローリー ６　海洋覇権のゆくえ――海賊の役割 ７　まとめ ８　スパイス争奪戦――海賊の「東インド会社」 ９　　同上 １０　映画「カリブの海賊＜ワールド・エンド＞」シンガポール、「東インド貿易会社」 １１　コーヒーから「午後の紅茶」へ １２　　同上 １３　甘いクスリ＜砂糖＞の登場 １４　映画「カリブの海賊　＜生命の泉＞」鑑賞 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など	評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の３点セットです。

06 年度以降	国際関係特殊講義 a	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、サハラ以南アフリカ諸国に焦点を当て、政治、経済、社会などさまざまな側面からアフリカの実情を把握し、グローバル社会の中でのアフリカ諸国の位置づけを試みる。 数多くのアフリカ諸国が独立を果たした 1960 年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀が経過した今なお、アフリカ諸国はいろいろな意味で国際社会の関心を得続けている。 本講義では、現代のアフリカを取り巻く国際関係を理解するのに必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用いる予定である。	第 1 回　オリエンテーション 第 2～4 回　歴史 第 5～7 回　国際支援の動向 第 8～9 回　紛争と平和構築 第 10 回　民主主義とガバナンス 第 11 回　食糧問題 第 12 回　地域協力 第 13 回　女性と人権 第 14 回　環境問題 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の授業で参考文献を紹介する。	学期末試験による評価とする。

06 年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、20 世紀の国際関係の歴史を把握し、それを 21 世紀の国際関係の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論的な枠組みと歴史的背景である。前者の理論的枠組みについては、「グローバル社会論」を中心に講義がなされているが、歴史関連科目については、学生諸君が学ぶ機会は限られており、この講義が歴史的知識を習得する機会を与える一つとなるだろう。 本講義は二部構成となっている。第一部では 20 世紀という時代の特徴を考える。第二部では第二次世界大戦後の歴史を主として冷戦という観点から振り返っていく。 本講義は、パワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。また必要に応じて映像資料を用いる。２～３回程度、出欠調査を兼ねたリアクションペーパーの提出を求める。	第１回：イントロダクション～歴史を学ぶとは？ 第２回：20 世紀はどんな時代であったか① ～ナショナリズムの時代 第３回：20 世紀はどんな時代であったか② ～大量破壊兵器の時代 第４回：20 世紀はどんな時代であったか③ ～国際関係の多民族化・多文化化 第５回：20 世紀はどんな時代であったか④ ～資本主義経済のグローバル化 第６回：講義前半部分の総括、質疑応答 第７回：冷戦とは何であったのか① ～冷戦の起源をめぐる論争 第８回：冷戦とは何であったのか② ～冷戦とイデオロギーの役割 第９回：冷戦とは何であったのか③ ～戦後処理と国内政治 第 10 回：冷戦とは何であったのか④ ～冷戦時代の６つの特徴 第 11 回：冷戦の展開①～冷戦の開始 第 12 回：冷戦の展開②～冷戦の激化 第 13 回：冷戦の展開③～緊張緩和 第 14 回：冷戦の展開④～新冷戦と冷戦の終焉 第 15 回：講義全体の総括、質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。 講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。	リアクションペーパーの提出（30%）と学期末試験（論述形式、70%）による。

06 年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	小松　諄悦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本にとって重要な地域（東南アジア）・国（中国、韓国、アメリカ）ごとの、国際文化交流事業の実践を検証します。 アメリカ、中国、韓国、東南アジアの、それぞれの現代史と特性、日本との関係史を考察しながら、その特性に応じた、適正な文化交流事業を検討していきます。 近年注目されている東アジア共同体の中核をなすべき「東アジア文化共同体」構想についての私論も展開します。	１．　講義の概要 ２．　国際文化交流の歴史と政策の変遷 ３．　アメリカの特性 ４．　日米関係の近現代史 ５．　日米文化交流の実践 ６．　中国の近現代史 ７．　日中関係の近現代史 ８．　日中文化交流の実践 ９．　韓国の近現代史 １０．　日韓関係の近現代史 １１．　日韓文化交流の実践 １２．　東南アジアの近現代史 １３．　日本と東南アジアの関係史 １４．　東南アジアとの文化交流の実践 １５．　東アジア文化共同体（講義のまとめ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、授業でレジュメを配布	期末レポート 80%、授業への参加度・学期中の小レポート 20%

06 年度以降	国際関係文献研究 b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係論に関わる日本語と英語の両方の文献を扱い、国際支援また国際援助の潮流を分析し、考察することを目的とする。OECD-DAC 諸国による援助、ミレニアム開発目標（MDGs）、貧困削減戦略、グッド・ガバナンス、民主化などをテーマとして扱う予定である。一次資料としては、国連決議や国際機関の発行する報告書などを用いる。 この授業を通じて、国際関係論に関わる文献調査の方法、引用の方法を学んでもらい、プレゼンテーション、レポート・論文の執筆に役立ててもらいたい。 半期完結の授業となるため、授業の効率化を図るため毎回の授業で課題を出す。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　レポート、論文の書き方 第 3 回　文献調査の方法 1（一次資料） 第 4 回　文献調査の方法 2（二次資料） 第 5 回　日本語論文　1 第 6 回　日本語論文　2 第 7 回　英語論文　1 第 8 回　英語論文　2 第 9 回　報告書　1－1 第 10 回　報告書　1－2 第 11 回　報告書　2－1 第 12 回　報告書　2－2 第 13 回　発表　1 第 14 回　発表　2 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
United Nations, *United Nations at a Glance*, New York: United Nations Publications, 2013. 事前にポータル・サイトに載せる。	授業態度、課題、発表、小テストの総合評価とする。

06 年度以降	国際関係文献研究 a	担当者	髙木　綾

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル経済がどのような歴史を経て発展してきたのかについて、英語文献を講読しながら理解を深めることをめざす。その理由は、グローバリゼーションを牽引する諸要因の一つとして、グローバル経済の趨勢というものが非常に重要な役割を果たしてきたからである。 講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト（受講者全員が登録される）に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。 有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。	第1週：Introduction 第 2 週～第 14 週： 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。 Chapter 1　The great divergence Chapter 2　The rise of the West Chapter 3　The Industrial Revolution Chapter 4　The ascent of the rich Chapter 5　The great empires 第15週：春学期の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert C. Allen, *Global Economic History: A Very Short Introduction*, (Oxford: Oxford University Press, 2011).	毎回の要約（４５%）、ディスカッションへの貢献度（１５%）、小テスト（４０%）で評価します。

06 年度以降	国際関係文献研究 b	担当者	髙木　綾

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係文献研究a に引き続き、グローバル経済の歴史ついて、英語文献を講読しながら理解を深めることをめざす。 講義の進め方は、春学期と同様である。 最終的な到達目標は、グローバル経済についての見解を、受講者それぞれの言葉によって論じることができるようになることである。	第 1 週：Introduction 第 2 週～第 14 週： 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。 Chapter 6　The Americas Chapter 7　Africa Chapter 8　The standard model and late industrialization Chapter 9　Big Push industrialization 第 15 週：1 年間の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert C. Allen, *Global Economic History: A Very Short Introduction*, (Oxford: Oxford University Press, 2011).	毎回の要約（４５%）、ディスカッションへの貢献度（１５%）、小テスト（４０%）で評価します。

交 流 文 化 論

（０９年度以降入学者）

09 年度以降	航空産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているＬＣＣ（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 　本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。	１．オリエンテーション ２．最近の航空産業の動きなど ３．航空産業とキャリアデザイン ４．航空の歴史（ライト兄弟から近代まで） ５．ＪＡＬとＡＮＡの登場と成長 ６．ＬＣＣ（低コスト航空会社） ７．アライアンス ８．航空産業の課題について （ディスカッション） ９．航空政策とＪＡＬの破綻と復活 １０．オープンスカイと規制緩和 １１．航空安全 １２．航空機製造ビジネス １３．航空産業の特性と航空運賃 １４．空港、および国際航空法 １５．講義全体の“まとめ”
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト（教科書）:『最新・航空事業論』（２０１３年２月、日本評論社） （注）受講生は、事前に予習しておくことを薦める。	ディスカッションなど講義参画：３０％ 最終試験：７０％

09 年度以降	ツーリズム・マネジメント論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
現代ツーリズムの発展は、旅行に関る諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、実際の現場の事例をもとに、ツーリズム産業の特徴と構造について理解を深めることを目指す。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を集中的に取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題とそれに対する取り組みを紹介する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。	1、ガイダンス 2、ツーリズム産業のしくみ 3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 5、ツーリズム産業の競争環境①：旅行業界 6、ツーリズム産業の競争環境②：宿泊・航空業界 7、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 8、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 9、パッケージツアー③：商品企画のマネジメント 10、ディズニー化論からみた観光①：空間の管理 11、ディズニー化論からみた観光②：ハイブリッド消費 12、ディズニー化論からみた観光③：感情労働 13、ツーリズム産業の将来 14、ツーリズムの終焉？ 15、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で紹介する。	授業への参加／講義内小課題 30%　期末試験 70%

09 年度以降	表象文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（歴史、戦争、記憶） 歴史、特に戦争の歴史がどのように表象され、記憶されてきたかを批判的に検証する。ミュージアムの展示や記念碑などが中心になるが、映画などのポピュラー・カルチャーにも言及する。 題材としては、John Ford監督『駅馬車』、ゴーストダンス・シャツの返還、スミソニアン・アメリカ美術博物館での『ウエスト・アズ・アメリカ』展（1991）、ワシントンDCのヴェトナム戦争記念碑、ヨーロッパにおけるホローコースト記念碑、スミソニアン・航空宇宙博物館で開催予定だった『エノラ・ゲイ』展（1995）、日本における戦争の展示、エイズ・キルト・プロジェクトなどを取り上げる予定。 英語の論文もいくつか読んでもらうので、覚悟して受講して欲しい。また、受講者には積極的な授業への参加が期待されている。	１西部開拓という神話 ２西部開拓という神話 ３西部開拓という神話 ４ホローコーストの記憶 ５ホローコーストの記憶 ６ホローコーストの記憶 ７エノラ・ゲイの展示 ８エノラ・ゲイの展示 ９ヴェトナム戦争の記憶 １０ヴェトナム戦争の記憶 １１ヴェトナム戦争の記憶 １２日本における戦争の展示 １３日本における戦争の展示 １４日本における戦争の展示 １５まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原帰一『戦争を記憶する――広島・ホローコーストと現在』（講談社現代新書）、その他、論文の抜粋などは、講義支援システムを使って配布する。	学期末のレポートのほか、学期中に短いレポートを複数回提出してもらう。

09 年度以降	食の文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。 一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。 このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。	1．講義の概要 2．食の文化を見る眼：文化とは何か 3．食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4．私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5．遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6．マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7．ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8．食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9．コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」（re-localization） ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめと試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。	期末試験（90%）、学期中課題（10%）、授業内活動参加は＋α。

09 年度以降	開発文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の１つです。 近年、alternative（もう１つの）という言葉を時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう１つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。 この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、ＮＧＯや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・ＮＧＯ』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバーグホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』	１．講義の概要 ２．豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か ３．近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） ４．貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 ５．教育・学び・文化 ６．ジェンダーとフェミニズム ７．宗教と社会開発 NGO ８．ローカルメディアとアイデンティティ戦略 ９．開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください （参考文献）上欄を参照。	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、授業貢献（＋α）。

09 年度以降	フィールドワーク論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、「東京」をテーマに、フィールドワークと呼ばれる学問的営みを、実践的に身につけることを目的としている。 具体的には、1. 文化人類学、社会学、地理学、歴史学、都市計画など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を参考にしながら、2. 東京の街を縦横無尽に歩きまわった上で、東京という都市の成り立ちや人々の生の営みについて理解を深めることを目指す。 受講者は複数のグループに分かれ、担当教員が指定した 5~6 つのコースを 1~2 つ選択し、5 月から 6 月の週末に一緒に歩いてもらう（実費負担）。そして町歩きの成果について、各々のコースに関連する文献資料の収集・議論を踏まえた上で、学期末にグループ発表を行なう。 本講義は、グループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備・街歩きの実習に積極的に参加できる者のみ履修を認める。 なお、初回授業時にグループ分け等を行なうので、必ず出席すること。	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 各町歩きコースに関する講義・解説（6~7 回） (1) 山の手と下町 ・城北地区（本郷、上野、浅草） ・城南地区（赤坂、六本木） (2) ウォーターフロント ・深川、佃、月島 (3) 「おばあちゃんの原宿」 ・巣鴨 (4) 繁華街の過去・現在・未来 ・渋谷 (5) エスニック・タウン ・新宿、新大久保 (6) ジブリ映画の舞台ニュータウン ・多摩ニュータウン 3. 各グループの発表・議論(6～7 回) 4. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布する。	授業での発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス（50%）、学期末レポート（50%）。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	ツーリズム人類学	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする際の方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という 3 つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。	1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌 1 3. グローバリゼーションの民族誌 2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学―情報資本主義と観光 7. メディアと観光―「楽園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光―「神々の島」バリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状―カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム―タイの事例 12. 少数民族と観光―タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. ダーク・ツーリズムの現状と可能性―広島および西アフリカの事例から 15. まとめ (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	国際会議・イベント事業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　２０２０年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。 講義概要： 　オリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。	１．オリエンテーション ２．国際会議・イベントの意義・役割とは？① ３．国際会議・イベントの意義・役割とは？② ４．国際会議・イベントの歴史 ５．祭り・フェスティバルと地域活性化 ６．（ディスカッション）テーマ：イベント （各種イベント、大学祭等）の意義と役割 ７．イベントを成功に導く秘訣とは？ ８．国際会議・イベントの仕組みと実務 ９．ＭＩＣＥとツーリズム １０．スポーツイベントについて １１．オリンピックの歴史・意義・役割について １２．プレゼンテーション：「２０２０年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① １３．　〃　② １４．　〃　③ １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜個別資料を配布する。	・受講姿勢、小テスト、講義参画：７０％ ・プレゼンテーションとレポート：３０％

09 年度以降	ツーリズム政策論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的とする。ツーリズム政策は、国家の主要政策の一つで世界各国において推進されてきたが、世界がグローバル化する今日その重要性がさらに高まっている。我が国は戦後主にモノづくり産業が牽引してきたことからツーリズム政策が必ずしも充分ではなかった。このような経緯も踏まえながら多様な視点からツーリズム政策を分析すると同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： 　ツーリズムは単にレジャーの領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション、また受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して学習を深めていく。	１．オリエンテーション ２．世界の動き、日本の動き（東京オリンピック等） ３．ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的①（観光立国など） ４．ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的（インバウンドツーリズムの重要性など） ５．ツーリズム政策の変遷（鎖国時代から現代の“クールジャパン政策”まで） ６．ツーリズムにおける我が国の課題（国民文化等） ７．ディスカッション：ツーリズム政策について ８．世界のツーリズム政策①（スイス、フランス等） ９．世界のツーリズム政策②（シンガポール等） １０．多様なツーリズム政策（世界遺産、地域振興策、グリーンツーリズム、メディカルツーリズムなど） １１．ツーリズムとキャリアデザイン １２～１４．新しいツーリズム政策についてのプレゼンテーション、ディスカッション １５．講義全体の“まとめ”
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜個別資料を配布する。	受講姿勢、小テスト、講義参画：７０％ プレゼンテーションとレポート：３０％

09 年度以降	ツーリズム文化論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げながら、ツーリズムと文化の動態的な関係について考察する視座を得ることを目的とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。	1、ガイダンス 2、モノの移動・消費とツーリズム 3、観光みやげとは 4、観光みやげからみる近代 5、「民芸品」へのまなざし 6、観光みやげとオーセンティシティ 7、贈与交換としての観光みやげ 8、観光みやげの倒錯性 9、旅するマトリョーシカ 10、アジアン雑貨観光の成立① 11、アジアン雑貨観光の成立② 12、日本の観光地におけるアジアン雑貨 13、観光みやげと伝統文化のマーケティング 14、観光みやげと文化的アイデンティティ 15、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で紹介する。	授業への参加／講義内小課題 30%　期末試験 70%

09 年度以降	旅行・宿泊産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムに大きく関わる旅行業と宿泊業（ホテル、旅館など）の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 　旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテルビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。さらに、旅行・宿泊産業のマーケティングを学習する。最後の「プレゼンテーション＋ディスカッション」では、旅行・宿泊産業への提案を各自パワーポイントを使って行い受講生全員でディスカッションを行う。	１．オリエンテーション ２．旅行産業の歴史（トーマスクックの時代から） ３．旅行産業の現状と課題 ４．旅行産業のビジネス概要と将来 ５．宿泊産業の概要（ホテルと旅館の違いなど） ６．ホテル経営（所有と運営の分離） ７．旅行・宿泊産業における会計 ８．リゾートホテル・ビジネス ９．旅行・宿泊産業のマーケティング① １０．旅行・宿泊産業のマーケティング② １１．旅行・宿泊産業のマーケティング③ １２．プレゼンテーション＋ディスカッション① １３．プレゼンテーション＋ディスカッション② １４．プレゼンテーション＋ディスカッション③ １５．講義全体の“まとめ”
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜個別資料を配布する。	受講姿勢、講義参画：７０％ プレゼンテーションとレポート：３０％

13 年度以降 09～12 年度	トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究） パフォーマンス研究	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
導入部分でパフォーマンス・アートについて触れるが、講義の主目的はミュージアムを中心とした展示をパフォーマンスとして分析することにある。 授業は主にテクストに沿って進めていくが、テクスト以外にも英語の論文をいくつか読んでもらうので、受講には、それなりの覚悟が必要である。また、受講者には積極的な授業への参加が期待されている。 テクストは１００部を DUO に発注の予定。売切れの場合にはアマゾン等を使って、各自、購入して欲しい。 内容的には春学期の「表象文化論」と繋がるので、続けて受講することを勧めるが、こちらだけの受講も可。	1. What is performance? 2. Performance Art (1) 3. Performance Art (2) 4. Museum as Performance 5. From Display to Experience (1) 6. From Display to Experience (2) 7. From Display to Experience (3) 8. From Display to Experience (4) 9. Seattle EMP Museum 10. Holocaust Museums (1) 11. Holocaust Museums (2) 12. Native American Voices (1) 13. Native American Voices (2) 14. Elizabeth Crooke, “Museums, Communities and the Politics of Heritage in Northern Ireland” 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Susan Bennett, *Theatre and Museums* (Palgrave, 2013) その他、論文の抜粋などは、講義支援システムを使って配布する。	学期末のレポートのほか、学期中に短いレポートを複数回提出してもらう。

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義（トランスナショナルな公共圏を求めて）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
実習・ワークショップ型の授業で、いくつかのプロジェクトを学生主体で準備・完成させる。2015 年 6 月開催予定の「草加国際村一番地・インターナショナル・フェスティヴァル」に参加し、プロジェクトの成果を発表する。したがって、授業時間以外、また秋学期終了後も来年 6 月までは、放課後、土日などを利用して活動が続くことを了承した上で授業登録をして欲しい。なお、授業定員は 30 名である。 過去 30 年の間に、日本に中長期滞在する外国人の数は約 200 万人、人口の 2%近くまで増加した。しかし、言語、宗教など、文化的背景を異にする人たちにとって日本は必ずしも暮らしやすい社会とはいえない。「多文化共生」や「文化多様性」が叫ばれる一方で、「均一性」が重んじられ、国籍や民族性を理由に「他者」が排除される傾向はいまだに強い。 国境を越えて人が移動し文化が変容していく時代に、「トランスナショナルな公共圏」はいかにして構築することが可能か。英語・日本語で書かれた先行研究をディスカッションする「理論」と、教室の外に出てプロジェクトを立ち上る「実践」の両方を射程に入れた野心的な授業だが、受講生の熱意によってスリリングでエキサイティングで、かつ実り多いものになることは間違いがない。	1. イントロダクション 2. 講義・グループワーク・発表・ディスカッションの組み合わせ 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめ （授業時間以外にも、放課後、土日などにフィールドワーク、プロジェクト準備などで集まってもらうことがある。また、2015 年 6 月の国際村参加のため、秋学期の授業終了後も活動に参加することが求められる。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
渡戸・井沢編『多民族化社会・日本』（明石書店、2010） 他のテクスト、参考文献は教室で指示する。	学期末レポートと国際村へ向けたプロジェクトの内容で評価する。授業時間外を含め、プロジェクトに積極的に取り組むことが単位認定の前提となる。

13 年度以降 09～12 年度	ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論） ツーリズム・メディア論	担当者	倉澤　治雄

講義目的、講義概要	授業計画
「ツーリズム」と「メディア」、それに「国際社会」をつなぐ仕組みについて、具体例に徹して考察し、理解することを目的とする。 講義ではまず新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、それにインターネットなとのメディアとして特徴や役割、それに歴史について解説。 またジャーナリズムについても「公正の原則」など、基本的な考え方を紹介、現実の記事やニュースにどのように生かされているか検証する。 一方、「ツーリズム」と「メディア」の関係を、「集客のツール」としての視点ではなく、「表現の世界」まで踏み込んで考える。 「ツーリズム・メディア」が現実の国際関係、経済、芸術、歴史、文化にどのような影響を与えるか、また影響を受けるか考察する。 「ツーリズム・メディア論」は極めて学際的概念であり、「論」として成立途上にある。 講義では「自分で考えること」を重視し、学生の皆さんに「独創性」を発揮してもらうよう、特定の教科書を使わず、新聞・雑誌記事やビデオ素材を活用して、「目」を磨いてもらう。 なお毎回授業の最後に「レジュメ」作成の実践を行う。	1.講義全体の概要 2.メディアの現状と課題 3.ジャーナリズム論 4.産業としてのメディア・コンテンツ業界 5.ツーリズムの基礎的概念 6.「ツーリズム」と「メディア」の歴史的関係 7.東日本大震災とダークツーリズム 8.「国際関係」と「ツーリズム・メディア」 9.未開発の観光資源をめぐって 10.メディアの中の「ツーリズム」 11.アートの源泉~「ツーリズム芸術論」 12.地域活性化と「ツーリズム・メディア」 13.キュレーションの時代 14.「世界遺産」「メディア」そして「ツーリズム」 15.波乱の時代を生き抜くために 戦争、紛争、貧困、テロ、格差、偏見、抑圧、環境破壊、高齢化、幸福の喪失、富の偏在など、人類共通の課題を解決するために何をしなければならないか、考える。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。適宜参考文献は紹介する。	期末定期試験　50% 毎回行うレジュメ作成　50%

09 年度以降	トランスナショナル・メディア論	担当者	倉澤　治雄

講義目的、講義概要	授業計画
「新聞やテレビは真実を伝えているのか」、「海外のメディアはどのように伝えているのか」、誰もが疑問に思っている。 　事実、福島第一原発事故ではアメリカ軍から提供された汚染情報が政府に握りつぶされたため、住民の被害は拡大した。福島では地震・津波による被害者の数より、災害による避難等によるいわゆる「災害関連死」が上回った。 　講義では、まず日本および各国のメディアの状況および「メディアと社会の関係」を概観する。 　また、「公正の原則」「取材源の秘匿」「スポンサーとの関係」など、「ジャーナリズム」の基本原則について、英語の文献を含めて解読する。 　その上で個別事例について、ニュースの伝え方がどのように内外で異なるか検証し、私たちが「真実」をつかむために何をしなければならないか考える。	1.授業全体の概要 2.ネット時代のマスメディアの興亡 　産業としてのメディアの構造変化 3.メディアの歴史 　メディアが果たしてきた役割 4.ジャーナリズムの諸原則~「公正の原則」 　CBS ニュースタンダードから抜粋 5.ジャーナリズムの諸原則~「スポンサーとの関係」 6.ジャーナリズムの諸原則~「記者の倫理」「取材源の秘匿」 7.「秘密保護法」とジャーナリズム 8.米国ネットメディアの視点 　米国ではなぜネットメディアが成立したのか? 9.中国のメディア規制と「日中関係」 　メディアと国際関係の典型例を見る 10.海外メディアは「原発事故」をどう伝えたか? 11.日本のジャーナリズムの現状と課題 12.メディアと国際関係 13.スポーツジャーナリズムの光と影 14.メディア・ジャーナリズム教育をめぐって 15.情報化時代を生き抜くために 　「情報の目利き」を目指して!
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は使わない。適宜映像素材、新聞記事などを配布。	期末定期試験　　50% 毎回行う演習　　50%

09 年度以降	トランスナショナル社会学	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の３点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。 関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。	１．講義の概要 ２．社会学とは ３．諸概念の概説：トランスナショナリズムとは ４．国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア ５．国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 ６．グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム ７．グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 ８．グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 ９．国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 １０．国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 １１．中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） １２．アイデンティティについて １３．民際協力としての自治体国際協力 １４．講義全体のまとめ １５．試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリズ鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社	期末試験（90%）、学期中宿題（10%）、授業内活動参加（＋α）。

13 年度以降 09～12 年度	地域開発論 市民参加のまちづくり論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
地域開発論では、人づくり、開発にかかわる人々のコミュニケーションといったミクロの視点から、地域の開発を考えます。日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 地域づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「住民の参加」が望ましいのでしょうか。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのＮＧＯ活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。	1．講義の概要 2．地域とは何か、発展とは何か 3．住民参加の意義と多義性 4．事例研究：参加型開発　※教室内ワークショップ 5．組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例 6．地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例 7．内発的発展と外来型開発 8．共益から公益の創出へ：NY と東京の事例 9．ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』 10. 地域づくりとまなざしの多様性：島根県の事例 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例 12. ソーシャル・キャピタル 13. ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』（予定） 14. まとめ：地域開発と社会の持続可能性 15. 試験対策

テキスト、参考文献	評価方法
（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください	期末試験（80%）、学期中課題（20%）、授業内活動参加（＋α）。

13 年度以降 09～12 年度	ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論） ツーリズム地誌論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における 1 泊 3 日の研修旅行を通じて、世界各地のツーリズムに関連する幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指す。 リトルワールドには、22 カ国、33 の地域・民族の家屋や生活道具が移築・復元されている。受講者は、複数のグループに分かれ、そのなかから 1 つの地域・民族を選び、それぞれの地域や民族の文化や習慣について、事前に資料収集を行なう。そして、こうした文献調査を踏まえた上で、研修旅行では、各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらう。さらに、これらの文献調査・研修旅行の成果を踏まえた上で、学期末にミニ・エスノグラフィを作成する。 本講義は、リトルワールドにおける実習を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となる。またグループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備に積極的に参加できる者のみ履修を認める。なお，初回授業時にグループ分け等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 講義(3 回) 文化の収集と展示の歴史、芸術=文化システム論など異文化展示・博物館論に関する基礎的な概念についての紹介。 3. 発表・議論（4 回） 各グループによる、研究計画・中間報告。 4. 研修旅行 11 月 15 日(土)、16 日(日)に実施予定（出発は 14 日(金)の夜行バス）であるが、詳細は初回の授業で説明する。費用は往路夜行バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで 2.5 万円程度（飲食費は除く）。 5. 発表・議論（7 回） 文献資料・博物館での実習を踏まえた、成果発表。

テキスト、参考文献	評価方法
山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣	研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	オルタナティブ・ツーリズム論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。	1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 5. 環境主義の商品化―エコリゾート 6. 世界遺産と観光 1―ラオス・ルアンパバンの事例 7. 世界遺産と観光 2―中国・麗江の事例 8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状） 9. 先住民と観光―北米イヌイットの事例 10. 先住民と開発―開発的遭遇 11. 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光―高知県四万十川流域を事例として 15. まとめ (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

外国語学部共通科目シラバス

06 年度以降	総合講座　（時空を行き交う知の変容　1）	担当者	コーディネーター 髙橋　輝曉

講義目的、講義概要	授業計画
講座の目的：人間の文化的営みが時代間や文化間において伝播し交流する様相を「知」の変容の観点から解明する 講座の内容：「知」は人間のさまざまな文化的営みから形成される。「知」を西洋的意味での学問的知あるいは科学的知に限定する必要はない。神話的・宗教的知もあるし，文学や批評，思想などの言語を媒体とする営みや過去の歴史の記憶も「知」を形成する。造形芸術や映画，また，演劇，音楽などのパフォーマンスも「知」の観点からとらえることができる。食文化などは「知」の結晶といっても過言ではなかろう。「知」のヴァリエーションは多様だ。このような「知」は，異なる時代や異なる文化圏に，また異なる分野に受容されることで，変容する。学問すらも，それを文化現象のひとつとしてとらえるならば，異文化に移植されるときには変容するのがわかる。これらの「知」が過去から現在へという時間の次元において伝承され変容する様相（知の伝統），さまざまな文化圏の間で時間や空間の隔たりを超えて伝播し変容する様相（知の異文化間受容）を，各担当者は，具体的な事例をもって明らかにする。	1.　高橋輝暁　「時空を行き交う知の変容 1」開講にあたって 2.　矢羽々崇　日本におけるグリム・メルヒェンの受容 3.　柿田秀樹　メディアとしての視覚の変容 4.　田村　毅　海を渡る女神たち―地中海文化圏の拡大と神話の習合― 5.　若森栄樹　現代フランスの精神分析理論―ジャック・ラカンをめぐって― 6.　福田美雪　開かれたアーカイブス―フランス国立図書館― 7.　安井美代子　言語生得説に関する知の変容 8.　米沢　薫　論争によるドイツの自己認識の変容 1 ―ホロコースト記念碑論争（1988～2005）― 9.　米沢　薫　論争によるドイツの自己認識の変容 2―ベルリン宮殿再建論争（1989～2002）― 10. 上野直子　歴史、暴力、言葉の海へ 11. 阿部明日香　日ジャポニスム―ヨーロッパにおける日本の「美術」の受容― 12. 須永和博　時空を行き交う「日本文化」 13. 野澤丈二　近世におけるワイン文化のグローバリゼーション 14. 片山亜紀　スウィフトの『ガリヴァ―旅行記』から宮崎駿の『天空の城ラピュタ』へ 15. 山本　淳　ブルーノ・タウトと日本
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】必要に応じてプリントを配付する。 【参考文献】必要に応じて授業中に紹介する。	毎回の講義の最後に当該講義内容に関して小論述等（15 分程度）を実施し，その総合点によって評価する。

06 年度以降	総合講座　（時空を行き交う知の変容　2）	担当者	コーディネーター 髙橋　輝曉

講義目的、講義概要	授業計画
講座の目的：人間の文化的営みが時代間や文化間において伝播し交流する様相を「知」の変容の観点から解明する 講座の内容：「知」は人間のさまざまな文化的営みから形成される。「知」を西洋的意味での学問的知あるいは科学的知に限定する必要はない。神話的・宗教的知もあるし，文学や批評，思想などの言語を媒体とする営みや過去の歴史の記憶も「知」を形成する。造形芸術や映画，また，演劇，音楽などのパフォーマンスも「知」の観点からとらえることができる。食文化などは「知」の結晶といっても過言ではなかろう。「知」のヴァリエーションは多様だ。このような「知」は，異なる時代や異なる文化圏に，また異なる分野に受容されることで，変容する。学問すらも，それを文化現象のひとつとしてとらえるならば，異文化に移植されるときには変容するのがわかる。これらの「知」が過去から現在へという時間の次元において伝承され変容する様相（知の伝統），さまざまな文化圏の間で時間や空間の隔たりを超えて伝播し変容する様相（知の異文化間受容）を，各担当者は，具体的な事例をもって明らかにする。	1. 高橋輝暁「時空を行き交う知の変容 2」開講にあたって 2. 工藤和宏　異文化体験に見る日本の若者の変容 3. 工藤和宏　留学生政策の変容と獨協大学の未来 4. 佐野康子　コーヒー発祥の国エチオピア―飲料文化の創造と変容― 5. 町田喜義　多文化主義に関する日本・韓国・カナダの比較 6. 白川貴子　翻訳にみる知の変容について 7. 米沢　薫　キリスト十字架像論争（1995）とイスラム教ベール着用論争（1998～）にみるドイツの自己認識の変容 8. 原　成吉　伝承バラッド“Lord Randal”とボブ・ディランの“A Hard Rain's A-Gonna Fall” 9. 工藤達也　思考と比喩―ヘテロトピアとしての哲学― 10. 東郷公徳　ルネッサンスの暗号 11. 佐藤唯行　ユダヤ人、ユダヤ教 12. ｱﾀﾞﾑ･ｿﾞｰﾘﾝｼﾞｬｰ　時空を行き交う『風神雷神』 13. 江花輝昭　ヌーヴェル・キュイジーヌ―フランス料理におけるジャポニスム― 14. 柿沼義孝　能の歴史と外国における受容 15. まとめと展望
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】必要に応じてプリントを配付する。 【参考文献】必要に応じて授業中に紹介する。	毎回の講義の最後に当該講義内容に関して小論述等（15 分程度）を実施し，その総合点によって評価する。

06 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、戦前から今日までのヨーロッパ統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とする。 地域統合の歴史的前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるであろう。	1. 講義の概要 2. 欧州統合前史 3. 両大戦間期の欧州構想(1) 4. 両大戦間期の欧州構想(2) 5. 第 2 次大戦と欧州統合 6. 戦後復興と欧州統合(1) 7. 戦後復興と欧州統合(2) 8. 欧州審議会の創設 9. 欧州石炭鉄鋼共同体の成立 10. 欧州防衛共同体構想と政治共同体構想 11. 欧州経済共同体の成立 12. 自由貿易圏構想 13. 欧州経済共同体の定着期 14. 統合の深化と拡大 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合―歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年	平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）

06 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、EU の制度や、欧州統合の「深化」に伴って生まれた EU 独自の政策や規制がどのようなものかを学ぶ。また、EU の「拡大」が加盟国間にどのような問題をもたらしたかについても確認する。 EU 誕生以降の話が中心となるため、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU 成立の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましい。	1. 講義の概要 2. 統合の「暗黒時代」から単一欧州議定書の成立へ 3. 単一通貨の導入に向けて(1) 4. 単一通貨の導入に向けて(2) 5. マーストリヒト条約以降の EU(1) 6. マーストリヒト条約以降の EU(2) 7. EU の機構 8. EU 共通農業政策 9. 共通農業政策の改革 10. EU の産業政策 11. EU の社会政策 12. 加盟国と EU：ドイツ、フランス、イギリス 13. 中東欧加盟国と EU 14. EU の課題 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。	平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）

06 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、コンピュータシステム、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえに、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造―リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（1） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（2） 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。	レポートの完成度と筆記試験の結果を併せて評価します。

08 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 ヨーロッパ言語）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 ヨーロッパ言語）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	授業時に説明する。

08 年度以降	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	授業時に説明する。

08 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

08 年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：　評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。	1　ガイダンスとイントロダクション 2　HTML と FTP の復習（1） 3　HTML と FTP の復習（2） 4　インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5　プログラミングの基礎知識 6　JavaScript（1） 7　JavaScript（2） 8　JavaScript（3） 9　JavaScript（4） 10　JavaScript（5） 11　CGI の利用 12　総合課題（1） 13　総合課題（2） 14　総合課題（2） 15　鑑賞・報告会
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。	授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過等）で総合評価する。

06 年度以降	経済原論 a	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　経済学の目的と方法 ２．　家計の行動① ３．　家計の行動② ４．　家計の行動③ ５．　企業の行動① ６．　企業の行動② ７．　企業の行動③ ８．　市場価格の決定 ９．　不完全競争市場 １０．厚生経済学の基本定理 １１．市場の失敗 １２．所得の分配 １３．政府による市場介入① １４．政府による市場介入② １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。	原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。

06 年度以降	経済原論 b	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　マクロ経済学の体系 ２．　国民所得の諸概念 ３．　消費と貯蓄の理論 ４．　投資の理論 ５．　国民所得決定の理論 ６．　生産物市場の分析 ７．　金融市場の分析 ８．　財政・金融政策の有効性① ９．　財政・金融政策の有効性② １０．財政赤字と政府債務 １１．国際金融システム １２．開放マクロ経済下の経済政策 １３．景気の循環 １４．経済成長の決定要因 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。	原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。

06 年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a，b では，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では，個人の心の働きに主に焦点を当てる。	1.イントロダクション -「社会心理学」講義の前に 2.社会心理学の概要 3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7.自己(1)：自分はどんな人間か 8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11.社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14.期末試験と振り返り 15.社会的影響(5)：人間の力
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）.『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他（2010）.『社会心理学』 有斐閣	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。 なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

06 年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a，b では，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では，主に個人と社会との間の相互作用や，社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2.コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションとしての対人行動，対人行動としてのコミュニケーション 4.ソーシャルネットワーク：つながりが生み出すもの 5.社会的交換(1)：互恵性 6.社会的交換(2)：社会的ジレンマ 7.集団による問題解決 8.文化(1)：心の文化差はどのように生まれるか 9.文化(2)：名誉の文化 10.社会的感情：他者の前での様々な感情 11.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論・モデル 12.健康行動と社会心理学(2)：HIV 感染予防ための社会心理学の挑戦 13.社会心理学の未来 14.期末試験と振り返り 15.期末試験の解説とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。 亀田達也・村田光二（2000）.『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他（2010）.『社会心理学』 有斐閣	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。 なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

シラバス 英語学科

2014年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1656

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	